

**令和3年度
大学入学者選抜における
選抜資料の利用状況に
関する実態調査**

令和5(2023)年3月

独立行政法人 大学入試センター 研究開発部

令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の 利用状況に関する実態調査

令和 5（2023）年 3 月
独立行政法人 大学入試センター 研究開発部

研究組織・執筆者一覧

令和 3（2021）～ 5（2023）年度理事長裁量経費研究「大学で学ぶための基礎的学力の新たな評価測度の開発に関する研究」の研究組織は次の通りである（所属は 2023 年 3 月 31 日現在）。

研究代表者

椎名 久美子 大学入試センター 研究開発部 教授
（第 1 章，2.1 節，3.1 節，3.3 節，第 4 章担当）

研究分担者

荒井 清佳 大学入試センター 研究開発部 准教授
（2.2 節，2.4 節，3.4 節，3.6 節担当）

伊藤 圭 大学入試センター 研究開発部 准教授
（2.2 節，2.3 節，3.7 節担当）

桜井 裕仁 大学入試センター 研究開発部 教授
（2.3 節，3.2 節，3.8 節担当）

大塚 雄作 国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 教授
（3.5 節担当）

花井 渉 九州大学 大学院人間環境学研究院 准教授
（3.4 節担当）

編集

桜井 裕仁 大学入試センター 研究開発部 教授

目次

研究組織・執筆者一覧	i
第1章 はじめに	1
1.1 研究の背景	1
1.1.1 令和3年度大学入学者選抜における変更	1
1.1.2 大学進学率の上昇と大学新入生の学力への懸念	2
1.2 研究目的および研究計画	2
1.2.1 研究目的	2
1.2.2 研究計画	3
第2章 実態調査の実施方法	5
2.1 実態調査の設計	5
2.1.1 実態調査の質問項目を設計する際の観点	5
2.1.2 調査対象および回答方法について	5
2.1.3 質問項目の構成	6
2.2 調査方法	13
2.2.1 調査方法の概要	13
2.2.2 回答者のIDとパスワード	13
2.2.3 回答方法	13
2.2.4 仕様書の作成	13
2.3 調査の実装	14
2.3.1 webフォームの動作環境の選定	14
2.3.2 ネットリサーチサービスの構成	14
2.3.3 webフォーム	15
2.3.4 納品用の回答データ	16
2.4 調査の実施	17
2.4.1 調査の実施日程	17
2.4.2 各大学への調査協力の依頼	17
2.4.3 問合せ対応	18
2.4.4 補足説明の送信	18
2.4.5 リマインダの送信	19
2.4.6 回答データの納品	19
2.4.7 業者が保有する電子データの破棄	19

第3章 分析結果	21
3.1 回答データの精査および分析方針	21
3.1.1 回答データの精査	21
3.1.2 分析方針	24
3.2 有効回答が得られた大学の属性等	25
3.2.1 学部数	25
3.2.2 入試関連の学内組織	27
3.2.3 入試制度改革の影響を受けた程度	33
3.2.4 COVID-19の影響を受けた程度	40
3.3 大学入学共通テストの利用について	47
3.3.1 大学入学共通テストを課している入試区分について	47
3.3.2 一般選抜における共通テストの利用について	49
3.3.3 総合型選抜における共通テストの利用について	66
3.3.4 学校推薦型選抜における共通テストの利用について	77
3.3.5 大学入学共通テストの利用に関する分析のまとめ	89
3.4 一般選抜における多面的・総合的評価等	91
3.4.1 学力検査以外の評価方法の利用の有無について	91
3.4.2 学力検査以外の評価方法のメリット・デメリットについて	96
3.4.3 自由記述の分析方針	124
3.4.4 学力検査以外の評価方法に関する課題	124
3.4.5 部局間の調整について	138
3.4.6 部局間の調整以外の課題について	145
3.4.7 おわりに	151
3.5 一般選抜における多面的・総合的評価等に関する項目の相関分析	152
3.5.1 学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分の有無に関する因子分析	152
3.5.2 学力検査以外の評価方法それぞれに関する捉え方の因子分析	153
3.5.3 学力検査以外の評価方法の捉え方の因子分析	159
3.6 総合型選抜・学校推薦型選抜における知識・技能、思考力・表現力等	165
3.6.1 大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分の程度	165
3.6.2 「教科・科目テスト」のメリットとデメリット	167
3.6.3 共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているもの	174
3.6.4 「基礎学力把握のための簡易な検査」のメリットとデメリット	185
3.6.5 大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関しての課題	191
3.6.6 おわりに	192
3.7 入試改善に向けた取り組みの実施状況および必要性	200
3.7.1 入試改善に向けた取り組みの実施状況	200
3.7.2 入試改善に向けた取り組みの必要性	206
3.7.3 入試改善に向けた取り組みの実施状況別にみた必要性の意識	212
3.8 大学入試に関する意見・課題	214
3.8.1 共通テストに関する文部科学省・大学入試センターからの情報提供について	214
3.8.2 共通テストの実施の負担について	215

3.8.3	共通テストの実施スケジュールについて	216
3.8.4	共通テストの成績提供スケジュールについて	216
3.8.5	共通テストの成績提供手数料について	217
3.8.6	共通テストの成績提供システムについて	218
3.8.7	その他	218
3.9	発表済み論文	223
	令和3年度大学入学者選抜における大学入学共通テストの利用実態および大学から の評価	224
	一般選抜における多面的・総合的評価等の実態と課題—令和3年度大学入学者選抜 における選抜資料の利用状況に関する実態調査結果の分析—	231
	令和3年度の総合型選抜・学校推薦型選抜における知識・技能、思考力・判断力・ 表現力等の評価資料の利用実態	238
第4章	おわりに	245
4.1	実態調査のまとめ	245
4.1.1	大学入学共通テストの利用状況について	245
4.1.2	一般選抜における多面的・総合的評価について	246
4.1.3	総合型選抜および学校推薦型選抜について	246
4.1.4	各大学における入試改善の取り組み等について	247
4.2	今後に向けて	248
	謝辞	249
	参考文献	251
付録 A	調査の依頼状	255
A.1	依頼状	256
A.2	質問項目一覧	258
A.3	依頼メールの本文	267
付録 B	仕様書および関連書類	269
B.1	仕様書	270
B.2	質問項目仕様リスト	273
B.3	回答フォームの画面構成	280
付録 C	web フォームの画面	281

第1章 はじめに

椎名久美子

1.1 研究の背景

1.1.1 令和3年度大学入学者選抜における変更

高大接続システム改革会議（2016）の「最終報告」では、一部のアドミッション・オフィス入試（AO入試）や推薦入試において「学力不問」と揶揄される状況が生じていることへの言及があり、「学力の3要素」の評価を適切に行うことで入学後の大学教育に円滑に繋げることを重視した改善に取り組む必要が指摘された。これを受けて、平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告（文部科学省, 2017b）において、多面的・総合的な評価の観点での改善を図りつつ、各々の入学者選抜としての特性をより明確にする観点から、入試区分の名称を変更することが予告され、令和3年度大学入学者選抜実施要項（文部科学省, 2020）に反映された。

令和2年度までの大学入学者選抜実施要項（文部科学省, 2019b）における「一般入試」「アドミッション・オフィス入試」「推薦入試」という入試区分の名称は、令和3年度大学入学者選抜実施要項において、それぞれ、「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」に変更されたが、入学者選抜で用いる評価方法に関する変更も着目に値する。

総合型選抜では、従来のアドミッション・オフィス入試に関して記載されていた「知識・技能の修得状況に過度に重点をおいた選抜とせず」との文言が大学入学者選抜実施要項から削除された。学校推薦型選抜では、従来の推薦入試に関して記載されていた「原則として学力検査を免除し」との文言が削除された。その代わり、総合型選抜および学校推薦型選抜では、調査書等や推薦書等だけでなく、各大学が実施する評価方法等（小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績など）または「大学入学共通テスト」のうち、少なくともいずれか一つの活用が必須化されることになった。すなわち、令和3年度大学入学者選抜を契機として、総合型選抜や学校推薦型選抜においても、大学教育を受けるために必要な学力も適切に評価することが重視される方向へと向かいつつある。

一般選抜に関しては、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法という点は従来の一般入試と同じであるが、選抜に用いる資料として記載されたものが増え、より多様な資料が選抜に用いられることになった。従来の一般入試では、選抜に用いる資料として「調査書の内容、学力検査、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションその他の能力・適性等に関する検査、活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書、資格・検定試験等の成績、その他大学が適当と認める資料」が挙げられていたが（文部科学省, 2019b）、令和3年度からの一般選抜においては、エッセイ、ディベート、各種大会や顕彰等の記録、総合的な学習の時間などにおける生徒の探求的な学習の成果等に関する資料やその面談等が追加された（文部科学省, 2020）。

1.1.2 大学進学率の上昇と大学新入生の学力への懸念

文部科学省（2022b）の学校基本調査によれば、大学入試センター試験が開始された1990年度の大学への進学率は24.6%、大学・短期大学への進学率は36.3%であった（いずれも過年度高卒者等を含む）。その後、大学への進学率、大学・短期大学への進学率は共に上昇を続け、2021年度ではそれぞれ、54.9%、58.9%に達している。

大学への進学率が上昇する過程で、大学で学ぶための学力への懸念が大学教員に意識されるようになった。柳井他（2006）は、新入生の学力の変化に関して、1998年に国公立大学の学部長を対象として実施した調査の回答と、2004年に国公立大学の教員を対象として実施した調査から大学教員経験20年以上の国公立大学教員を取り出した回答を比較している。この研究では、「大学の学習に必要な教科・科目の知識」「大学での学習に必要な論理的思考力・理解力・表現力等の基礎的能力」「大学での学習に必要な関心・意欲」「学力全般について」の4項目について、新入生の学力傾向が上昇しているか低下しているかを問うている。どの項目も、1998年調査において「やや低下」「低下」と回答した教員の割合は50%超であったが、2004年調査ではその割合が更に上昇していることが示されている。

石井他（2007）は、柳井他（2006）の2004年調査の回答データの一部を用いて、「学生の学力低下が学部で問題になっているか」への回答（4段階）を基準変数、教員の属性を説明変数とするカテゴリカル回帰分析を行い、国公立大学よりも私立大学、専門課程の教員よりも教養教育に携わる教員で学力低下意識がより強いことを示した。以上の研究は、大学新入生の学力低下が、国公立といった設置形態を問わず、20年近く前から大学教員に意識されていることを示すものである。

大学への進学率の上昇に加えて、入試の多様化も進んでいる。図1.1に、平成11年度から令和3年度の各年度に関して、国公立大学をすべて合わせた入学者数を入試区分別に集計したグラフを示す（文部科学省、2011、2013、2014、2017a、2019a、2021a、2022a等に基づいて作成）。AO入試と推薦入試による入学者を合わせた割合は、平成11年度は28.9%であったが、平成17年度は40%を超え、令和2年度は48.4%まで上昇した。入試区分の名称が変更になった令和3年度では、総合型選抜と学校推薦型選抜による入学者を合わせた割合は50.3%になっている。

一般入試に比べて学力試験の比重が低いとされるAO入試や推薦入試による入学者の割合が増加する中で、大学で学ぶための基本的学力を既存の教科・科目別の試験とは異なる観点から評価する試験の開発に関する研究が行われてきた（椎名他、2014；桜井他、2014；伊藤他、2014；伊藤他、2015；桜井他、2015）非教科型の試験としたのは、大学入学志願者の高校での履修教科や科目が多様化していること（山村・荒牧、2002；山村、2010）を鑑みてのことである。各大学が面接や小論文、調査書等と併用する想定で、入学後に学ぶ内容に通じる素材を用いて自大学の志願者に応じた内容や難易度の問題を作成できるよう、「言語運用力」および「数理分析力」の作題ガイドラインの開発が行われた（荒井他、2018；荒井他、2020；桜井他、2020）。

1.2 研究目的および研究計画

1.2.1 研究目的

大学への進学率の上昇や入試の多様化により、幅広い学力層が多様な入試方法で大学に入学するようになった現状において、大学で学ぶための基礎となる学力を入試でどのように評価するかは、多くの大学に共通する課題となっている。大学入試センターの令和3（2021）～5（2023）年

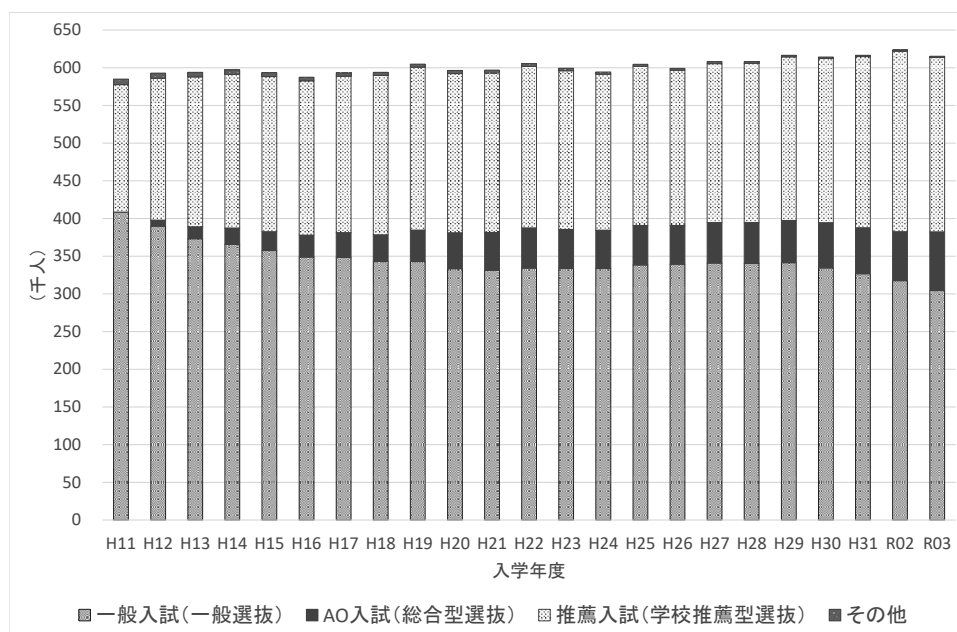


図 1.1: 平成 11～令和 3 年度における入試区分別の大学入学者数
(括弧内は令和 3 年度以降の入試区分の名称)

度理事長裁量経費研究「大学で学ぶための基礎的学力の新たな評価測度の開発に関する研究」の目的は、大学で学ぶための基礎となる学力の評価に関して各大学に対してどのような支援が可能かを、実態調査や需要調査を通じて検討することである（図 1.2）。

令和 3 年度以降の大学入学者選抜の枠組みの変化に各大学がどのように対応したかという視点での実態調査を通じて、入学者選抜における基礎的学力の評価の現状を把握・分析し、実現可能性も念頭においた支援案を作成する。そして、検討した支援案に関して各大学の需要調査を行った上で、実現に向けた支援案を絞り込む。

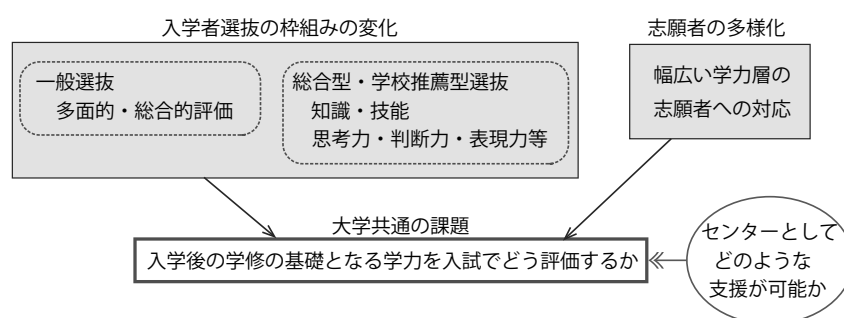


図 1.2: 研究の背景図

1.2.2 研究計画

以下に、令和 3（2021）～5（2023）年度の研究計画を示す。

令和 3（2021）年度 「大学教育を受けるために必要な知識・技能，思考力・判断力・表現力も適切に評価」するために各大学がどのような工夫をしてどのような課題を抱えているのか，を把握するための実態調査を行う。共通テスト利用大学を対象に質問紙調査を実施することで，基礎的学力を測定するための新しいテストとしてどのようなものであれば利用されうるのかを検討する材料を収集する。

大学入学志望者の学力の多面的・総合的な評価に関する実態調査として，基礎的学力の評価を含む形で質問項目を作成する。一般選抜における学力以外の面（主体性や態度など）の評価方法の実態や問題点の把握に繋がる質問項目を設定するなど，他のプロジェクトの研究対象となりうる点があれば連携して調査を行うことで，回答側の負担を軽減して回答率のアップをはかる。調査への協力をメールで依頼し，web フォームに回答を入力する形式で調査を実施する。

令和 4（2022）年度 令和 3 年度の実態調査の回答データの分析を行って，分析結果を報告書にまとめる。また，各大学の入試で実施されている基礎的学力を測るためのテストの内容や評価方法の分類作業を行うことで，各大学が測ろうとする基礎的学力の概念的な整理を行う。実態調査の分析結果および基礎的学力を測るためのテスト等の分類結果に基づいて，基礎的学力の評価に関して個別大学に対してどのような支援がありうるか，センター内の部署と連携して検討する。検討結果に基づき，基礎的学力の評価に関する支援案を作成して，需要調査の計画を立てる。

令和 5（2023）年度 令和 4 年度に検討した基礎的学力の評価に関する支援案に関して，大学の需要調査を行う。需要調査の分析結果に基づいて，基礎的学力を測定するテストに関する支援案を絞り込む。

本報告書について 本報告書は，令和 4（2022）年度の研究計画の一部であり，令和 3（2021）年度に実施した実態調査の実施方法や分析結果についてまとめたものである。令和 3 年度大学入学者選抜の実態について，各大学からの回答に基づいて分析した結果を公開すると共に，大学入試センターとして各大学に対してどのような支援があり得るのかを検討するための材料として活用していく。

第2章 実態調査の実施方法

2.1 実態調査の設計

椎名久美子

2.1.1 実態調査の質問項目を設計する際の観点

令和3年度大学入学者選抜では、入試区分の名称が「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」に変更され、そのそれぞれにおいて、大学教育を受けるために必要な、いわゆる「学力の3要素（知識・技能，思考力・判断力・表現力等，主体性を持ち，多様な人々と協働しつつ学習する態度）」のバランスのとれた評価が求められるようになった（文部科学省，2020）。実態調査の主な目的は，このような入試の枠組みの変化に各大学がどのように対応しているかという実態を把握して，各大学が抱える課題を分析に繋げることである。以下に，把握しようとする実態を入試区分で分けて示す。

- 一般選抜における多面的・総合的評価等に関する実態
- 総合型選抜における知識・技能，思考力・判断力・表現力等の評価に関する実態
- 学校推薦型選抜における知識・技能，思考力・判断力・表現力等の評価に関する実態

また，令和3年度大学入学者選抜では，大学入学共通テスト（以降「共通テスト」と略記）が初めて実施された。共通テストが「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」それぞれでどのように利用されているのかという実態を把握することも，調査の目的とする。共通テストを利用した初めての大学入学者選抜である点を鑑み，入試制度改革の影響をどれくらい受けたかも質問項目に加えることにした。更に，COVID-19（新型コロナウイルス感染症）が流行した状態で大学入学者選抜が実施された初めての年度ということもあり，COVID-19の影響に関する質問項目も加えることにした。

上記に加えて，各大学における入試改善に向けた取り組みの実施状況や，入試関連の組織（委員会やアドミッション・オフィスや事務局）の状況についても把握できるよう，調査項目に含めることにした。

2.1.2 調査対象および回答方法について

大学入試センターでは，共通テスト実施のために，共通テスト利用大学の入試担当部署のメールアドレスを把握している。共通テスト利用大学の入試担当部署に実態調査の回答への協力を依頼できれば，郵送での依頼に比べて費用の節約に繋がる。研究倫理審査申請書において，大学入試センターが保有する各大学の入試担当部署のメールアドレスを実態調査への協力依頼のために利用することを明記した。

令和3年度共通テストは、866大学（大学数706、専門職大学数5、短期大学数155）で利用されていた（大学入試センター、2022）。文部科学省の学校基本調査（文部科学省、2021d）によれば、令和3年5月1日現在の大学数は803、短期大学数は315であった。大学数でみると、令和3年度入学者選抜に関する実態調査の依頼先は、大学の89%、短期大学の49%をカバーすることになる。

実態調査の目的は、各大学が様々な入試区分を有する中で、入試の枠組みの変化や共通テストの利用に関して、大学としてどのように対応し、どのような課題意識を持つのかを捉えることである。そこで、各大学の入学者選抜を総合的に把握している方に回答していただく前提で、複数の選抜区分や選抜日程があるかどうかにかかわらず、1大学につき1通で回答するものとした。

文部科学省（2021b）が令和2年度大学入学者選抜について実施した「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査」は、各大学の選抜区分ごとの入試方法を回答するものであった。個別学力検査での出題科目や、学力検査以外の資料の利用等に関して公表された集計結果には、選抜区分を単位としているものがある。今回の実態調査は大学単位での集計になるので、文部科学省（2021b）の実態調査と比較する際には、集計単位の違いに留意する必要がある。

回答は、各大学の回答者がwebフォームから入力する方式とした。大学ごとに発行するIDとパスワードを用いてwebフォームにアクセスすることで、回答を中断した際に再開したり、締切前であれば一旦送信した回答内容を変更したりできるようにした。IDには、設置形態（国立／公立／私立）を識別するための桁を設定して、設置形態による違いを分析するために用いるものとする。webフォームの設計や回答方法の詳細については、2.2節および2.3節で述べる。実態調査のスケジュールや依頼方法などの詳細については、2.4節で述べる。

調査の実施にあたっては、独立行政法人大学入試センター研究倫理規則（大学入試センター、2015）に従って、令和3年7月8日に研究倫理審査申請書を提出した。「条件付承認」となり、条件を満たすよう研究計画を修正した結果、8月11日に「承認」との審査結果が通知された（申請番号2021-02-02）。

研究倫理審査申請書には、研究活動における倫理的配慮として、以下の点を明記した。

- 調査の分析結果を公表する際は、統計的に処理して大学名が特定されない形にする。
- 調査対象大学にIDとパスワードを通知するために、webフォームの運用を委託する業者に入試担当部署のメールアドレスのリストを渡して通知作業を依頼するが、回答データの納品後にはリストを削除して報告するよう求める。
- 回答フォームの作成と稼働、各大学への告知、回答データの回収を委託する業者に、セキュリティの確保を求める。

2.1.3 質問項目の構成

質問項目は、以下のセクションA～Gに分けた。セクションの順番は、回答のしやすさを考慮して決めたものである。各大学に実態調査への協力を依頼する際には、各セクションの質問項目一覧をメールに添付した。質問項目一覧は、付録A.2に収録する。本節では、各セクションにおける質問項目の構成を説明する。

A 大学情報（学部数、入試関連組織等）について

- B 共通テストの利用について
- C 一般選抜における多面的・総合的評価等について
- D 総合型選抜における知識・技能，思考力・判断力・表現力等を評価する方法について
- E 学校推薦型選抜における知識・技能，思考力・判断力・表現力等を評価する方法について
- F 入試改善に向けた取り組みの実施状況および必要性について
- G ご意見，ご要望

セクション A 表 2.1 にセクション A の質問項目の構成を示す。

調査で得たデータを分析する際の観点として，設置形態（国立／公立／私立）による違いの他に，大学の規模による違いも候補となる。QA-1 で大学の学部数を問うのは，大学の規模の目安とするためである。QA-1 の回答データから学部数の分布をみることで，大学の規模をいくつかのグループに分割して分析を行うかを決める。

QA-2 では，入試関連の組織としてどんなものがあるかを，5 つの選択枝から選ぶことで回答する。全学の委員会，部局の委員会，アドミッションオフィス，事務部局（入試課等）に加えて，機関研究や教学マネジメントを行う組織の入試担当部署も選択枝とした。

2.1.1 節で述べたように，入試制度改革の影響をどの程度受けたか（QA-3），COVID-19 の影響をどの程度受けたか（QA-4）に関する質問をセクション A で行うことにした。QA-3 と QA-4 は，(a) 一般選抜，(b) 総合型選抜，(c) 学校推薦型選抜それぞれに関して 4 段階（1. 受けていない，2. あまり受けていない，3. やや受けた，4. 受けた）で回答する。QA-3 および QA-4 は，実態調査の回答データを多変量的に分析して入試制度改革や COVID-19 の影響に関連の深い変数を探る際に，従属変数となることを想定している。

表 2.1: セクション A の質問項目の構成

質問項目番号	質問内容	回答形式
QA-1	学部数	数字を入力
QA-2	入試関連の組織として有するものすべて	選択枝 (複数選択可)
QA-3 (a) 一般選抜 (b) 総合型選抜 (c) 学校推薦型選抜	入試制度改革の影響をどの程度受けたか	4 段階評定
QA-4 (a) 一般選抜 (b) 総合型選抜 (c) 学校推薦型選抜	COVID-19 の影響をどの程度受けたか	4 段階評定

セクション B 表 2.2 にセクション B の質問項目の構成を示す。

セクション B は，大学入学共通テストの利用に関する質問で構成される。

QB-1 は，一般選抜，総合型選抜，学校推薦型選抜のそれぞれにおいて，共通テストを課している選抜区分（選抜日程）があるかどうかを問う質問である。それぞれの入試区分において複数の選抜区分がある場合，共通テストを課している選抜区分が一つでもあれば，選択する。QB-1 で選択した入試区分に応じて，一般選抜における共通テストに関する質問（QB-2～QB-5），総合型選

抜における共通テストに関する質問（QB-6～QB-9）学校推薦型選抜における共通テストに関する質問（QB-10～QB-13）に回答する。

表 2.2: セクション B の質問項目の構成

	入試区分			質問内容	回答形式
	一般	総合型	学校推薦型		
質問項目番号	QB-1			共通テストを課している入試区分（一般／総合型／学校推薦型に関して、課している選抜区分が1つでもあれば選択）	選択枝（複数選択可）
	QB-2	QB-6	QB-10	共通テストの利用方法 ● 3項目のうち該当するもの ● その他の利用方法	（複数選択可） 選択枝 自由記述
	QB-3	QB-7	QB-11	共通テストを利用する利点 ● 6項目について当てはまる程度 ● その他の利点	4段階評価 自由記述（任意）
	QB-4	QB-8	QB-12	日程や難易度等について ● 4項目について当てはまる程度 ● 難易度に関する評価 ● 得点の段階表示の利用（大学独自の段階表示）	4段階評価 5段階評価 有無および自由記述
	QB-5	QB-9	QB-13	共通テストが選抜に役立ったか	4段階評価

共通テストの利用方法に関する質問では、一般選抜（QB-2）と総合型選抜および学校推薦型選抜（QB-6 および QB-10）とで選択枝が異なる。これは、一般選抜とそれ以外の入試区分で、想定される共通テストの利用方法が異なるためである。

共通テストを利用する利点（QB-3／QB-7／QB-11）、共通テストの日程、難易度、識別力等（QB-4／QB-8／QB-12）、共通テストが選抜に役立ったか（QB-5／QB-9／QB-13）に関する質問は、3つの入試区分に共通しており、段階評価または自由記述で回答する。段階評価は、原則として、それぞれの項目に関して当てはまる程度を4段階（1. 当てはまらない、2. あまり当てはまらない、3. やや当てはまる、4. 当てはまる）で回答する。ただし、受験生にとっての試験問題の難易度に関する項目（QB-4(c)／QB-8(c)／QB-12(c)）では、5段階（1. 易しい、2. やや易しい、3. どちらともいえない、4. やや難しい、5. 難しい）で回答する。

共通テストの得点を大学独自の段階表示に変換して利用したかどうか（QB-4(f)／QB-8(f)／QB-12(f)）に関する質問は、令和3年度から共通テスト得点の段階表示の提供が開始されたことに関連して、調査に加えたものである。共通テスト得点の段階表示は、スタナイン¹を用いて科目別得点を9段階に換算する方式で行われている（大学入試センター、2020）。ただし、文部科学省の調査（2021c）によれば、令和3年度大学入学者選抜において、どの大学も共通テストのスタナインによる段階表示を利用しなかったことが判明している。実態調査では、スタナイン以外の方法による段階表示に変換して入学者選抜に用いた大学があるかどうかを把握する目的で、QB-4(f)

¹ 受験者を得点順におおよそ 4, 7, 12, 17, 20, 17, 12, 7, 4% の 9 群に分割し、得点の低い順に 1 から 9 の 9 段階に換算する

／ QB-8(f) ／ QB-12(f) を設定した。

セクション C 表 2.3 にセクション C の質問項目の構成を示す。

セクション C は、一般選抜における多面的・総合的評価等の利用に関する課題を問う質問を中心に構成されている。多面的・総合的評価に関する課題等を問うにあたっては、どのような評価方法をイメージして回答するかをある程度具体化して問う必要がある。そこで、質問紙のセクション C の冒頭で、「学力以外の評価方法」を 5 種類（調査書、調査書以外の書面、検査、小論文等、面接・討論等）に分類して、それぞれについて、表 2.4 のように例を示すことにした。この 5 種類とそれぞれの例は、「大学入学選抜における英語 4 技能評価及び記述式問題の実態調査」（文部科学省, 2021b）の調査項目を参考にしている。

表 2.3: セクション C の質問項目の構成

質問項目番号	質問内容	回答形式
QC-1	学力検査以外の評価方法 (a)～(e) それぞれについて、 利用している選抜区分が一般選抜にあるかどうか (a) 調査書, (b) 調査書以外の書面, (c) 検査, (d) 小論文等, (e) 面接・討論等	有無
QC-2 (調査書)	一般選抜における (a)～(e) それぞれの利用に関する質問 (利用していない場合も回答) ● 8 項目 (QC-2～QC-6 で共通) について当てはまる程度	4 段階評定
QC-3 (調査書以外の書面)		
QC-4 (検査)		
QC-5 (小論文等)		
QC-6 (面接・討論等)		
QC-7	一般選抜における学力検査以外の評価方法に関する課題	自由記述 (任意)
QC-8	一般選抜における学力検査以外の入試の実施体制に関する 部局間の調整の難しさ	4 段階評定
QC-9	部局間の調整に関する具体的な難しさについて (QC-8 で「3. やや難しい」または「4. 難しい」と評定し た場合に回答)	自由記述
QC-10	部局間の調整以外の課題について	自由記述 (任意)

表 2.4: セクション C で着目する「学力検査以外の評価方法」の種類と例

評価方法	例
調査書	
調査書以外の書面	推薦書，大学入学希望理由書，学修計画書，活動報告書等，生徒の探究的な学習成果等に関する資料等，国際バカロレアの成績，資格・検定試験の成績，活動歴・顕彰・表彰等
検査	基礎学力把握のための筆記（または CBT）による簡単な検査，適性，実技等
小論文等	レポート，小論文，英語による小論文やエッセイ等
面接・討論等	面接，討論，口頭試問，プレゼンテーション，英語による面接・プレゼンテーション・討論等，大学における学習成果等（模擬講義，事前課題）

QC-1 は，一般選抜において，表 2.4 の 5 種類それぞれの評価方法を利用している選抜区分の有無を問う質問である。

QC-2～QC-6 では，5 種類それぞれの評価方法に関して，一般選抜での利用に関する 8 項目について当てはまる程度をそれぞれ 4 段階（1. 当てはまらない，2. あまり当てはまらない，3. やや当てはまる，4. 当てはまる）で回答する。8 項目は，QC-2～QC-6 で共通しており，アドミッションポリシーに照らして必要性が高いかの他に，それぞれの評価方法を利用する際の難しさに関する項目（7 項目）で構成される。QC-2～QC-6 で対象とする評価方法を，一般選抜で利用していない場合も，それぞれの 8 項目に回答を求める。

QC-7 は，一般選抜における学力検査以外の評価方法に関する課題に関して，自由記述で回答する項目である。

QC-8 では，学力検査以外の入試の実施体制に関して，部局間の調整の難しさを 4 段階（1. 難しくない，2. あまり難しくない，3. やや難しい，4. 難しい）で回答する。QC-8 で「3. やや難しい」または「4. 難しい」を選択した場合は，QC-9 で，具体的にどのような点が難しいかを記入する。QC-10 では，部局間の調整の他の課題に関して，自由記述で回答する。

セクション D および E 表 2.5 にセクション D および E の質問項目の構成を示す。

セクション D では総合型選抜，セクション E では学校推薦型選抜において，知識・技能，思考力・判断力・表現力等を評価する方法を尋ねる。質問項目は両セクションで共通である。特に着目するのは，令和 2 年度以前の AO 入試や推薦入試では必ずしも比重が高くなかった学力検査に類する評価方法である。具体的には，共通テスト，共通テスト以外の各教科・科目に係るテスト，基礎学力把握のための簡易な検査（筆記または CBT）である。そのうち，総合型選抜／学校推薦型選抜における共通テストの利用については，セクション B でカバーしているので，セクション D および E では，共通テスト以外の各教科・科目に係るテスト（以降「各教科・科目に係るテスト」と略記）と基礎学力把握のための簡易な検査に着目する。

QD-1／QE-1 は，「各教科・科目に係るテスト」を課している選抜区分がどの程度あるかを問う質問である。総合型選抜／学校推薦型選抜を実施していない場合は，「実施していない」という選択枝を選ぶことで，QD-2 以降／QE-2 以降に回答せずに，次のセクションに移動する。

QD-2／QE-2 は，「各教科・科目に係るテスト」に関する質問である。6 項目について当てはまる程度をそれぞれ 4 段階（1. 当てはまらない，2. あまり当てはまらない，3. やや当てはまる，4. 当てはまる）で回答する。総合型選抜／学校推薦型選抜を実施していても，「各教科・科目に係るテスト」を課している選抜区分がない場合は，回答せずに次の質問に移動する。

QD-3／QE-3では、共通テストや「各教科・科目に係るテスト」以外で課しているものをすべて選択する。「その他」を選択して自由記述による回答をすることもできる。QD-3／QE-3の選択枝は、「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査」（文部科学省、2021b）で個別選抜における「学力検査以外に考慮する資料等」の選択枝の中から、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の評価に関連が深いと思われるものを選んだ。

QD-4／QE-4は、「基礎学力把握のための筆記による簡易な検査」および「基礎学力把握のためのCBTによる簡易な検査」に関する質問であり、QD-3／QE-3で「課している」ものとして選択した場合に回答する。6項目について当てはまる程度をそれぞれ4段階（1.当てはまらない、2.あまり当てはまらない、3.やや当てはまる、4.当てはまる）で回答する。これらの6項目は、QD-2／QE-2と共通である。

QD-5／QE-5では、総合型選抜／学校推薦型選抜における知識・技能、思考力・判断力・表現力等の評価方法に関する課題に関して、自由記述で回答する。

表 2.5: セクション D および E の質問項目の構成

	入試区分		質問内容	回答形式
	総合型	学校推薦型		
質問項目番号	QD-1	QE-1	「各教科・科目に係るテスト」を課している選抜区分がどの程度あるか	選択枝
	QD-2	QE-2	「各教科・科目に係るテスト」に関する質問 ● 6項目について当てはまる程度	4段階評定
	QD-3	QE-3	共通テストや「各教科・科目に係るテスト」以外で課しているものすべて ● 7項目 ● その他 ● 課しているものがない場合の選択枝あり	選択枝（複数選択可） 自由記述
	QD-4	QE-4	「基礎学力把握のための簡易な検査」に関する質問 ● 6項目について当てはまる程度	4段階評定
	QD-5	QE-5	知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題	自由記述 （任意）

セクション F 表 2.6 にセクション F の質問項目の構成を示す。

セクション F では、各大学における入試改善に向けた取り組みの実施状況とそれらの必要性に関する考えを問う。各大学での取り組みの実態や、各大学にとっての必要性を分析することで、大学入試センターから各大学に向けてどんな支援がありうるかを考える手がかりとするのが目的である。

各大学で入試改善に向けて実施している可能性が高い取り組みとして、表 2.6 に示す (a)～(h) の 8 項目を設定した。これら 8 項目に関して、QF-1 では、それぞれに関して現状で実施しているかどうかを回答し、QF-2 では、それぞれに関する必要性を 4 段階（1. 必要性はない、2. あまり必要性はない、3. ある程度必要性がある、4. 高い必要性がある）で回答する。また、8 項目以外に、自由記述での回答も可能にする。

表 2.6: セクション F の質問項目の構成

質問項目番号	質問内容	回答形式
QF-1 (実施状況)	(a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析 (b) 学力検査の難易度，識別性等の評価 (c) 学力検査の問題の内容の検証 (d) 学力検査以外の課題の内容の検証	行っている ／いない
QF-2 (必要性)	(e) 選抜資料と入学後成績の関連性に関する追跡調査 (f) 新しい評価方法の開発 (g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築 (h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討 (i) 入試改善に向けたその他の取り組み	4段階評定 自由記述

セクション G セクション G は，セクション A～F までの質問に対応しないような入学者選抜の課題や，大学入学共通テストや大学入試全般に関わる意見，大学入試センターへの要望等を収集するために，自由記述による回答欄として設定した。

2.2 調査方法

荒井清佳・伊藤圭

本節では、仕様書の作成時に検討した内容を述べる。

2.2.1 調査方法の概要

2.1.2 節で述べたように、実態調査は回答者が web フォームから入力する形式とした。回答者への調査の依頼は大学入試センター研究開発部長名で行い、それ以降の部分、すなわち、web フォームの作成・稼働、各大学への ID の発行とパスワードの通知、回答データの収集等は業者へ依頼することとした。

2.2.2 回答者の ID とパスワード

回答は1大学につき1通で回答するものとしたことから、1大学につき一つのIDとパスワードを発行することにした(2.1.2 節参照)。ID とパスワードは、大学が web フォームにアクセスするために用いる。ID については、ID から設置形態(国立／公立／私立)及び大学／短期大学を識別できるようにするための桁を含めた。具体的には、ID の先頭の文字を、国立大学であればP、公立大学であればQ、私立大学であればR、公立短期大学であればS、私立短期大学であればTとした。このようなIDのパスワードの設定方針を定め、実際のIDとパスワードの作成は業者に依頼した。なお、発行したID数は、国立大学は82、公立大学は92、私立大学は534、公立短期大学は10、私立短期大学は39であった。

2.2.3 回答方法

各大学はIDとパスワードを用いて web フォームにアクセスし、web フォームに回答を入力するようにした。各大学が一回のアクセスですべての質問に回答できるとはかぎらないため、各大学のタイミングで回答を途中で止めたり、再開したり、一度送信した回答であっても回答の締切前であれば変更が自由にできるようにした。また、大学によっては回答した内容の控えが必要な場合もある。そこで回答の終了時に自大学の回答を一覧できるようにした。web フォームの設計や仕様の詳細については2.3.3 節を参照されたい。

2.2.4 仕様書の作成

業者に依頼する内容は、大きく分けて①web フォームの作成、②各大学へのIDの発行とパスワードの通知、③回答フォームの稼働、④回答データの収集・納品となった。これらの内容と業務の過程で得た情報の秘匿に関する注意事項を合わせて仕様書を作成した。仕様書および関連書類を付録Bに掲載した。2.2.2 節で定めたIDとパスワードの具体的な設定方針については、仕様書には掲載せず、業者との打合せ時に依頼した。また、2.2.3 節で定めた web フォームへの回答方法については、仕様書には概要を示し、実際の設計や仕様は業者と打ち合わせの中で実現させた。

なお、本報告書の本文では、テスト研究者に多用される語として「選択枝」という表記を用いるが、仕様書では一般的な語として「選択肢」という表記を用いた。

2.3 調査の実装

伊藤圭・桜井裕仁

2.1.2 節および 2.2 節で触れたように、実態調査の質問項目への回答には web フォームを用いることとした。本節では web フォームを中心に調査システムの実装についてまとめる。

2.3.1 web フォームの動作環境の選定

web フォームの動作環境として、Google フォームや Microsoft Forms 等のオンラインアンケート作成・管理ツールの利用や自前のシステムの構築、民間業者が提供する web 調査環境の利用等を検討したが、web フォームの作成期間、システムの情報セキュリティ、費用、運用管理における手間、機能のカスタマイズの自由度等を勘案し、今回は民間のマーケティング・リサーチ事業会社のネットリサーチサービス（委託調査）を利用することとした。

2.3.2 ネットリサーチサービスの構成

利用したネットリサーチサービスの標準構成は次の (1)～(5) のとおりである。

- (1) サーバー利用
- (2) 基本アプリケーションサービス
- (3) web フォームの画面作成・プログラミング
- (4) ローデータ作成
- (5) 調査実施時のシステム運用管理

(1) は web フォームを稼働させるサーバー、(2) はサーバー上に組み込まれているオンラインアンケートの基本アプリケーションに関するものである。(3) は本調査の仕様で指定された、具体的な質問項目等の画面表示、回答に応じた条件分岐、矛盾回答の制御等の web フォームの動作を実現するための特定のプログラミングに関するものである。(4) は質問項目のラベルと質問内容や回答形式（単答、複数回答、自由記述など）等を一覧にしたラベル対応表と、回答者ごとの回答内容をまとめたデータファイルの作成に関するものである。(5) は調査の回答受付期間中におけるシステムの運用に関するものである。

本調査では上記の基本サービスに加え、次の (6)～(9) のサービスを利用した。これらは委託業者が予め用意している一般のオプションサービスではなく、特別仕様として追加で依頼したサービスである。

- (6) 画面のカスタマイズ
- (7) テストデータ納品
- (8) 配信代行（2 回配信）
- (9) 途中納品

(6) は、標準サービスで提供される web フォームのテンプレートに対して、表示内容および表示位置の変更、不要な表示の削除、ページ移動ボタンの追加、回答の中断および再開をする機能

の調整等、本調査独自の表示や機能を追加実装するためのものである。(7)は、実際の調査が開始される前に、web フォームの表示や動作の確認のために各研究分担者が模擬回答を行い、生成されたテストデータによって回答データの記録等に不備がないかどうかを確認するためのものである。(8)は、web フォームへのログインに必要な ID とパスワードの調査対象大学への通知を委託業者が行うためのメール配信代行サービスに関するものである。今回の調査では、同一法人に属する2つの大学において、それぞれ入試関連事務局が同一のメールアドレスを共有していると思われるケースが3件あった。この3件については、1つのメールアドレス宛にメール本文内の宛名が異なる2つのメールを送信する必要があるが、メール送信システムの機能上、1つの宛先に対して送信できるメールは一度の配信で一通のみに限られていたため、配信作業を2回行うことで対応した。(9)は、調査開始後に回答の内容や進捗状況を確認し、調査対象大学への追加の説明や回答のリマインドの必要性を判断するため、web フォームの回答受付期間中（令和3年（2021年）9月22日～11月22日）の令和3年10月12日と令和3年11月2日に、それぞれの時点までに収集した回答のローデータを納品してもらうものである。

2.3.3 web フォーム

調査で用いた web フォームの画面イメージを付録 C に示す。web フォームはログイン画面（1 ページ）、アンケート画面（22 ページ）、回答完了画面（1 ページ）の3つの領域からなる。

ログイン画面

ログイン画面の下部に設けられた入力欄に ID とパスワードを入力し、調査参加のボタンを押すとログインが行われ、アンケート画面が表示される。ログイン画面には、調査実施要項（調査実施期間、実施組織、回答情報の取り扱い等）、推奨環境（web フォームにアクセスする際に使用する OS やブラウザ）、問合せ先、回答にあたっての注意事項も掲載されている。委託業者が提供する標準的な web フォームのテンプレートでは、ログイン画面上に調査実施組織のプライバシーポリシーを表示する画面への URL リンクを掲載する仕様になっていたが、今回の調査ではプライバシーポリシーの代わりに独立行政法人大学入試センター研究倫理規則（大学入試センター、2015）を表示する画面への URL リンクを掲載することにした。

アンケート画面

アンケート画面は複数のページに分かれており、各ページの最上部と最下部に設置された「次へ」または「前のページに戻る」ボタンを押すことによってページの移動ができる。但し、回答は1ページ目から順に行うようになっており、回答中のページにあるすべての質問項目に所定の方法で回答を済ませることで次のページへ進むことができる。回答が済んでいない質問項目がある状態や矛盾回答がある状態で「次へ」ボタンを押した場合には、ページ上部に「ご回答頂いた内容に誤りがあります。」という警告メッセージが表示されるとともに、警告の原因となった質問項目に対して正しい回答方法の説明がハイライト表示される。

回答画面の途中のページで、それより前のページで回答した内容を変更したい場合は、「前のページへ戻る」ボタンを押して回答を変更したい質問項目のあるページまで戻り、回答の上書き入力をするようになる。この際、戻る前のページの質問項目の回答はバックグラウンドでは保存されずに未回答の状態に戻ってしまう。したがって、ページを戻った場合は戻ったところのページ以降の質問項目に再度回答を行わなければならない。

最後の質問項目への回答を行い、「次へ」ボタンを押すと回答内容確認ページ（アンケート画面の最後のページ）へ移動する。これまでに回答した内容が質問文とともに一覧表示され、ページ上部に置かれた「ページを印刷する」ボタンを押すことにより、控えとして印刷しておくことができる。回答内容を確認後、ページ最下部に置かれた「送信」ボタンを押すことにより回答作業が完了する。厳密に言えば、システム上では最後の質問項目への回答後に「次へ」ボタンを押した時点ですべての回答内容がサーバに記録されるが、web フォームを利用する回答者の立場からは、回答内容を確認した後に自発的に回答完了を宣言する方が作業の区切りが分かりやすいことから、このページに「送信」ボタンを設けることとした。

回答完了画面

すべての回答が完了したことを明示するために、上記の回答内容確認ページで「送信」ボタンを押した後、回答完了画面が表示される。また、回答終了後に再度回答内容を確認したい場合や回答を変更したい場合が生じることを想定し、再ログインを行うことでこれらの確認や変更が行える旨の説明を表示するようになっている。

回答の中断および回答内容の修正

一度の回答作業ですべての質問項目に回答できずにアンケート画面の途中のページでブラウザを閉じた場合でも、ブラウザを閉じた際に表示していたページまでの回答内容は保持されるため、再度 web フォームにログインすることで中断したところから回答を継続することが可能である。一度の回答作業ですべての質問項目への回答が完了し、回答内容確認ページまたは回答完了ページのいずれかでブラウザを閉じた場合は、再度 web ページにログインすると、回答内容確認ページが表示される。

途中でブラウザを閉じた場合と回答完了後にブラウザを閉じた場合のどちらの場合でも、再度ログインした時に表示されるページには「前のページへ戻る」ボタンがあるため、ページを遡って回答を修正することができる。但し、アンケート画面の説明でも述べたように、ページを戻した場合、戻る前に表示されていたページの回答内容は破棄されてしまうため、内容が破棄されたページの質問項目に再度回答を行う必要が生じる。したがって、すべての質問項目への回答内容を保存するためには最後の質問項目への回答を行い、回答内容確認ページまたは回答完了ページまで進む必要がある。

2.3.4 納品用の回答データ

収集した回答データは Microsoft の Excel 形式 (xlsx) のファイルで納品することとした。また、ファイルは回答完了者のみのデータを収録したものと回答途中者のみのデータを収録したものの2種類に分けることとした。データファイルには、回答内容の他に ID、大学名、設置形態、所在地の都道府県、タイムスタンプ（回答日時）が含まれているが、メールアドレスやログインパスワードは含まれていない。web フォームで回答の修正を行った場合、修正後の回答内容が以前の内容に上書き保存されるため、同じ ID（大学）で異なるタイムスタンプが付された複数のデータが発生することはない。さらに、データファイルには、上記の回答内容等が収録されているタブ（Excel のタブ）とは別に、質問項目のラベルと質問内容や回答形式等を一覧にしたラベル対応表を収録したタブ、質問項目ごとに、回答者がどの選択枝を選んだか等を集計した単純集計表を収録したタブもまとめられている。

2.4 調査の実施

荒井清佳

2.4.1 調査の実施日程

表 2.7 は、調査の実施日程をまとめたものである。2.4.2 節以降で詳述する。

表 2.7: 調査の実施日程

各大学への調査協力の依頼	令和 3 年 9 月 22 日 (水)
補足説明の送信	令和 3 年 10 月 12 日 (火)
リマインダの送信	令和 3 年 11 月 4 日 (木)
調査の回答期限	令和 3 年 11 月 22 日 (月)
業者からの回答データの納品	令和 3 年 11 月 24 日 (水)
業者が保有する電子データの破棄	令和 4 年 1 月 7 日 (金)

2.4.2 各大学への調査協力の依頼

調査協力の依頼先

調査協力の依頼先は令和 3 年度大学入学共通テスト利用大学（大学入試センター、2022）とし、大学入試センターが共通テスト実施のために把握している各大学入試担当部署の連絡先宛に調査への協力依頼を行うこととした（2.1.2 節参照）。ただし、母体が同じ大学と短期大学が共通の連絡先を登録しているケースと、別個の連絡先を登録しているケースがあり、大学と短期大学を厳密に区別して依頼するのは困難であった。そのため、大学と短期大学とが共通の連絡先を登録している場合には一つの大学として数えることとした。令和 3 年度大学入学共通テスト利用大学数は 866（大学数 706、専門職大学数 5、短期大学数 155）であるが、依頼先の件数としては 757 大学となった。

調査協力の依頼メール

各大学への調査協力の依頼は電子メールで行うこととし、令和 3 年 9 月 22 日に当時の研究開発部長名でメールを送信した。

各大学のメールアドレスは、大学入試センターが共通テスト実施のために把握しているものを利用した。1 大学につき 1 通の回答としたため、複数のキャンパスに分かれているなど、複数のメールアドレスが登録されている大学については代表にのみ送付した。また、連絡先としては別個に登録されているが、メールアドレスが共通している大学に対しては、それぞれの大学ごとにメールを送付し、大学ごとに 1 通の回答をするようメール本文で依頼した。一度に多くのメールを送信すると送信できないことがあることから、最多でも 50 大学となるように送付先を分割して送信した。送信する際には、各大学のメールアドレスは Bcc に入力した。

調査協力の依頼メールには、本文で調査の概要を述べ、その中で回答フォームにアクセスするための ID とパスワードは別便で届くことを明記した。この別便のメールは、調査協力のメールが届いた後に届くように調整し、業者から送信された。

調査協力の依頼メールには、依頼状（「令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査へのご協力をお願い」と質問項目一覧（「令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査 質問項目一覧」）の2ファイルを添付した。それぞれ、付録 A.1, A.2 に収録した。依頼メールの本文は付録 A.3 に収録した。

2.4.3 問合せ対応

依頼状には調査に関する問い合わせ先を明記しておき、調査期間中の各大学からの問合せに対応することとした。

回答期間中に延べ 41 件の問合せがあった。調査開始後まもなくの間には、「回答フォームにアクセスするための ID とパスワードが届かない」「ID とパスワードのみ届いて依頼メールが届かない」などのメールの送受信に関する問合せがあった。また、質問項目に関連する問い合わせとして、「QA-3 と QA-4 について、総合型選抜や学校推薦型選抜を実施していない場合にはどのように回答すればよいか」「QB-1 について、大学入学共通テストを大学入学共通テスト利用選抜でのみ利用している場合にはどのように回答すればよいか」という問合せがいくつかの大学からあった。この 2 点の問合せは他の大学からも寄せられる可能性があったため、調査対象のすべての大学に宛ててメールを出し、補足説明を行うこととした（2.4.4 節参照）。そのほか、回答期間中を通じて、質問項目の内容を確認する問合せや、個別の質問項目に対して大学の個別事情に照らしてどのように回答すればよいかを尋ねる問合せ等があった。回答期限の前後には「回答期限を延期してほしい」「回答期限を過ぎてからも回答できるか」等の問合せがあった。回答期限を過ぎると回答フォームに回答できなくなるため、回答期限を過ぎた場合は、質問項目一覧の PDF に手書きで記入してメール添付で送ってもらうこととした。

2.4.4 補足説明の送信

2.4.3 で述べたように、調査開始後、質問項目 QA-3, QA-4 および質問項目 QB-1 への回答方法を尋ねる問合せがいくつかの大学からあった。この 2 点の問合せは、総合型選抜や学校推薦型選抜を実施していない大学、共通テストを大学入学共通テスト利用選抜でのみ利用している大学から今後も寄せられる可能性があった。該当する大学が多くあると考えられることから、調査対象のすべての大学に対して、質問項目 QA-3, QA-4 および質問項目 QB-1 への回答方法の補足説明をメールで知らせることとし、令和3年10月12日に送付した。メールで述べた補足説明を次に示す。

～～～回答方法に関する補足説明（ここから）～～～

(1) QA-3 と QA-4 について

総合型選抜や学校推薦型選抜を実施していない場合には、「1. 受けていない」を選択してください。

（例）総合型選抜を実施していない場合、QA-3 (b) と QA-4 (b) では「1. 受けていない」を選択してください。

（例）学校推薦型選抜を実施していない場合、QA-3 (c) と QA-4 (c) では「1. 受けていない」を選択してください。

(2) QB-1 について

大学入学共通テストを「大学入学共通テスト利用選抜」でのみ利用している場合には、「1. 一般選抜」を選択し、QB-2～QB-5 に回答してください。

「大学入学共通テスト利用選抜試験」は「大学入学者選抜実施要項」での「一般選抜」に相当

しますので、「一般選抜」の一つとして回答してください。
～～～回答方法に関する補足説明（ここまで）～～～

2.4.5 リマインダの送信

令和3年11月4日（木）に、回答を完了していない大学に対してリマインダのメールを送信した。11月2日（火）の時点で、回答を完了している大学は384大学、回答中の大学が134大学、回答フォームにまだログインしていない大学が239大学であった。回答中の大学には「送信」ボタンを押して回答を完了してもらえよう促すメールを送信し、未ログインの大学へは調査への協力依頼のメールを送信した。

2.4.6 回答データの納品

令和3年11月22日（月）が回答期限であり、その翌々日の令和3年11月24日（水）に各大学の回答データが業者から納品された。回答データは、最後まで回答した大学の回答をまとめたデータ（完答データ、628件）と、回答を途中でやめてしまった大学の回答をまとめたデータ（途中データ、37件）の2種類が納品された。

2.4.7 業者が保有する電子データの破棄

回答フォームの稼働等を依頼した業者からは、回答データや各大学のメールアドレス等の本調査に関する全電子データを令和4年1月7日（金）に破棄したという破棄証明書を令和4年1月17日（月）に受け取った。

第3章 分析結果

3.1 回答データの精査および分析方針

椎名久美子

本節では、調査で得た回答データから、項目間の回答の整合性等に問題があるものを除去して分析対象データを確定させる際の観点を述べると共に、3.2 節以降での各質問項目の分析方針の大枠を示す。

3.1.1 回答データの精査

2.4.6 節で述べたように、業者からは、最後まで回答したデータ（完答データ）628 件と、途中で回答をやめてしまったデータ（途中データ）37 件が納品された。また、締切に間に合わないが回答の意思があるという連絡が2つの大学から届き、それらの大学からは、締切後にメールで回答が届いた。メールで届いた回答のうち1件は、完答データに相当する内容だったので、業者から納品された完答データに加えた。もう1件は途中データに相当する内容だったので、業者から納品された途中データに加えた。よって、調査で得た回答データは、完答データが629件、途中データが38件となる。

2.3.3 節で述べたように、回答を入力する web フォームは、必須項目の回答が未入力の場合は入力を促すように設計されていた。また、質問項目の回答に応じて次に回答する質問項目が分岐するような制御も組み込まれていた。しかし、選択枝による回答と自由記述の内容の整合性については、自由記述の内容を事前に予測できないため、整合性をチェックする機能は web フォームに実装されなかった。また、完答データであっても、質問項目の意図が誤解されていたり、質問項目の意味が十分に伝わらなかったりした回答が含まれている可能性がある。

よって、完答データのうち、回答内容に不整合があるケースや、質問の意図を誤解したことが明らかな回答データは、分析から除外する必要がある。その際、恣意的に分析から除外することにならないよう、完答データを精査して、分析から除外する条件を明確にする必要がある。

完答データを精査した結果、分析から除外するケースと、修正した上で分析に用いるケースの条件を、以下のように決定した。

分析から除外するケース (1) QB-1 の回答と他の質問項目の回答の矛盾 QB-1 を下記に示す。

QB-1. 次のうち、貴大学の入学者選抜において、大学入学共通テストを課している入試方法をすべて選択してください。該当する選抜区分が一つでもある場合は選択してください。（複数選択可）

1. 一般選抜
2. 総合型選抜
3. 学校推薦型選抜

QB-1 は共通テストを課している入試方法に関する質問項目だが、QB-1 の回答選択枝が他の質問項目の自由記述や回答選択枝と矛盾するケースを件数と共に以下に示す。

ケース (i) QB-2 の自由記述の回答との矛盾 (2 件)

QB-1 で「1. 一般選抜」のみを選択したが、QB-2 (一般選抜での共通テストの利用のしかたに関する質問項目) で「4. その他」を選択し、その自由記述として「一般選抜では共通テストを利用していない」という趣旨の回答がある。

ケース (ii) QB-7 の自由記述の回答との矛盾 (2 件)

QB-1 で「2. 総合型選抜」を選択したが、QB-7 (総合型選抜において共通テストを利用する利点に関する質問項目) で「(g) その他」を選択し、その自由記述として「共通テストを利用していない」という趣旨の回答がある。

ケース (iii) QB-10 の自由記述の回答との矛盾 (4 件)

QB-1 で「3. 学校推薦型選抜」を選択したが、QB-10 (学校推薦型選抜において共通テストを利用する利点に関する質問項目) で「(g) その他」を選択し、その自由記述として「共通テストを利用していない」という趣旨の回答がある。

ケース (iv) QB-11 の自由記述の回答との矛盾 (1 件)

QB-1 で「3. 学校推薦型選抜」を選択したが、QB-11 (学校推薦型選抜において共通テストを利用する利点に関する質問項目) で「(g) その他」を選択し、その自由記述として「共通テストを利用していない」という趣旨の回答がある。

ケース (v) QD の回答選択枝等との矛盾 (1 件)

QB-1 で「2. 総合型選抜」のみを選択したが、QD-1 (総合型選抜において、共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分がどの程度あるかに関する質問項目) で「6. 総合型選抜を実施していない」を選択している。また、調査対象大学は少なくとも一般選抜では共通テストを利用しているはずだが、QB-1 で「1. 一般選抜」を選択していない点からも、質問の意図が伝わらなかったと推測される。

ケース (v) は、web フォームに矛盾を排除する機能を実装しておけば防げた可能性のあるケースだが、件数としてはごく少数であり、実装費用と精査の手間のトレードオフの範疇であろう。

分析から除外するケース (2) QB-2 の回答選択枝と QB-2 の自由記述の内容の矛盾 QB-2 を下記に示す。

QB-2. 一般選抜において、貴大学では大学入学共通テストをどのように利用していますか。次のうち、該当するものをすべて選択してください。(複数選択可)

1. 共通テストの得点のみで合否判定を行う
2. 共通テストの得点をもとに、貴大学の個別試験の受験者を決定する (二段階選抜)
3. 共通テストと貴大学の個別試験の得点を総合して合否判定を行う
4. その他 (自由記述)

QB-2 は一般選抜における共通テストの利用のしかたに関する質問項目だが、QB-2 の回答が QB-2 の「4. その他」の自由記述と矛盾するケースを件数と共に以下に示す。

ケース (vi) QB-2 の自由記述の回答との矛盾 (その 1) (5 件)

QB-2 で「4. その他」のみを選択したが、その自由記述として「共通テストのみの得点で合否判定を行う選抜区分がある」という趣旨の回答がある。「1. 共通テストの得点のみで合否判定を行う」を選択しなかった意図が不明。

ケース (vii) QB-2 の自由記述の回答との矛盾 (その 2) (1 件)

QB-2 で「1. 共通テストの得点のみで合否判定を行う」と「4. その他」を選択したが、その自由記述として「一般選抜で共通テストを利用していない」という趣旨の回答がある。「共通テストのみの得点で合否判定を行う選抜区分がある」調査対象大学は少なくとも一般選抜では共通テストを利用しているはずだが、質問の意図が伝わらなかったと推測される。

ケース (viii) QB-2 の自由記述の回答との矛盾 (その 3) (1 件)

QB-2 で「3. 共通テストと貴大学の個別試験の得点を総合して合否判定を行う」と「4. その他」を選択したが、「4. その他」の自由記述として「共通テストのみで合否判定を行う学部がある」という趣旨の回答がある。「1. 共通テストの得点のみで合否判定を行う」を選択しなかった意図が不明。

ケース (vi) と (viii) については、自由記述の内容が「1. 共通テストの得点のみで合否判定を行う」に近いことから、QB-2 の回答選択枝を修正した上で分析に含めることも検討したが、選択枝 1 を敢えて選ばなかった意図が不明確なので、回答データを修正することはせずに、分析対象から外すことにした。

調査票では、「令和 3 年度大学入学者選抜実施要項」(文部科学省, 2020) に従って「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」という入試区分の名称を用いて、共通テスト利用入試は「一般選抜」に該当するという前提で質問項目が設計されたが、ケース (i)～(viii) が発生したことから、一般選抜と共通テスト利用入試が別のものという認識を持つ大学の存在が示唆される。

修正した上で分析に用いるケース 修正した上で分析に用いることにしたケースは以下の 2 件である。

- 回答選択枝と自由記述の内容が矛盾するものの、自由記述の記載から回答意図が明確で、解釈が一意に定まるケース (1 件)：QB-2 で「4. その他」のみを選択したが、その自由記述として「特定の学部は 2 で、その他の学部は 1」という趣旨の回答がある。自由記述の内容が、選択枝 1 と 2 の両方を選ぶ回答に相当することが明確なので、QB-2 の選択枝を「4 のみ選択して自由記述」から「1 と 2 を選択」に修正する。
- 誤入力であることが明らかで、かつ、公式情報で正しく修正することが可能なケース (1 件)：QA-1 (学部数に関する質問) の回答として、突出して大きな値 (2 桁) が入力されていたが、該当する大学の公式 web ページから正しい学部数 (1 桁) が確認できたので、QA-1 の値を正しく修正する。

分析に用いるデータの確定 分析から除外するケース (1), (2) (ケース (i)～(viii)) に 1 つでも該当する大学は 14 件であった。ケース (i)～(viii) の件数の合計より少ないのは、1 つの大学で複数のケースに該当する場合があるためである。

すなわち、調査で得た完答データ 629 件から、上記の 14 件を分析から除外した加えた 615 件を、分析に用いるデータ（有効データ）とする。回答を依頼した 757 大学のうち、615 大学から有効データの回答が得られたことになり、有効回答率は 81.2%である。

3.1.2 分析方針

調査対象大学が web フォームから回答するための ID は、設置形態として 5 つのカテゴリー（国立大学、公立大学、私立大学、公立短期大学、私立短期大学）を区別できるように設定したが、2.4.2 節で述べたように、母体が同じ大学と短期大学のそれぞれに ID を発行したケースと、まとめて 1 つの ID を発行したケースがあるため、大学からの回答と短期大学からの回答を厳密に区別することは困難である。

そこで、本報告書では、設置形態に言及するときには、公立大学と公立短期大学をまとめて「公立」大学、私立大学と私立短期大学をまとめて「私立」大学と呼ぶことにする。すなわち、設置形態別の分析では、国立大学、公立大学、私立大学の 3 つのカテゴリーに分けて論ずる。

表 3.1 に、依頼大学と有効データの回答大学の設置形態別内訳を示す。依頼した大学と有効データとした大学で、設置形態別の割合に大きな開きはない。

表 3.1: 依頼大学と有効データの回答大学の設置形態別内訳

		設置形態			
		国立	公立	私立	計
依頼大学	度数	82	102	573	757
	割合 (%)	10.8	13.5	75.7	100.0
有効データの回答大学	度数	76	80	459	615
	割合 (%)	12.4	13.0	74.6	100.0

第 3 章では、設置形態の他に、大学の規模に着目した分析も行う。大学の規模については、学部数を入力する形（QB-1）で回答が得られているので、次節（3.2 節）で学部数の分布状況等进行分析した上で、大学の規模をいくつかのカテゴリーに分割するべきかを定める。

3.2 節以降では、A から F の質問項目に関する分析結果と考察を述べる。選択枝で回答する質問項目については、原則として、単純集計、設置形態別の集計、大学の規模別の集計を行う。自由記述による回答は、原文のまま収録する。

3.2 有効回答が得られた大学の属性等

桜井裕仁

本節では、セクション A の質問項目の回答結果をまとめる。セクション A の質問項目は、大学の学部数、大学内にはどのような入試関連の組織があるか、入試制度改革の影響をどの程度受けたか、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の影響をどの程度受けたか、といった計 4 つから構成される。

なお、3.2.1 節では学部数の分布（集計結果）に基づき、有効回答が得られた大学を 4 つのグループに分割する方法も説明する。これらのグループは、本報告書において有効な回答データをより詳細に検討する際に用いられる。

3.2.1 学部数

QA-1. 貴大学の学部数（令和 3 年 4 月 1 日現在）を記入してください。名称が学部でない場合は学部に対応するものの数を記入してください。（半角数字で入力）

学部

QA-1 に対する回答の集計結果を図 3.1 と表 3.2 に示す。表 3.2 は図 3.1 に対応する度数（大学数）と相対度数をパーセント表示した値をまとめたものである。図 3.1 と表 3.2 の「10+」は、学部数が 10 以上であることを表す。有効回答が得られた 615 大学について、学部数の平均値は 3.41、中央値は 3、標準偏差は 2.83、最頻値は 1 である。最頻値 1 は、いわゆる単科大学であり、615 大学中 179 大学 (29.1%) の回答を占めている。ここで、 n 大学から得られた回答データを $x_1, \dots, x_n$ 、これらの平均と標準偏差をそれぞれ $\bar{x}$, s とすると、 $\bar{x}$ と s は

$$\bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i, \quad s = \sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2} \quad (3.1)$$

により求めている。

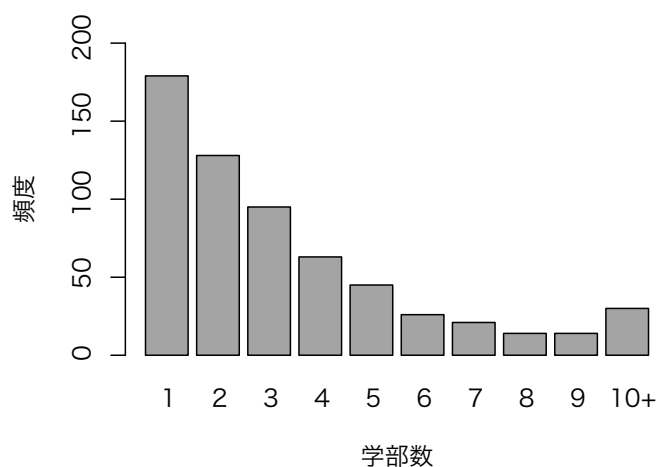


図 3.1: 有効回答が得られた大学の学部数の分布

表 3.2: 有効回答が得られた大学の学部数の分布（全体）

学部数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10+	計
大学数	179	128	95	63	45	26	21	14	14	30	615
割合 (%)	29.1	20.8	15.4	10.2	7.3	4.2	3.4	2.3	2.3	4.9	100.0

3.1.2 節の分析方針で述べられているように、本報告書では、学部数の多寡によりアンケートの回答結果を議論する際には、

- 1 学部
- 2 学部
- 3・4 学部
- 5 学部以上

の 4 つのカテゴリに分けて議論を行う。これらは、次のような考え方をもとにして決めている。

- 有効回答の得られた大学を複数のグループに分割する際には、各大学は 1 つのグループにのみ属するようにする。
- 学部数が 1 の単科大学と複数の学部を擁する大学とでは回答傾向が異なる可能性が低いことが予想されるため、学部数が 1 のグループを単独に設ける。
- 回答傾向の比較検討を行う際には、分類したグループのサイズがある程度近いことが望ましい。
- 分類したグループ数が多い場合には、各グループまたはグループ間の回答傾向の解釈が難しくなることが予想されるため、グループ数はあまり多くしない。

定義 3.1 (学部規模) 本報告書では、学部数の規模を略して「学部規模」と呼ぶことにする。学部規模別の議論を行うときには、原則として、1 学部、2 学部、3・4 学部、5 学部以上、の 4 カテゴリにより行う。

表 3.2 の大学数を設置形態の 3 カテゴリ（国立大学、公立大学、私立大学）と上述した学部規模による 4 カテゴリとで分けたものを表 3.3 に示す。2 列目から 6 列目までの各セルは大学数、7 列目から 11 列目までの各セルは有効回答の得られた 615 大学に対する相対度数をパーセント表示したものである。2～5 列目および 7～10 列目の表頭の「1」「2」「3・4」「5+」は、それぞれ「1 学部」「2 学部」「3・4 学部」「5 学部以上」を表す（以下でも同様の表記を用いることとする）。

表 3.3: 有効回答が得られた大学数の分布（設置形態 × 学部規模）

	度数（大学数）					割合 (%)				
	1	2	3・4	5+	合計	1	2	3・4	5+	合計
国立	22	6	12	36	76	3.6	1.0	2.0	5.9	12.4
公立	33	20	19	8	80	5.4	3.3	3.1	1.3	13.0
私立	124	102	127	106	459	20.2	16.6	20.7	17.2	74.6
合計	179	128	158	150	615	29.1	20.8	25.7	24.4	100.0

3.2.2 入試関連の学内組織

QA-2. 貴大学にはどのような入試関連の組織がありますか。該当するものをすべて選択してください。（複数選択可）

1. 全学の委員会
2. 部局の委員会（学部・学科等に設置された入試委員会等）
3. アドミッション・オフィス等（アドミッション・オフィス，アドミッション・センター，入学センター等）
4. 事務部局（入試課等）
5. 機関研究や教学マネジメントを行う組織（IR^{※1}部門やEM^{※2}部門等）の入試担当部署

※1：インスティテューショナル・リサーチ

※2：エンロールメント・マネジメント

QA-2 に対する回答の集計結果を表 3.4 に示す。表 3.4 には、各選択枝を選んだ大学数とともに、有効回答が得られた大学数 615 に対する相対頻度のパーセント表示もまとめている。1 列目に示した選択枝は、一部を略記している（以下でも同様の表記を用いることがある）。「全学の委員会」や「事務部局」を擁している大学は全体の 90 % 弱、「部局の委員会」や「アドミッション・オフィス等」を擁している大学は全体の 40 % 強、「IR/EM 部門等」の入試担当部署を擁している大学は全体の 10 % 程度であった。

表 3.4: 入試関連の学内組織のある大学数と割合（全体）

選択枝	大学数	割合 (%)
1. 全学の委員会	534	86.8
2. 部局の委員会	268	43.6
3. アドミッション・オフィス等	267	43.4
4. 事務部局	523	85.0
5. IR/EM 部門等の入試担当部署	64	10.4

次に、表 3.5 に表 3.4 の大学数を設置形態の 3 コテグリーに分けて示す。2 列目から 4 列目までの各セルは大学数、5 列目から 7 列目までの各セルは有効回答の得られた設置形態ごとの大学数に対する相対度数をパーセント表示したものである。表 3.3 より、有効回答の得られた国立、公立、私立の各大学数は、76、80、459 であるため、例えば、表 3.5 の「1. 全学の委員会」を選んだ各設置形態の相対頻度は、 $70/76 \approx 0.921$ 、 $72/80 = 0.9$ 、 $392/459 \approx 0.854$ である。これらをパーセント表示したものを表 3.5 の 5～7 列目に示している。選択枝 2～5 についても同様である。

表 3.5 から次のようなことが読み取れる。選択枝 1「全学の委員会」のある大学の割合は、85.4～92.1 % である。表 3.4 では 5 つの選択枝の中でこれが最多であったが、設置形態別に見ると、すべての設置形態で最多とはなっていない。公立大学と私立大学では最多である（それぞれ 90.0 % と 85.4 %）が、国立大学で最も多いのは「事務部局」（97.4 %）である。選択枝 2「部局の委員会」のある大学の割合は、設置形態により開きがある。国立大学では 75 % にあり、次に多いのは公立

大学の45.0%，そして私立大学の38.1%であり，国立と私立で40%近く異なっている。選択枝3「アドミッション・オフィス等」のある大学の割合は，設置形態によりさらに開きがある。国立大学では76.3%，次いで私立大学の41.2%，そして公立大学の25.0%である。国立と公立で3倍程度異なっている。選択枝4「事務部局」のある大学の割合は，国立大学の97.4%が最多であり，これに私立大学の84.7%，公立大学の75.0%が続く。全体で見ると，「事務部局」と「全学の委員会」のある大学の割合はほぼ同じであったが，設置形態別に見ると，「事務部局」と「全学の委員会」の割合の範囲（＝最大値－最小値）はそれぞれ22.4%，6.7%であり，この観点からは「事務部局」のほうがばらつきが大きい。選択枝5「IR/EM 部門等の入試担当部署」のある大学の割合は，国公私立それぞれで10%前後であり，設置形態による違いは見られるものの，大差はないといっ

表 3.5: 入試関連の学内組織のある大学数と割合（設置形態別）

選択枝	大学数			割合 (%)		
	国立	公立	私立	国立	公立	私立
1. 全学の委員会	70	72	392	92.1	90.0	85.4
2. 部局の委員会	57	36	175	75.0	45.0	38.1
3. アドミッション・オフィス等	58	20	189	76.3	25.0	41.2
4. 事務部局	74	60	389	97.4	75.0	84.7
5. IR/EM 部門等の入試担当部署	9	5	50	11.8	6.2	10.9

表 3.6 には，表 3.4 の大学数を学部規模の4カテゴリーに分けて示す。2列目から5列目までの各セルは大学数，6列目から9列目までの各セルは有効回答の得られた学部規模ごとの大学数に対する相対度数をパーセント表示したものである。有効回答の得られた1学部，2学部，3・4学部，5学部以上の各大学数は，表 3.3 より，179，128，158，150であるため，例えば，表 3.6 の「1. 全学の委員会」を選んだ1学部の大学数の相対頻度は， $147/179 \approx 0.821$ である。2学部，3・4学部，5学部以上の大学数の相対頻度，さらには，選択枝2～5についても同様な計算を行い，表 3.6 の5～7列目にパーセント表示をした割合をまとめている。

表 3.6: 入試関連の学内組織のある大学数と割合（学部規模別）

選択枝	大学数				割合 (%)			
	1	2	3・4	5+	1	2	3・4	5+
1. 全学の委員会	147	103	142	142	82.1	80.5	89.9	94.7
2. 部局の委員会	48	53	64	103	26.8	41.4	40.5	68.7
3. アドミッション・オフィス等	57	46	64	100	31.8	35.9	40.5	66.7
4. 事務部局	140	107	139	137	78.2	83.6	88.0	91.3
5. IR/EM 部門等の入試担当部署	18	11	18	17	10.1	8.6	11.4	11.3

表 3.6 から次のようなことが読み取れる。選択枝1「全学の委員会」から選択枝4「事務部局」までは，学部数が増えると，各選択枝に示した学内組織を擁している大学の割合も概ね増えているといっ

弱あり、学部数が1の大学と学部数が5以上で40％程度の差がある。選択枝5の「IR/EM 部門等の入試担当部署」に関しては、4つのカテゴリーとも10％前後であり、カテゴリー間で大差はないとみなしてよいであろう。

QA-2の回答パターン

表3.5では、設置形態別の入試関連の学内組織のある大学数と割合を示した。このうち、「4. 事務部局」があると回答した大学は、国立大学が97.4％、公立大学が75.0％、私立大学が84.7％であり、いずれの設置形態においても100％ではなかった。入試関連の学内組織として「4. 事務部局」を回答していない大学では、どのような学内組織が入試の実務を担っているのであろうか。また、さまざまな制約がある中で、各大学の入試はどのような学内組織によって運営されているのであろうか。このような疑問点に答えるため、表3.7にQA-2に関する回答パターンを示す。

表 3.7: QA-2 に関する回答パターン

回答 パターン	1. 全学	2. 部局	3. AO	4. 事務	5. IR/EM	大学数	割合 (%)
1	○			○		178	28.9
2	○	○	○	○		87	14.1
3	○		○	○		78	12.7
4	○	○		○		66	10.7
5		○		○		35	5.7
6	○					27	4.4
7	○		○			22	3.6
8	○	○	○	○	○	22	3.6
9		○	○	○		11	1.8
10	○			○	○	11	1.8
11	○	○		○	○	11	1.8
12		○	○			10	1.6
13	○	○	○			10	1.6
14	○		○	○	○	8	1.3
15			○	○		7	1.1
16	○		○		○	6	1.0
17	○	○				6	1.0
18				○		5	0.8
19			○			5	0.8
20		○				4	0.7
21		○		○	○	4	0.7
22	○	○			○	1	0.2
23	○	○	○		○	1	0.2

表3.7の表頭の「1. 全学」「2. 部局」「3. AO」「4. 事務」「5. IR/EM」は、選択枝1～5を略記したものである。また、1列目は回答パターンの分類番号、2～6列目は選択枝1～5が選択された

どうかを表し、選択された場合は○印、選択されなかった場合は空欄としている。例えば、回答数が最多の回答パターン1は、選択枝1と4が同時に選ばれた回答であり、入試関連の組織として「1. 全学の委員会」と「4. 事務部局（入試課等）」の2つが学内にあることを表す。7列目は大学数、8列目は有効回答の得られた615大学に対する相対度数をパーセント表示したものである。QA-2では、選択枝1～5の学内組織の有無（2通り）を複数選択して回答することを可能としているため、選択可能な回答パターンは全部で $2^5 = 32$ 通りである。しかし、得られた回答パターンは表3.7に示した23パターンであった。回答パターンは大学数の多い順に並べている。

表3.7から次のようなことが読み取れる。「3. アドミッション・オフィス等」「4. 事務部局」「5. IR/EM 部門等」の入試担当部署のいずれか1つ以上のある大学は、全体の94.0%（578大学）を占める。一方、これらのいずれもない大学は、回答パターン6, 17, 20を選択した計37大学であり、全体の6.0%である。後者の大学では、「1. 全学の委員会」（4.4%）、「1. 全学の委員会」と「2. 部局の委員会」（1.0%）、「2. 部局の委員会」（0.7%）を入試関連の組織として挙げている。また、「1. 全学の委員会」「2. 部局の委員会」「3. アドミッション・オフィス等」「4. 事務部局」のそれぞれを単独で入試関連の組織として挙げている大学はあるが、「5. IR/EM 部門等」の入試担当部署を単独で挙げている大学はない。選択枝5を挙げている大学は、いずれも選択枝1～4のうちの1つ以上と一緒に挙げている。

ここで、表3.7で示した回答パターンのうち、いくつについて、設置形態や学部規模の観点から分類し、より詳細な特徴を以下に箇条書きでまとめる。

- 表3.7で最も多いのは、28.9%の大学（178大学/615大学）が選択した回答パターン1である。表3.8は、回答パターン1を設置形態と学部規模で分類したものである。このパターンは公立大学と私立大学で多く見られ、それぞれの割合は、23.8%、33.0%である。また、各設置形態で学部規模別に見ると、それぞれで1学部の大学が最多である。

表 3.8: QA-2 の回答パターン1: 「1. 全学」「4. 事務」

	1 学部	2 学部	3・4 学部	5 学部以上	合計	割合 (%)
国立 (76)	6	1	1	0	8	10.5
公立 (80)	11	3	5	0	19	23.8
私立 (459)	52	35	46	18	151	33.0
合計 (615)	69	39	52	18	178	28.9

- 表3.7で2番目に多いのは、14.1%の大学が選択した回答パターン2である。表3.9は、回答パターン2を設置形態と学部規模で分類したものである。このパターンは国立大学で最多のパターンであり、その割合は48.7%である。また、各設置形態で学部規模別に見ると、それぞれで5学部以上の大学が最多である。

表 3.9: QA-2 の回答パターン2: 「1. 全学」「2. 部局」「3. AO」「4. 事務」

	1 学部	2 学部	3・4 学部	5 学部以上	合計	割合 (%)
国立 (76)	2	1	8	26	37	48.7
公立 (80)	1	1	1	3	6	7.5
私立 (459)	2	4	10	28	44	7.1
合計 (615)	5	6	19	57	87	14.1

- 選択枝 1～5 のすべての学内組織がある（表 3.7 の回答パターン 8）と回答したのは 3.6 %（615 大学中 22 大学）である。表 3.10 は、回答パターン 8 を設置形態と学部規模で分類したものである。このパターンは、設置形態別では、国立大学の 7.9 % が最も多く、これに公立大学の 2.5 %、私立大学の 2.1 % が続く。またこのパターンは、学部規模別に見ると、5 学部以上を擁する大学が 7.3 %（11 大学/150 大学）で最も多く、3・4 学部を擁する大学が 3.8 %（6 大学/158 大学）、2 学部を擁する大学が 1.6 %（2 大学/128 大学）、1 学部を擁する大学が 1.7 %（3 大学/179 大学）である。

表 3.10: QA-2 の回答パターン 8 : 「1. 全学」「2. 部局」「3. AO」「4. 事務」「5. IR/EM」

	1 学部	2 学部	3・4 学部	5 学部以上	合計	割合 (%)
国立 (76)	0	1	0	5	6	7.9
公立 (80)	0	0	1	1	2	2.5
私立 (459)	3	1	5	5	14	3.0
合計 (615)	3	2	6	11	22	3.6

- 学内組織として、選択枝 1「全学の委員会」（表 3.7 の回答パターン 6）のみを選択したのは、4.4 %（27 大学/615 大学）である。回答パターン 6 を設置形態と学部規模で分類すると、表 3.11 が得られる。このパターンは国立大学では見られず、公立大学と私立大学のみで、それぞれ 17.5 %、2.8 % である。また、公立大学と私立大学の 1 学部を擁する大学で多い回答パターンであり、5 学部以上を擁する大学では見られない。

表 3.11: QA-2 の回答パターン 6 : 「1. 全学」

	1 学部	2 学部	3・4 学部	合計	割合 (%)
公立 (80)	8	4	2	14	17.5
私立 (459)	8	1	4	13	2.8
合計 (615)	16	5	6	27	4.4

- 学内組織として、選択枝 2「部局の委員会」（表 3.7 の回答パターン 20）のみを選択したのは、国立と公立で 1 大学ずつ、私立で 2 大学のみで、全体で 1 % にも満たない。また、5 学部以上を擁する大学では見られない。回答パターン 20 を設置形態と学部規模で分類すると、表 3.12 が得られる。

表 3.12: QA-2 の回答パターン 20 : 「2. 部局」

	1 学部	2 学部	3・4 学部	合計	割合 (%)
国立 (76)	0	1	0	1	1.3
公立 (80)	1	0	0	1	1.3
私立 (459)	1	0	1	2	0.0
合計 (615)	2	1	1	4	0.7

- 学内組織として、選択枝3「アドミッション・オフィス等」（表3.7の回答パターン19）のみを選択したのは、国立大学では見られず、公立で1大学、私立で4大学のみで、全体で1%にも満たない。また、3・4学部を擁する大学では見られない。回答パターン19を設置形態と学部規模で分類すると、表3.13が得られる。

表 3.13: QA-2 の回答パターン 19 : 「3. AO」

	1 学部	2 学部	5 学部以上	合計	割合 (%)
公立 (80)	0	1	0	1	1.3
私立 (459)	2	1	1	4	0.9
合計 (615)	2	2	1	5	0.8

- 学内組織として、選択枝4「事務部局」（表3.7の回答パターン18）のみを選択したのは、国立大学では見られず、公立で1大学、私立で4大学のみで、全体で1%にも満たない。回答パターン18を設置形態と学部規模で分類すると、表3.14が得られる。

表 3.14: QA-2 の回答パターン 18 : 「4. 事務」

	1 学部	2 学部	3・4 学部	5 学部以上	合計	割合 (%)
公立 (80)	1	0	0	0	1	1.3
私立 (459)	0	1	2	1	4	0.9
合計 (615)	1	1	2	1	5	0.8

- 学内組織として、選択枝1「全学の委員会」と選択枝2「部局の委員会」（表3.7の回答パターン17）を選択したのは、国立で1大学、公立で2大学、私立で3大学のみで、全体で1.0%である。5学部以上を擁する大学では見られない。回答パターン17を設置形態と学部規模で分類すると、表3.15が得られる。

表 3.15: QA-2 の回答パターン 17 : 「1. 全学」「2. 部局」

	1 学部	2 学部	3・4 学部	合計	割合 (%)
国立 (76)	0	1	0	1	1.3
公立 (80)	2	0	0	2	2.5
私立 (459)	1	1	1	3	0.7
合計 (615)	3	2	1	6	1.0

3.2.3 入試制度改革の影響を受けた程度

QA-3 貴大学の令和3年度大学入学者選抜において、入試制度改革の影響をどの程度受けましたか。次の(a)～(c)それぞれについて、当てはまるものを一つずつ選択してください。

1. 受けていない 2. あまり受けていない 3. やや受けた 4. 受けた

(a) 一般選抜

(b) 総合型選抜

(c) 学校推薦型選抜

QA-3の回答結果の集計では、「(b) 総合型選抜」と「(c) 学校推薦型選抜」を次のように扱っていることに注意が必要である。有効回答が得られた615大学のうち、質問項目QD-1（貴大学の総合型選抜において、大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分はどの程度ありますか）で「6. 総合型選抜を実施していない」を選択しているにも関わらず、本節のQA-3 (b) に回答を入力している大学が94あった。また、質問項目QE-1（貴大学の学校推薦型選抜において、大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分はどの程度ありますか）で「6. 学校推薦型選抜を実施していない」を選択しているにも関わらず、本節のQA-3 (c) に回答を入力している大学が6あった。これらは、回答フォームの仕様上、QA-3では(a), (b), (c)のすべての選抜区分で選択枝1～4のいずれかの回答が必須となっていたため、もし実施していない選抜区分があったとしても、いずれかの選択枝で回答する必要があったためである。総合型選抜や学校推薦型選抜を実施していない大学からQA-3の入力方法に関する問い合わせがあった場合には、QA-3 (b), (c) では「1. 受けていない」を選択してもらいたいことを指示した（2.4.3節、2.4.4節を参照）。このため、本節の集計では、QD-1で「6. 総合型選抜を実施していない」と回答した94大学、QE-1で「6. 学校推薦型選抜を実施していない」と回答した6大学を除外して集計を行う。

QA-3に対する回答の集計結果を図3.2と表3.16に示す。図3.2の縦軸は選択枝の選択率(%), 横軸は選択枝1～4の番号である。また表3.16には、図3.2の3種類の折れ線に対応する各選択枝の選択率と度数(大学数)をまとめるとともに、選択枝番号を得点とみなし、(3.1)式による平均と標準偏差の計算結果もまとめている。表頭の1～4は選択枝番号を表す。なお、図3.2以降および表3.16以降では、QA-3の質問文で出てきた、(a) 一般選抜、(b) 総合型選抜、(c) 学校推薦型選抜を、それぞれ、一般、総合、推薦と略記する。

入試制度改革の影響を「3. やや受けた」「4. 受けた」のいずれかを回答した大学は、表3.16より、3種類の選抜方法それぞれで55.4%, 53.4%, 57.2%と過半数を超え、平均は2.72, 2.89, 2.76であり、何らかの影響を受けている大学の多いことが読み取れる。ただし回答パターンは、図3.2より、2種類に大別される。3種類の選抜方法のうち、一般選抜と学校推薦型選抜は似たような回答パターンを示しており、「1. 受けていない」と回答した大学は11.1%と9.5%, 「2. あまり受けていない」と回答した大学は、33.5%と33.3%であり、4つの選択枝の中では選択枝2が最も多く選ばれている。「3. やや受けた」「4. 受けた」と回答した大学は、選択枝2よりも選択率が低く、それぞれ、28.1%と29.1%, 27.3%と28.1%である。一方、総合型選抜は一般選抜や学校推薦型選抜よりも入試制度改革の影響を受けていない傾向が見られ、「1. 受けていない」「2. あまり受けて

いない」と回答した大学は8.6%と28.0%,「3. やや受けた」「4. 受けた」が29.2%と34.2%である。一般選抜と学校推薦型選抜では「2. あまり受けていない」と回答した大学が最も多いが、総合型選抜では「4. 受けた」が最も多い。また、後者では選択枝番号が大きくなるほど、選択率も高くなる傾向が見られる。

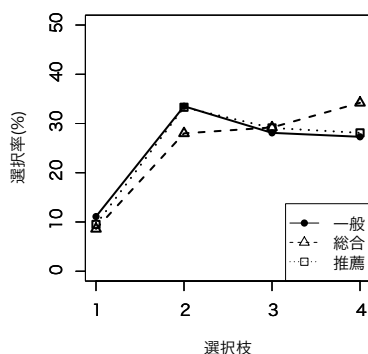
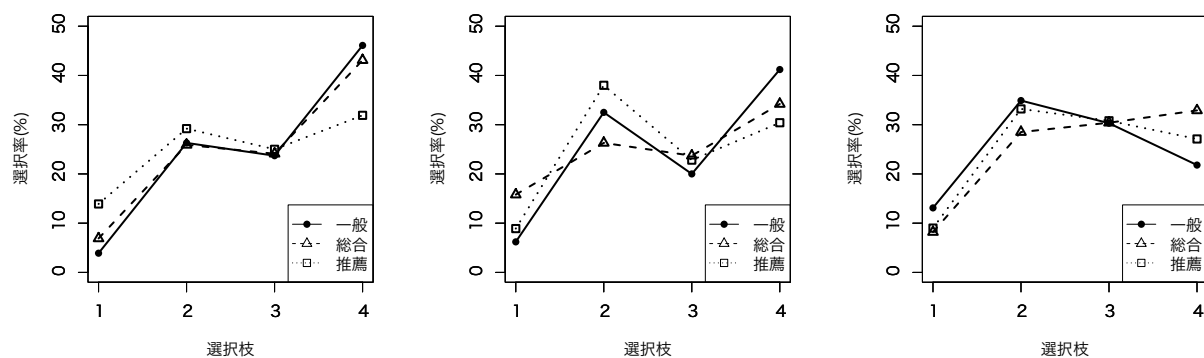


図 3.2: 入試制度改革の影響を受けた程度：全体 (QA-3)

表 3.16: 入試制度改革の影響を受けた程度：全体 (QA-3)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	68	206	173	168	615	11.1	33.5	28.1	27.3	100.0	2.72	0.99
(b) 総合	45	146	152	178	521	8.6	28.0	29.2	34.2	100.0	2.89	0.98
(c) 推薦	58	203	177	171	609	9.5	33.3	29.1	28.1	100.0	2.76	0.97

図 3.3 と表 3.17～表 3.19 に入試制度改革の影響を受けた程度の集計結果を設置形態別にまとめ、それぞれにおいて選抜方法によりどのような違いが見られるかを示す。これらの結果から次のことが読み取れる。図 3.3 (a) と表 3.17 より、国立大学では一般選抜と総合型選抜を実施する大学の半数近く (46.1%と43.1%), および、学校推薦型選抜を実施する大学の31.9%が入試制度改革の影響を「4. 受けた」と回答し、4つの選択枝の中では回答が最も多い。また、一般選抜と学校推薦型選抜は、選択枝1～4の選択率が似たような挙動 (回答パターン) を示している。次に、図 3.3 (b) と表 3.18 より、公立大学では3つの選抜方法間で回答パターンが異なっていることが読み取れる。また、4つの選択枝の中で「4. 受けた」と回答している大学がすべての選抜方法で最も多いこと、および、影響を「4. 受けた」と回答した大学の選抜方法は、選択率の高い方から一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜の順となっていることなどの傾向が見られ、これらは国立大学と同様である。さらに、図 3.3 (c) と表 3.19 より、私立大学では国公立大学とは異なる回答パターンとなっていることが読み取れる。一般選抜と学校推薦型選抜が似たような回答パターンを示している点は、上述したように国立大学でも見られる傾向であるが、影響を「4. 受けた」と回答した大学で最も多い選抜方法は総合型選抜 (32.9%) であり、これに学校推薦型選抜 (27.1%), 一般選抜 (21.8%) が続くというのは国公立大学とは異なる傾向である。



(a) 国立大学

(b) 公立大学

(c) 私立大学

図 3.3: 入試制度改革の影響を受けた程度：設置形態別 (QA-3)

表 3.17: 国立大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-3)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	3	20	18	35	76	3.9	26.3	23.7	46.1	100.0	3.12	0.93
(b) 総合	4	15	14	25	58	6.9	25.9	24.1	43.1	100.0	3.03	0.98
(c) 推薦	10	21	18	23	72	13.9	29.2	25.0	31.9	100.0	2.75	1.05

表 3.18: 公立大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-3)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	5	26	16	33	80	6.2	32.5	20.0	41.2	100.0	2.96	0.99
(b) 総合	6	10	9	13	38	15.8	26.3	23.7	34.2	100.0	2.76	1.09
(c) 推薦	7	30	18	24	79	8.9	38.0	22.8	30.4	100.0	2.75	0.99

表 3.19: 私立大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-3)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	60	160	139	100	459	13.1	34.9	30.3	21.8	100.0	2.61	0.97
(b) 総合	35	121	129	140	425	8.2	28.5	30.4	32.9	100.0	2.88	0.96
(c) 推薦	41	152	141	124	458	9.0	33.2	30.8	27.1	100.0	2.76	0.95

次に、図 3.4 と表 3.20～表 3.23 に入試制度改革の影響を受けた程度の集計結果を学部規模別にまとめ、それぞれにおいて3つの選抜方法でどのような違いが見られるかを示す。図 3.4 (a)～(d) で回答割合のパターンの違いは見られるものの、全体的には3つの選抜方法のうち、総合型選抜が他の2つの選抜方法よりも影響を受けた割合が高い。また、一般選抜では、表 3.20～表 3.23 より、「2. あまり受けていない」の割合が最も高く、学部規模が大きくなるにつれ、平均が上昇している傾向が読み取れる。一般選抜では、1 学部、2 学部、3・4 学部、5 学部以上を擁する大学のそれぞれで平均が 2.60, 2.72, 2.73, 2.84 と単調に増加している。しかし、総合型選抜と学校推薦型選抜では、一般選抜のような増加の傾向は見られず、また回答割合のパターンは様々である。

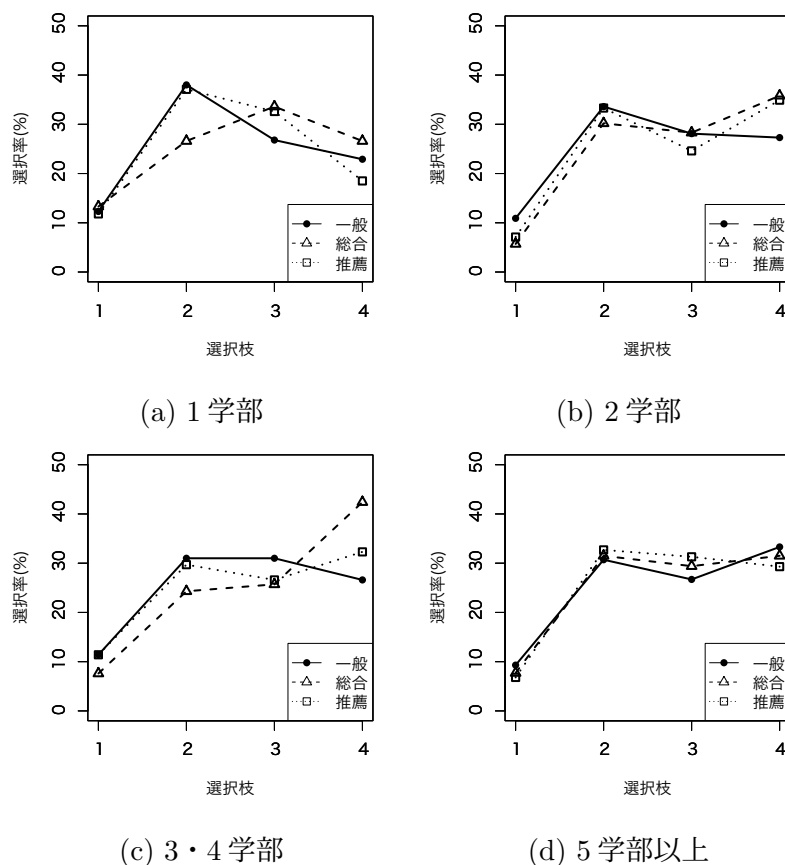


図 3.4: 入試制度改革の影響を受けた程度：学部規模別 (QA-3)

表 3.20: 1 学部を擁する大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-3)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	22	68	48	41	179	12.3	38.0	26.8	22.9	100.0	2.60	0.97
(b) 総合	17	34	43	34	128	13.3	26.6	33.6	26.6	100.0	2.73	1.00
(c) 推薦	21	66	58	33	178	11.8	37.1	32.6	18.5	100.0	2.58	0.92

表 3.21: 2 学部を擁する大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-3)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	14	43	36	35	128	10.9	33.6	28.1	27.3	100.0	2.72	0.98
(b) 総合	6	32	30	38	106	5.7	30.2	28.3	35.8	100.0	2.94	0.94
(c) 推薦	9	42	31	44	126	7.1	33.3	24.6	34.9	100.0	2.87	0.98

表 3.22: 3・4 学部を擁する大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-3)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	18	49	49	42	158	11.4	31.0	31.0	26.6	100.0	2.73	0.98
(b) 総合	11	35	37	61	144	7.6	24.3	25.7	42.4	100.0	3.03	0.99
(c) 推薦	18	47	42	51	158	11.4	29.7	26.6	32.3	100.0	2.80	1.02

表 3.23: 5 学部以上を擁する大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-3)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	14	46	40	50	150	9.3	30.7	26.7	33.3	100.0	2.84	0.99
(b) 総合	11	45	42	45	143	7.7	31.5	29.4	31.5	100.0	2.85	0.96
(c) 推薦	10	48	46	43	147	11.4	29.7	26.6	32.3	100.0	2.83	0.93

続いて、図 3.5 と表 3.24～表 3.26 に入試制度改革の影響を受けた程度の集計結果を選抜方法別にまとめ、それぞれにおいて設置形態によりどのような違いが見られるかを示す。一般選抜では、図 3.5 (a) と表 3.24 より、「4. 受けた」の選択率は国立大学が最も多く、これに公立大学と私立大学が続くことが読み取れる。「3. やや受けた」「4. 受けた」の割合の合計は、国立大学が 69.8%、公立大学が 61.2%、私立大学が 52.1%であり、平均は、それぞれ 3.12, 2.96, 2.61 である。次に総合型選抜は、一般選抜と傾向が異なっている。「3. やや受けた」「4. 受けた」の割合の合計は、表 3.25 より、国立大学が 67.2%、私立大学が 63.3%、公立大学が 57.9%であり、国立大学が最多なのは同じであるが、総合型選抜では私立大学のほうが公立大学よりも選択率が高い。平均は、国立大学が 3.03、私立大学が 2.88、公立大学が 2.76 である。最後に学校推薦型選抜は、一般選抜や総合型選抜と異なる傾向が見られる。「3. やや受けた」「4. 受けた」の割合の合計は、表 3.26 より、国立大学が 56.9%、私立大学が 57.9%、公立大学が 53.2%の順となっており、3つの設置形態で若干の差があるものの、平均は 2.75, 2.76, 2.75 でほぼ同じである。

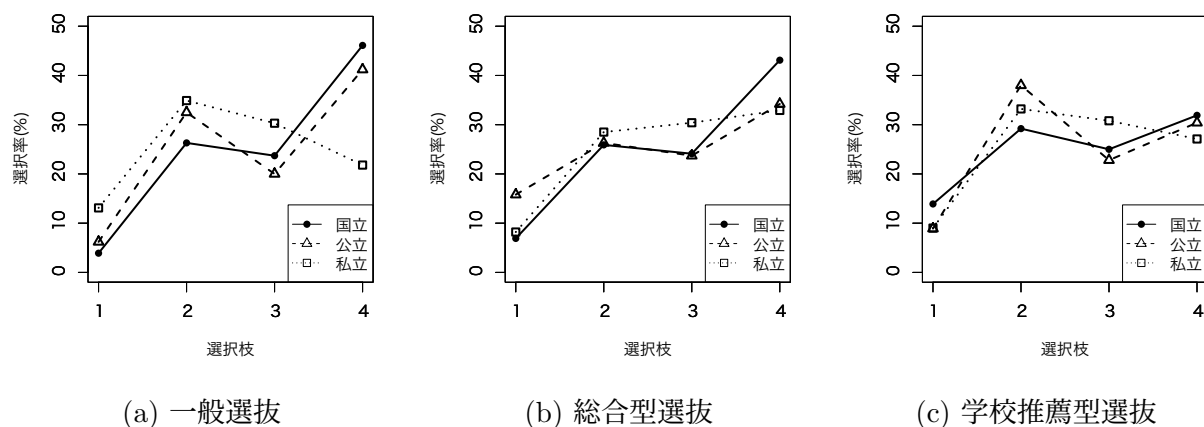


図 3.5: 入試制度改革の影響を受けた程度：選抜方法別 (QA-3)

表 3.24: 選抜方法別の入試制度改革の影響を受けた程度：(a) 一般選抜 (QA-3)

設置形態	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
国立	3	20	18	35	76	3.9	26.3	23.7	46.1	100.0	3.12	0.93
公立	5	26	16	33	80	6.2	32.5	20.0	41.2	100.0	2.96	0.99
私立	60	160	139	100	459	13.1	34.9	30.3	21.8	100.0	2.61	0.97

表 3.25: 選抜方法別の入試制度改革の影響を受けた程度：(b) 総合型選抜 (QA-3)

設置形態	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
国立	4	15	14	25	58	6.9	25.9	24.1	43.1	100.0	3.03	0.98
公立	6	10	9	13	38	15.8	26.3	23.7	34.2	100.0	2.76	1.09
私立	35	121	129	140	425	8.2	28.5	30.4	32.9	100.0	2.88	0.96

表 3.26: 選抜方法別の入試制度改革の影響を受けた程度：(c) 学校推薦型選抜 (QA-3)

設置形態	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
国立	10	21	18	23	72	13.9	29.2	25.0	31.9	100.0	2.75	1.05
公立	7	30	18	24	79	8.9	38.0	22.8	30.4	100.0	2.75	0.99
私立	41	152	141	124	458	9.0	33.2	30.8	27.1	100.0	2.76	0.95

最後に、図 3.6 と表 3.27～表 3.29 に入試制度改革の影響を受けた程度の集計結果を選抜方法別にまとめ、それぞれにおいて学部規模によりどのような違いが見られるかを示す。一般選抜では、表 3.27 より、学部数が増えるにつれ、平均が増加する傾向が見られる。1 学部、2 学部、3・4 学部、5 学部以上を擁する大学で、それぞれ 2.60、2.72、2.73、2.77 となっている。しかし、総合型

選抜と学校推薦型選抜では、表 3.28 と表 3.29 より、1 学部を擁する大学の回答割合が最も少ないのは一般選抜と同様であるが、学部数が増えても必ずしも平均が増加する傾向は見られない。

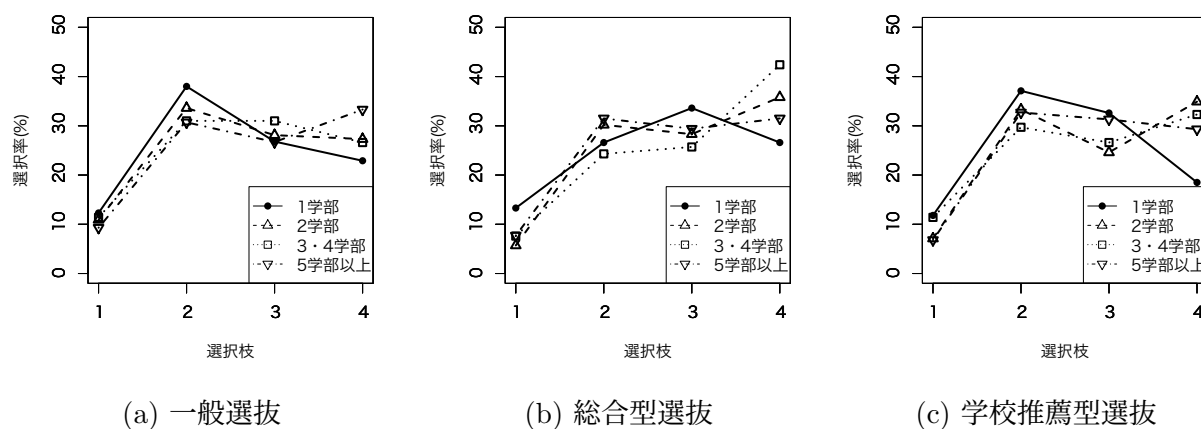


図 3.6: 入試制度改革の影響を受けた程度：学部規模別 (QA-3)

表 3.27: 選抜方法別の入試制度改革の影響を受けた程度：(a) 一般選抜 (QA-3)

学部数	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
1	22	68	48	41	179	12.3	38.0	26.8	22.9	100.0	2.60	0.97
2	14	43	36	35	128	10.9	33.6	28.1	27.3	100.0	2.72	0.98
3・4	18	49	49	42	158	11.4	31.0	31.0	26.6	100.0	2.73	0.98
5+	14	46	40	50	150	9.3	30.7	26.7	33.3	100.0	2.77	0.98

表 3.28: 選抜方法別の入試制度改革の影響を受けた程度：(b) 総合型選抜 (QA-3)

学部数	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
1	17	34	43	34	128	13.3	26.6	33.6	26.6	100.0	2.73	1.00
2	6	32	30	38	106	5.7	30.2	28.3	35.8	100.0	2.94	0.94
3・4	11	35	37	61	144	7.6	24.3	25.7	42.4	100.0	3.03	0.99
5+	11	45	42	45	143	7.7	31.5	29.4	31.5	100.0	2.96	0.97

表 3.29: 選抜方法別の入試制度改革の影響を受けた程度：(c) 学校推薦型選抜 (QA-3)

学部数	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
1	21	66	58	33	178	11.8	37.1	32.6	18.5	100.0	2.58	0.92
2	9	42	31	44	126	7.1	33.3	24.6	34.9	100.0	2.87	0.98
3・4	18	47	42	51	158	11.4	29.7	26.6	32.3	100.0	2.80	1.02
5+	10	48	46	43	147	6.8	32.7	31.3	29.3	100.0	2.89	0.94

3.2.4 COVID-19 の影響を受けた程度

QA-4 貴大学の令和3年度大学入学者選抜において、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の影響をどの程度受けましたか。次の(a)～(c)それぞれについて、当てはまるものを一つずつ選択してください。

1. 受けていない 2. あまり受けていない 3. やや受けた 4. 受けた

(a) 一般選抜

(b) 総合型選抜

(c) 学校推薦型選抜

3.2.3 節と同様に、本節では QD-1 で「6. 総合型選抜を実施していない」と回答した 94 大学、QE-1 で「6. 学校推薦型選抜を実施していない」と回答した 6 大学を除外して集計を行う。

QA-4 に対する回答の集計結果を図 3.7 と表 3.30 に示す。図 3.7 の縦軸は選択枝の選択率(%), 横軸は選択枝 1～4 の番号である。また表 3.30 には、図 3.7 の 3 種類の折れ線に対応する各選択枝の選択率と度数(大学数), および、選択枝番号を得点とみなしたときの(3.1)式による平均と標準偏差の計算結果をまとめている。表頭の 1～4 は選択枝番号を表す。なお、図 3.7 以降および表 3.30 以降においても、QA-4 の質問文で出てきた、(a) 一般選抜、(b) 総合型選抜、(c) 学校推薦型選抜を、それぞれ、一般、総合、推薦と略記する。

新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」と略記する）の影響を「3. やや受けた」「4. 受けた」のいずれかを回答した大学は、表 3.30 より、3 種類の選抜方法で 77.7%, 76.5%, 73.8%, 平均は 3.19, 3.12, 3.11 であり、多くの大学で何らかの影響を受けたことが読み取れる。また、図 3.7 より、3 種類の選抜方法で回答パターンと選択率はほぼ同じとなっており、選択枝番号が大きくなるほど、選択率が増加する傾向が見られる。

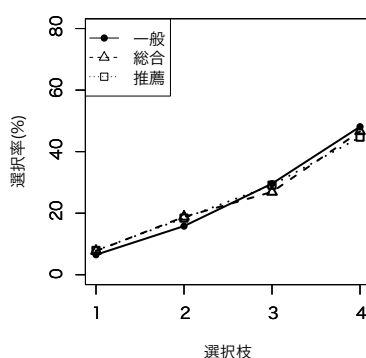


図 3.7: COVID-19 の影響を受けた程度：全体 (QA-4)

表 3.30: COVID-19 の影響を受けた程度：全体 (QA-4)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	40	97	182	296	615	6.5	15.8	29.6	48.1	100.0	3.19	0.93
(b) 総合	40	98	140	243	521	7.7	18.8	26.9	46.6	100.0	3.12	0.97
(c) 推薦	48	112	177	272	609	7.9	18.4	29.1	44.7	100.0	3.11	0.97

図 3.8 と表 3.31～表 3.33 に新型コロナの影響を受けた程度の集計結果を設置形態別にまとめ、それぞれにおいて選抜方法によりどのような違いが見られるかを示す。これらの結果から次のことが読み取れる。国立大学と私立大学では、3つの選抜方法で選択率が同じような動きをしており、選択枝番号が大きくなるにつれ、選択率が大きくなっている。ただし、両者の回答パターンは異なっている。図 3.8 (c) と表 3.33 より、私立大学では、選択枝 1 と 2 の選択率の差、2 と 3 の選択率の差、3 と 4 の選択率の差がおおむね 10%程度と一定であり、「3. やや受けた」「4. 受けた」の割合の合計は、一般選抜が 74.7%，総合型選抜が 72.2%，学校推薦型選抜が 71.2%である。一方、国立大学では、図 3.8 (a) と表 3.31 より、選択枝 1 と 2 の選択率の差、2 と 3 の選択率の差はいずれも 10%未満であるが、選択枝 3 と 4 の選択率の差は 59.2%，58.6%，52.7%であり、「4. 受けた」の割合が突出している。また、「3. やや受けた」「4. 受けた」の割合の合計は、一般選抜が 88.2%，総合型選抜が 86.2%，学校推薦型選抜が 86.1%であり、いずれの選抜方法でも国立大学のほうが私立大学よりも大きい。平均で見ても、私立大学が 3.02～3.09 であるのに対し、国立大学は 3.51～3.59 であり、それぞれの選抜方法で 0.45～0.50 程度大きくくなっている。他方、公立大学では、国立大学と私立大学とは異なる回答パターンが見られる。図 3.8 (b) と表 3.32 より、一般選抜と学校推薦型選抜は、選択率が同じような動きをしており、選択枝番号が大きくなると選択率も増加している。また、「3. やや受けた」「4. 受けた」の割合の合計は、一般選抜が 85.0%，学校推薦型選抜が 77.2%である。ところが総合型選抜では、選択枝 1, 2, 3 の選択率はいずれも 15.8%，選択枝 4 の選択率が 52.6%と突出しており、「3. やや受けた」「4. 受けた」の割合の合計は 68.4%である。3つの選抜方法のうち、学校推薦型選抜における「3. やや受けた」「4. 受けた」の割合の合計が最少であることは国立大学と私立大学と同じで傾向であるが、3つの選抜方法で「3. やや受けた」「4. 受けた」の割合の合計についての範囲（＝最大値－最小値）が国立大学や私立大学よりも大きい。表 3.31～表 3.33 の 3つの選抜方法のそれぞれにおいて、「3. やや受けた」「4. 受けた」の割合の合計は、国立大学ではいずれも 80%台で範囲は $88.2 - 86.1 = 2.1$ (%), 私立大学ではいずれも 70%台で範囲は $74.7 - 71.2 = 3.5$ (%) である。ところが公立大学では、一般選抜が 85.0%，総合型選抜が 68.4%，学校推薦型選抜が 77.2%であるので、範囲は $85.0 - 68.4 = 16.6$ (%) であり、国立大学や私立大学よりも選抜方法による差異が大きいのが特徴的である。

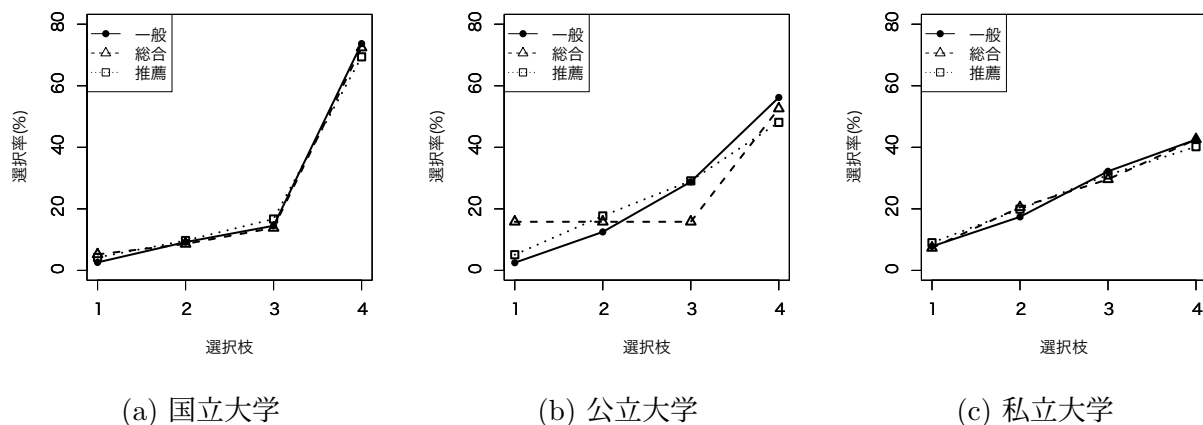


図 3.8: COVID-19 の影響を受けた程度：設置形態別 (QA-4)

表 3.31: 国立大学で COVID-19 の影響を受けた程度 (QA-4)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	2	7	11	56	76	2.6	9.2	14.5	73.7	100.0	3.59	0.76
(b) 総合	3	5	8	42	58	5.2	8.6	13.8	72.4	100.0	3.53	0.86
(c) 推薦	3	7	12	50	72	4.2	9.7	16.7	69.4	100.0	3.51	0.83

表 3.32: 公立大学で COVID-19 の影響を受けた程度 (QA-4)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	2	10	23	45	80	2.5	12.5	28.8	56.2	100.0	3.39	0.80
(b) 総合	6	6	6	20	38	15.8	15.8	15.8	52.6	100.0	3.05	1.15
(c) 推薦	4	14	23	38	79	5.1	17.7	29.1	48.1	100.0	3.20	0.91

表 3.33: 私立大学で COVID-19 の影響を受けた程度 (QA-4)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	36	80	148	195	459	7.8	17.4	32.2	42.5	100.0	3.09	0.95
(b) 総合	31	87	126	181	425	7.3	20.5	29.6	42.6	100.0	3.08	0.96
(c) 推薦	41	91	142	184	458	9.0	19.9	31.0	40.2	100.0	3.02	0.98

次に、図 3.9 と表 3.34～表 3.37 に COVID-19 の影響を受けた程度の集計結果を学部規模別にまとめ、それぞれにおいて 3 つの選抜方法でどのような違いが見られるかを示す。図 3.9 (a)～(d) で回答割合のパターンの違いは見られるものの、いずれの学部規模においても、3 つの選抜方法で選択枝 1～4 の選択率がほぼ同じような動きをしていることが読み取れる。

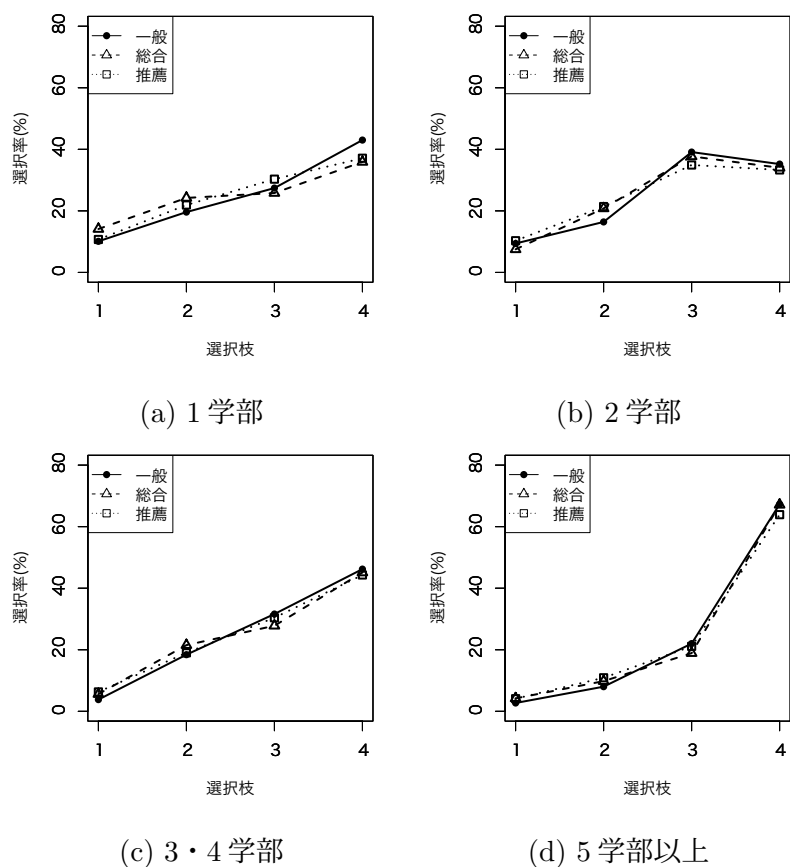


図 3.9: COVID-19 の影響を受けた程度：学部規模別 (QA-4)

表 3.34: 1 学部を擁する大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-4)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	18	35	49	77	179	10.1	19.6	27.4	43.0	100.0	3.03	1.01
(b) 総合	18	31	33	46	128	14.1	24.2	25.8	35.9	100.0	2.84	1.07
(c) 推薦	19	39	54	66	178	10.7	21.9	30.3	37.1	100.0	2.94	1.01

表 3.35: 2 学部を擁する大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-4)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	12	21	50	45	128	9.4	16.4	39.1	35.2	100.0	3.00	0.94
(b) 総合	8	22	40	36	106	7.5	20.8	37.7	34.0	100.0	2.98	0.92
(c) 推薦	13	27	44	42	126	10.3	21.4	34.9	33.3	100.0	2.91	0.98

表 3.36: 3・4 学部を擁する大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-4)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	6	29	50	73	158	3.8	18.4	31.6	46.2	100.0	3.20	0.87
(b) 総合	8	31	40	65	144	5.6	21.5	27.8	45.1	100.0	3.12	0.93
(c) 推薦	10	30	48	70	158	6.3	19.0	30.4	44.3	100.0	3.13	0.93

表 3.37: 5 学部以上を擁する大学で入試制度改革の影響を受けた程度 (QA-4)

	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
(a) 一般	4	12	33	101	150	2.7	8.0	22.0	67.3	100.0	3.54	0.75
(b) 総合	6	14	27	96	143	4.2	9.8	18.9	67.1	100.0	3.49	0.84
(c) 推薦	6	16	31	94	147	6.3	19.0	30.4	44.3	100.0	3.45	0.84

続いて、図 3.10 と表 3.38～表 3.40 に COVID-19 の影響を受けた程度の集計結果を選抜方法別にまとめ、それぞれにおいて設置形態によりどのような違いが見られるかを示す。図 3.10 (a)～(c) では、いずれも「4. 受けた」の回答割合が最も多いのは国立大学であり、「1. 受けていない」「2. あまり受けていない」「3. やや受けた」のそれぞれで回答割合が最も低いのも国立大学である。また、表 3.38～表 3.40 のそれぞれにおいて、国立大学の平均は 3.59, 3.53, 3.51 となっており、公立大学の 3.39, 3.05, 3.20, 私立大学の 3.09, 3.08, 3.02 と比較して、国立大学は COVID-19 の影響を「4. 受けた」と回答した大学の多いことが分かる。

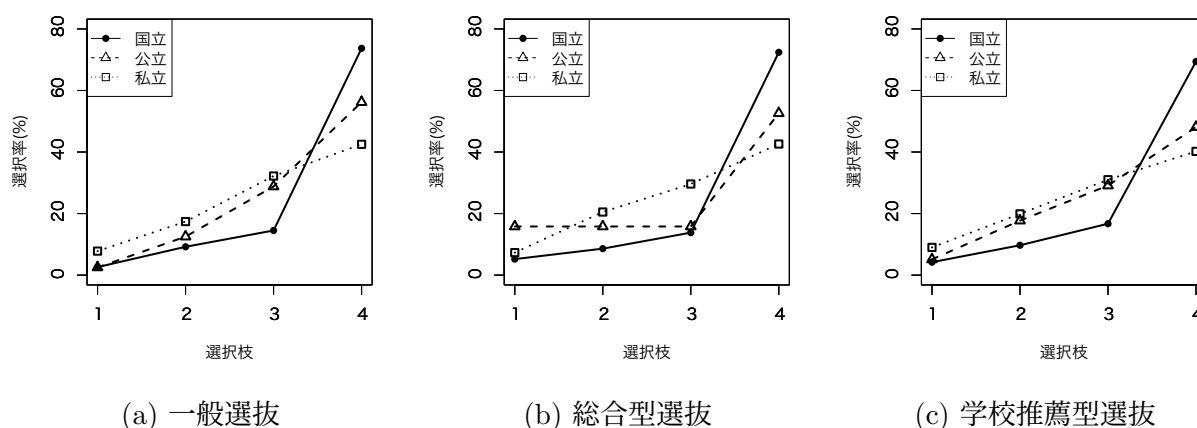


図 3.10: COVID-19 の影響を受けた程度：選抜方法別 (QA-4)

表 3.38: 選抜方法別の COVID-19 の影響を受けた程度：(a) 一般選抜 (QA-4)

設置形態	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
国立	2	7	11	56	76	2.6	9.2	14.5	73.7	100.0	3.59	0.76
公立	2	10	23	45	80	2.5	12.5	28.8	56.2	100.0	3.39	0.80
私立	36	80	148	195	459	7.8	17.4	32.2	42.5	100.0	3.09	0.95

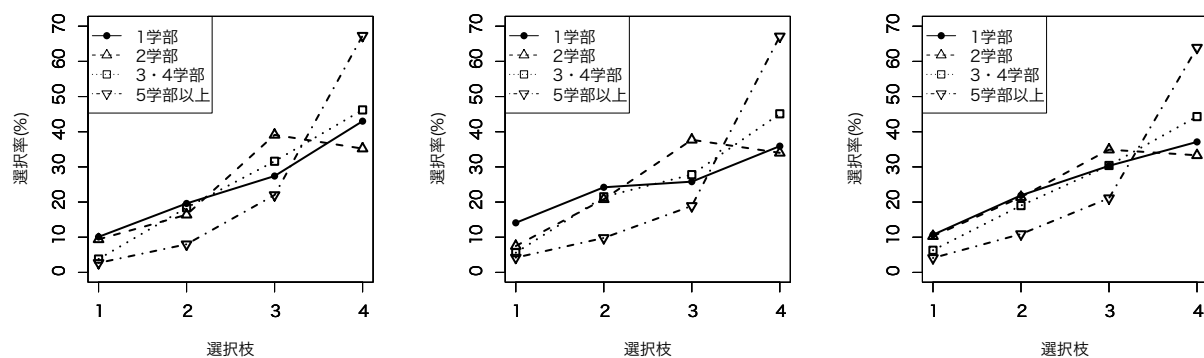
表 3.39: 設置形態別の COVID-19 の影響を受けた程度：(b) 総合型選抜 (QA-4)

設置形態	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
国立	3	5	8	42	58	5.2	8.6	13.8	72.4	100.0	3.53	0.86
公立	6	6	6	20	38	15.8	15.8	15.8	52.6	100.0	3.05	1.15
私立	31	87	126	181	425	7.3	20.5	29.6	42.6	100.0	3.08	0.96

表 3.40: 選抜方法別の COVID-19 の影響を受けた程度：(c) 学校推薦型選抜 (QA-4)

設置形態	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
国立	3	7	12	50	72	4.2	9.7	16.7	69.4	100.0	3.51	0.83
公立	4	14	23	38	79	5.1	17.7	29.1	48.1	100.0	3.20	0.91
私立	41	91	142	184	458	9.0	19.9	31.0	40.2	100.0	3.02	0.98

最後に、図 3.11 と表 3.41～表 3.43 に COVID-19 の影響を受けた程度の集計結果を選抜方法別にまとめ、それぞれにおいて学部規模によりどのような違いが見られるかを示す。3つの選抜方法で、似たような回答パターンが得られている。例えば図 3.11 に着目すると、1学部および3・4学部を擁する大学では、選択枝番号が大きくなるにつれて回答割合が大きくなっていること、2学部を擁する大学では、これとは若干異なり選択枝3の回答割合が最も大きいこと、5学部以上を擁する大学では、4学部以下を擁する大学と比較して、選択枝1～3の回答割合は最も低く、選択枝4の回答割合は最も大きいこと、などの特徴が見られる。



(a) 一般選抜

(b) 総合型選抜

(c) 学校推薦型選抜

図 3.11: COVID-19 の影響を受けた程度：選抜方法別 (QA-4)

表 3.41: 選抜方法別の COVID-19 の影響を受けた程度：(a) 一般選抜 (QA-4)

学部規模	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
1	18	35	49	77	179	10.1	19.6	27.4	43.0	100.0	3.03	1.01
2	12	21	50	45	128	9.4	16.4	39.1	35.2	100.0	3.00	0.94
3・4	6	29	50	73	158	3.8	18.4	31.6	46.2	100.0	3.20	0.87
5+	4	12	33	101	150	2.7	8.0	22.0	67.3	100.0	3.43	0.80

表 3.42: 選抜方法別の COVID-19 の影響を受けた程度：(b) 総合型選抜 (QA-4)

学部規模	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
1	18	31	33	46	128	14.1	24.2	25.8	35.9	100.0	2.84	1.07
2	8	22	40	36	106	7.5	20.8	37.7	34.0	100.0	2.98	0.92
3・4	8	31	40	65	144	5.6	21.5	27.8	45.1	100.0	3.12	0.93
5+	6	14	27	96	143	4.2	9.8	18.9	67.1	100.0	3.35	0.89

表 3.43: 選抜方法別の COVID-19 の影響を受けた程度：(c) 学校推薦型選抜 (QA-4)

学部規模	大学数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	合計	1	2	3	4	合計		
1	19	39	54	66	178	10.7	21.9	30.3	37.1	100.0	2.94	1.01
2	13	27	44	42	126	10.3	21.4	34.9	33.3	100.0	2.91	0.98
3・4	10	30	48	70	158	6.3	19.0	30.4	44.3	100.0	3.13	0.93
5+	6	16	31	94	147	4.1	10.9	21.1	63.9	100.0	3.34	0.88

3.3 大学入学共通テストの利用について

椎名久美子

本節では、実態調査のセクションB「大学入学共通テストの利用について」の回答データの分析を行う。

表3.44にセクションBの質問項目の構成の概要を示す。QB-1は、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜のそれぞれにおいて、共通テストを課している選抜区分（選抜日程）があるかどうかを問う質問である。QB-2～QB-5は一般選抜、QB-6～QB-9は総合型選抜、QB-10～QB-13は学校推薦型選抜に関する質問である。共通テストの利用方法に関する質問項目は、一般選抜（QB-2）と総合型選抜および学校推薦型選抜（QB-6およびQB-10）とで選択枝が異なる。共通テストを利用する利点（QB-3、QB-7、QB-11）、共通テストの日程、難易度、識別力等（QB-4、QB-8、QB-12）、共通テストが選抜に役立ったか（QB-5、QB-9、QB-13）に関する質問項目は、3つの選抜に共通しており、段階評定または自由記述で回答する。

表 3.44: セクション B の質問項目の構成

	質問対象となる入試区分			質問内容	回答形式
	一般	総合型	学校推薦型		
質問項目番号	QB-1			共通テストを課している入試区分	選択枝（複数選択可）
	QB-2	QB-6	QB-10	共通テストの利用方法	選択枝（複数選択可）
	QB-3	QB-7	QB-11	共通テストを利用する利点 ● 6項目について当てはまる程度 ● その他の利点	4段階評定 自由記述
	QB-4	QB-8	QB-12	日程や難易度等について ● 5項目について当てはまる程度 ● 段階表示得点の利用	4段階または5段階評定 利用の有無および自由記述
	QB-5	QB-9	QB-13	共通テストが選抜に役立ったか	4段階評定

3.3.1 大学入学共通テストを課している入試区分について

QB-1. 次のうち、貴大学の入学者選抜において、大学入学共通テストを課している入試方法をすべて選択してください。該当する選抜区分が一つでもある場合は選択してください。（複数選択可）

1. 一般選抜 2. 総合型選抜 3. 学校推薦型選抜

QB-1では、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜のそれぞれの入試区分¹に関して、共通テストを課している選抜区分（選抜日程）の有無を尋ねている。複数の学部や複数の選抜日程がある場合は、1つでも共通テストを課していれば「ある」として回答することになる。

¹質問文では選抜区分との混同を避けるために「入試方法」という語を用いた。

表 3.45 に QB-1 の設置形態別の集計結果を示す。表 3.46 に QB-1 の学部規模別の集計結果を示す。それぞれの表において、「共通テストを課している大学数」は、QB-1 において「1. 一般選抜」「2. 総合型選抜」「3. 学校推薦型選抜」を選択した大学数である。調査対象が共通テスト利用大学であり、少なくとも一般選抜では共通テストを課しているため、「1. 一般選抜」を選択した大学数は、有効データの数と一致する。総合型選抜の「実施大学数」は、有効データから、QD-1 で「6. 総合型選抜を実施していない」と回答した大学を除いた数である。同様に、学校推薦型選抜の「実施大学数」は、有効データから、QE-1 で「6. 学校推薦型選抜を実施していない」と回答した大学を除いた数である。総合型選抜および学校推薦型選抜の「利用率」は、それぞれの入試区分の実施大学のうち、共通テストを課している選抜区分がある大学の割合である。

表 3.45: 共通テストを課している入試区分 (QB-1: 設置形態別)

		設置形態		
		国立	公立	私立
一般	共通テストを課している大学数	76	80	459
総合型	実施大学数	58	38	425
	共通テストを課している大学数	39	8	11
	利用率 (%)	67.2	21.1	2.6
学校推薦型	実施大学数	72	79	458
	共通テストを課している大学数	56	31	8
	利用率 (%)	77.8	39.2	1.7

表 3.46: 共通テストを課している入試区分 (QB-1: 学部規模別)

		学部規模			
		1 学部	2 学部	3・4 学部	5 学部以上
一般	共通テストを課している大学数	179	128	158	150
総合型	実施大学数	128	106	144	143
	共通テストを課している大学数	4	4	12	38
	利用率 (%)	3.1	3.8	8.3	26.6
学校推薦型	実施大学数	178	126	158	147
	共通テストを課している大学数	23	11	18	43
	利用率 (%)	12.9	8.7	11.4	29.3

一般選抜に比べて、総合型選抜や学校推薦型選抜では、共通テストを課している選抜区分がある大学数は少ない。また、共通テストの利用率は、設置形態や学部規模によって大きく異なる。

国立では利用率が比較的高く、総合型選抜で 67.2%、学校推薦型選抜で 77.8% に達する。公立では、総合型選抜より学校推薦型選抜での利用率が高い。総合型選抜よりも学校推薦型選抜で共通テストの利用率が高い点は、国立と公立に共通する傾向である。私立は、一般選抜で共通テストを利用する大学の約 4 分の 3 を占めるが、総合型選抜や学校推薦型選抜で共通テストを利用する大学は数%程度である。

学部規模でみると、総合型選抜でも学校推薦型選抜でも、5 学部以上の大学での利用率が最も高いものの、利用率は 3 割程度である。総合型選抜では、5 学部未満の大学での共通テストの利

用率は1割未満にとどまる。どの学部規模においても、学校推薦型選抜での利用率が総合型選抜での利用率を上回る傾向である。

3.3.2 一般選抜における共通テストの利用について

QB-2. 一般選抜において、貴大学では大学入学共通テストをどのように利用していますか。次のうち、該当するものをすべて選択してください。（複数選択可）

1. 共通テストの得点のみで合否判定を行う
2. 共通テストの得点をもとに、貴大学の個別試験の受験者を決定する（二段階選抜）
3. 共通テストと貴大学の個別試験の得点を総合して合否判定を行う
4. その他（自由記述）

表 3.47 に、QB-2 の設置形態別の集計結果を示す。表 3.48 に、QB-2 の学部規模別の集計結果を示す。選択率は、一般選抜で共通テストを利用している大学のうち、1～4 の選択枝を選んだ大学の割合である。

表 3.47: 一般選抜において共通テストをどのように利用しているか（QB-2: 設置形態別）

	大学数	1		2		3		4	
		度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)
国立	76	3	3.9	35	46.1	71	93.4	5	6.6
公立	80	16	20.0	13	16.3	72	90.0	1	1.3
私立	459	373	81.3	15	3.3	154	33.6	67	14.6
全体	615	392	63.7	63	10.2	297	48.3	73	11.9

表 3.48: 一般選抜において共通テストをどのように利用しているか（QB-2: 学部規模別）

	大学数	1		2		3		4	
		度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)
1 学部	179	92	51.4	10	5.6	82	45.8	23	12.8
2 学部	128	88	68.8	7	5.5	51	39.8	15	11.7
3・4 学部	158	110	69.6	14	8.9	63	39.9	19	12.0
5 学部以上	150	102	68.0	32	21.3	101	67.3	16	10.7
全体	615	392	63.7	63	10.2	297	48.3	73	11.9

一般選抜における共通テストの利用方法は、大学の設置形態でかなり異なっている。「1. 共通テストの得点のみで合否判定を行う」を選択した大学の割合は、私立では81.3%と非常に高いの

に対して、国立では 3.9%と非常に低い²。「2. 二段階選抜」を選択した大学の割合は、国立では 46.1%だが、私立では 3.3%で非常に低い。「3. 共通テストと個別試験の得点を総合して合否判定を行う」を選択した大学の割合は、国立と公立では 90%を超えているが、私立では 33.6%にとどまる。

表 3.49 に、QB-2 で「4. その他」を選択した大学による自由記述の回答を示す。自由記述の回答には、「大学独自の個別試験のみで判定を行う入試もある」などの補足説明的な内容のものもあるが、それらも含めて表 3.49 に原文のまま示す。

「4. その他」の利用方法としては、「共通テストの得点と、書類（調査書、志望理由書等）または面接等を総合して合否判定を行う」という主旨の回答が目立つ。書類を点数化するという回答も見られる。また、共通テスト以外の試験と組み合わせた利用方法として、共通テストの得点と大学独自の試験の得点のどちらかが合格基準を満たせば合格としたり、共通テストの外国語の得点を英語の資格・検定試験の換算点を比較して高得点のほうを用いたり、共通テストの得点と英語外部試験の得点を組み合わせたり、等の回答が見られる。

表 3.49: 一般選抜での共通テストの「4. その他」の利用方法

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
国立	1 学部	共通テストの得点、調査書、志望理由書を総合して合否判定を行う。
国立	1 学部	1（後期試験）、3（前期試験）それぞれに調査書による加点を行い合否判定を行っている。
国立	5 学部以上	志願者が多数であらかじめ設定した予告倍率を超えた場合、共通テストの得点をもとに二段階選抜を実施する。最終的な合否判定は共通テストと本学の個別学力試験の得点を総合して行う。
国立	5 学部以上	医学部医学科：志願倍率によっては、大学入学共通テストの得点をもとに二段階選抜を行う。
国立	5 学部以上	令和 3 年度入試において、教育学部前期日程は COVID-19 の影響により、共通テストと提出書類により合否判定を行った。
公立	1 学部	共通テストの成績、個別学力検査、書類選考により決定している。
私立	1 学部	共通テストの得点【国語および外国語は 100 点満点に換算】とポートフォリオの得点により多面的・総合的に評価
私立	1 学部	大学入学共通テストの得点と面接、提出書類を総合して合否判定を行う。
私立	1 学部	共通テストの得点と出願書類との総合評価で合否判定を行う。
私立	1 学部	共通テストと面接試験及び、書類審査（調査書）の得点を総合して合否判定を行う
私立	1 学部	共通テストの得点と調査書の内容で合否判定を行う
私立	1 学部	共通テストの結果および調査書等を総合して合否判定を行う。
私立	1 学部	共通テストの成績と出願者の提出書類を総合的に判断して合否を判定（個別試験は課していない）。

表 3.49 は次ページに続く

² 令和 3 年度入学者選抜では、COVID-19 の影響で特例的に共通テストの得点のみで合否判定を行った国立大学がある。

表 3.49 前ページからの続き

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
私立	1 学部	共通テストの得点及び調査書を活用し合否判定を行う
私立	1 学部	共通テストの得点と書類審査を併せて総合的に判定を行う
私立	1 学部	共通テストの得点と調査書等の評価を合計して合否判定を行う
私立	1 学部	共通テストの得点と書類審査を総合的に判定
私立	1 学部	出願書類の得点を総合して合否判定を行う
私立	1 学部	提出書類（調査書等）も点数化している。
私立	1 学部	調査書を得点化したものと得点を総合して判定する
私立	1 学部	共通テストの得点と運動競技歴等換算点（保健体育の評定または出場した大会の成績）により合否判定を行う
私立	1 学部	書類 50 点加算
私立	1 学部	共通テストの点数と面接で判定
私立	1 学部	調査書等書類
私立	1 学部	面接
私立	1 学部	選択科目として取り入れている。
私立	2 学部	共通テストの得点と、本学独自試験の得点、どちらかが合格基準を満たしていれば合格
私立	2 学部	大学入学共通テスト利用入試において、大学入学共通テストの成績および出願書類を総合して合否を決定します。
私立	2 学部	調査書を点数化して合否判定に利用。（300 点＋ 20 点）
私立	2 学部	共通テストの得点と書類審査点の合計による総合判定
私立	2 学部	共通テストの得点＋書類の総合判定 または共通テストの得点＋面接＋書類の総合判定
私立	2 学部	共通テストの高得点 1（2）科目の得点に本学一般選抜の得点を合計し合意判定を行う
私立	2 学部	共通テストと学習成績の状況の平均値を点数化し、総合して合否判定を行う。
私立	2 学部	共通テストの得点と面接試験を行う
私立	2 学部	共通テストと調査書などの書類審査結果から総合的に評価する。
私立	2 学部	提出書類（活動報告書、調査書）により高校での学習成果に段階評価を行う
私立	2 学部	書類審査を必須化
私立	2 学部	2022 年度入試から 3 も導入
私立	2 学部	一般選抜の中で個別入試と共通テスト利用入試（単独・個別入試との併願）が可能
私立	2 学部	別途、大学独自の個別試験の得点のみで判定を行う入試あり
私立	2 学部	一般選抜とは別に大学入学共通テスト利用選抜として実行
私立	3・4 学部	基本は「1」。ボーダーラインの受験生については調査書等提出書類で選考を行う

表 3.49 は次ページに続く

表 3.49 前ページからの続き

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
私立	3・4 学部	2 段階選抜とし、第 1 次試験の合否を共通テストの結果にて選抜、第 2 次試験で実施する面接試験の結果と総合して最終合否を判定
私立	3・4 学部	共通テストの得点及び書類選考の評価
私立	3・4 学部	大学入学共通テスト利用選抜において、共通テストの得点と書類審査の得点を総合して合否判定を行う。一般選抜においては、共通テストの得点を使用せず、本学の個別試験のみで合否判定を行う。
私立	3・4 学部	共通テストと調査書（これに音楽学科のみ実技試験）を総合して合否判定を行う
私立	3・4 学部	共通テストの得点と調査書の得点を総合して合否判定を行う
私立	3・4 学部	共通テストの得点と点数化する調査書との総合判定
私立	3・4 学部	共通テストの得点と調査書で合否判定を行う
私立	3・4 学部	共通テストの得点に加え、志願者本人が記載する提出資料等も含めて合否判定を行っている。
私立	3・4 学部	共通テストの得点及び調査書の得点を総合して合否判定を行う
私立	3・4 学部	大学入学共通テストの得点と調査書を総合的に考慮して選考する。
私立	3・4 学部	共通テストと書類選考の得点を総合して合否判定を行う
私立	3・4 学部	共通テストの得点及び調査書等の総合評価で合否判定を行う。
私立	3・4 学部	共通テストの得点と調査書で合否判定を行う
私立	3・4 学部	人間生活学科・食物栄養学科：共通テスト，調査書の結果を総合的に判定 臨床検査学科：共通テスト，調査書，面接の結果を総合的に判定
私立	3・4 学部	得点に加え、調査書、大学入学志望理由・自己推薦書で合否判定を行っている
私立	3・4 学部	大学入学共通テストの成績及び調査書・優遇資格証明書等の提出書類
私立	3・4 学部	本学の個別試験は記述課題です。
私立	3・4 学部	年内実施の学校推薦型合格者の実力把握のため受験させている
私立	5 学部以上	共通テストの得点を基に本学の個別試験の合否判定対象を決定する。
私立	5 学部以上	共通テストの外国語は、英語の資格・検定試験の換算点と比較し、高得点を採用。
私立	5 学部以上	共通テストの英語成績及び英語資格・検定試験のスコアを、本学独自の方法で一般選抜個別試験の英語得点に変換し、他の 2 教科の得点と総合して合否判定を行う。
私立	5 学部以上	共通テストの得点と英語外部試験のスコアを総合して合否判定を行う。
私立	5 学部以上	英語の資格・検定試験の活用を行っており、資格・スコアを共通テストの英語の点数に換算し利用している

表 3.49 は次ページに続く

表 3.49 前ページからの続き

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
私立	5 学部以上	共通テストの得点および調査書（主体性等評価点）で合否を判定する
私立	5 学部以上	共通テストの得点に加え、調査書の学習成績の状況を 2 倍して得点化
私立	5 学部以上	共通テストの得点と書類審査（調査書）の得点を総合して合否判定を行う
私立	5 学部以上	共通テストの得点と、書類審査および、学科により実技試験等により総合判定を行う。
私立	5 学部以上	テストの得点と提出書類から総合的に判断
私立	5 学部以上	出願書類+実績+共通テスト
私立	5 学部以上	共通テストと面接
私立	5 学部以上	本学独自の試験を実施しない、共通テスト利用入試も実施

表 3.49 は以上

QB-3. 一般選抜において、貴大学が大学入学共通テストを利用する利点として次の (a)～(f) の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。また、その他に利点があれば (g) に記入してください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

(a) 試験問題が信頼できる（内容、出題範囲、難易度等）

(b) 各受験生が居住地で受験できる

(c) 試験科目数が多い

(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる

(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される

(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい

(g) その他（自由記述）

図 3.12 と図 3.13 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-3 の各項目 (a)～(f) の 4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値のプロットを示す。

設置形態に関しては、国立と公立で回答傾向が類似しており、「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される」が利点とみなされる傾向だが、「(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい」はそれほど利点とみなされていない。私立では、「(a) 試験問題が信頼できる」「(b) 各受験生が居住地で受験できる」「(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される」が利点とみなされている。「(c) 試験科目数が多い」や「(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる」は、私立より国公立で利点とみなされる傾向である。QB-2 において国公立の 90%以上の大学が、「共通テストと個別試験の得点と総合して合否判定を行う」という選択枝を選んでいること

(表 3.47 参照) を考え合わせると、共通テストと個別試験を柔軟に組み合わせて利用できることが国公立にとってメリットになっていると推察される。「(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい」は、国公立より私立で利点とみなされる傾向である。QB-2 において私立の 81.3% の大学が、「共通テストの得点のみで合否判定を行う」という選択枝を選んでいること (表 3.47) から、私立にとっては、他に試験問題を用意せずに選抜を行えることが国公立よりも利点になっていると思われる

学部規模に関しては、「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される」はどの学部規模でも利点とみなされる傾向である。1 学部の大学では、「(c) 試験科目数が多い」の平均値が相対的に低く、「(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい」の平均値が相対的に高い。

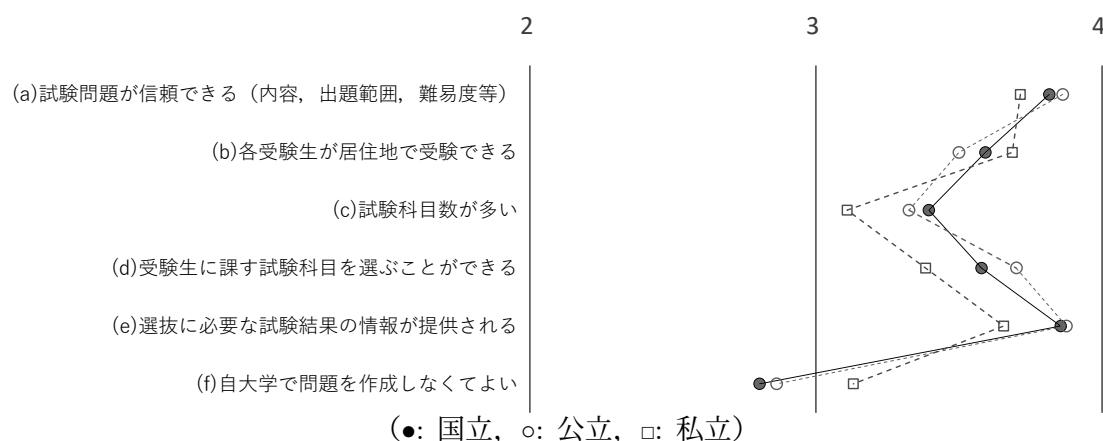


図 3.12: 設置形態別の QB-3(a)~(f) の平均値のプロット

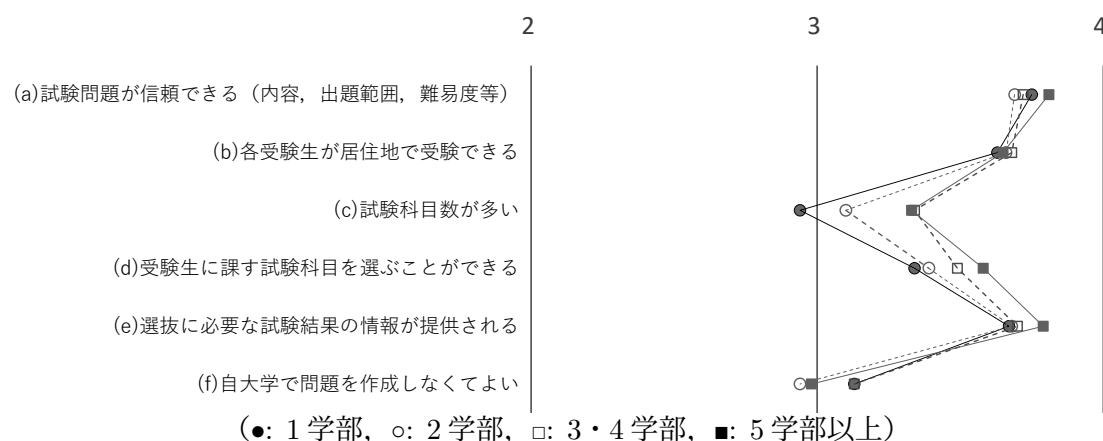


図 3.13: 学部規模別の QB-3(a)~(f) の平均値のプロット

表 3.50 と表 3.51 には、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、各回答選択枝の度数と割合、各項目の 4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値と標準偏差を示す。

表 3.50: 共通テストを利用する利点 (QB-3: 設置形態別) (1/2)

(a) 試験問題が信頼できる (内容, 出題範囲, 難易度等)

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	1	0	11	64	1.3	0.0	14.5	84.2	3.82	0.48
公立	0	0	11	69	0.0	0.0	13.8	86.3	3.86	0.34
私立	6	7	99	347	1.3	1.5	21.6	75.6	3.71	0.56
全体	7	7	121	480	1.1	1.1	19.7	78.0	3.75	0.53

(b) 各受験生が居住地で受験できる

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	2	5	15	54	2.6	6.6	19.7	71.1	3.59	0.73
公立	2	10	14	54	2.5	12.5	17.5	67.5	3.50	0.81
私立	16	13	70	360	3.5	2.8	15.3	78.4	3.69	0.69
全体	20	28	99	468	3.3	4.6	16.1	76.1	3.65	0.72

(c) 試験科目数が多い

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	3	9	19	45	3.9	11.8	25.0	59.2	3.39	0.84
公立	3	13	19	45	3.8	16.3	23.8	56.3	3.33	0.88
私立	29	90	142	198	6.3	19.6	30.9	43.1	3.11	0.93
全体	35	112	180	288	5.7	18.2	29.3	46.8	3.17	0.92

(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	3	4	15	54	3.9	5.3	19.7	71.1	3.58	0.77
公立	0	5	14	61	0.0	6.3	17.5	76.3	3.70	0.58
私立	24	40	131	264	5.2	8.7	28.5	57.5	3.38	0.85
全体	27	49	160	379	4.4	8.0	26.0	61.6	3.45	0.82

(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	0	0	11	65	0.0	0.0	14.5	85.5	3.86	0.35
公立	0	1	8	71	0.0	1.3	10.0	88.8	3.88	0.37
私立	6	18	104	331	1.3	3.9	22.7	72.1	3.66	0.62
全体	6	19	123	467	1.0	3.1	20.0	75.9	3.71	0.57

表 3.50: 共通テストを利用する利点 (QB-3: 設置形態別) (2/2)

(f) 自大学で問題を作成しなくてよい

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	15	13	20	28	19.7	17.1	26.3	36.8	2.80	1.14
公立	18	11	15	36	22.5	13.8	18.8	45.0	2.86	1.21
私立	50	71	107	231	10.9	15.5	23.3	50.3	3.13	1.04
全体	83	95	142	295	13.5	15.4	23.1	48.0	3.06	1.08

表 3.51: 共通テストを利用する利点 (QB-3: 学部規模別) (1/2)

(a) 試験問題が信頼できる (内容, 出題範囲, 難易度等)

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	2	2	34	141	1.1	1.1	19.0	78.8	3.75	0.52
2 学部	2	2	30	94	1.6	1.6	23.4	73.4	3.69	0.58
3・4 学部	3	2	31	122	1.9	1.3	19.6	77.2	3.72	0.58
5 学部以上	0	1	26	123	0.0	0.7	17.3	82.0	3.81	0.41
全体	7	7	121	480	1.1	1.1	19.7	78.0	3.75	0.53

(b) 各受験生が居住地で受験できる

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	6	9	31	133	3.4	5.0	17.3	74.3	3.63	0.73
2 学部	6	4	18	100	4.7	3.1	14.1	78.1	3.66	0.75
3・4 学部	4	6	27	121	2.5	3.8	17.1	76.6	3.68	0.67
5 学部以上	4	9	23	114	2.7	6.0	15.3	76.0	3.65	0.71
全体	20	28	99	468	3.3	4.6	16.1	76.1	3.65	0.72

(c) 試験科目数が多い

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	17	42	54	66	9.5	23.5	30.2	36.9	2.94	0.99
2 学部	9	27	34	58	7.0	21.1	26.6	45.3	3.10	0.97
3・4 学部	4	23	47	84	2.5	14.6	29.7	53.2	3.34	0.82
5 学部以上	5	20	45	80	3.3	13.3	30.0	53.3	3.33	0.83
全体	35	112	180	288	5.7	18.2	29.3	46.8	3.17	0.92

表 3.51: 共通テストを利用する利点 (QB-3: 学部規模別) (2/2)

(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	8	22	50	99	4.5	12.3	27.9	55.3	3.34	0.86
2 学部	9	11	29	79	7.0	8.6	22.7	61.7	3.39	0.91
3・4 学部	5	7	51	95	3.2	4.4	32.3	60.1	3.49	0.73
5 学部以上	5	9	30	106	3.3	6.0	20.0	70.7	3.58	0.75
全体	27	49	160	379	4.4	8.0	26.0	61.6	3.45	0.82

(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	1	7	42	129	0.6	3.9	23.5	72.1	3.67	0.58
2 学部	3	4	24	97	2.3	3.1	18.8	75.8	3.68	0.65
3・4 学部	2	6	30	120	1.3	3.8	19.0	75.9	3.70	0.60
5 学部以上	0	2	27	121	0.0	1.3	18.0	80.7	3.79	0.44
全体	6	19	123	467	1.0	3.1	20.0	75.9	3.71	0.57

(f) 自大学で問題を作成しなくてよい

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	17	31	42	89	9.5	17.3	23.5	49.7	3.13	1.02
2 学部	25	22	17	64	19.5	17.2	13.3	50.0	2.94	1.20
3・4 学部	18	18	47	75	11.4	11.4	29.7	47.5	3.13	1.01
5 学部以上	23	24	36	67	15.3	16.0	24.0	44.7	2.98	1.10
全体	83	95	142	295	13.5	15.4	23.1	48.0	3.06	1.08

表 3.52 に、QB-3 で「(g) その他」を選択した大学による自由記述の回答を示す。自由記述の回答には、補足説明的な内容のものもあるが、それらも含めて表 3.52 に原文のまま示す。「(g) その他」の利点として、基礎学力が測定されることや、受験生の獲得に繋がることを挙げる記述が目立つ。

表 3.52: 一般選抜において共通テストを利用する「(g) その他」の利点

設置形態	学部規模	回答 (自由記述)
国立	3・4 学部	受験者数が多く公平な学力評価が期待できる。
国立	5 学部以上	基礎学力が担保される
国立	5 学部以上	(f) については、「地理歴史・公民」「英語 (リスニング)」を個別学力検査で課していないので上記のような回答となりました。

表 3.52 は次ページに続く

表 3.52 前ページからの続き

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
公立	1 学部	受験者の基礎学力をある程度公平に測ることができる。また、大学で配点を換算することで、学科が求める能力の高い受験生を選抜できる。
公立	3・4 学部	学習指導要領に準拠した、受験時点で基礎学力を測る上で、極めて合理的な問題であること
公立	3・4 学部	遠隔地での受験が可能となる
私立	1 学部	多くの受験生が利用している。
私立	2 学部	受験生の負担が軽減できること。
私立	2 学部	直接来学しなくてもよいので、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染対策になる。
私立	2 学部	平均点の他詳細な集計データが提供されること。
私立	2 学部	本学では、一般選抜の入試要領として「本学が作成した試験問題による入試」と「共通テスト利用による入試」の二つの区分で入試を行い、試験毎可否を判定している。
私立	3・4 学部	「大学入学共通テストを利用している大学」、という信頼性
私立	3・4 学部	学力の三要素のうち、特に知識・技能、思考力・判断力・表現力を意識した問題作成が成されていると考えている。
私立	3・4 学部	幅広い受験生の出願に繋がっている。
私立	3・4 学部	幅広い層の学生の獲得
私立	5 学部以上	共通テストと独自試験を併用することで、独自試験では、より学部の求める力を測る出題とすることができる。
私立	5 学部以上	採点の手間がかからない。出題ミスの心配がない。
私立	5 学部以上	受験生にとって併願しやすい。
私立	5 学部以上	志願者が増える（遠隔地在住者等）
私立	5 学部以上	受験生の受験機会の増加
私立	5 学部以上	受験生の負担軽減

表 3.52 は以上

QB-4. 一般選抜において、大学入学共通テストに関する次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

(a) 試験の実施日程が適切である

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

(b) 成績の提供日程が適切である

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

(c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度

1. 易しい 2. やや易しい 3. どちらともいえない 4. やや難しい 5. 難しい

(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (e) 試験問題の識別力（受験生の成績に差がつくかどうか）が適切である
1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (f) 共通テストの得点を貴大学独自の段階表示に変換して利用した
1. 利用しなかった 2. 利用した（利用法：自由記述）

図 3.14 と図 3.15 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-4 の項目 (a)(b)(d)(e) の 4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値のプロットを示す。

「(a) 試験の実施日程が適切である」や「(b) 成績の提供日程が適切である」については、設置形態によって評価が分かれる傾向である。特に、「(b) 成績の提供日程が適切である」については、国立と私立の平均値が公立に比べて低い。「(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である」や「(e) 試験問題の識別力が適切である」については、私立の平均値が、国立や公立を下回っている。

「(b) 成績の提供日程が適切である」に関しては、学部規模が大きいと平均値が低くなる傾向であり、特に、5 学部以上の大学の平均値が低い。その一方で、「(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である」については、5 学部以上の大学の平均値が高い。



図 3.14: 設置形態別の QB-4(a)(b)(d)(e) の平均値のプロット

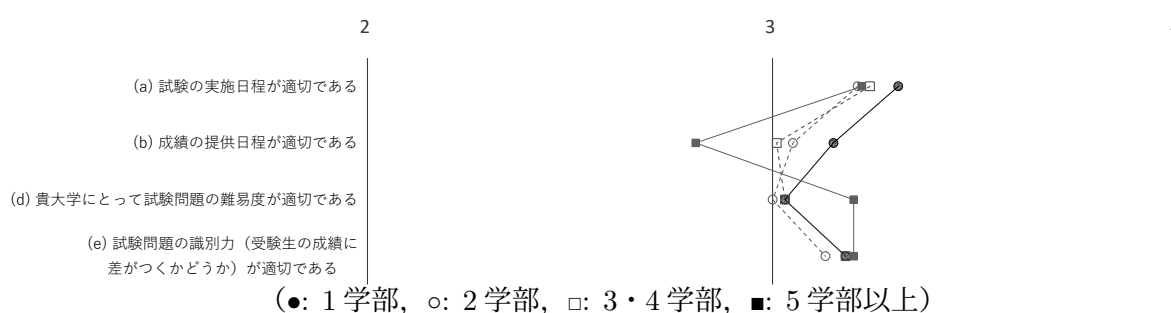


図 3.15: 学部規模別の QB-4(a)(b)(d)(e) の平均値のプロット

図 3.16 と図 3.17 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-4 の項目「(c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度」の 5 段階評定の選択率のグラフを示す。

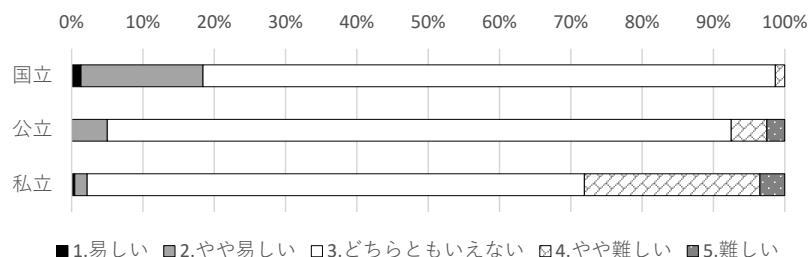


図 3.16: 設置形態別の QB-4(c) の選択率

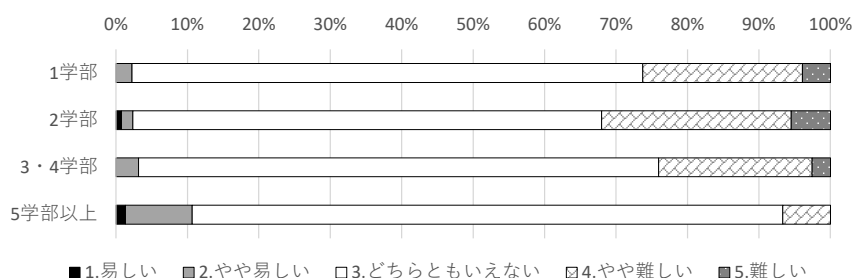


図 3.17: 学部規模別の QB-4(c) の選択率

どの設置形態でも「3. どちらともいえない」を選択した大学の割合が圧倒的に高いが、国立では「1. 易しい」と「2. やや易しい」を合わせた割合が率が2割近くを占めるのに対して、私立では「4. やや難しい」と「5. 難しい」を合わせた割合が3割近くを占める。学部規模では、「5学部以上」で「1. 易しい」と「2. やや易しい」を合わせた割合が1割程度で、それ以外の学部規模よりも高い。また、「1学部」「2学部」「3・4学部」では「4. やや難しい」と「5. 難しい」を合わせた割合が2～3割程度を占めており、「5学部以上」より高い。すなわち、私立や学部数が比較的小さい大学では、試験問題が自大学の受験生にとって難しいと評定する傾向がみられる。

表 3.53 と表 3.54 には、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、各回答選択枝の度数と割合、各項目の段階評定（(c) のみ5段階、(c) 以外は4段階）を間隔尺度とみなして算出した平均値と標準偏差を示す。

表 3.53: 共通テストについて（QB-4: 設置形態別）(1/2)

(a) 試験の実施日程が適切である

	度数				割合(%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	4	12	31	29	5.3	15.8	40.8	38.2	3.12	0.86
公立	2	4	34	40	2.5	5.0	42.5	50.0	3.40	0.70
私立	7	58	210	184	1.5	12.6	45.8	40.1	3.24	0.73
全体	13	74	275	253	2.1	12.0	44.7	41.1	3.25	0.74

表 3.53: 共通テストについて (QB-4: 設置形態別) (2/2)

(b) 成績の提供日程が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	1	23	26	26	1.3	30.3	34.2	34.2	3.01	0.83
公立	6	4	34	36	7.5	5.0	42.5	45.0	3.25	0.86
私立	20	93	226	120	4.4	20.3	49.2	26.1	2.97	0.80
全体	27	120	286	182	4.4	19.5	46.5	29.6	3.01	0.82

(c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度

	度数					割合 (%) (設置形態別)					m. s.d.	
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
国立	1	13	61	1	0	1.3	17.1	80.3	1.3	0.0	2.82	0.45
公立	0	4	70	4	2	0.0	5.0	87.5	5.0	2.5	3.05	0.44
私立	2	8	320	113	16	0.4	1.7	69.7	24.6	3.5	3.29	0.58
全体	3	25	451	118	18	0.5	4.1	73.3	19.2	2.9	3.20	0.57

(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	1	3	44	28	1.3	3.9	57.9	36.8	3.30	0.61
公立	1	3	53	23	1.3	3.8	66.3	28.8	3.23	0.57
私立	6	68	306	79	1.3	14.8	66.7	17.2	3.00	0.61
全体	8	74	403	130	1.3	12.0	65.5	21.1	3.07	0.62

(e) 試験問題の識別力 (受験生の成績に差がつくかどうか) が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	1	4	45	26	1.3	5.3	59.2	34.2	3.26	0.61
公立	0	5	48	27	0.0	6.3	60.0	33.8	3.28	0.57
私立	2	42	303	112	0.4	9.2	66.0	24.4	3.14	0.58
全体	3	51	396	165	0.5	8.3	64.4	26.8	3.18	0.58

表 3.54: 共通テストについて (QB-4: 学部規模別) (1/2)

(a) 試験の実施日程が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	4	15	82	78	2.2	8.4	45.8	43.6	3.31	0.72
2 学部	2	21	53	52	1.6	16.4	41.4	40.6	3.21	0.77
3・4 学部	2	22	70	64	1.3	13.9	44.3	40.5	3.24	0.73
5 学部以上	5	16	70	59	3.3	10.7	46.7	39.3	3.22	0.76
全体	13	74	275	253	2.1	12.0	44.7	41.1	3.25	0.74

表 3.54: 共通テストについて (QB-4: 学部規模別) (2/2)

(b) 成績の提供日程が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	7	23	85	64	3.9	12.8	47.5	35.8	3.15	0.79
2 学部	7	20	60	41	5.5	15.6	46.9	32.0	3.05	0.83
3・4 学部	6	33	72	47	3.8	20.9	45.6	29.7	3.01	0.81
5 学部以上	7	44	69	30	4.7	29.3	46.0	20.0	2.81	0.80
全体	27	120	286	182	4.4	19.5	46.5	29.6	3.01	0.82

(c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度

	度数					割合 (%) (学部規模別)					m.	s.d.
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
1 学部	0	4	128	40	7	0.0	2.2	71.5	22.3	3.9	3.28	0.57
2 学部	1	2	84	34	7	0.8	1.6	65.6	26.6	5.5	3.34	0.64
3・4 学部	0	5	115	34	4	0.0	3.2	72.8	21.5	2.5	3.23	0.54
5 学部以上	2	14	124	10	0	1.3	9.3	82.7	6.7	0.0	2.95	0.46
全体	3	25	451	118	18	0.5	4.1	73.3	19.2	2.9	3.20	0.57

(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	4	21	119	35	2.2	11.7	66.5	19.6	3.03	0.63
2 学部	1	20	85	22	0.8	15.6	66.4	17.2	3.00	0.60
3・4 学部	2	20	108	28	1.3	12.7	68.4	17.7	3.03	0.59
5 学部以上	1	13	91	45	0.7	8.7	60.7	30.0	3.20	0.61
全体	8	74	403	130	1.3	12.0	65.5	21.1	3.07	0.62

(e) 試験問題の識別力 (受験生の成績に差がつくかどうか) が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	14	119	46	0.0	7.8	66.5	25.7	3.18	0.55
2 学部	1	12	84	31	0.8	9.4	65.6	24.2	3.13	0.59
3・4 学部	0	14	101	43	0.0	8.9	63.9	27.2	3.18	0.57
5 学部以上	2	11	92	45	1.3	7.3	61.3	30.0	3.20	0.62
全体	3	51	396	165	0.5	8.3	64.4	26.8	3.18	0.58

QB-4(f) で共通テストの得点を大学独自の段階表示に変換して「2. 利用した」と回答した大学は 55 大学あるが、そのうち、自由記述で利用法に関する回答があったのは 29 大学である。表 3.55 に、29 大学の回答内容を、設置形態と学部規模と共に示す。

表 3.55: 共通テストの得点を大学独自の段階表示に変換して
「2. 利用した」大学の利用法（自由記述）

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
国立	2 学部	学科専攻ごとに共通テストの得点を一定の比率で圧縮して利用した。
国立	3・4 学部	試験科目により、重み付けをした。
公立	1 学部	1/2 に圧縮
公立	1 学部	一般選抜前期日程において、国語、地歴公民、数学、理科、外国語を各 100 点満点、計 500 点満点として利用した。一般選抜後期日程において、国語、地理歴史、公民については、100 点換算後、最高得点科目の教科を 200 点配点とし、残りの教科を 100 点配点とした。数学、理科については、最高得点科目の教科を 200 点配点とし、残りの教科を 100 点配点とした。
公立	1 学部	外国語 200 点を 100 点に換算した
公立	2 学部	英語において、リーディングを 160 点に換算、リスニングを 40 点に換算
公立	3・4 学部	各学科の特定教科については、傾斜配点に換算する
私立	1 学部	国語（現代文のみ）と英語（リーディングのみ）の 2 教科を指定し、各教科 100 点満点に換算して利用している。
私立	1 学部	国語および外国語は 100 点満点に換算して利用した
私立	1 学部	得点を 20 点満点に換算
私立	1 学部	配点が 100 点に換算しています。
私立	2 学部	・英語は「リーディング＋リスニング（200 点）」を 100 点満点に換算し、「リーディングのみ（100 点）」と比較して、得点の高い方を採用。・英語以外の外国語は 100 点満点に換算。
私立	2 学部	英語の得点をリーディング、リスニングでそれぞれの得点を 4：1 に換算
私立	2 学部	各専攻 300 点満点で「必修科目」と「選択科目」に分け配点した。
私立	2 学部	共通テストの得点を入試種別ごとの配点にあわせて換算した
私立	3・4 学部	「外国語」は 200 点満点を 100 点満点換算。英語のみ「リーディング 100 点」「リスニング 100 点」の 200 点満点を 100 点満点に換算。
私立	3・4 学部	外国語（英語）の得点を換算
私立	3・4 学部	外国語（英語）は「リーディング＋リスニング（100 点換算）」と「リーディングのみ（100 点）」のいずれか高得点のものを採用
私立	3・4 学部	換算処理
私立	3・4 学部	国語・英語を 100 点満点に換算した。
私立	3・4 学部	国語の 200 点を 100 点に換算した。
私立	3・4 学部	配点の計算方法で本学独自の方法を用いる（例えば、一部の科目で配点 100 点を 200 点に換算）。

表 3.55 は次ページに続く

表 3.55 前ページからの続き

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
私立	3・4 学部	本学が実施する大学入学共通テスト利用型入試において、採用科目により本学の得点換算基準に基づき、提供された成績を換算して合否判定に活用した。
私立	5 学部以上	（例）共通テスト利用入試（前期 3 教科型）の理系重点学科の配点方法国語 100 点を 200 点換算、地理歴史・公民 100 点を 200 点換算、数学①②を 200 点、理科②100 点を 200 点、外国語「筆記（リーディング）」100 点を 140 点、「リスニング」100 点を 60 点換算し合計 200 点換算。各 200 点×3 教科＝600 点満点で実施
私立	5 学部以上	「国語」および「英語」を独自に換算し利用。
私立	5 学部以上	換算
私立	5 学部以上	共通テストの英語の得点を、英語資格・検定試験のスコアとともに、本学独自の方法で変換し、一般選抜個別試験の英語の得点として利用した。
私立	5 学部以上	国語、英語の配点を 100 点に換算。
私立	5 学部以上	大学入学共通テスト利用入試：学部・出願科目型によって得点の換算方法を変える。

表 3.55 は以上

QB-4(f) の「大学独自の段階表示」は、元の得点を何らかの方式³で粗い刻みにして用いることを想定した質問であったが、自由記述による回答は、共通テストの得点の配点や（例：「外国語 200 点を 100 点に換算」）、共通テストの得点と検定・資格試験の得点の配点（例「共通テストの英語の得点を、英語資格・検定試験のスコアとともに、本学独自の方法で変換」）に関するもので占められている。これは、「段階表示」が、科目ごとの配点と解釈されたためと考えられる。

一方、一般選抜における共通テストの利用方法を尋ねる QB-2 の回答選択枝で「4. その他」を選択した大学の自由記述では（表 3.49）、共通テストの得点と、調査書や志望理由書等の出願書類、あるいは面接を「総合して」合否判定を行うという回答が多く見られる。このような大学では、様々な選抜資料を「総合」する過程で何らかの段階表示得点化が行われたかもしれない。

QB-5. 一般選抜において、大学入学共通テストは役立ちましたか。

1. 役立たなかった 2. あまり役立たなかった 3. ある程度役立った 4. 役立った

図 3.18 と図 3.19 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-5 の 4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値のプロットを示す。

私立では、多くの大学が一般選抜で共通テストを利用しているが、選抜に役立ったかという点での評価は国公立より低い。QB-4 において、私立のほうが国公立よりも難易度の適切さの評価が低い傾向や、試験問題を難しいと評価する傾向が示されており、難易度の捉え方が、選抜に共通テストが役立ったかどうかの評価に影響している可能性が示唆される。学部規模による違いは、設置形態による違いに比べると顕著ではない。

³大学入試センターは科目別得点をスタナイン方式による 9 段階表示にした得点を提供している

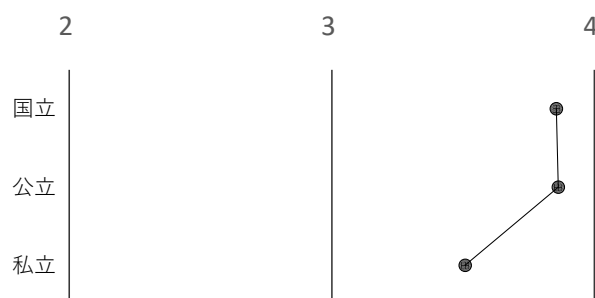


図 3.18: 設置形態別の QB-5 の平均値のプロット

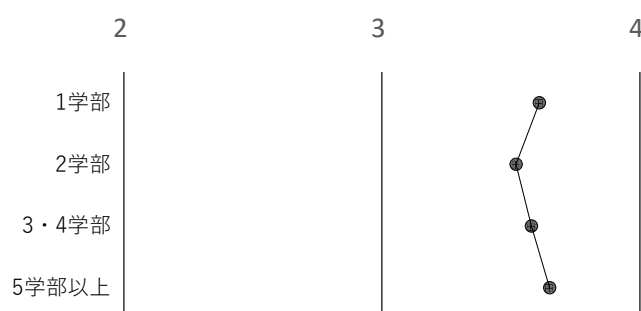


図 3.19: 学部規模の QB-5 の平均値のプロット

表 3.56 と表 3.57 には、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-5 の回答選択枝の度数と割合、4段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値と標準偏差を示す。

表 3.56: 共通テストについて (QB-5: 設置形態別)

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	0	0	11	65	0.0	0.0	14.5	85.5	3.86	0.35
公立	1	0	8	71	1.3	0.0	10.0	88.8	3.86	0.44
私立	3	16	185	255	0.7	3.5	40.3	55.6	3.51	0.60
全体	4	16	204	391	0.7	2.6	33.2	63.6	3.60	0.58

表 3.57: 共通テストについて (QB-5: 学部規模別)

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1学部	3	6	48	122	1.7	3.4	26.8	68.2	3.61	0.64
2学部	1	3	52	72	0.8	2.3	40.6	56.3	3.52	0.59
3・4学部	0	7	52	99	0.0	4.4	32.9	62.7	3.58	0.58
5学部以上	0	0	52	98	0.0	0.0	34.7	65.3	3.65	0.48
全体	4	16	204	391	0.7	2.6	33.2	63.6	3.60	0.58

3.3.3 総合型選抜における共通テストの利用について

QB-1において、総合型選抜で共通テストを利用している選抜区分が一つでもあると回答した大学に関して、総合型選抜における共通テストの利用に関する質問項目（QB-6～QB-9）の分析結果を示す。

設置形態でみると、総合型選抜で共通テストを課す選抜区分があると回答した58大学のうち、多くを占めるのは国立大学であり（39大学）、公立大学は8大学、私立大学は11大学と数が少ない（表3.45参照）。学部規模でみると、5学部以上の大学（38大学）が多くを占める（表3.46参照）。QB-6～QB-9の分析結果については、設置形態別や学部規模別にみた大学数がある程度多いところ（国立大学および学部規模5学部以上の大学）を中心に、回答の傾向を概観する。

QB-6. 総合型選抜において、貴大学では大学入学共通テストをどのように利用していますか。次のうち、該当するものをすべて選択してください。（複数選択可）

1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う
2. 共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする
3. 共通テストの受験は任意とする
4. その他（自由記述）

表3.58に、QB-6の設置形態別の集計結果を示す。表3.59に、QB-6の学部規模別の集計結果を示す。選択率は、総合型選抜で共通テストを利用している大学（表3.45参照）のうち、1～4の選択枝を選んだ大学の割合である。

表 3.58: 総合型選抜において共通テストをどのように利用しているか（QB-6: 設置形態別）

	大学数	1		2		3		4	
		度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)
国立	39	27	69.2	22	56.4	7	17.9	5	12.8
公立	8	3	37.5	2	25.0	0	0.0	4	50.0
私立	11	5	45.5	2	18.2	3	27.3	1	9.1
全体	58	35	60.3	26	44.8	10	17.2	10	17.2

表 3.59: 総合型選抜において共通テストをどのように利用しているか（QB-6: 学部規模別）

	大学数	1		2		3		4	
		度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)
1学部	4	2	50.0	1	25.0	1	25.0	1	25.0
2学部	4	2	50.0	1	25.0	1	25.0	0	0.0
3・4学部	12	6	50.0	5	41.7	3	25.0	1	8.3
5学部以上	38	25	65.8	19	50.0	5	13.2	8	21.1
全体	58	35	60.3	26	44.8	10	17.2	10	17.2

国立では、QB-6の4つの選択枝に関して、「1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う」の選択率が69.2%と最も高く、それに次いで、「2. 共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする」の選択率が56.4%である。学部規模が5学部以上の大学でも、同様の傾向である。

表3.60に、QB-6で「4. その他」を選択した大学による自由記述の回答を示す。自由記述の回答には、補足説明的な内容のものもあるが、それらも含めて表3.60に原文のまま示す。

表 3.60: 総合型選抜での共通テストの「4. その他」の利用方法

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
国立	5学部以上	①共通テストの得点と面接等で総合的に合否判定を行う。②面接等を課したうえで、共通テストで一定以上の得点を得ることを合格の要件とする。
国立	5学部以上	共通テストの得点により、個別学力検査受験者を決定（二段階選抜）
国立	5学部以上	共通テストを利用していない募集区分もございます。
国立	5学部以上	共通テストを課していない選抜もあるため
国立	5学部以上	大学入学共通テストを利用する区分と利用しない区分がある。
公立	3・4学部	入学前の学修や入学後の指導の参考とするため、自己採点結果を指定の期日までに報告することとしています。合否判定には利用しません。
公立	5学部以上	出願書類等、大学入学共通テストの成績、面接及び口述試験の成績を総合して判定する
公立	5学部以上	・共通テストの受験を合格の要件とする。・入学後の学業の参考資料とする。
私立	5学部以上	一部入試種別で、指定科目の受験を授業料減免の必須条件とする。

共通テストの得点を合否判定に用いるのではなく、共通テストの受験を合格の要件としたり、共通テストの結果を入学前の学修や入学後の指導の参考にしたり、といった利用方法は、一般選抜における共通テストの「その他」の利用方法では見られなかった回答である。また、共通テストを授業料減免の必須条件とするという利用方法も回答されている。

QB-7. 総合型選抜において、貴大学が大学入学共通テストを利用する利点として次の(a)～(f)の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。また、その他に利点があれば(g)に記入してください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

(a) 試験問題が信頼できる（内容、出題範囲、難易度等）

(b) 各受験生が居住地で受験できる

(c) 試験科目数が多い

(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる

(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される

- (f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい
(g) その他（自由記述）

図 3.20 と図 3.21 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-7 の各項目 (a)～(f) の 4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値のプロットを示す。

国立では、「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される」が利点とみなされる傾向であり、「(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい」はそれほど利点とみなされていない。この傾向は、一般選抜に関する国立の回答傾向（図 3.12）と類似している。学部規模が 5 学部以上の大学でも、「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される」が利点とみなされ、「(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい」はそれほど利点とみなされていない。

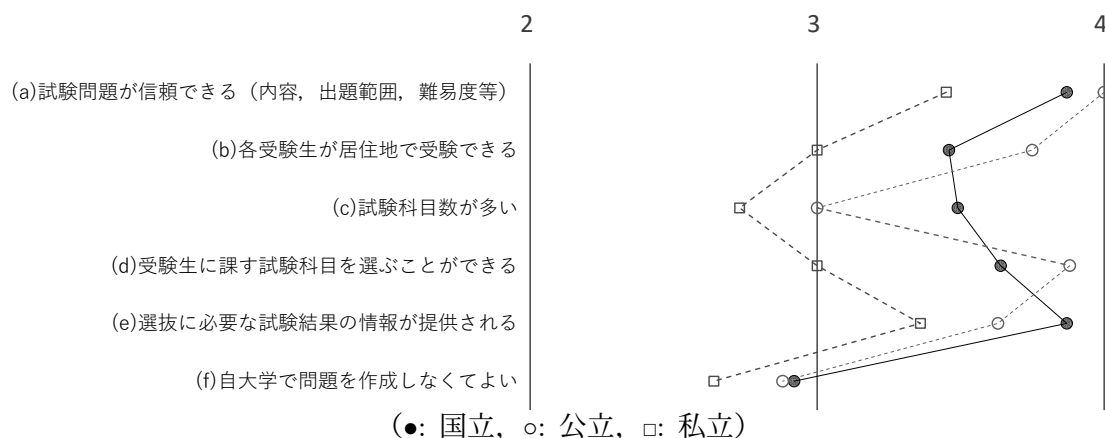


図 3.20: 設置形態別の QB-7(a)～(f) の平均値のプロット

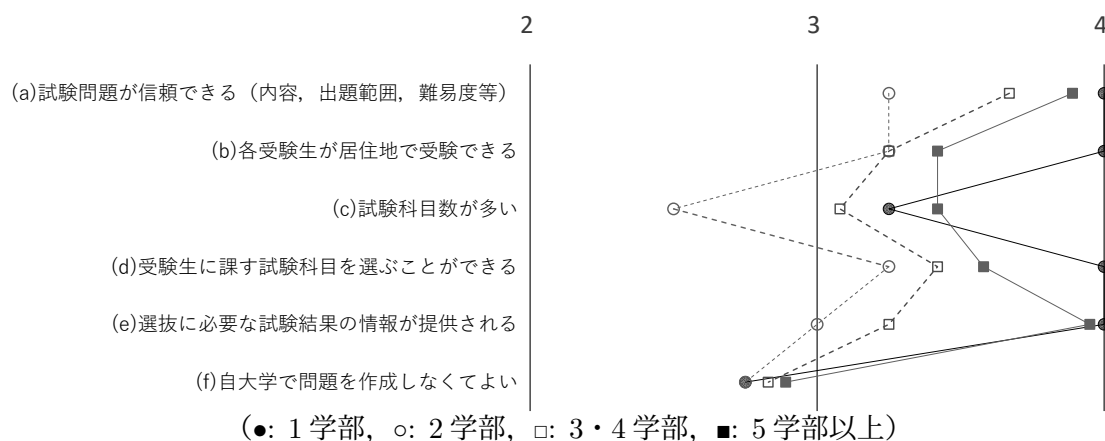


図 3.21: 学部規模別の QB-7(a)～(f) の平均値のプロット

表 3.61 と表 3.62 には、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、各回答選択枝の度数と割合、各項目の 4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値と標準偏差を示す。

表 3.61: 共通テストを利用する利点 (QB-7: 設置形態別) (1/2)

(a) 試験問題が信頼できる (内容, 出題範囲, 難易度等)

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	0	0	5	34	0.0	0.0	12.8	87.2	3.87	0.33
公立	0	0	0	8	0.0	0.0	0.0	100.0	4.00	0.00
私立	2	0	0	9	18.2	0.0	0.0	81.8	3.45	1.16
全体	2	0	5	51	3.4	0.0	8.6	87.9	3.81	0.60

(b) 各受験生が居住地で受験できる

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	2	4	7	26	5.1	10.3	17.9	66.7	3.46	0.87
公立	0	0	2	6	0.0	0.0	25.0	75.0	3.75	0.43
私立	3	0	2	6	27.3	0.0	18.2	54.5	3.00	1.28
全体	5	4	1	38	8.6	6.9	19.0	65.5	3.41	0.95

(c) 試験科目数が多い

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	1	4	9	25	2.6	10.3	23.1	64.1	3.49	0.78
公立	1	2	1	4	12.5	25.0	12.5	50.0	3.00	1.12
私立	3	1	3	4	27.3	9.1	27.3	36.4	2.73	1.21
全体	5	7	13	33	8.6	12.1	22.4	56.9	3.28	0.98

(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	2	1	6	30	5.1	2.6	15.4	76.9	3.64	0.77
公立	0	0	1	7	0.0	0.0	12.5	87.5	3.88	0.33
私立	2	1	3	5	18.2	9.1	27.3	45.5	3.00	1.13
全体	4	2	10	42	6.9	3.4	17.2	72.4	3.55	0.85

(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	0	0	5	34	0.0	0.0	12.8	87.2	3.87	0.33
公立	1	0	0	7	12.5	0.0	0.0	87.5	3.63	0.99
私立	2	0	1	8	18.2	0.0	9.1	72.7	3.36	1.15
全体	3	0	6	49	5.2	0.0	10.3	84.5	3.74	0.71

表 3.61: 共通テストを利用する利点 (QB-7: 設置形態別) (2/2)

(f) 自大学で問題を作成しなくてよい

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	8	4	10	17	20.5	10.3	25.6	43.6	2.92	1.16
公立	3	0	0	5	37.5	0.0	0.0	62.5	2.88	1.45
私立	4	0	3	4	36.4	0.0	27.3	36.4	2.64	1.30
全体	15	4	13	26	25.9	6.9	22.4	44.8	2.86	1.24

表 3.62: 共通テストを利用する利点 (QB-7: 学部規模別) (1/2)

(a) 試験問題が信頼できる (内容, 出題範囲, 難易度等)

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	0	4	0.0	0.0	0.0	100.0	4.00	0.00
2 学部	1	0	0	3	25.0	0.0	0.0	75.0	3.25	1.30
3・4 学部	1	0	1	10	8.3	0.0	8.3	83.3	3.67	0.85
5 学部以上	0	0	4	34	0.0	0.0	10.5	89.5	3.89	0.31
全体	2	0	5	51	3.4	0.0	8.6	87.9	3.81	0.60

(b) 各受験生が居住地で受験できる

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	0	4	0.0	0.0	0.0	100.0	4.00	0.00
2 学部	1	0	0	3	25.0	0.0	0.0	75.0	3.25	1.30
3・4 学部	2	1	1	8	16.7	8.3	8.3	66.7	3.25	1.16
5 学部以上	2	3	10	23	5.3	7.9	26.3	60.5	3.42	0.85
全体	5	4	1	38	8.6	6.9	19.0	65.5	3.41	0.95

(c) 試験科目数が多い

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	1	0	0	3	25.0	0.0	0.0	75.0	3.25	1.30
2 学部	1	1	1	1	25.0	25.0	25.0	25.0	2.50	1.12
3・4 学部	2	1	3	6	16.7	8.3	25.0	50.0	3.08	1.11
5 学部以上	1	5	9	23	2.6	13.2	23.7	60.5	3.42	0.82
全体	5	7	13	33	8.6	12.1	22.4	56.9	3.28	0.98

表 3.62: 共通テストを利用する利点 (QB-7: 学部規模別) (2/2)

(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	0	4	0.0	0.0	0.0	100.0	4.00	0.00
2 学部	1	0	0	3	25.0	0.0	0.0	75.0	3.25	1.30
3・4 学部	1	0	4	7	8.3	0.0	33.3	58.3	3.42	0.86
5 学部以上	2	2	6	28	5.3	5.3	15.8	73.7	3.58	0.82
全体	4	2	10	42	6.9	3.4	17.2	72.4	3.55	0.85

(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	0	4	0.0	0.0	0.0	100.0	4.00	0.00
2 学部	1	0	1	2	25.0	0.0	25.0	50.0	3.00	1.22
3・4 学部	2	0	3	7	16.7	0.0	25.0	58.3	3.25	1.09
5 学部以上	0	0	2	36	0.0	0.0	5.3	94.7	3.95	0.22
全体	3	0	6	49	5.2	0.0	10.3	84.5	3.74	0.71

(f) 自大学で問題を作成しなくてよい

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	1	0	2	1	25.0	0.0	50.0	25.0	2.75	1.09
2 学部	1	1	0	2	25.0	25.0	0.0	50.0	2.75	1.30
3・4 学部	4	0	2	6	33.3	0.0	16.7	50.0	2.83	1.34
5 学部以上	9	3	9	17	23.7	7.9	23.7	44.7	2.89	1.21
全体	15	4	13	26	25.9	6.9	22.4	44.8	2.86	1.24

表 3.63 に、QB-7 で「(g) その他」を選択した大学による自由記述の回答を示す。自由記述の回答には、補足説明的な内容のものもあるが、それらも含めて表 3.63 に原文のまま示す。基礎学力の担保への言及があるのは、一般選抜で共通テストを利用する「その他」の利点（表 3.52）と共通している。

表 3.63: 総合型選抜において共通テストを利用する「(g) その他」の利点

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
国立	3・4 学部	入学後に必要な学力が担保出来る。
国立	5 学部以上	基礎学力が担保される
国立	5 学部以上	(f) は大学入学共通テストを利用している区分についての回答です。利用していない区分は関係ありません。

QB-8. 総合型選抜において、大学入学共通テストに関する次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

- (a) 試験の実施日程が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (b) 成績の提供日程が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度
 1. 易しい 2. やや易しい 3. どちらともいえない 4. やや難しい 5. 難しい
- (d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (e) 試験問題の識別力（受験生の成績に差がつくかどうか）が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (f) 共通テストの得点を貴大学独自の段階表示に変換して利用した
 1. 利用しなかった 2. 利用した（利用法：自由記述）

図 3.22 と図 3.23 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-8 の項目 (a)(b)(d)(e) の 4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値のプロットを示す。

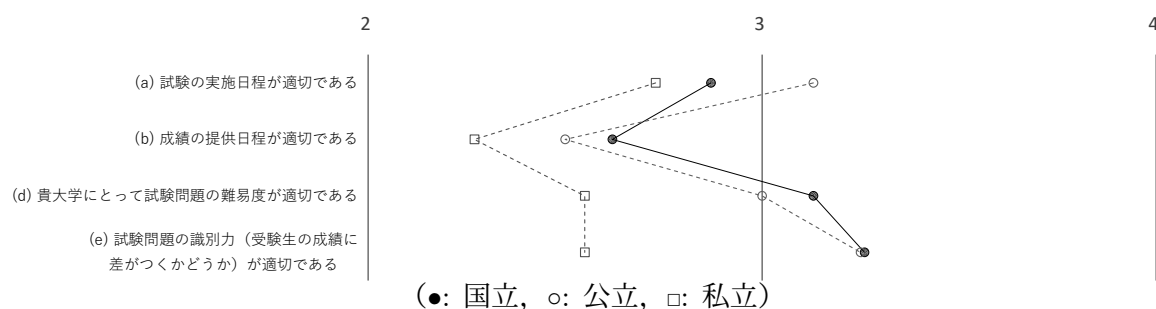


図 3.22: 設置形態別の QB-8(a)(b)(d)(e) の平均値のプロット

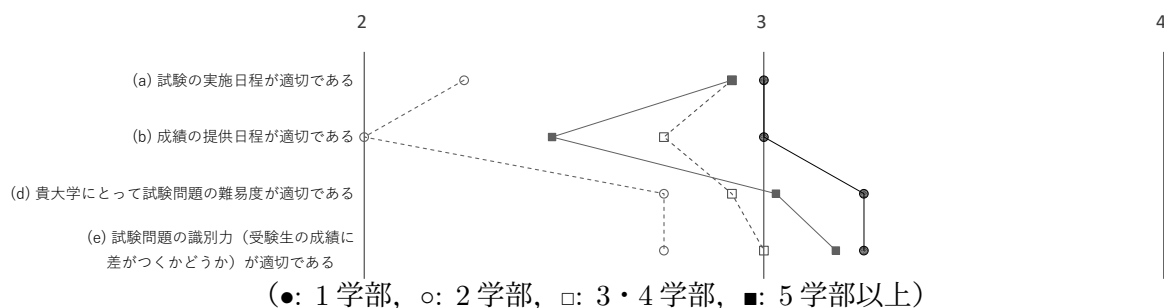


図 3.23: 学部規模別の QB-8(a)(b)(d)(e) の平均値のプロット

国立では、「試験の実施日程が適切である」や「(b) 成績の提供日程が適切である」の平均値が、

「(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である」や「(e) 試験問題の識別力が適切である」の平均値に比べて低い。この傾向は、一般選抜に関する国立の回答傾向と類似しているものの（図 3.14），総合型選抜では、日程に関する 2 つの項目 (a)(b) の平均値が一般選抜よりもさらに低い。学部規模が 5 学部以上の大学でも、「(a) 試験の実施日程が適切である」や「(b) 成績の提供日程が適切である」の平均値が、「(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である」や「(e) 試験問題の識別力が適切である」の平均値に比べて低いが、特に低いのは「(b) 成績の提供日程が適切である」の平均値である。

図 3.24 と図 3.25 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-8 の項目「(c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度」の 5 段階評定の選択率のグラフを示す。

国立では、「3. どちらともいえない」を選択した大学の割合が圧倒的に高く、「1. 易しい」と「2. やや易しい」を選択した大学を合わせると 2 割弱という点は、一般選抜に関する国立の回答と同様である。ただし、総合型選抜に関する国立の回答では「4. やや難しい」を選択した大学が 7.7% であるのに対して、一般選抜に関する国立の回答では、「4. やや難しい」を選択した大学は 1.3% である（図 3.16）。国立どうしで比較すると、「4. やや難しい」の選択率は総合型選抜が一般選抜をやや上回る。学部規模が 5 学部以上の大学でも、「3. どちらともいえない」を選択した大学の割合が圧倒的に高く、「1. 易しい」と「2. やや易しい」を選択した大学を合わせると 2 割程度、「4. やや難しい」を選択した大学が 7.9% である。

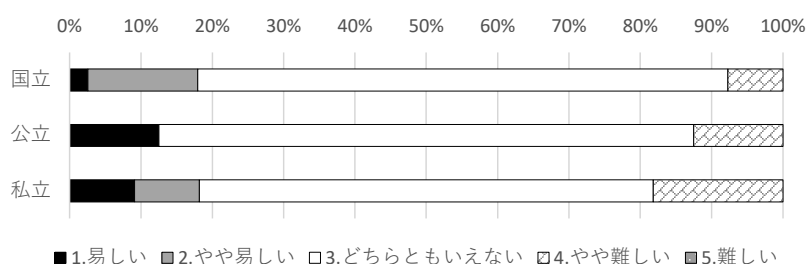


図 3.24: 設置形態別の QB-8(c) の選択率

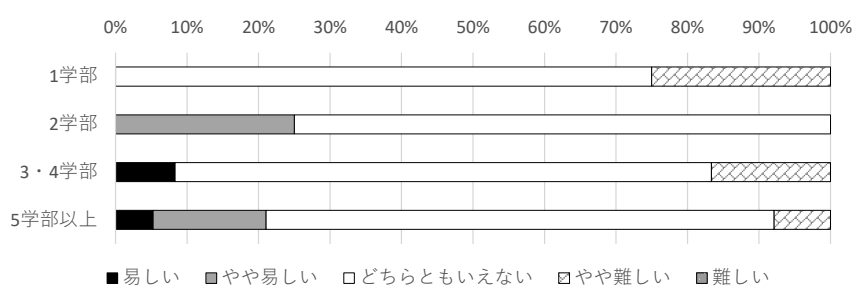


図 3.25: 学部規模別の QB-8(c) の選択率

表 3.64 と表 3.65 には、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、各回答選択枝の度数と割合、各項目の段階評定（(c) のみ 5 段階、(c) 以外は 4 段階）を間隔尺度とみなして算出した平均値と標準偏差を示す。

表 3.64: 共通テストについて (QB-8: 設置形態別)

(a) 試験の実施日程が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	2	11	16	10	5.1	28.2	41.0	25.6	2.87	0.85
公立	0	3	1	4	0.0	37.5	12.5	50.0	3.13	0.93
私立	2	2	4	3	18.2	18.2	36.4	27.3	2.73	1.05
全体	4	16	21	17	6.9	27.6	36.2	29.3	2.88	0.91

(b) 成績の提供日程が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	3	18	9	9	7.7	46.2	23.1	23.1	2.62	0.92
公立	1	4	1	2	12.5	50.0	12.5	25.0	2.50	1.00
私立	2	5	3	1	18.2	45.5	27.3	9.1	2.27	0.86
全体	6	27	13	12	10.3	46.6	22.4	20.7	2.53	0.93

(c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度

	度数					割合 (%) (設置形態別)					m.	s.d.
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
国立	1	6	29	3	0	2.6	15.4	74.4	7.7	0.0	2.87	0.56
公立	1	0	6	1	0	12.5	0.0	75.0	12.5	0.0	2.88	0.78
私立	1	1	7	2	0	9.1	9.1	63.6	18.2	0.0	2.91	0.79
全体	3	7	42	6	0	5.2	12.1	72.4	10.3	0.0	2.88	0.65

(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	1	3	25	10	2.6	7.7	64.1	25.6	3.13	0.65
公立	0	1	6	1	0.0	12.5	75.0	12.5	3.00	0.50
私立	2	1	8	0	18.2	9.1	72.7	0.0	2.55	0.78
全体	3	5	39	11	5.2	8.6	67.2	19.0	3.00	0.69

(e) 試験問題の識別力 (受験生の成績に差がつくかどうか) が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	1	1	24	13	2.6	2.6	61.5	33.3	3.26	0.63
公立	0	1	4	3	0.0	12.5	50.0	37.5	3.25	0.66
私立	2	2	6	1	18.2	18.2	54.5	9.1	2.55	0.89
全体	3	4	34	17	5.2	6.9	58.6	29.3	3.12	0.74

表 3.65: 共通テストについて (QB-8: 学部規模別)

(a) 試験の実施日程が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	2	0	2	0.0	50.0	0.0	50.0	3.00	1.00
2 学部	1	1	2	0	25.0	25.0	50.0	0.0	2.25	0.83
3・4 学部	1	2	6	3	8.3	16.7	50.0	25.0	2.92	0.86
5 学部以上	2	11	13	12	5.3	28.9	34.2	31.6	2.92	0.90
全体	4	16	21	17	6.9	27.6	36.2	29.3	2.88	0.91

(b) 成績の提供日程が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	2	0	2	0.0	50.0	0.0	50.0	3.00	1.00
2 学部	1	2	1	0	25.0	50.0	25.0	0.0	2.00	0.71
3・4 学部	1	4	4	3	8.3	33.3	33.3	25.0	2.75	0.92
5 学部以上	4	19	8	7	10.5	50.0	21.1	18.4	2.47	0.91
全体	6	27	13	12	10.3	46.6	22.4	20.7	2.53	0.93

(c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度

	度数					割合 (%) (学部規模別)					m.	s.d.
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
1 学部	0	0	3	1	0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	3.25	0.43
2 学部	0	1	3	0	0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0	2.75	0.43
3・4 学部	1	0	9	2	0	8.3	0.0	75.0	16.7	0.0	3.00	0.71
5 学部以上	2	6	27	3	0	5.3	15.8	71.1	7.9	0.0	2.82	0.64
全体	3	7	42	6	0	5.2	12.1	72.4	10.3	0.0	2.88	0.65

(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	3	1	0.0	0.0	75.0	25.0	3.25	0.43
2 学部	1	0	2	1	25.0	0.0	50.0	25.0	2.75	1.09
3・4 学部	1	0	10	1	8.3	0.0	83.3	8.3	2.92	0.64
5 学部以上	1	5	24	8	2.6	13.2	63.2	21.1	3.03	0.67
全体	3	5	39	11	5.2	8.6	67.2	19.0	3.00	0.69

(e) 試験問題の識別力 (受験生の成績に差がつくかどうか) が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	3	1	0.0	0.0	75.0	25.0	3.25	0.43
2 学部	1	0	2	1	25.0	0.0	50.0	25.0	2.75	1.09
3・4 学部	1	1	7	3	8.3	8.3	58.3	25.0	3.00	0.82
5 学部以上	1	3	22	12	2.6	7.9	57.9	31.6	3.18	0.68
全体	3	4	34	17	5.2	6.9	58.6	29.3	3.12	0.74

QB-8(f) で共通テストの得点を大学独自の段階表示に変換して「2. 利用した」と回答した大学は2大学あるが、そのうち、自由記述で利用法に関する回答があったのは1大学である。表 3.66 に、回答内容を、設置形態と学部規模と共に示す。

表 3.66: 共通テストの得点を大学独自の段階表示に変換して「2. 利用した」大学の利用法（自由記述）

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
国立	5学部以上	答えとしては「1. 利用しなかった」です。検討したことはあるため、2を選んで自由記述にその旨、記載いたしました。

QB-9. 総合型選抜において、大学入学共通テストは役立ちましたか。

1. 役立たなかった 2. あまり役立たなかった 3. ある程度役立った 4. 役立った

図 3.26 と図 3.27 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-9 の4段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値のプロットを示す。

国立の平均値、学部規模5学部以上の大学の平均値は共に高い。試験の実施日程や成績の提供日程に関する評価は低いものの、選抜に役立ったかという点では一定の評価を得ていることが示唆される。

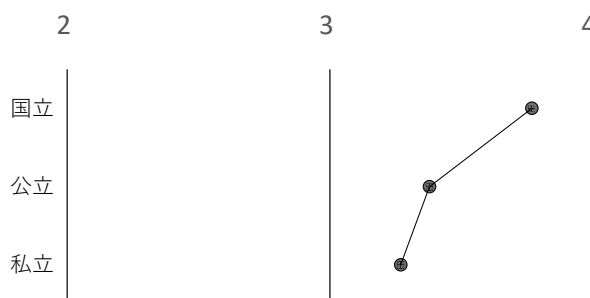


図 3.26: 設置形態別の QB-9 の平均値のプロット

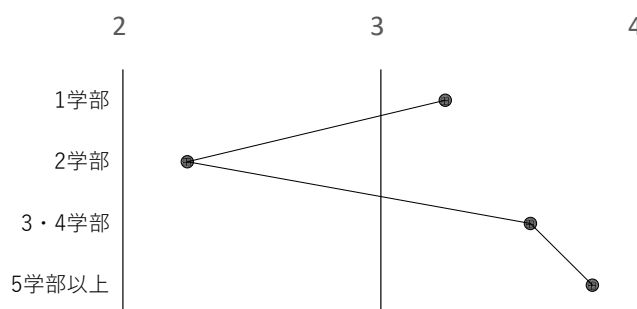


図 3.27: 学部規模の QB-9 の平均値のプロット

表 3.67 と表 3.68 には、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-9 の回答選択枝の度数と割合、4段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値と標準偏差を示す。

表 3.67: 共通テストについて (QB-9: 設置形態別)

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	0	0	9	30	0.0	0.0	23.1	76.9	3.77	0.42
公立	1	0	2	5	12.5	0.0	25.0	62.5	3.38	0.99
私立	2	0	2	7	18.2	0.0	18.2	63.6	3.27	1.14
全体	3	0	13	42	5.2	0.0	22.4	72.4	3.62	0.74

表 3.68: 共通テストについて (QB-9: 学部規模別)

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	3	1	0.0	0.0	75.0	25.0	3.25	0.43
2 学部	2	0	1	1	50.0	0.0	25.0	25.0	2.25	1.30
3・4 学部	1	0	2	9	8.3	0.0	16.7	75.0	3.58	0.86
5 学部以上	0	0	7	31	0.0	0.0	18.4	81.6	3.82	0.39
全体	3	0	13	42	5.2	0.0	22.4	72.4	3.62	0.74

3.3.4 学校推薦型選抜における共通テストの利用について

QB-1 において、学校推薦型選抜で共通テストを利用している選抜区分が一つでもあると回答した大学に関して、学校推薦型選抜における共通テストの利用に関する質問項目 (QB-10～QB-13) の分析結果を示す。

設置形態でみると、学校推薦型選抜で共通テストを課す選抜区分があると回答した 95 大学の多くは、国立大学 (56 大学) と公立大学 (31 大学) であり、私立大学は 8 大学にとどまる (表 3.45 参照)。学部規模でみると、5 学部以上の大学 (43 大学) が半数近くを占める (表 3.46 参照)。QB-10～QB-13 の分析結果については、設置形態別や学部規模別にみた大学数がある程度多いところ (国立大学、公立大学および学部規模 5 大学以上の大学) を中心に、回答の傾向を概観する。

QB-10. 学校推薦型選抜において、貴大学では大学入学共通テストをどのように利用していますか。次のうち、該当するものをすべて選択してください。(複数選択可)

1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う
2. 共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする
3. 共通テストの受験は任意とする
4. その他 (自由記述)

表 3.69 に、QB-10 の設置形態別の集計結果を示す。表 3.70 に、QB-10 の学部規模別の集計結果を示す。選択率は、学校推薦型選抜で共通テストを利用している大学 (表 3.45 参照) のうち、1～4 の選択枝を選んだ大学の割合である。

表 3.69: 学校推薦型選抜において共通テストをどのように利用しているか (QB-10: 設置形態別)

		1		2		3		4	
		度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)
	大学数								
国立	56	53	94.6	18	32.1	4	7.1	4	7.1
公立	31	25	80.6	7	22.6	1	3.2	7	22.6
私立	8	1	12.5	1	12.5	3	37.5	3	37.5
全体	95	79	83.2	26	27.4	8	8.4	14	14.7

表 3.70: 学校推薦型選抜において共通テストをどのように利用しているか (QB-10: 学部規模別)

		1		2		3		4	
		度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)	度数	選択率 (%)
	大学数								
1 学部	23	18	78.3	6	26.1	0	0.0	4	17.4
2 学部	11	8	72.7	2	18.2	2	18.2	1	9.1
3・4 学部	18	14	77.8	2	11.1	2	11.1	1	5.6
5 学部以上	43	39	90.7	16	37.2	4	9.3	8	18.6
全体	95	79	83.2	26	27.4	8	8.4	14	14.7

設置形態でみると、「1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う」の選択率は、国立では94.6%、公立では80.6%と非常に高い。国立の総合型選抜においても、4つのうち選択率が最も高い選択枝（69.2%）であるが（表 3.58 参照）、国立の学校推薦型選抜における選択率（94.6%）のほうが高い。「2. 共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする」は、国立では32.1%、公立では22.6%の選択率であり、ある程度高い。国立の総合型選抜における選択率は56.4%であり（表 3.58 参照）、国立の学校推薦型選抜における選択率（32.1%）のほうが低い。

学部規模が5学部以上の大学においても、「1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う」の選択率は非常に高く（90.7%）。5学部以上の大学の総合型選抜における選択率（65.8%）よりも高い（表 3.59 参照）。「2. 共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする」の選択率（37.2%）は、5学部以上の大学の総合型選抜における選択率（50.0%）よりも低い（表 3.59 参照）。

表 3.71 に、QB-10で「4. その他」を選択した大学による自由記述の回答を示す。自由記述の回答には、補足説明的な内容のものもあるが、それらも含めて表 3.71 に原文のまま示す。出願書類や面接、口述試験の成績と総合して判定する旨の回答もみられるが、共通テストの得点を合否判定の材料としないという記述が目立つ。指定する教科・科目を受験することを出願の要件としたり、共通テストの受験を合格の要件としたり、といった回答もみられる。総合型選抜における「4. その他」での利用方法でみられなかった回答としては、推薦で合格した後にも学習を継続してもらうために入学手続きの一環として共通テストの得点を提出させるという回答や、附属高校推薦において指定する教科を受験させて基準点に達しない場合に補習を行うという回答がみられる。学習の継続や補習の目安として共通テストが利用されている例と言えよう。

表 3.71: 学校推薦型選抜での共通テストの「4. その他」の利用方法

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
国立	1 学部	一部課程において、指定する教科・科目を受験することを出願要件としている。
国立	5 学部以上	医学部医学科 特定の出願資格の者を除き、指定した教科・科目を受験し、その結果を提出することを要件とする。
国立	5 学部以上	文学部の学校推薦型選抜のみ、共通テストを課していない。
国立	5 学部以上	共通テストを利用しない募集区分もございます。
公立	1 学部	本学が指定する教科・科目を受験し、成績通知書を提出することを出願要件としている。
公立	1 学部	一部の試験区分のみで実施
公立	2 学部	共通テストの得点を合否判定に利用しないが、受験を必須としている。
公立	3・4 学部	地域推薦では、共通テストの得点を利用していないが、一般推薦では、共通テストと個別試験の得点を総合して合否判定を行う。
公立	5 学部以上	・ 共通テストの受験を合格の要件とする。・ 入学後の学業の参考資料とする。
公立	5 学部以上	共通テスト（指定教科科目）の受験を出願要件とする
公立	5 学部以上	大学入学共通テストの成績、口述試験・面接・小論文等の成績、出願書類等を総合して判定する
私立	1 学部	大学入学共通テストの受験を出願条件としている。
私立	5 学部以上	合否判定には用いない。入学手続の一環として、大学入学共通テストのスコアを提出させている。指定校推薦入試等で合格した者に、合格した後も継続的な学習をしてもらうことがその目的のひとつである。
私立	5 学部以上	附属高等学校推薦において、希望する学部学科が指定する大学入学共通テスト（3 教科）を受験し、基準点を取得することとし、基準点に達しない場合は、補習を行うこととしている。

QB-11. 学校推薦型選抜において、貴大学が大学入学共通テストを利用する利点として次の(a)～(f)の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。また、その他に利点があれば(g)に記入してください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

(a) 試験問題が信頼できる（内容、出題範囲、難易度等）

(b) 各受験生が居住地で受験できる

(c) 試験科目数が多い

(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる

(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される

- (f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい
(g) その他（自由記述）

図 3.28 と図 3.29 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-11 の各項目 (a)～(f) の 4 段階評価を間隔尺度とみなして算出した平均値のプロットを示す。

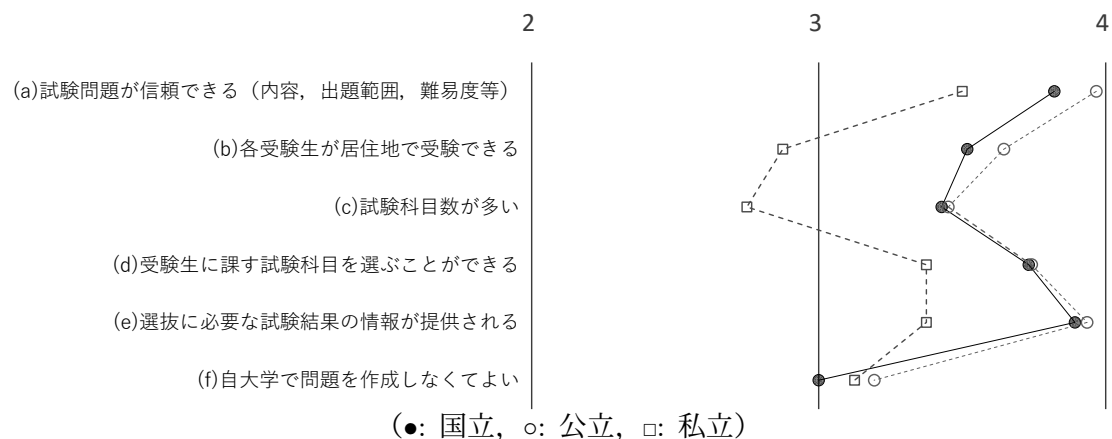


図 3.28: 設置形態別の QB-11(a)～(f) の平均値のプロット

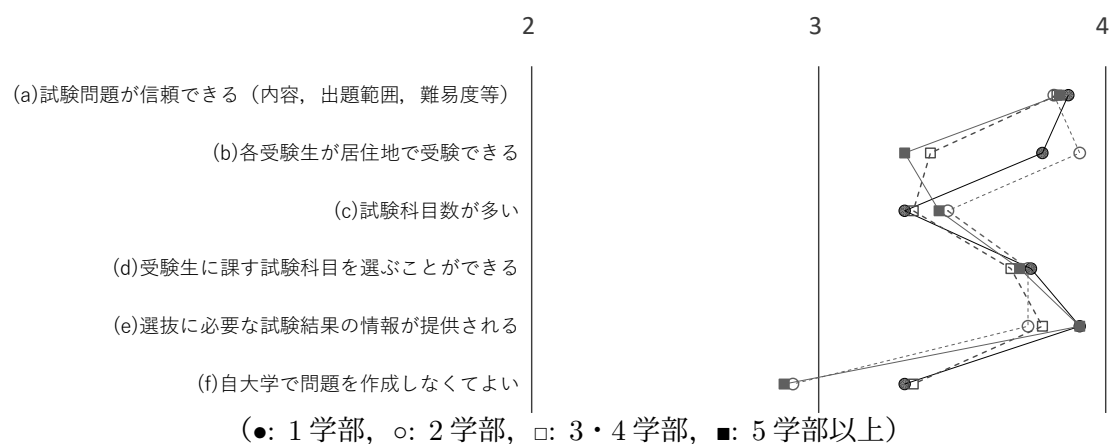


図 3.29: 学部規模別の QB-11(a)～(f) の平均値のプロット

国立においても公立においても、「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果が提供される」が利点とみなされる傾向であり、「(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい」はそれほど利点とみなされていない。国立に関しては、一般選抜でも（図 3.12），総合型選抜でも（図 3.20），同様の傾向がみられる。「(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる」の平均値は、国立でも公立でも、「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果が提供される」に次いで高い。

QB-10 への回答で、国立や公立において「1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う」の選択率が高いことを考えると（表 3.69 参照），共通テストを他の選抜資料と組み合わせる際に，たくさんの中から科目を選んで課せる点が評価されていると推察される。

学部規模が5学部以上の大学でも、「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果が提供される」が利点とみなされ、「(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい」はそれほど利点とみなされていない。

表 3.72 と表 3.73 には、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、各回答選択枝の度数と割合、各項目の段階評定（(c) のみ 5 段階、(c) 以外は 4 段階）を間隔尺度とみなして算出した平均値と標準偏差を示す。

表 3.72: 共通テストを利用する利点 (QB-11: 設置形態別) (1/2)

(a) 試験問題が信頼できる (内容, 出題範囲, 難易度等)

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	0	1	8	47	0.0	1.8	14.3	83.9	3.82	0.43
公立	0	0	1	30	0.0	0.0	3.2	96.8	3.97	0.18
私立	1	0	1	6	12.5	0.0	12.5	75.0	3.50	1.00
全体	1	1	10	83	1.1	1.1	10.5	87.4	3.84	0.47

(b) 各受験生が居住地で受験できる

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	2	6	9	39	3.6	10.7	16.1	69.6	3.52	0.82
公立	0	3	5	23	0.0	9.7	16.1	74.2	3.65	0.65
私立	3	0	0	5	37.5	0.0	0.0	62.5	2.88	1.45
全体	5	9	14	67	5.3	9.5	14.7	70.5	3.51	0.87

(c) 試験科目数が多い

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	2	6	14	34	3.6	10.7	25.0	60.7	3.43	0.82
公立	1	3	8	19	3.2	9.7	25.8	61.3	3.45	0.80
私立	2	1	2	3	25.0	12.5	25.0	37.5	2.75	1.20
全体	5	10	24	56	5.3	10.5	25.3	58.9	3.38	0.87

(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	2	1	7	46	3.6	1.8	12.5	82.1	3.73	0.67
公立	0	1	6	24	0.0	3.2	19.4	77.4	3.74	0.51
私立	1	0	2	5	12.5	0.0	25.0	62.5	3.38	0.99
全体	3	2	15	75	3.2	2.1	15.8	78.9	3.71	0.66

表 3.72: 共通テストを利用する利点 (QB-11: 設置形態別) (2/2)

(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	0	1	4	51	0.0	1.8	7.1	91.1	3.89	0.36
公立	0	0	2	29	0.0	0.0	6.5	93.5	3.94	0.25
私立	1	0	2	5	12.5	0.0	25.0	62.5	3.38	0.99
全体	1	1	8	85	1.1	1.1	8.4	89.5	3.86	0.45

(f) 自大学で問題を作成しなくてよい

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	8	9	14	25	14.3	16.1	25.0	44.6	3.00	1.09
公立	6	1	5	19	19.4	3.2	16.1	61.3	3.19	1.18
私立	2	0	1	5	25.0	0.0	12.5	62.5	3.13	1.27
全体	16	10	20	49	16.8	10.5	21.1	51.6	3.07	1.14

表 3.73: 共通テストを利用する利点 (QB-11: 学部規模別) (1/2)

(a) 試験問題が信頼できる (内容, 出題範囲, 難易度等)

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	3	20	0.0	0.0	13.0	87.0	3.87	0.34
2 学部	0	0	2	9	0.0	0.0	18.2	81.8	3.82	0.39
3・4 学部	1	0	0	17	5.6	0.0	0.0	94.4	3.83	0.69
5 学部以上	0	1	5	37	0.0	2.3	11.6	86.0	3.84	0.43
全体	1	1	10	83	1.1	1.1	10.5	87.4	3.84	0.47

(b) 各受験生が居住地で受験できる

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	1	3	19	0.0	4.3	13.0	82.6	3.78	0.51
2 学部	0	0	1	10	0.0	0.0	9.1	90.9	3.91	0.29
3・4 学部	1	3	2	12	5.6	16.7	11.1	66.7	3.39	0.95
5 学部以上	4	5	8	26	9.3	11.6	18.6	60.5	3.30	1.00
全体	5	9	14	67	5.3	9.5	14.7	70.5	3.51	0.87

表 3.73: 共通テストを利用する利点 (QB-11: 学部規模別) (2/2)

(c) 試験科目数が多い

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	2	2	6	13	8.7	8.7	26.1	56.5	3.30	0.95
2 学部	0	2	2	7	0.0	18.2	18.2	63.6	3.45	0.78
3・4 学部	1	2	5	10	5.6	11.1	27.8	55.6	3.33	0.88
5 学部以上	2	4	11	26	4.7	9.3	25.6	60.5	3.42	0.84
全体	5	10	24	56	5.3	10.5	25.3	58.9	3.38	0.87

(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	1	4	18	0.0	4.3	17.4	78.3	3.74	0.53
2 学部	0	1	1	9	0.0	9.1	9.1	81.8	3.73	0.62
3・4 学部	1	0	3	14	5.6	0.0	16.7	77.8	3.67	0.75
5 学部以上	2	0	7	34	4.7	0.0	16.3	79.1	3.70	0.70
全体	3	2	15	75	3.2	2.1	15.8	78.9	3.71	0.66

(e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	2	21	0.0	0.0	8.7	91.3	3.91	0.28
2 学部	0	0	3	8	0.0	0.0	27.3	72.7	3.73	0.45
3・4 学部	1	0	1	16	5.6	0.0	5.6	88.9	3.78	0.71
5 学部以上	0	1	2	40	0.0	2.3	4.7	93.0	3.91	0.36
全体	1	1	8	85	1.1	1.1	8.4	89.5	3.86	0.45

(f) 自大学で問題を作成しなくてよい

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	3	1	5	14	13.0	4.3	21.7	60.9	3.30	1.04
2 学部	3	1	1	6	27.3	9.1	9.1	54.5	2.91	1.31
3・4 学部	1	2	5	10	5.6	11.1	27.8	55.6	3.33	0.88
5 学部以上	9	6	9	19	20.9	14.0	20.9	44.2	2.88	1.19
全体	16	10	20	49	16.8	10.5	21.1	51.6	3.07	1.14

表 3.74 に、QB-11 で「(g) その他」を選択した大学による自由記述の回答を示す。基礎学力の担保への言及があるのは、一般選抜や総合型選抜で共通テストを利用する「その他」の利点（表 3.52 および表 3.63）と共通している。

表 3.74: 学校推薦型選抜において共通テストを利用する「(g) その他」の利点

設置形態	学部規模	回答（自由記述）
国立	5学部以上	基礎学力が担保される
公立	1学部	各学科が特に重要視する科目を課すことで、アドミッションポリシーに適した能力を有する人物を選抜することができる。
公立	3・4学部	基礎学力を十分有すると認められる人を選抜できる

QB-12. 学校推薦型選抜において、大学入学共通テストに関する次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

- (a) 試験の実施日程が適切である
1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (b) 成績の提供日程が適切である
1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度
1. 易しい 2. やや易しい 3. どちらともいえない 4. やや難しい 5. 難しい
- (d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である
1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (e) 試験問題の識別力（受験生の成績に差がつくかどうか）が適切である
1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (f) 共通テストの得点を貴大学独自の段階表示に変換して利用した
1. 利用しなかった 2. 利用した（利用法：自由記述）

図 3.30 と図 3.31 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-12 の項目 (a)(b)(d)(e) の 4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値のプロットを示す。

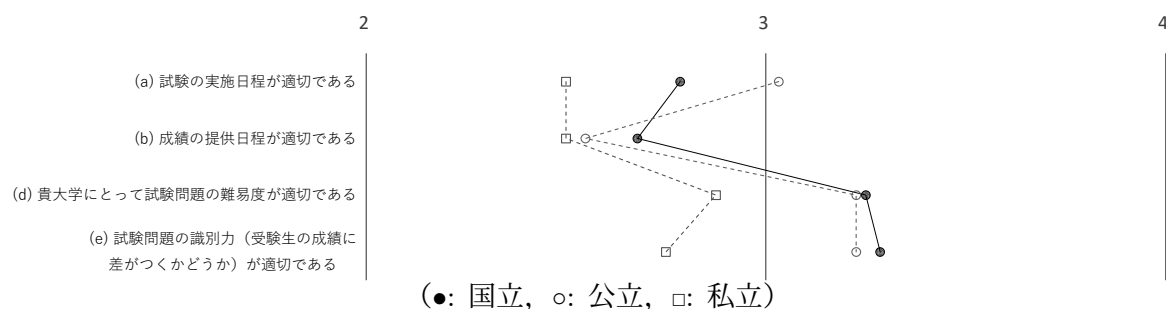


図 3.30: 設置形態別の QB-12(a)(b)(d)(e) の平均値のプロット

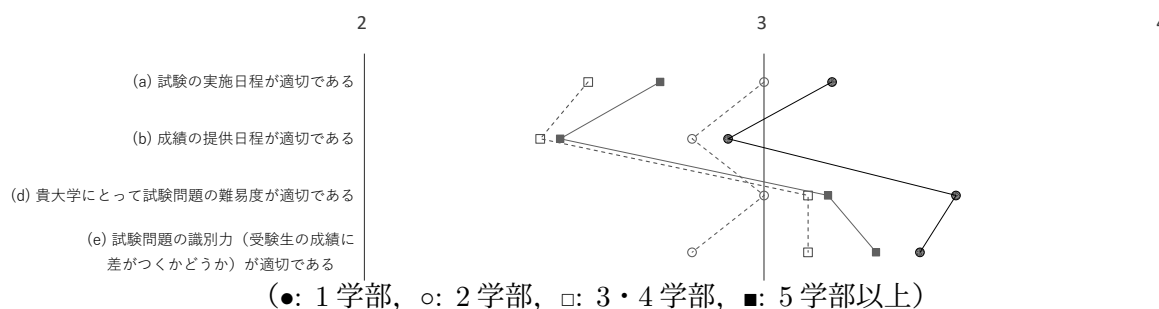


図 3.31: 学部規模別の QB-12(a)(b)(d)(e) の平均値のプロット

国立では、「(a) 試験の実施日程が適切である」や「(b) 成績の提供日程が適切である」の平均値が、「(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である」や「(e) 試験問題の識別力が適切である」の平均値に比べて低い。公立では、「(b) 成績の提供日程が適切である」の平均値が特に低い。学部規模が5学部以上の大学でも、「(b) 成績の提供日程が適切である」の平均値が特に低い。国立どうして比較すると、学校推薦型に関する回答傾向は、総合型選抜に関する回答傾向と同様であるが（図 3.22）,「(a) 試験の実施日程が適切である」については、学校推薦型では総合型選抜の平均値をさらに下回る。

図 3.32 と図 3.33 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-12 の項目「(c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度」の5段階評定の選択率のグラフを示す。

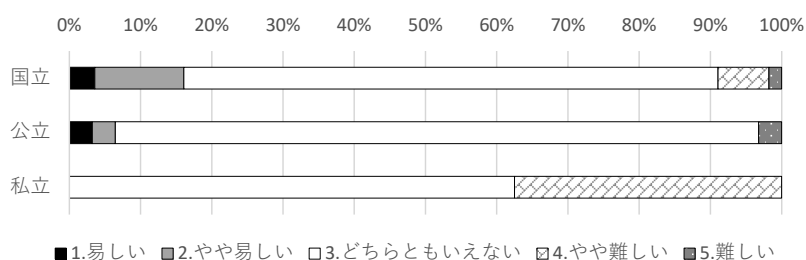


図 3.32: 設置形態別の QB-12(c) の選択率

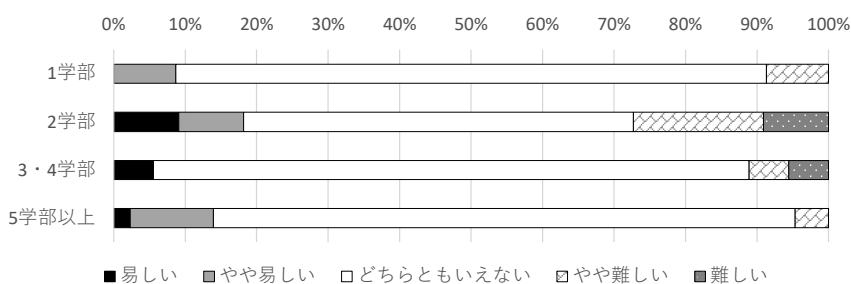


図 3.33: 学部規模別の QB-12(c) の選択率

国立においては、「1. 易しい」と「2. やや易しい」を選択した大学を合わせると15%程度、「4. やや難しい」と「5. 難しい」を選択した大学を合わせると1割弱である。「3. どちらともいえない」を選択した大学の割合が圧倒的に高いものの、一般選抜に関する国立の回答（図 3.16）と比べる

と、易しいと評価する大学の割合がやや小さく、難しいと評価する大学の割合がやや大きい。これは、国立における総合型選抜と一般選抜の回答を比べた際にもみられる傾向である。

表 3.75 と表 3.76 には、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、各回答選択枝の度数と割合、各項目の 4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値と標準偏差を示す。

表 3.75: 共通テストについて (QB-12: 設置形態別) (1/2)

(a) 試験の実施日程が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	6	14	22	14	10.7	25.0	39.3	25.0	2.79	0.94
公立	0	10	10	11	0.0	32.3	32.3	35.5	3.03	0.82
私立	2	2	2	2	25.0	25.0	25.0	25.0	2.50	1.12
全体	8	26	34	27	8.4	27.4	35.8	28.4	2.84	0.93

(b) 成績の提供日程が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	6	19	18	13	10.7	33.9	32.1	23.2	2.68	0.95
公立	3	13	10	5	9.7	41.9	32.3	16.1	2.55	0.87
私立	2	2	2	2	25.0	25.0	25.0	25.0	2.50	1.12
全体	11	34	30	20	11.6	35.8	31.6	21.1	2.62	0.94

(c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度

	度数					割合 (%) (設置形態別)					m. s.d.	
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
国立	2	7	42	4	1	3.6	12.5	75.0	7.1	1.8	2.91	0.63
公立	1	1	28	0	1	3.2	3.2	90.3	0.0	3.2	2.97	0.54
私立	0	0	5	3	0	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0	3.38	0.48
全体	3	8	75	7	2	3.2	8.4	78.9	7.4	2.1	2.97	0.61

(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	1	4	31	20	1.8	7.1	55.4	35.7	3.25	0.66
公立	0	1	22	8	0.0	3.2	71.0	25.8	3.23	0.49
私立	1	1	4	2	12.5	12.5	50.0	25.0	2.88	0.93
全体	2	6	57	30	2.1	6.3	60.0	31.6	3.21	0.65

表 3.75: 共通テストについて (QB-12: 設置形態別) (2/2)

(e) 試験問題の識別力 (受験生の成績に差がつくかどうか) が適切である

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	1	2	33	20	1.8	3.6	58.9	35.7	3.29	0.62
公立	0	2	20	9	0.0	6.5	64.5	29.0	3.23	0.55
私立	2	0	4	2	25.0	0.0	50.0	25.0	2.75	1.09
全体	3	4	57	31	3.2	4.2	60.0	32.6	3.22	0.67

表 3.76: 共通テストについて (QB-12: 学部規模別) (1/2)

(a) 試験の実施日程が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	1	4	8	10	4.3	17.4	34.8	43.5	3.17	0.87
2 学部	0	2	7	2	0.0	18.2	63.6	18.2	3.00	0.60
3・4 学部	1	10	3	4	5.6	55.6	16.7	22.2	2.56	0.90
5 学部以上	6	10	16	11	14.0	23.3	37.2	25.6	2.74	0.99
全体	8	26	34	27	8.4	27.4	35.8	28.4	2.84	0.93

(b) 成績の提供日程が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m. s.d.	
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	2	5	9	7	8.7	21.7	39.1	30.4	2.91	0.93
2 学部	1	2	6	2	9.1	18.2	54.5	18.2	2.82	0.83
3・4 学部	2	9	4	3	11.1	50.0	22.2	16.7	2.44	0.90
5 学部以上	6	18	11	8	14.0	41.9	25.6	18.6	2.49	0.95
全体	11	34	30	20	11.6	35.8	31.6	21.1	2.62	0.94

(c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度

	度数					割合 (%) (学部規模別)					m. s.d.	
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
1 学部	0	2	19	2	0	0.0	8.7	82.6	8.7	0.0	3.00	0.42
2 学部	1	1	6	2	1	9.1	9.1	54.5	18.2	9.1	3.09	1.00
3・4 学部	1	0	15	1	1	5.6	0.0	83.3	5.6	5.6	3.06	0.70
5 学部以上	1	5	35	2	0	2.3	11.6	81.4	4.7	0.0	2.88	0.49
全体	3	8	75	7	2	3.2	8.4	78.9	7.4	2.1	2.97	0.61

表 3.76: 共通テストについて (QB-12: 学部規模別) (2/2)

(d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	12	11	0.0	0.0	52.2	47.8	3.48	0.50
2 学部	0	2	7	2	0.0	18.2	63.6	18.2	3.00	0.60
3・4 学部	1	1	11	5	5.6	5.6	61.1	27.8	3.11	0.74
5 学部以上	1	3	27	12	2.3	7.0	62.8	27.9	3.16	0.64
全体	2	6	57	30	2.1	6.3	60.0	31.6	3.21	0.65

(e) 試験問題の識別力 (受験生の成績に差がつくかどうか) が適切である

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	14	9	0.0	0.0	60.9	39.1	3.39	0.49
2 学部	1	2	6	2	9.1	18.2	54.5	18.2	2.82	0.83
3・4 学部	1	1	11	5	5.6	5.6	61.1	27.8	3.11	0.74
5 学部以上	1	1	26	15	2.3	2.3	60.5	34.9	3.28	0.62
全体	3	4	57	31	3.2	4.2	60.0	32.6	3.22	0.67

なお、QB-12(f) で共通テストの得点を大学独自の段階表示に変換して「2. 利用した」と回答した大学は 3 大学あったが、利用法に関する自由記述を記入した大学は無かった。

QB-13. 学校推薦型選抜において、大学入学共通テストは役立ちましたか。

1. 役立たなかった 2. あまり役立たなかった 3. ある程度役立った 4. 役立った

図 3.34 と図 3.35 に、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-13 の 4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値のプロットを示す。

国立および公立の平均値、学部規模 5 学部以上の大学の平均値は共に高い。試験の実施日程や成績の提供日程に関する評価は低いものの、選抜に役立ったかという点では一定の評価を得ていることが示唆される。この点は、総合型選抜での国立における傾向と同様である (図 3.26 参照)。

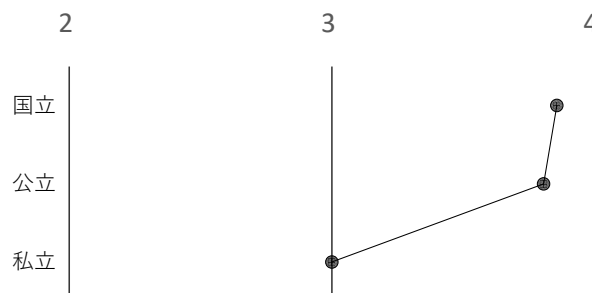


図 3.34: 設置形態別の QB-13 の平均値のプロット

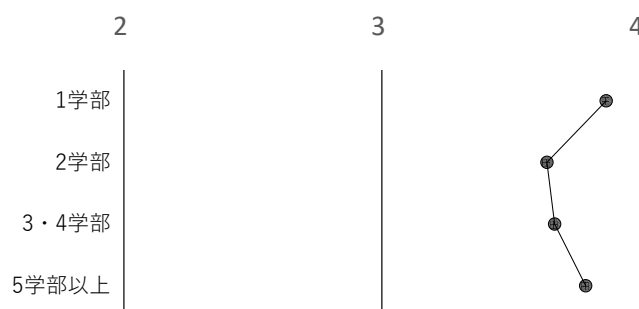


図 3.35: 学部規模の QB-13 の平均値のプロット

表 3.77 と表 3.78 には、それぞれ、設置形態別と学部規模別に、QB-13 の回答選択枝の度数と割合、4 段階評定を間隔尺度とみなして算出した平均値と標準偏差を示す。

表 3.77: 共通テストについて (QB-13: 設置形態別)

	度数				割合 (%) (設置形態別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	0	0	8	48	0.0	0.0	14.3	85.7	3.86	0.35
公立	0	0	6	25	0.0	0.0	19.4	80.6	3.81	0.40
私立	1	0	5	2	12.5	0.0	62.5	25.0	3.00	0.87
全体	1	0	19	75	1.1	0.0	20.0	78.9	3.77	0.49

表 3.78: 共通テストについて (QB-13: 学部規模別)

	度数				割合 (%) (学部規模別)				m.	s.d.
	1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	0	0	3	20	0.0	0.0	13.0	87.0	3.87	0.34
2 学部	0	0	4	7	0.0	0.0	36.4	63.6	3.64	0.48
3・4 学部	1	0	3	14	5.6	0.0	16.7	77.8	3.67	0.75
5 学部以上	0	0	9	34	0.0	0.0	20.9	79.1	3.79	0.41
全体	1	0	19	75	1.1	0.0	20.0	78.9	3.77	0.49

3.3.5 大学入学共通テストの利用に関する分析のまとめ

一般選抜での共通テストの利用方法は設置形態によって異なる傾向である。国立や公立では、共通テストと個別試験の得点を総合して合否判定を行うという利用が多いのに対して、私立では、共通テストの得点のみで合否判定を行うという利用が多い。自由記述では、共通テストや個別試験の得点に、調査書を加えて総合的に合否判定するという利用方法が多く、国公私立大学から回答された。また、1 大学のみであるが、共通テストと大学独自の試験のどちらかが基準を満たせば合格とするという回答があった。

一般選抜において共通テストを利用する利点としては、試験問題が信頼できることや、選抜に必要な試験結果の情報が提供されることの評価が、どの設置形態でも高い。自由記述では、基礎学力の担保や公平な学力評価ができる点や、幅広い受験生の獲得への言及がみられる。私立では、

受験生が居住地で受験できる点を利点とする傾向が高いが、共通テストが選抜に役立ったかという点の評価に関しては、私立の平均値が国公立も平均値が低い。日程の適切さについては国立の評価が低めであり、自大学にとっての難易度の適切さについては私立の評価が低めである。また、自大学の受験生にとっての試験問題の難易度については、私立のほうがやや難しいと評価する傾向である。

総合型および学校推薦型選抜で共通テストを利用する選抜区分を有する大学の割合が高いのは、国立の総合型選抜、国立の学校推薦型、公立の学校推薦型選抜であり、共通テストが選抜に役立ったという評価が得られている。試験問題が信頼できることや、選抜に必要な試験結果の情報が提供されることの評価が高い点は、一般選抜と同様である。一般選抜とは異なる共通テストの利用方法としては、合否判定には用いない利用の仕方が自由記述で回答された。共通テストの受験を出願や合格の要件としたり、授業料減免の条件とするといった回答や、入学前の学習や入学後の指導などに使うという回答がみられた。試験の実施日程や提供日程の適切さに関しては、一般選抜よりも評価が低くなっており、総合型選抜や学校推薦型選抜で共通テストを利用する際に、日程が障壁の一つになっているということが示唆される。

3.4 一般選抜における多面的・総合的評価等

花井渉・荒井清佳

本節では、セクション C 「一般選抜における多面的・総合的評価等について」の分析結果について、QC1～6, 8 の選択枝の設問と QC7, 9 及び 10 の自由記述の回答の分析を行い、その実態と課題を明らかにする。

セクション C の質問項目の構成は 2.1.3 節の通りである。セクション C では、学力検査以外の評価方法として「調査書」「調査書以外の書面」「検査」「小論文等」「面接・討論等」の 5 種類について尋ねている。その 5 種類の学力検査以外の評価方法の例をここに再掲する（表 3.79）。

表 3.79: 学力検査以外の評価方法の例

評価方法	例
調査書	
調査書以外の書面	推薦書, 大学入学希望理由書, 学修計画書, 活動報告書等, 生徒の探究的な学習成果等に関する資料等, 国際バカロレアの成績, 資格・検定試験の成績, 活動歴・顕彰・表彰等
検査	基礎学力把握のための筆記（または CBT）による簡単な検査, 適性, 実技等
小論文等	レポート, 小論文, 英語による小論文やエッセイ等
面接・討論等	面接, 討論, 口頭試問, プレゼンテーション, 英語による面接・プレゼンテーション・討論等, 大学における学習成果等（模擬講義, 事前課題）

3.4.1 学力検査以外の評価方法の利用の有無について

QC-1. 一般選抜において、学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分はありますか。次の (a)～(e) それぞれについて、当てはまるものを選択してください。

1. ない 2. ある

- (a) 調査書
- (b) 調査書以外の書面
- (c) 検査
- (d) 小論文等
- (e) 面接・討論等

設問 QC-1 では、学力検査以外の 5 種類の評価方法のそれぞれについて、一般選抜において利用している選抜区分があるかどうかを尋ねた。

回答した全大学の一般選抜において学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分の有無の割合を示したものが表 3.80, 図 3.36 である。それらを設置形態別に示したものが表 3.81, 図 3.37, 学部規模別に示したものが表 3.82, 図 3.38 である。

全大学の様子を見ると（表 3.80, 図 3.36）、学力検査以外の評価方法として利用している選抜区分があるという回答が最も多いのは「調査書」であり、全大学の 63.9 % が「ある」と回答してい

る。次いで多いのは「面接・討論等」であり、49.8 %が「ある」と回答している。「ある」の割合が低かったのは「検査」であった。

設置形態別に見ると（表 3.81, 図 3.37), 国立大学では, 「調査書」が 89.5 %と最も多く, 次いで「面接・討論等」が 82.9 %, 「小論文等」が 80.3 %であった。さらに「調査書以外の書面」が 57.9 %, 「検査」が 53.9 %となっており, いずれの項目においても, 50 %以上の回答が得られている。この点から, 国立大学では学力検査以外にも多様な選抜方法が採用されていることが分かる。また, 公立大学では, 「小論文等」が 72.5 %, 「調査書」と「面接・討論等」が 65.0 %となっており, これらの評価方法が中心に採用されていることが分かる。一方で, 私立大学では, 「ある」と回答している割合が国立・公立大学よりも低く, 最も「ある」の回答が多い「調査書」であっても 59.5 %であった。

学部規模別に見ると（表 3.82, 図 3.38), どの学部規模においても「調査書」が最も多いが, 学部規模が大きくなるにしたがって回答割合は 70.9 %から 52.7 %へと減少する傾向がある。次いで多いのは「面接・討論等」であるが, 5 学部以上の大学においては「面接・討論等」よりも「小論文等」の方が回答が多かった。また, 5 学部以上の大学では「検査」が 28.0 %と, それ以外の学部規模の大学に比べて高い割合を示した。

表 3.80: 一般選抜において学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分の有無 (QC-1)

	度数			割合 (%)		
	1. ない	2. ある	計	1. ない	2. ある	計
(a) 調査書	222	393	615	36.1	63.9	100.0
(b) 調査書以外の書面	365	250	615	59.3	40.7	100.0
(c) 検査	498	117	615	81.0	19.0	100.0
(d) 小論文等	351	264	615	57.1	42.9	100.0
(e) 面接・討論等	309	306	615	50.2	49.8	100.0

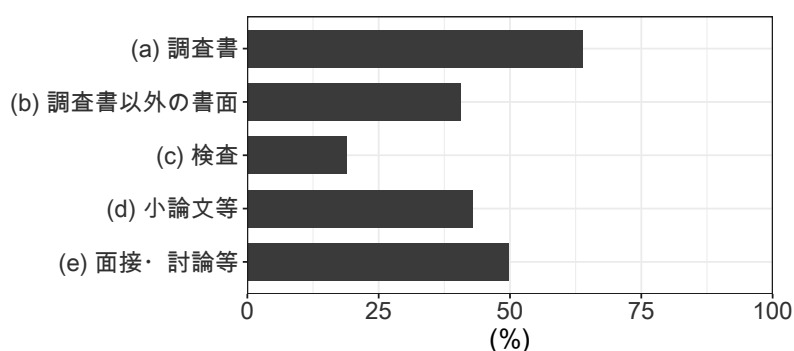


図 3.36: 一般選抜において学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分が「ある」割合 (QC-1)

表 3.81: 一般選抜において学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分の有無（QC-1，設置形態別）

(a) 国立

	度数			割合（％）		
	1. ない	2. ある	計	1. ない	2. ある	計
(a) 調査書	8	68	76	10.5	89.5	100.0
(b) 調査書以外の書面	32	44	76	42.1	57.9	100.0
(c) 検査	35	41	76	46.1	53.9	100.0
(d) 小論文等	15	61	76	19.7	80.3	100.0
(e) 面接・討論等	13	63	76	17.1	82.9	100.0

(b) 公立

	度数			割合（％）		
	1. ない	2. ある	計	1. ない	2. ある	計
(a) 調査書	28	52	80	35.0	65.0	100.0
(b) 調査書以外の書面	49	31	80	61.3	38.8	100.0
(c) 検査	67	13	80	83.8	16.3	100.0
(d) 小論文等	22	58	80	27.5	72.5	100.0
(e) 面接・討論等	28	52	80	35.0	65.0	100.0

(c) 私立

	度数			割合（％）		
	1. ない	2. ある	計	1. ない	2. ある	計
(a) 調査書	186	273	459	40.5	59.5	100.0
(b) 調査書以外の書面	284	175	459	61.9	38.1	100.0
(c) 検査	396	63	459	86.3	13.7	100.0
(d) 小論文等	314	145	459	68.4	31.6	100.0
(e) 面接・討論等	268	191	459	58.4	41.6	100.0

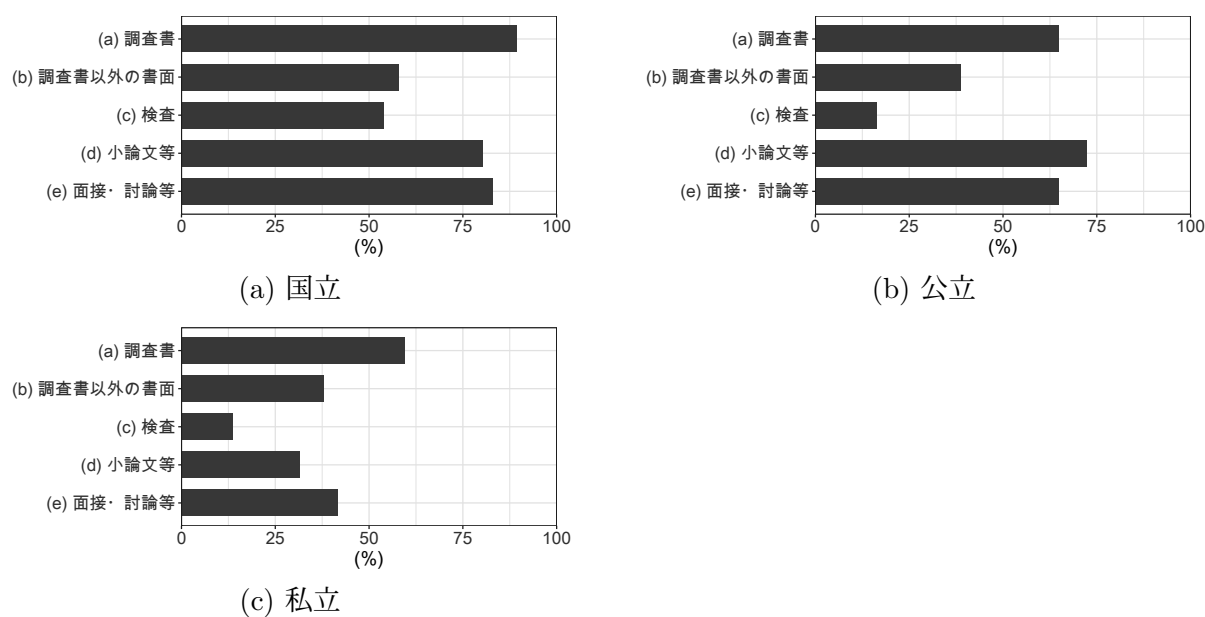


図 3.37: 一般選抜において学力検査以外の評価方法を利用している選別区分が「ある」割合 (QC-1, 設置形態別)

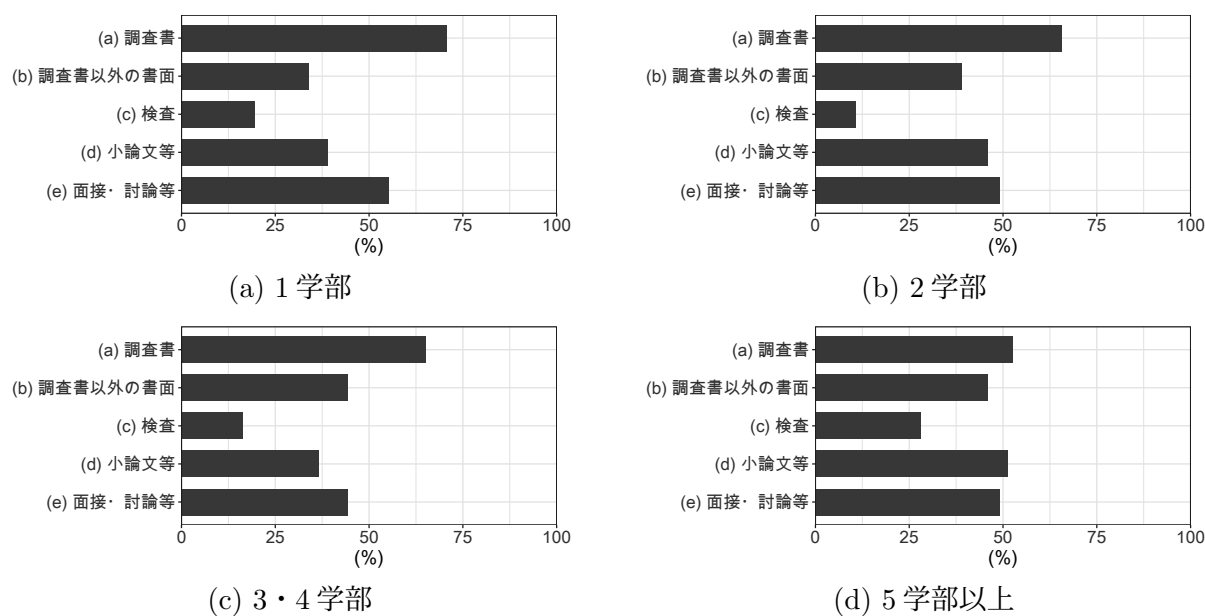


図 3.38: 一般選抜において学力検査以外の評価方法を利用している選別区分が「ある」割合 (QC-1, 学部規模別)

表 3.82: 一般選抜において学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分の有無（QC-1, 学部規模別）

(a)1 学部

	度数			割合 (%)		
	1. ない	2. ある	計	1. ない	2. ある	計
(a) 調査書	52	127	179	29.1	70.9	100.0
(b) 調査書以外の書面	118	61	179	65.9	34.1	100.0
(c) 検査	144	35	179	80.4	19.6	100.0
(d) 小論文等	109	70	179	60.9	39.1	100.0
(e) 面接・討論等	80	99	179	44.7	55.3	100.0

(b)2 学部

	度数			割合 (%)		
	1. ない	2. ある	計	1. ない	2. ある	計
(a) 調査書	44	84	128	34.4	65.6	100.0
(b) 調査書以外の書面	78	50	128	60.9	39.1	100.0
(c) 検査	114	14	128	89.1	10.9	100.0
(d) 小論文等	69	59	128	53.9	46.1	100.0
(e) 面接・討論等	65	63	128	50.8	49.2	100.0

(c)3・4 学部

	度数			割合 (%)		
	1. ない	2. ある	計	1. ない	2. ある	計
(a) 調査書	55	103	158	34.8	65.2	100.0
(b) 調査書以外の書面	88	70	158	55.7	44.3	100.0
(c) 検査	132	26	158	83.5	16.5	100.0
(d) 小論文等	100	58	158	63.3	36.7	100.0
(e) 面接・討論等	88	70	158	55.7	44.3	100.0

(d)5 学部以上

	度数			割合 (%)		
	1. ない	2. ある	計	1. ない	2. ある	計
(a) 調査書	71	79	150	47.3	52.7	100.0
(b) 調査書以外の書面	81	69	150	54.0	46.0	100.0
(c) 検査	108	42	150	72.0	28.0	100.0
(d) 小論文等	73	77	150	48.7	51.3	100.0
(e) 面接・討論等	76	74	150	50.7	49.3	100.0

3.4.2 学力検査以外の評価方法のメリット・デメリットについて

QC-2. 一般選抜での「調査書」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「調査書」を利用していない大学もご回答ください。

QC-3. 一般選抜での「調査書以外の書面」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「調査書以外の書面」を利用していない大学もご回答ください。

QC-4. 一般選抜での「検査」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「検査」を利用していない大学もご回答ください。

QC-5. 一般選抜での「小論文等」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「小論文等」を利用していない大学もご回答ください。

QC-6. 一般選抜での「面接・討論等」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「面接・討論等」を利用していない大学もご回答ください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

- (a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い
- (b) 評価基準の設定が難しい
- (c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい
- (d) 公平に評価するのが難しい
- (e) 評価するための人員が不足している
- (f) 評価するための時間が不足している
- (g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい
- (h) 利用の仕方に関する情報が不足している

設問 QC-2～QC-6 では、「調査書」「調査書以外の書面」「検査」「小論文等」「面接・討論等」のそれぞれについて、項目 (a)～(h) に対して「1. 当てはまらない」～「4. 当てはまる」の4件法で当てはまる程度を尋ねた。

「調査書」について、全大学及び設置形態別の結果を示したものが表 3.83 と図 3.39、学部規模別の結果を示したものが表 3.84 と図 3.40 である。「調査書以外の書面」について、全大学及び設置形態別の結果を示したものが表 3.85 と図 3.41、学部規模別の結果を示したものが表 3.86 と図 3.42 である。「検査」について、全大学及び設置形態別の結果を示したものが表 3.87 と図 3.43、学部規模別の結果を示したものが表 3.88 と図 3.44 である。「小論文等」について、全大学及び設置形態別の結果を示したものが表 3.89 と図 3.45、学部規模別の結果を示したものが表 3.90 と図 3.46 である。「面接・討論等」について、全大学及び設置形態別の結果を示したものが表 3.91 と図 3.47、学部規模別の結果を示したものが表 3.92 と図 3.48 である。なお、表中の「平均」と「標

準偏差」は、「1. 当てはまらない」～「4. 当てはまる」への回答をそれぞれ1～4として計算した値である。設置形態別あるいは学部規模別の(a)～(h)の回答の平均をプロットしたものが、図3.39～図3.48である。

「調査書」については、設置形態別に見ると(表3.83, 図3.39), 「(b) 評価基準の設定が難しい」「(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい」「(d) 公平に評価するのが難しい」を「当てはまる」と回答している国公立大学が多いことが分かった。国立大学では「(d) 公平に評価するのが難しい」と回答している割合が54% (「やや当てはまる」を含めると80%)であり, 「(b) 評価基準の設定が難しい」が51% (「やや当てはまる」を含めると87%)となっていた。また, 公立大学では「(b) 評価基準の設定が難しい」が68% (「やや当てはまる」を含めると86%), 「(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい」が57% (「やや当てはまる」を含めると80%), 「(d) 公平に評価するのが難しい」が59% (「やや当てはまる」を含めると85%)となっていた。一方, 私立大学においてはいずれの項目に対しても「当てはまる」の回答は50%未満であった。国公立大学では, いずれも50%以上の大学が「調査書」を利用しているものの, 評価基準の設定とその合否への反映, 公平な評価に関して課題と認識している大学が多かった。

「小論文等」及び「面接・討論等」について設置形態別に見ると(表3.89, 表3.91), 「(a) 大学の入学者受入方針(アドミッションポリシー)に照らして必要性が高い」と回答している割合がそれぞれ国立大学で55%と67%, 公立大学で57%と61%と, その他の(b)～(h)の項目と比較して高い傾向にあることが分かった。一方, 私立大学では「(f) 評価するための時間が不足している」と回答している割合がそれぞれ30%, 31%であり, 国立大学の回答割合(それぞれ13%, 18%)を上回っていた。

設置形態別あるいは学部規模別の(a)～(h)の回答の平均のプロット(図3.39～図3.48)を見ると, 設置形態別では平均の差が見られる評価方法があるのに対し, 学部規模別では平均の差はそれほどなかった。各評価方法のメリット・デメリットについては, 学部規模による違いよりも, 設置形態による違いが大きいことが分かった。

設置形態別の回答の平均のプロットを見ると, 「調査書」(図3.39)では公立大学がデメリット(項目(b)～(h))の平均が高い傾向が見られた。「調査書以外の書面」(図3.41)については設置形態別の差はほとんどなかった。「検査」(図3.43)については, 公立大学と私立大学の平均は同程度であるのに対し, 国立大学では「(a) 大学の入学者受入方針(アドミッションポリシー)に照らして必要性が高い」の平均が高く, それ以外の項目については平均が低かった。「小論文等」(図3.45)と「面接・討論等」(図3.47)を比べると, 「小論文等」では国立大学と公立大学の「(a) 大学の入学者受入方針(アドミッションポリシー)に照らして必要性が高い」の平均が高いのに対し, 「面接・討論等」では国立・公立・私立のいずれも平均が高かった。

「調査書」についての結果（QC-2）

表 3.83: 「調査書」のメリット・デメリット（QC-2，設置形態別）(1)

(a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	5	14	36	21	76	7	18	47	28	100	2.96	0.85
公立	8	17	31	24	80	10	21	39	30	100	2.89	0.95
私立	40	149	174	96	459	9	32	38	21	100	2.71	0.89
全体	53	180	241	141	615	9	29	39	23	100	2.76	0.90

(b) 評価基準の設定が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	5	5	27	39	76	7	7	36	51	100	3.32	0.86
公立	5	6	15	54	80	6	8	19	68	100	3.48	0.88
私立	31	76	196	156	459	7	17	43	34	100	3.04	0.88
全体	41	87	238	249	615	7	14	39	40	100	3.13	0.89

(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	9	10	26	31	76	12	13	34	41	100	3.04	1.01
公立	6	10	18	46	80	8	13	23	57	100	3.30	0.95
私立	44	86	177	152	459	10	19	39	33	100	2.95	0.95
全体	59	106	221	229	615	10	17	36	37	100	3.01	0.96

(d) 公平に評価するのが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	6	9	20	41	76	8	12	26	54	100	3.26	0.95
公立	5	7	21	47	80	6	9	26	59	100	3.38	0.89
私立	34	68	171	186	459	7	15	37	41	100	3.11	0.92
全体	45	84	212	274	615	7	14	34	45	100	3.16	0.92

(e) 評価するための人員が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	9	11	28	28	76	12	14	37	37	100	2.99	0.99
公立	8	15	23	34	80	10	19	29	43	100	3.04	1.01
私立	67	131	130	131	459	15	29	28	29	100	2.71	1.03
全体	84	157	181	193	615	14	26	29	31	100	2.79	1.03

(f) 評価するための時間が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	10	9	27	30	76	13	12	36	39	100	3.01	1.02
公立	6	18	21	35	80	8	23	26	44	100	3.06	0.98
私立	71	116	126	146	459	15	25	27	32	100	2.76	1.06
全体	87	143	174	211	615	14	23	28	34	100	2.83	1.05

表 3.83: 「調査書」のメリット・デメリット (QC-2, 設置形態別) (2)

(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	8	13	31	24	76	11	17	41	32	100	2.93	0.95
公立	5	16	28	31	80	6	20	35	39	100	3.06	0.91
私立	60	107	174	118	459	13	23	38	26	100	2.76	0.98
全体	73	136	233	173	615	12	22	38	28	100	2.82	0.97

(h) 利用の仕方に関する情報が不足している												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	11	13	32	20	76	14	17	42	26	100	2.80	0.99
公立	7	17	16	40	80	9	21	20	50	100	3.11	1.02
私立	58	115	179	107	459	13	25	39	23	100	2.73	0.96
全体	76	145	227	167	615	12	24	37	27	100	2.79	0.98

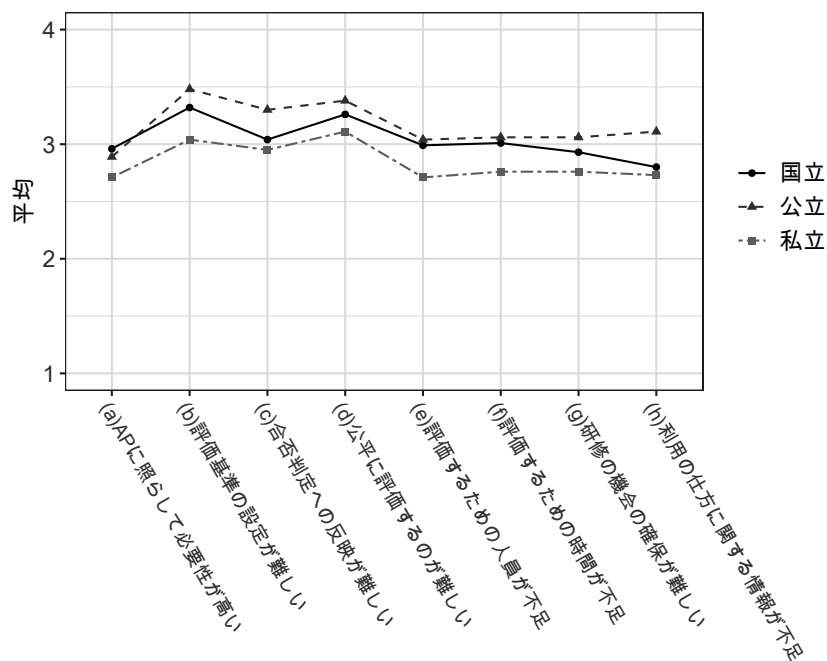


図 3.39: 「調査書」の利用のメリット・デメリット (QC-2, 設置形態別)

表 3.84: 「調査書」のメリット・デメリット (QC-2, 学部規模別) (1)

(a) 大学の入学者受入方針 (アドミッションポリシー) に照らして必要性が高い

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	16	40	74	49	179	9	22	41	27	100	2.87	0.92
2 学部	10	37	47	34	128	8	29	37	27	100	2.82	0.91
3・4 学部	12	47	65	34	158	8	30	41	22	100	2.77	0.87
5 学部以上	12	47	65	34	158	8	30	41	22	100	2.77	0.87

(b) 評価基準の設定が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	15	34	64	66	179	8	19	36	37	100	3.01	0.95
2 学部	10	19	54	45	128	8	15	42	35	100	3.05	0.90
3・4 学部	9	24	67	58	158	6	15	42	37	100	3.10	0.86
5 学部以上	9	24	67	58	158	6	15	42	37	100	3.10	0.86

(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	18	38	64	59	179	10	21	36	33	100	2.92	0.97
2 学部	16	23	48	41	128	13	18	38	32	100	2.89	0.99
3・4 学部	13	29	62	54	158	8	18	39	34	100	2.99	0.92
5 学部以上	13	29	62	54	158	8	18	39	34	100	2.99	0.92

(d) 公平に評価するのが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	16	25	64	74	179	9	14	36	41	100	3.09	0.95
2 学部	10	22	50	46	128	8	17	39	36	100	3.03	0.92
3・4 学部	11	23	56	68	158	7	15	35	43	100	3.15	0.91
5 学部以上	11	23	56	68	158	7	15	35	43	100	3.15	0.91

(e) 評価するための人員が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	27	56	49	47	179	15	31	27	26	100	2.65	1.03
2 学部	20	44	31	33	128	16	34	24	26	100	2.60	1.03
3・4 学部	23	39	50	46	158	15	25	32	29	100	2.75	1.03
5 学部以上	23	39	50	46	158	15	25	32	29	100	2.75	1.03

(f) 評価するための時間が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	28	50	49	52	179	16	28	27	29	100	2.70	1.05
2 学部	19	43	30	36	128	15	34	23	28	100	2.65	1.04
3・4 学部	24	35	48	51	158	15	22	30	32	100	2.80	1.05
5 学部以上	24	35	48	51	158	15	22	30	32	100	2.80	1.05

表 3.84: 「調査書」のメリット・デメリット (QC-2, 学部規模別) (2)

(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	22	43	73	41	179	12	24	41	23	100	2.74	0.95
2 学部	19	32	46	31	128	15	25	36	24	100	2.70	1.00
3・4 学部	19	36	55	48	158	12	23	35	30	100	2.84	0.99
5 学部以上	19	36	55	48	158	12	23	35	30	100	2.84	0.99

(h) 利用の仕方に関する情報が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	21	48	66	44	179	12	27	37	25	100	2.74	0.96
2 学部	17	31	50	30	128	13	24	39	23	100	2.73	0.97
3・4 学部	24	38	48	48	158	15	24	30	30	100	2.76	1.05
5 学部以上	24	38	48	48	158	15	24	30	30	100	2.76	1.05

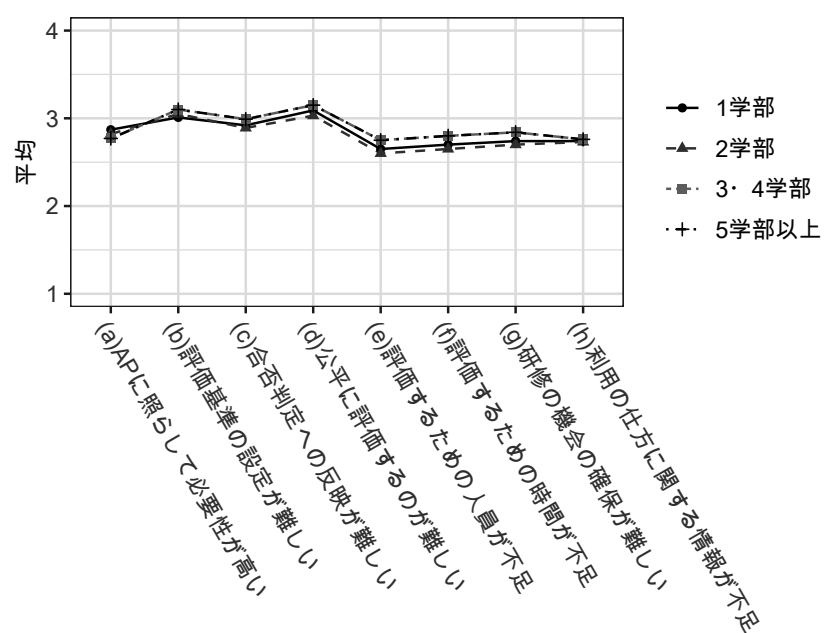


図 3.40: 「調査書」の利用のメリット・デメリット (QC-2, 学部規模別)

「調査書以外の書面」についての結果（QC-3）

表 3.85: 「調査書以外の書面」のメリット・デメリット（QC-3，設置形態別）(1)

(a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	11	16	24	25	76	14	21	32	33	100	2.83	1.04
公立	18	19	20	23	80	23	24	25	29	100	2.60	1.12
私立	60	109	182	108	459	13	24	40	24	100	2.74	0.96
全体	89	144	226	156	615	14	23	37	25	100	2.73	1.00

(b) 評価基準の設定が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	12	7	22	35	76	16	9	29	46	100	3.05	1.09
公立	14	9	20	37	80	18	11	25	46	100	3.00	1.13
私立	49	104	164	142	459	11	23	36	31	100	2.87	0.97
全体	75	120	206	214	615	12	20	33	35	100	2.91	1.01

(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	14	11	22	29	76	18	14	29	38	100	2.87	1.12
公立	15	11	20	34	80	19	14	25	43	100	2.91	1.14
私立	58	118	146	137	459	13	26	32	30	100	2.79	1.01
全体	87	140	188	200	615	14	23	31	33	100	2.81	1.04

(d) 公平に評価するのが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	12	13	20	31	76	16	17	26	41	100	2.92	1.10
公立	13	10	20	37	80	16	13	25	46	100	3.01	1.11
私立	50	109	152	148	459	11	24	33	32	100	2.87	0.99
全体	75	132	192	216	615	12	21	31	35	100	2.89	1.02

(e) 評価するための人員が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	15	9	27	25	76	20	12	36	33	100	2.82	1.10
公立	17	16	17	30	80	21	20	21	38	100	2.75	1.17
私立	77	126	120	136	459	17	27	26	30	100	2.69	1.07
全体	109	151	164	191	615	18	25	27	31	100	2.71	1.09

(f) 評価するための時間が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	15	10	23	28	76	20	13	30	37	100	2.84	1.12
公立	16	17	17	30	80	20	21	21	38	100	2.76	1.15
私立	79	119	110	151	459	17	26	24	33	100	2.73	1.10
全体	110	146	150	209	615	18	24	24	34	100	2.74	1.11

表 3.85: 「調査書以外の書面」のメリット・デメリット (QC-3, 設置形態別) (2)

(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	14	10	29	23	76	18	13	38	30	100	2.80	1.06
公立	16	15	22	27	80	20	19	28	34	100	2.75	1.12
私立	74	110	155	120	459	16	24	34	26	100	2.70	1.03
全体	104	135	206	170	615	17	22	33	28	100	2.72	1.05

(h) 利用の仕方に関する情報が不足している												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	16	16	24	20	76	21	21	32	26	100	2.63	1.09
公立	15	17	19	29	80	19	21	24	36	100	2.78	1.13
私立	77	113	148	121	459	17	25	32	26	100	2.68	1.04
全体	108	146	191	170	615	18	24	31	28	100	2.69	1.06

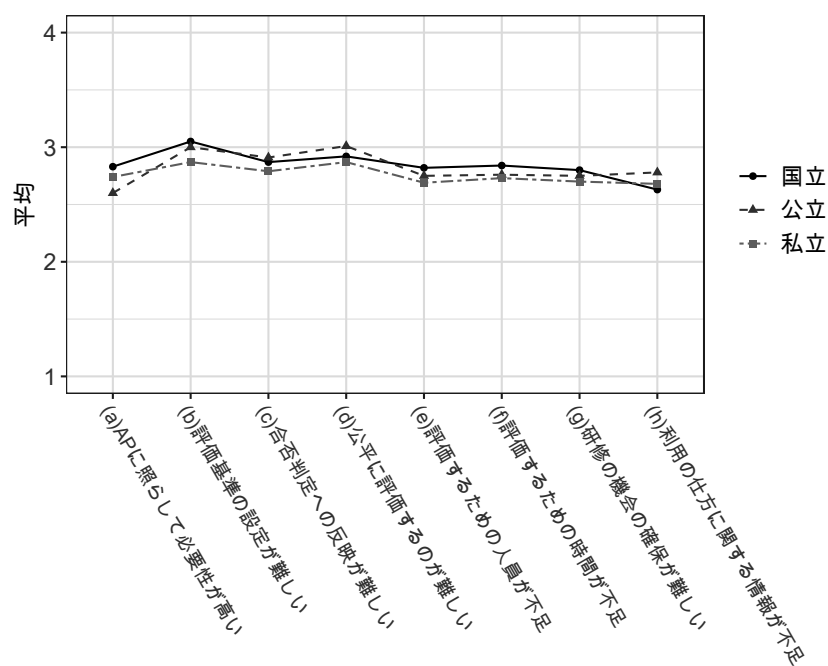


図 3.41: 「調査書以外の書面」の利用のメリット・デメリット (QC-3, 設置形態別)

表 3.86: 「調査書以外の書面」のメリット・デメリット (QC-3, 学部規模別) (1)

(a) 大学の入学者受入方針 (アドミッションポリシー) に照らして必要性が高い

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	35	39	60	45	179	20	22	34	25	100	2.64	1.06
2 学部	24	25	44	35	128	19	20	34	27	100	2.70	1.06
3・4 学部	15	39	66	38	158	9	25	42	24	100	2.80	0.91
5 学部以上	15	39	66	38	158	9	25	42	24	100	2.80	0.91

(b) 評価基準の設定が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	27	38	53	61	179	15	21	30	34	100	2.83	1.06
2 学部	18	21	42	47	128	14	16	33	37	100	2.92	1.04
3・4 学部	13	34	63	48	158	8	22	40	30	100	2.92	0.92
5 学部以上	13	34	63	48	158	8	22	40	30	100	2.92	0.92

(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	28	46	46	59	179	16	26	26	33	100	2.76	1.07
2 学部	21	20	43	44	128	16	16	34	34	100	2.86	1.07
3・4 学部	16	42	53	47	158	10	27	34	30	100	2.83	0.97
5 学部以上	16	42	53	47	158	10	27	34	30	100	2.83	0.97

(d) 公平に評価するのが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	27	40	55	57	179	15	22	31	32	100	2.79	1.05
2 学部	17	23	36	52	128	13	18	28	41	100	2.96	1.06
3・4 学部	16	36	53	53	158	10	23	34	34	100	2.91	0.98
5 学部以上	16	36	53	53	158	10	23	34	34	100	2.91	0.98

(e) 評価するための人員が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	37	51	43	48	179	21	28	24	27	100	2.57	1.09
2 学部	26	36	26	40	128	20	28	20	31	100	2.63	1.13
3・4 学部	28	31	46	53	158	18	20	29	34	100	2.78	1.09
5 学部以上	28	31	46	53	158	18	20	29	34	100	2.78	1.09

(f) 評価するための時間が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	37	49	40	53	179	21	27	22	30	100	2.61	1.12
2 学部	27	37	22	42	128	21	29	17	33	100	2.62	1.15
3・4 学部	27	31	44	56	158	17	20	28	35	100	2.82	1.10
5 学部以上	27	31	44	56	158	17	20	28	35	100	2.82	1.10

表 3.86: 「調査書以外の書面」のメリット・デメリット (QC-3, 学部規模別) (2)

(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	32	44	62	41	179	18	25	35	23	100	2.63	1.02
2 学部	28	26	38	36	128	22	20	30	28	100	2.64	1.11
3・4 学部	25	32	52	49	158	16	20	33	31	100	2.79	1.05
5 学部以上	25	32	52	49	158	16	20	33	31	100	2.79	1.05

(h) 利用の仕方に関する情報が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	34	46	53	46	179	19	26	30	26	100	2.62	1.06
2 学部	25	29	37	37	128	20	23	29	29	100	2.67	1.09
3・4 学部	29	36	46	47	158	18	23	29	30	100	2.70	1.08
5 学部以上	29	36	46	47	158	18	23	29	30	100	2.70	1.08

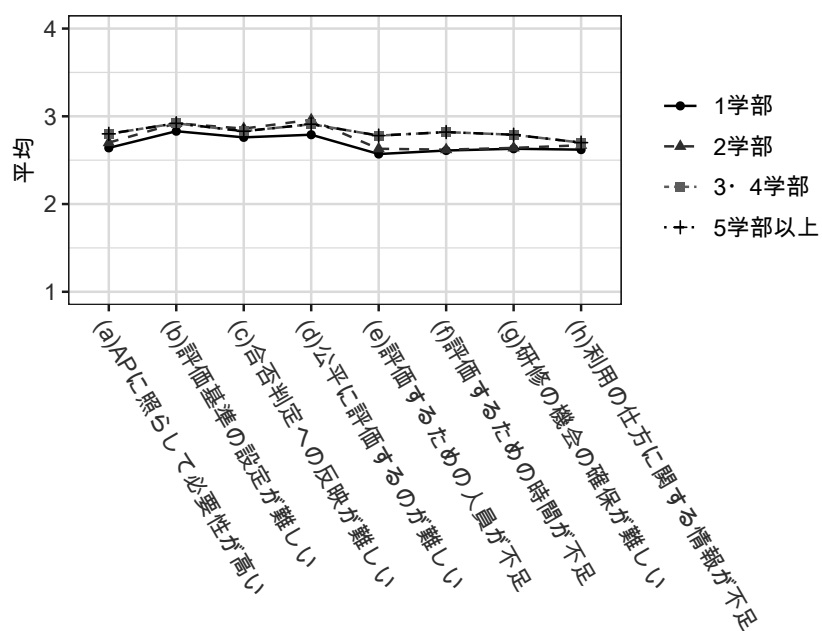


図 3.42: 「調査書以外の書面」の利用のメリット・デメリット (QC-3, 学部規模別)

「検査」についての結果（QC-4）

表 3.87: 「検査」のメリット・デメリット（QC-4, 設置形態別）(1)

(a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	22	9	7	38	76	29	12	9	50	100	2.80	1.32
公立	35	23	4	18	80	44	29	5	23	100	2.06	1.18
私立	114	159	109	77	459	25	35	24	17	100	2.32	1.03
全体	171	191	120	133	615	28	31	20	22	100	2.35	1.10

(b) 評価基準の設定が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	27	23	12	14	76	36	30	16	18	100	2.17	1.10
公立	29	16	10	25	80	36	20	13	31	100	2.39	1.26
私立	111	116	130	102	459	24	25	28	22	100	2.49	1.09
全体	167	155	152	141	615	27	25	25	23	100	2.43	1.12

(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	31	27	6	12	76	41	36	8	16	100	1.99	1.06
公立	31	14	10	25	80	39	18	13	31	100	2.36	1.28
私立	118	111	126	104	459	26	24	27	23	100	2.47	1.10
全体	180	152	142	141	615	29	25	23	23	100	2.40	1.13

(d) 公平に評価するのが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	28	25	9	14	76	37	33	12	18	100	2.12	1.10
公立	32	15	8	25	80	40	19	10	31	100	2.33	1.28
私立	122	119	116	102	459	27	26	25	22	100	2.43	1.11
全体	182	159	133	141	615	30	26	22	23	100	2.38	1.13

(e) 評価するための人員が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	22	22	15	17	76	29	29	20	22	100	2.36	1.12
公立	25	20	11	24	80	31	25	14	30	100	2.42	1.21
私立	124	114	104	117	459	27	25	23	25	100	2.47	1.14
全体	171	156	130	158	615	28	25	21	26	100	2.45	1.15

(f) 評価するための時間が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	25	21	14	16	76	33	28	18	21	100	2.28	1.13
公立	25	20	12	23	80	31	25	15	29	100	2.41	1.20
私立	125	104	104	126	459	27	23	23	27	100	2.50	1.16
全体	175	145	130	165	615	28	24	21	27	100	2.46	1.16

表 3.87: 「検査」のメリット・デメリット (QC-4, 設置形態別) (2)

(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	22	21	17	16	76	29	28	22	21	100	2.36	1.11
公立	26	15	13	26	80	33	19	16	33	100	2.49	1.24
私立	117	99	141	102	459	25	22	31	22	100	2.50	1.10
全体	165	135	171	144	615	27	22	28	23	100	2.48	1.12

(h) 利用の仕方に関する情報が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	28	21	11	16	76	37	28	14	21	100	2.20	1.15
公立	28	18	3	31	80	35	23	4	39	100	2.46	1.31
私立	116	89	130	124	459	25	19	28	27	100	2.57	1.14
全体	172	128	144	171	615	28	21	23	28	100	2.51	1.17

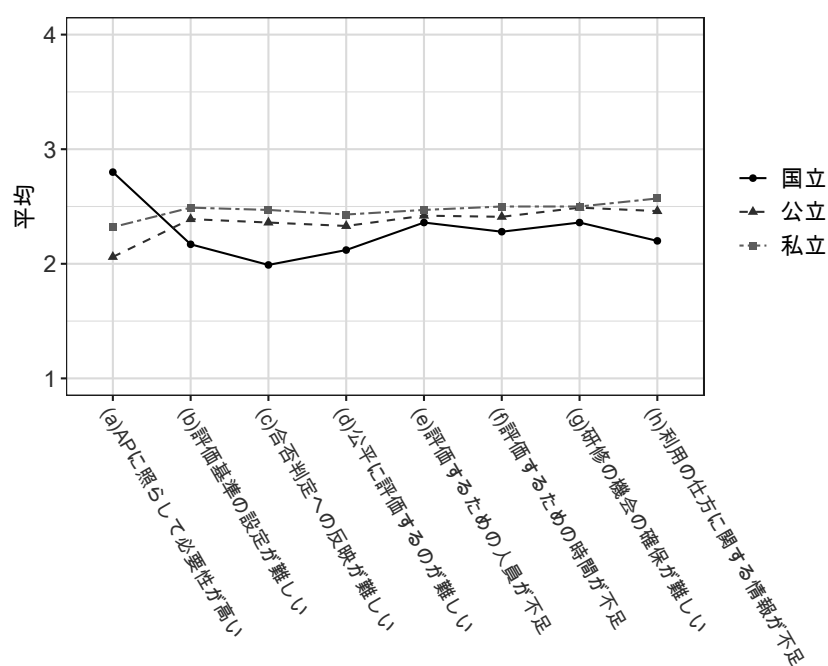


図 3.43: 「検査」の利用のメリット・デメリット (QC-4, 設置形態別)

表 3.88: 「検査」のメリット・デメリット (QC-4, 学部規模別) (1)

(a) 大学の入学者受入方針 (アドミッションポリシー) に照らして必要性が高い

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	66	44	32	37	179	37	25	18	21	100	2.22	1.15
2 学部	39	43	22	24	128	30	34	17	19	100	2.24	1.08
3・4 学部	38	50	36	34	158	24	32	23	22	100	2.42	1.07
5 学部以上	38	50	36	34	158	24	32	23	22	100	2.42	1.07

(b) 評価基準の設定が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	58	39	45	37	179	32	22	25	21	100	2.34	1.13
2 学部	38	25	30	35	128	30	20	23	27	100	2.48	1.18
3・4 学部	36	44	44	34	158	23	28	28	22	100	2.48	1.07
5 学部以上	36	44	44	34	158	23	28	28	22	100	2.48	1.07

(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	64	39	39	37	179	36	22	22	21	100	2.27	1.15
2 学部	40	24	30	34	128	31	19	23	27	100	2.45	1.18
3・4 学部	38	42	43	35	158	24	27	27	22	100	2.47	1.08
5 学部以上	38	42	43	35	158	24	27	27	22	100	2.47	1.08

(d) 公平に評価するのが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	63	40	36	40	179	35	22	20	22	100	2.30	1.17
2 学部	38	28	28	34	128	30	22	22	27	100	2.45	1.17
3・4 学部	42	44	39	33	158	27	28	25	21	100	2.40	1.09
5 学部以上	42	44	39	33	158	27	28	25	21	100	2.40	1.09

(e) 評価するための人員が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	65	41	28	45	179	36	23	16	25	100	2.30	1.20
2 学部	39	34	24	31	128	30	27	19	24	100	2.37	1.15
3・4 学部	40	42	38	38	158	25	27	24	24	100	2.47	1.11
5 学部以上	40	42	38	38	158	25	27	24	24	100	2.47	1.11

(f) 評価するための時間が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	66	40	27	46	179	37	22	15	26	100	2.30	1.21
2 学部	40	29	25	34	128	31	23	20	27	100	2.41	1.18
3・4 学部	39	39	41	39	158	25	25	26	25	100	2.51	1.11
5 学部以上	39	39	41	39	158	25	25	26	25	100	2.51	1.11

表 3.88: 「検査」のメリット・デメリット (QC-4, 学部規模別) (2)

(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	56	37	45	41	179	31	21	25	23	100	2.40	1.15
2 学部	38	25	34	31	128	30	20	27	24	100	2.45	1.15
3・4 学部	41	38	45	34	158	26	24	28	22	100	2.46	1.09
5 学部以上	41	38	45	34	158	26	24	28	22	100	2.46	1.09

(h) 利用の仕方に関する情報が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	58	33	41	47	179	32	18	23	26	100	2.43	1.19
2 学部	38	24	29	37	128	30	19	23	29	100	2.51	1.19
3・4 学部	42	34	40	42	158	27	22	25	27	100	2.52	1.15
5 学部以上	42	34	40	42	158	27	22	25	27	100	2.52	1.15

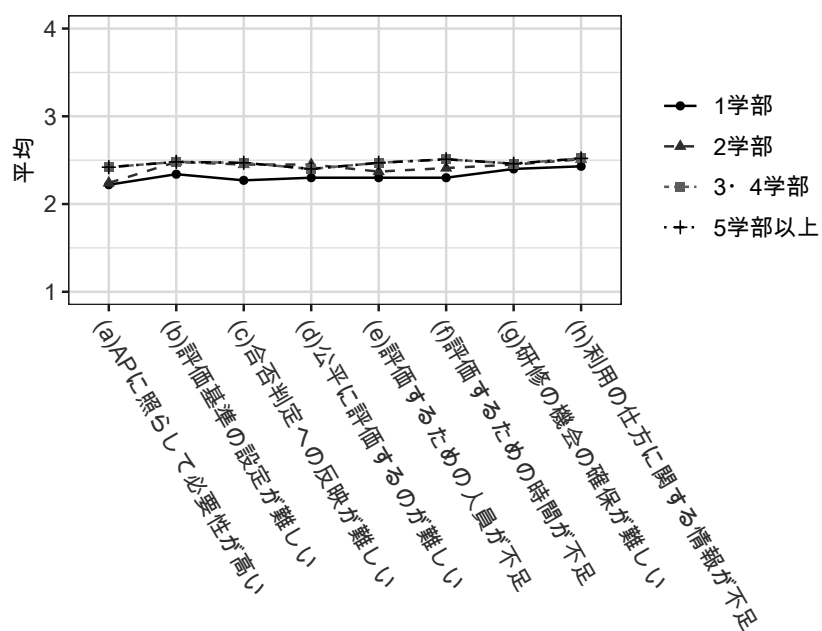


図 3.44: 「検査」の利用のメリット・デメリット (QC-4, 学部規模別)

「小論文等」についての結果（QC-5）

表 3.89: 「小論文等」のメリット・デメリット（QC-5, 設置形態別）(1)

(a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	8	7	19	42	76	11	9	25	55	100	3.25	1.00
公立	9	8	17	46	80	11	10	21	57	100	3.25	1.03
私立	74	117	151	117	459	16	25	33	25	100	2.68	1.03
全体	91	132	187	205	615	15	21	30	33	100	2.82	1.05

(b) 評価基準の設定が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	18	24	24	10	76	24	32	32	13	100	2.34	0.98
公立	20	32	18	10	80	25	40	23	13	100	2.23	0.96
私立	106	146	146	61	459	23	32	32	13	100	2.35	0.98
全体	144	202	188	81	615	23	33	31	13	100	2.33	0.98

(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	30	29	13	4	76	39	38	17	5	100	1.88	0.87
公立	22	38	11	9	80	28	48	14	11	100	2.09	0.92
私立	125	173	110	51	459	27	38	24	11	100	2.19	0.96
全体	177	240	134	64	615	29	39	22	10	100	2.14	0.95

(d) 公平に評価するのが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	18	33	18	7	76	24	43	24	9	100	2.18	0.90
公立	23	30	19	8	80	29	38	24	10	100	2.15	0.95
私立	110	170	114	65	459	24	37	25	14	100	2.29	0.98
全体	151	233	151	80	615	25	38	25	13	100	2.26	0.97

(e) 評価するための人員が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	19	22	25	10	76	25	29	33	13	100	2.34	0.99
公立	18	29	17	16	80	23	36	21	20	100	2.39	1.04
私立	113	93	126	127	459	25	20	27	28	100	2.58	1.14
全体	150	144	168	153	615	24	23	27	25	100	2.53	1.11

(f) 評価するための時間が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	22	19	25	10	76	29	25	33	13	100	2.30	1.03
公立	18	29	16	17	80	23	36	20	21	100	2.40	1.06
私立	117	92	113	137	459	25	20	25	30	100	2.59	1.16
全体	157	140	154	164	615	26	23	25	27	100	2.53	1.14

表 3.89: 「小論文等」のメリット・デメリット (QC-5, 設置形態別) (2)

(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	19	23	24	10	76	25	30	32	13	100	2.33	0.99
公立	14	29	21	16	80	18	36	26	20	100	2.49	1.00
私立	115	124	139	81	459	25	27	30	18	100	2.41	1.05
全体	148	176	184	107	615	24	29	30	17	100	2.41	1.03

(h) 利用の仕方に関する情報が不足している												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	27	29	13	7	76	36	38	17	9	100	2.00	0.95
公立	23	38	6	13	80	29	48	8	16	100	2.11	1.00
私立	131	152	107	69	459	29	33	23	15	100	2.25	1.03
全体	181	219	126	89	615	29	36	20	14	100	2.20	1.02

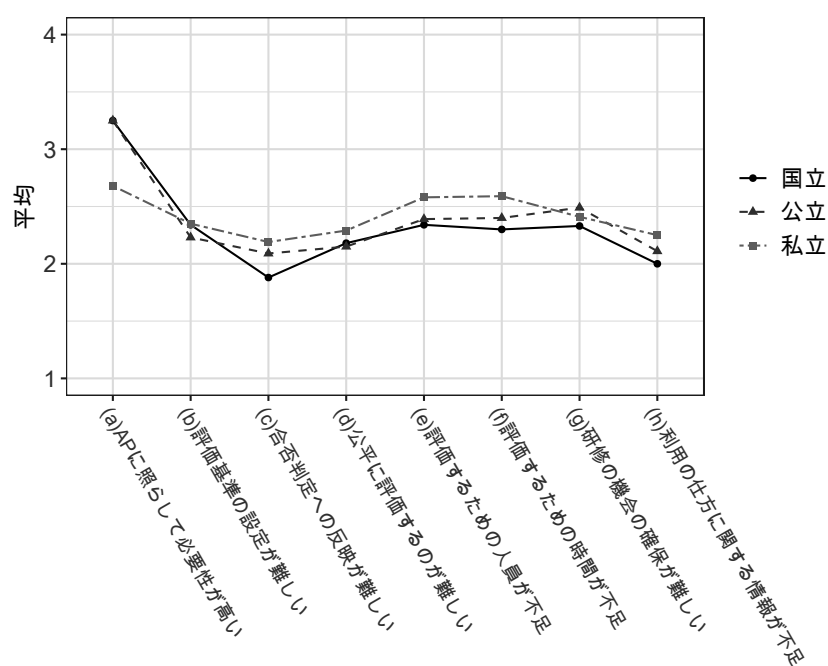


図 3.45: 「小論文等」の利用のメリット・デメリット (QC-5, 設置形態別)

表 3.90: 「小論文等」のメリット・デメリット (QC-5, 学部規模別) (1)

(a) 大学の入学者受入方針 (アドミッションポリシー) に照らして必要性が高い

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	35	33	55	56	179	20	18	31	31	100	2.74	1.10
2 学部	17	28	36	47	128	13	22	28	37	100	2.88	1.05
3・4 学部	27	36	47	48	158	17	23	30	30	100	2.73	1.07
5 学部以上	27	36	47	48	158	17	23	30	30	100	2.73	1.07

(b) 評価基準の設定が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	52	60	48	19	179	29	34	27	11	100	2.19	0.97
2 学部	33	33	44	18	128	26	26	34	14	100	2.37	1.01
3・4 学部	32	56	50	20	158	20	35	32	13	100	2.37	0.94
5 学部以上	32	56	50	20	158	20	35	32	13	100	2.37	0.94

(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	55	74	35	15	179	31	41	20	8	100	2.06	0.91
2 学部	40	42	28	18	128	31	33	22	14	100	2.19	1.03
3・4 学部	45	65	35	13	158	28	41	22	8	100	2.10	0.91
5 学部以上	45	65	35	13	158	28	41	22	8	100	2.10	0.91

(d) 公平に評価するのが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	48	69	43	19	179	27	39	24	11	100	2.18	0.95
2 学部	34	46	29	19	128	27	36	23	15	100	2.26	1.01
3・4 学部	39	58	43	18	158	25	37	27	11	100	2.25	0.95
5 学部以上	39	58	43	18	158	25	37	27	11	100	2.25	0.95

(e) 評価するための人員が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	47	43	55	34	179	26	24	31	19	100	2.42	1.07
2 学部	35	27	33	33	128	27	21	26	26	100	2.50	1.15
3・4 学部	41	35	42	40	158	26	22	27	25	100	2.51	1.13
5 学部以上	41	35	42	40	158	26	22	27	25	100	2.51	1.13

(f) 評価するための時間が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	50	45	48	36	179	28	25	27	20	100	2.39	1.10
2 学部	35	28	28	37	128	27	22	22	29	100	2.52	1.17
3・4 学部	40	34	43	41	158	25	22	27	26	100	2.54	1.13
5 学部以上	40	34	43	41	158	25	22	27	26	100	2.54	1.13

表 3.90: 「小論文等」のメリット・デメリット (QC-5, 学部規模別) (2)

(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	47	45	62	25	179	26	25	35	14	100	2.36	1.02
2 学部	34	31	37	26	128	27	24	29	20	100	2.43	1.09
3・4 学部	39	49	45	25	158	25	31	28	16	100	2.35	1.02
5 学部以上	39	49	45	25	158	25	31	28	16	100	2.35	1.02

(h) 利用の仕方に関する情報が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	57	67	33	22	179	32	37	18	12	100	2.11	0.99
2 学部	40	45	22	21	128	31	35	17	16	100	2.19	1.05
3・4 学部	47	53	37	21	158	30	34	23	13	100	2.20	1.01
5 学部以上	47	53	37	21	158	30	34	23	13	100	2.20	1.01

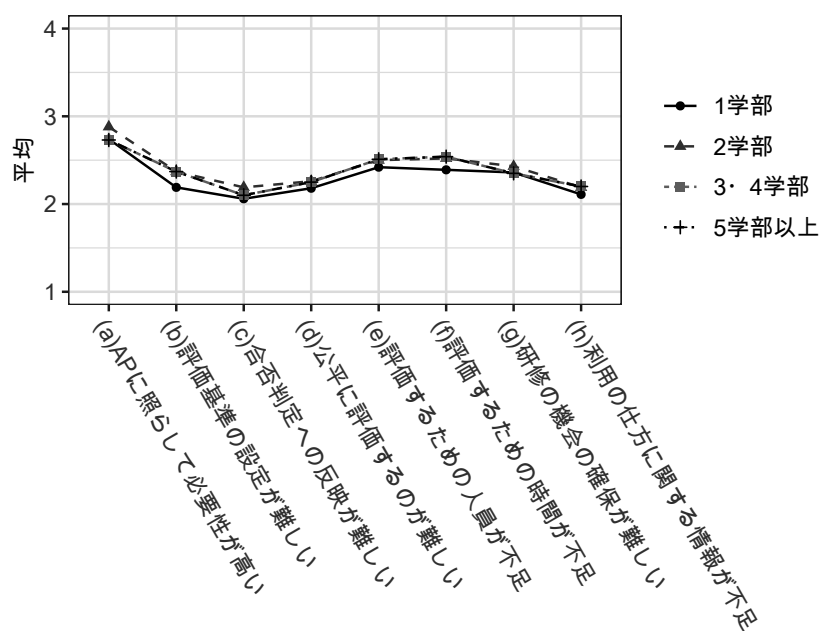


図 3.46: 「小論文等」の利用のメリット・デメリット (QC-5, 学部規模別)

「面接・討論等」についての結果（QC-6）

表 3.91: 「面接・討論等」のメリット・デメリット（QC-6, 設置形態別）(1)

(a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	8	3	14	51	76	11	4	18	67	100	3.42	0.98
公立	12	6	13	49	80	15	8	16	61	100	3.24	1.11
私立	42	76	139	202	459	9	17	30	44	100	3.09	0.98
全体	62	85	166	302	615	10	14	27	49	100	3.15	1.00

(b) 評価基準の設定が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	16	21	28	11	76	21	28	37	14	100	2.45	0.98
公立	17	27	20	16	80	21	34	25	20	100	2.44	1.03
私立	98	157	139	65	459	21	34	30	14	100	2.37	0.97
全体	131	205	187	92	615	21	33	30	15	100	2.39	0.98

(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	25	27	18	6	76	33	36	24	8	100	2.07	0.94
公立	20	32	14	14	80	25	40	18	18	100	2.28	1.02
私立	115	175	99	70	459	25	38	22	15	100	2.27	1.00
全体	160	234	131	90	615	26	38	21	15	100	2.25	1.00

(d) 公平に評価するのが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	16	22	28	10	76	21	29	37	13	100	2.42	0.96
公立	16	28	22	14	80	20	35	28	18	100	2.42	1.00
私立	98	164	121	76	459	21	36	26	17	100	2.38	1.00
全体	130	214	171	100	615	21	35	28	16	100	2.39	0.99

(e) 評価するための人員が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	15	18	27	16	76	20	24	36	21	100	2.58	1.03
公立	18	25	15	22	80	23	31	19	28	100	2.51	1.12
私立	103	97	123	136	459	22	21	27	30	100	2.64	1.13
全体	136	140	165	174	615	22	23	27	28	100	2.61	1.12

(f) 評価するための時間が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	17	16	29	14	76	22	21	38	18	100	2.53	1.03
公立	21	23	13	23	80	26	29	16	29	100	2.48	1.16
私立	106	106	105	142	459	23	23	23	31	100	2.62	1.15
全体	144	145	147	179	615	23	24	24	29	100	2.59	1.14

表 3.91: 「面接・討論等」のメリット・デメリット (QC-6, 設置形態別) (2)

(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	17	22	23	14	76	22	29	30	18	100	2.45	1.03
公立	16	30	18	16	80	20	38	23	20	100	2.42	1.02
私立	109	131	133	86	459	24	29	29	19	100	2.43	1.05
全体	142	183	174	116	615	23	30	28	19	100	2.43	1.04

(h) 利用の仕方に関する情報が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	27	28	12	9	76	36	37	16	12	100	2.04	0.99
公立	23	34	8	15	80	29	43	10	19	100	2.19	1.05
私立	127	153	103	76	459	28	33	22	17	100	2.28	1.04
全体	177	215	123	100	615	29	35	20	16	100	2.24	1.04

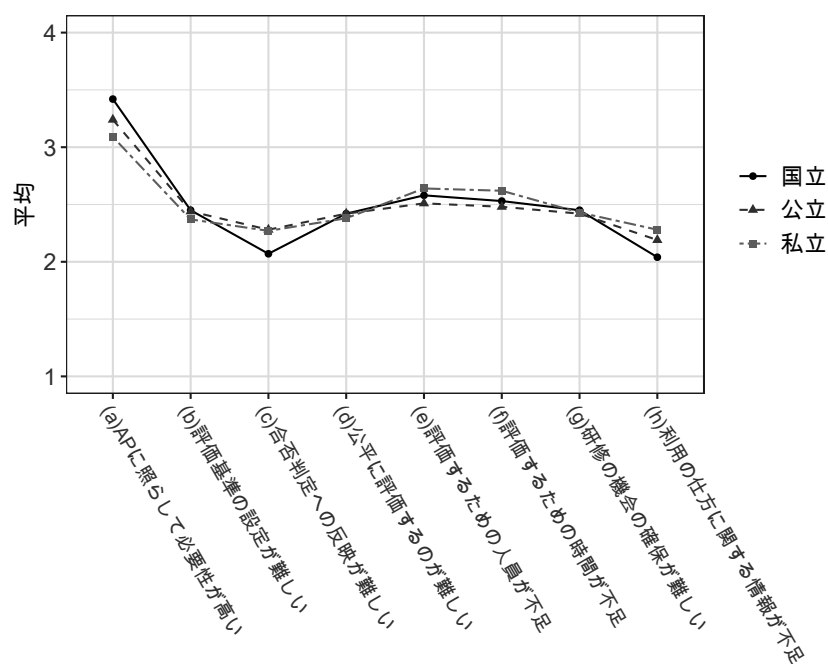


図 3.47: 「面接・討論等」の利用のメリット・デメリット (QC-6, 設置形態別)

表 3.92: 「面接・討論等」のメリット・デメリット (QC-6, 学部規模別) (1)

(a) 大学の入学者受入方針 (アドミッションポリシー) に照らして必要性が高い

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	21	13	39	106	179	12	7	22	59	100	3.28	1.03
2 学部	14	19	30	65	128	11	15	23	51	100	3.14	1.04
3・4 学部	18	23	45	72	158	11	15	28	46	100	3.08	1.02
5 学部以上	18	23	45	72	158	11	15	28	46	100	3.08	1.02

(b) 評価基準の設定が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	39	69	52	19	179	22	39	29	11	100	2.28	0.92
2 学部	28	41	35	24	128	22	32	27	19	100	2.43	1.03
3・4 学部	39	51	49	19	158	25	32	31	12	100	2.30	0.97
5 学部以上	39	51	49	19	158	25	32	31	12	100	2.30	0.97

(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	47	80	33	19	179	26	45	18	11	100	2.13	0.92
2 学部	36	46	20	26	128	28	36	16	20	100	2.28	1.08
3・4 学部	44	57	36	21	158	28	36	23	13	100	2.22	1.00
5 学部以上	44	57	36	21	158	28	36	23	13	100	2.22	1.00

(d) 公平に評価するのが難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	37	71	53	18	179	21	40	30	10	100	2.29	0.91
2 学部	29	48	24	27	128	23	38	19	21	100	2.38	1.05
3・4 学部	37	54	42	25	158	23	34	27	16	100	2.35	1.01
5 学部以上	37	54	42	25	158	23	34	27	16	100	2.35	1.01

(e) 評価するための人員が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	43	55	45	36	179	24	31	25	20	100	2.41	1.06
2 学部	30	27	35	36	128	23	21	27	28	100	2.60	1.13
3・4 学部	38	33	38	49	158	24	21	24	31	100	2.62	1.16
5 学部以上	38	33	38	49	158	24	21	24	31	100	2.62	1.16

(f) 評価するための時間が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	44	54	43	38	179	25	30	24	21	100	2.42	1.08
2 学部	32	31	27	38	128	25	24	21	30	100	2.55	1.16
3・4 学部	42	34	34	48	158	27	22	22	30	100	2.56	1.18
5 学部以上	42	34	34	48	158	27	22	22	30	100	2.56	1.18

表 3.92: 「面接・討論等」のメリット・デメリット (QC-6, 学部規模別) (2)

(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	49	50	56	24	179	27	28	31	13	100	2.31	1.01
2 学部	31	34	40	23	128	24	27	31	18	100	2.43	1.04
3・4 学部	38	53	33	34	158	24	34	21	22	100	2.40	1.07
5 学部以上	38	53	33	34	158	24	34	21	22	100	2.40	1.07

(h) 利用の仕方に関する情報が不足している

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	55	70	30	24	179	31	39	17	13	100	2.13	1.00
2 学部	40	44	24	20	128	31	34	19	16	100	2.19	1.04
3・4 学部	47	52	33	26	158	30	33	21	16	100	2.24	1.05
5 学部以上	47	52	33	26	158	30	33	21	16	100	2.24	1.05

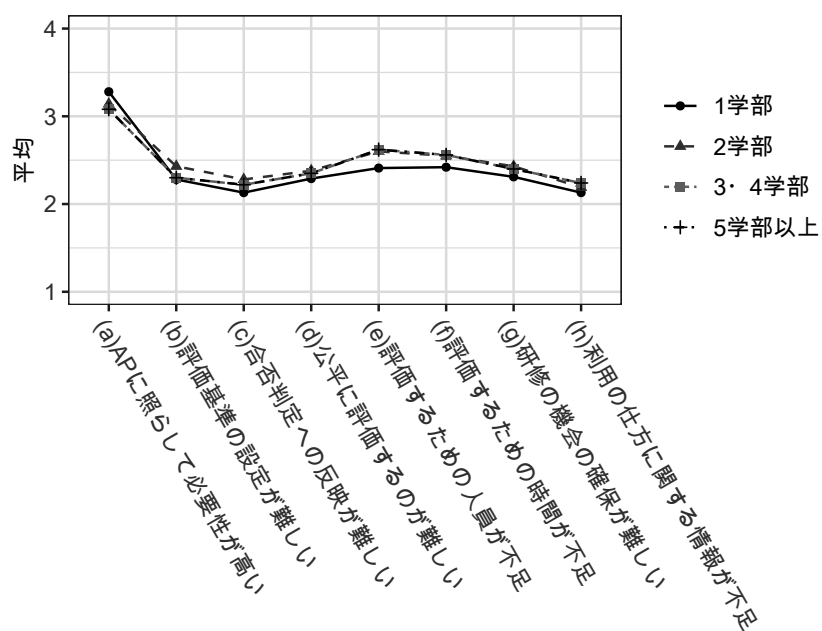


図 3.48: 「面接・討論等」の利用のメリット・デメリット (QC-6, 学部規模別)

一般選抜での学力検査以外の評価方法の「ある」「ない」の回答別の分析（QC-2～6）

設問 QC-2～QC-6 では、「調査書」「調査書以外の書面」「検査」「小論文等」「面接・討論等」のそれぞれについてメリット・デメリットを尋ねたが、各評価方法を利用しているかどうかによって回答に違いがあるかもしれない。そこで、設問 QC-1 の回答を元に各評価方法ごとに利用が「ない」大学と利用が「ある」大学とに分け、それぞれの回答割合を集計した。

各評価方法について回答割合を表で示したものと、その平均をプロットしたものを示す。それぞれ、「調査書」については表 3.93 と図 3.49, 「調査書以外の書面」については表 3.94 と図 3.50, 「検査」については表 3.95 と図 3.51, 「小論文等」については表 3.96 と図 3.52, 「面接・討論等」については表 3.97 と図 3.53 である。

まず、「調査書」の利用について利用している選抜区分が「ない」と回答した大学に着目する（表 3.93）。このような大学は 55 % が「(d) 公平に評価するのが難しい」と回答しており、次いで 51 % が「(b) 評価基準の設定が難しい」、50 % が「(f) 評価するための時間が不足している」と回答している。一方で、「調査書」の利用について「ある」と回答した大学では、上記の (b)(d)(f) はいずれも 40 % よりも低く、「ない」と回答した大学ほどには課題として考えられていないことが分かった。

次に、「調査書以外の書面」の利用について「ない」と回答した大学は、「(a) 大学の入学者受入方針に照らして必要性が高い」以外の (b)～(h) の項目すべてに「4. 当てはまる」と回答する割合が最も高いという傾向が見られた。一方で、「ある」と回答した大学は、(a) 以外は「2. あまり当てはまらない」に回答する割合が最も高かった。

「検査」「小論文等」「面接・討論等」については、それぞれ「ない」と回答した大学では回答傾向が分かれているが、「ある」と回答した大学では「1. 当てはまらない」と「2. あまり当てはまらない」に回答している割合が高く、(a) の回答割合が「検査」では 74 %, 「小論文等」では 64 %, 「面接・討論等」では 77 % と高い傾向が見られた。

回答の平均のプロットを比較すると（図 3.49～図 3.53）, 「ある」と回答した大学と「ない」と回答した大学の平均の差は評価方法ごとに様々であるが、いずれの評価方法においても、(a) については「ある」と回答した大学の平均値が高く、それ以外の (b)～(h) の項目に対しては「ない」と回答した大学の平均値が高かった。

表 3.93: 「調査書」の利用の有無別のメリット・デメリット (QC-2)

1. ない												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
(a)	42	90	68	22	222	19	41	31	10	100	2.32	0.89
(b)	16	17	76	113	222	7	8	34	51	100	3.29	0.89
(c)	17	15	81	109	222	8	7	36	49	100	3.27	0.89
(d)	15	10	76	121	222	7	5	34	55	100	3.36	0.85
(e)	25	32	68	97	222	11	14	31	44	100	3.07	1.01
(f)	26	28	56	112	222	12	13	25	50	100	3.14	1.04
(g)	26	33	84	79	222	12	15	38	36	100	2.97	0.99
(h)	25	29	86	82	222	11	13	39	37	100	3.01	0.97

2. ある												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
(a)	11	90	173	119	393	3	23	44	30	100	3.02	0.80
(b)	25	70	162	136	393	6	18	41	35	100	3.04	0.88
(c)	42	91	140	120	393	11	23	36	31	100	2.86	0.97
(d)	30	74	136	153	393	8	19	35	39	100	3.05	0.94
(e)	59	125	113	96	393	15	32	29	24	100	2.63	1.01
(f)	61	115	118	99	393	16	29	30	25	100	2.65	1.02
(g)	47	103	149	94	393	12	26	38	24	100	2.74	0.95
(h)	51	116	141	85	393	13	30	36	22	100	2.66	0.96

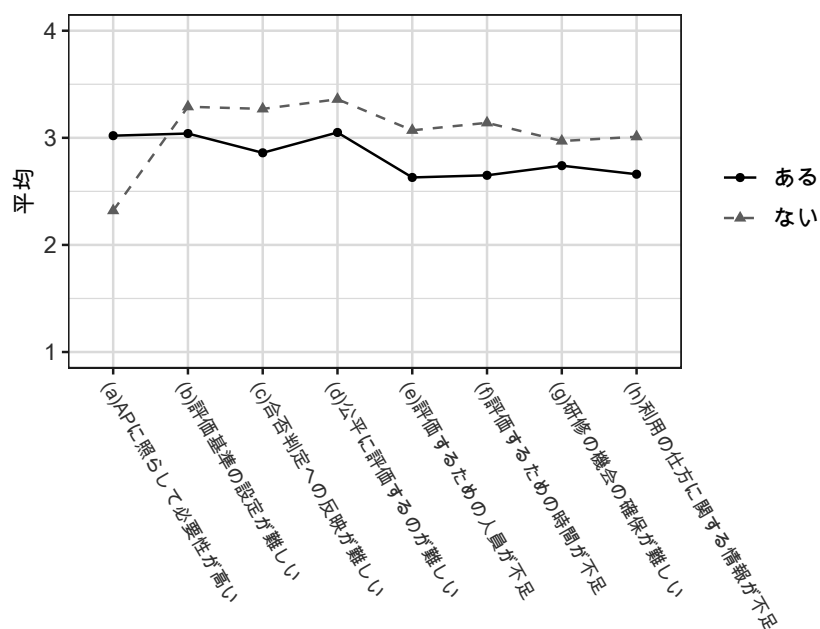


図 3.49: 「調査書」の利用のメリット・デメリット (QC-2, 利用の有無別)

表 3.94: 「調査書以外の書面」の利用の有無別のメリット・デメリット (QC-3)

1. ない												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
(a)	87	121	124	33	365	24	33	34	9	100	2.28	0.93
(b)	52	29	128	156	365	14	8	35	43	100	3.06	1.04
(c)	53	38	123	151	365	15	10	34	41	100	3.02	1.05
(d)	52	33	119	161	365	14	9	33	44	100	3.07	1.05
(e)	67	52	102	144	365	18	14	28	39	100	2.88	1.12
(f)	67	46	96	156	365	18	13	26	43	100	2.93	1.13
(g)	63	53	124	125	365	17	15	34	34	100	2.85	1.08
(h)	62	49	127	127	365	17	13	35	35	100	2.87	1.07

2. ある												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
(a)	2	23	102	123	250	1	9	41	49	100	3.38	0.68
(b)	23	91	78	58	250	9	36	31	23	100	2.68	0.93
(c)	34	102	65	49	250	14	41	26	20	100	2.52	0.96
(d)	23	99	73	55	250	9	40	29	22	100	2.64	0.92
(e)	42	99	62	47	250	17	40	25	19	100	2.46	0.98
(f)	43	100	54	53	250	17	40	22	21	100	2.47	1.01
(g)	41	82	82	45	250	16	33	33	18	100	2.52	0.97
(h)	46	97	64	43	250	18	39	26	17	100	2.42	0.98

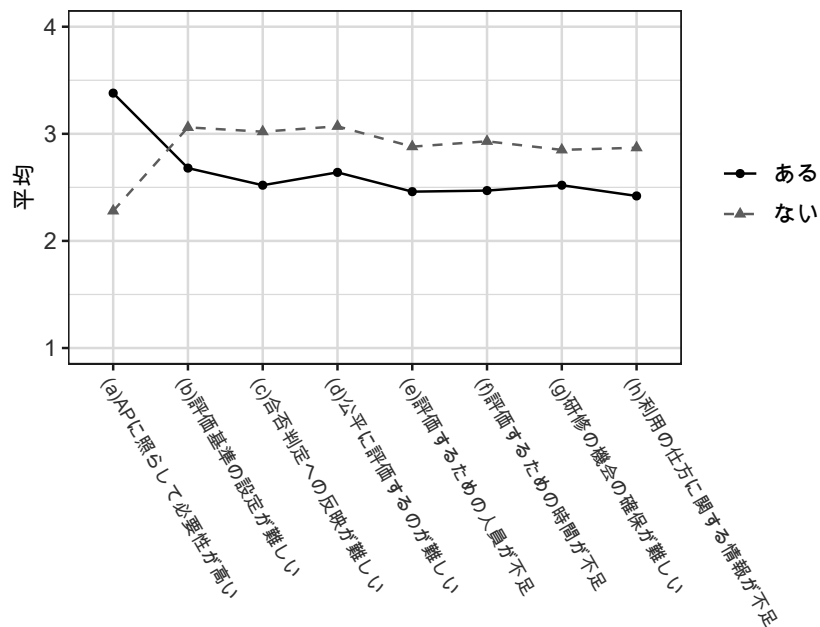


図 3.50: 「調査書以外の書面」の利用のメリット・デメリット (QC-3, 利用の有無別)

表 3.95: 「検査」の利用の有無別のメリット・デメリット (QC-4)

1. ない

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
(a)	171	185	95	47	498	34	37	19	9	100	2.04	0.95
(b)	121	106	137	134	498	24	21	28	27	100	2.57	1.13
(c)	125	103	135	135	498	25	21	27	27	100	2.56	1.14
(d)	130	110	124	134	498	26	22	25	27	100	2.53	1.14
(e)	131	107	112	148	498	26	21	22	30	100	2.56	1.17
(f)	130	99	113	156	498	26	20	23	31	100	2.59	1.18
(g)	122	91	152	133	498	24	18	31	27	100	2.59	1.12
(h)	121	81	135	161	498	24	16	27	32	100	2.67	1.16

2. ある

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
(a)	0	6	25	86	117	0	5	21	74	100	3.68	0.56
(b)	46	49	15	7	117	39	42	13	6	100	1.85	0.86
(c)	55	49	7	6	117	47	42	6	5	100	1.69	0.80
(d)	52	49	9	7	117	44	42	8	6	100	1.75	0.84
(e)	40	49	18	10	117	34	42	15	9	100	1.98	0.92
(f)	45	46	17	9	117	38	39	15	8	100	1.91	0.91
(g)	43	44	19	11	117	37	38	16	9	100	1.98	0.95
(h)	51	47	9	10	117	44	40	8	9	100	1.81	0.91

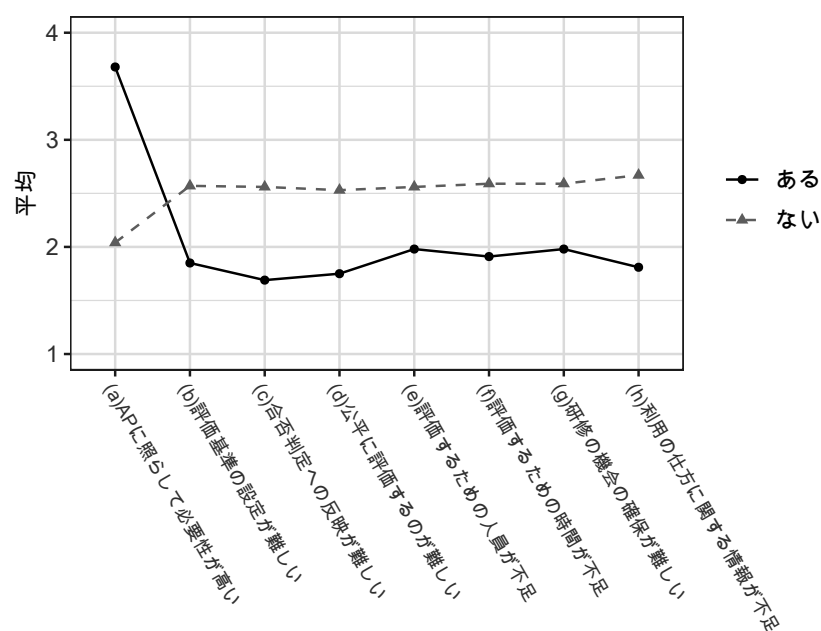


図 3.51: 「検査」の利用のメリット・デメリット (QC-4, 利用の有無別)

表 3.96: 「小論文等」の利用の有無別のメリット・デメリット (QC-5)

1. ない												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
(a)	86	118	112	35	351	25	34	32	10	100	2.27	0.94
(b)	74	95	119	63	351	21	27	34	18	100	2.49	1.02
(c)	79	116	101	55	351	23	33	29	16	100	2.38	1.00
(d)	73	109	103	66	351	21	31	29	19	100	2.46	1.02
(e)	70	49	106	126	351	20	14	30	36	100	2.82	1.12
(f)	72	49	95	135	351	21	14	27	38	100	2.83	1.15
(g)	77	80	113	81	351	22	23	32	23	100	2.56	1.07
(h)	84	101	92	74	351	24	29	26	21	100	2.44	1.07

2. ある												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
(a)	5	14	75	170	264	2	5	28	64	100	3.55	0.68
(b)	70	107	69	18	264	27	41	26	7	100	2.13	0.88
(c)	98	124	33	9	264	37	47	13	3	100	1.82	0.78
(d)	78	124	48	14	264	30	47	18	5	100	1.99	0.83
(e)	80	95	62	27	264	30	36	23	10	100	2.14	0.96
(f)	85	91	59	29	264	32	34	22	11	100	2.12	0.98
(g)	71	96	71	26	264	27	36	27	10	100	2.20	0.94
(h)	97	118	34	15	264	37	45	13	6	100	1.88	0.84

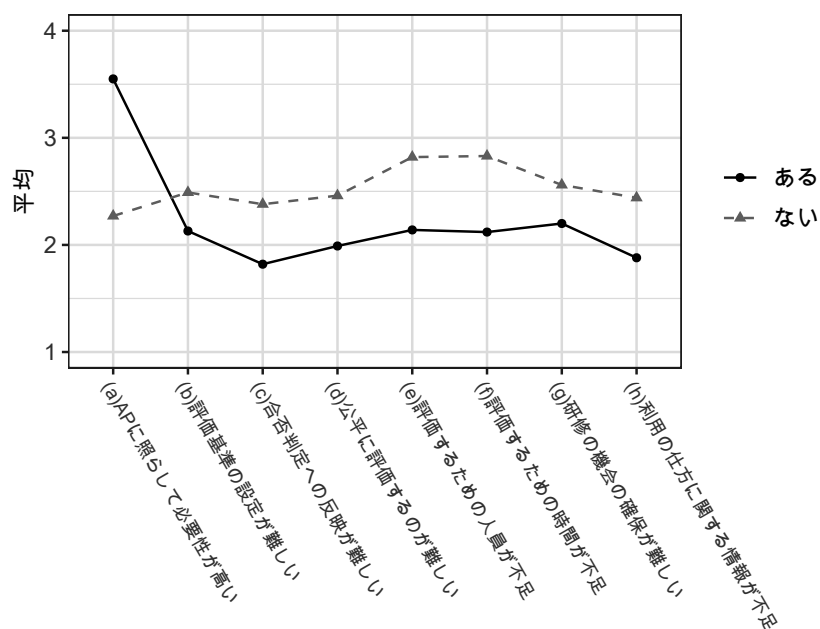


図 3.52: 「小論文等」の利用のメリット・デメリット (QC-5, 利用の有無別)

表 3.97: 「面接・討論等」の利用の有無別のメリット・デメリット (QC-6)

1. ない												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
(a)	58	84	102	65	309	19	27	33	21	100	2.56	1.02
(b)	59	88	95	67	309	19	28	31	22	100	2.55	1.03
(c)	60	92	82	75	309	19	30	27	24	100	2.56	1.06
(d)	56	86	90	77	309	18	28	29	25	100	2.61	1.05
(e)	51	35	82	141	309	17	11	27	46	100	3.01	1.11
(f)	51	38	75	145	309	17	12	24	47	100	3.02	1.12
(g)	62	74	89	84	309	20	24	29	27	100	2.63	1.09
(h)	69	83	79	78	309	22	27	26	25	100	2.54	1.10

2. ある												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
(a)	4	1	64	237	306	1	0	21	77	100	3.75	0.52
(b)	72	117	92	25	306	24	38	30	8	100	2.23	0.90
(c)	100	142	49	15	306	33	46	16	5	100	1.93	0.82
(d)	74	128	81	23	306	24	42	26	8	100	2.17	0.88
(e)	85	105	83	33	306	28	34	27	11	100	2.21	0.97
(f)	93	107	72	34	306	30	35	24	11	100	2.15	0.98
(g)	80	109	85	32	306	26	36	28	10	100	2.23	0.95
(h)	108	132	44	22	306	35	43	14	7	100	1.93	0.88

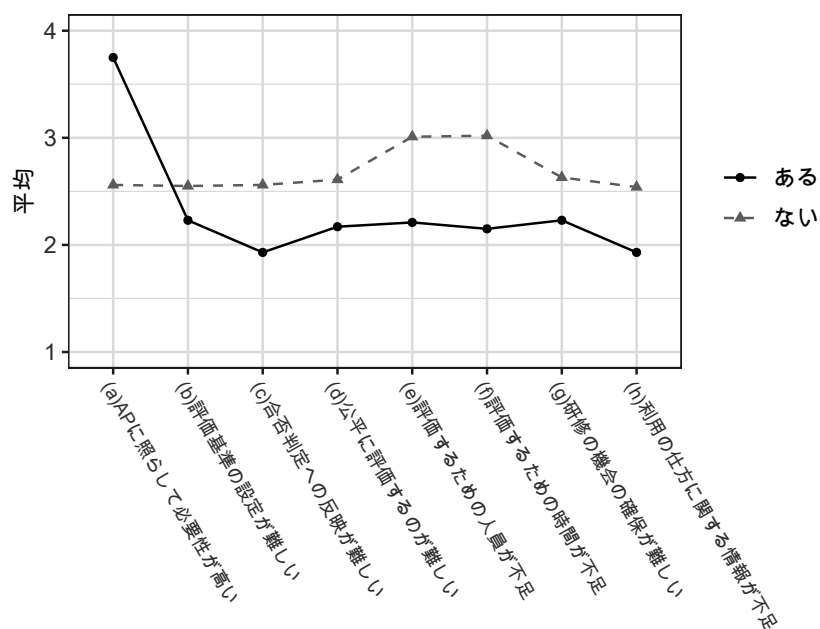


図 3.53: 「面接・討論等」の利用のメリット・デメリット (QC-6, 利用の有無別)

3.4.3 自由記述の分析方針

QC-7からQC-10のうち、自由記述の分析（QC-7, QC-9, QC-10）については、まずキーワードの抽出を行なった。方法としては、筆者を含む2名によって自由記述回答を精査し、特に目立つキーワードを抽出した。その際、類似したキーワード（例えば、「公平性・公平・公正」や「人員・マンパワー・人手」等）については、一つにまとめることにした。その後、そのキーワードごとに自由記述の整理を行い、それぞれのキーワードの出現回数を調べた。以下、QC7, 9及び10の自由記述回答において頻出したキーワードを中心に分析を行う（その他のキーワードについては、表3.98参照）。なお、自由記述回答については、原文ママとして表記する。また、各キーワードを含む自由記述回答を表に整理したため、複数のキーワードを含む回答は複数の表に掲載されている。

表 3.98: 自由記述の分析のために抽出した全キーワード一覧

質問項目	回答
QC-7	公平性・公平・公正, 学力の3要素, 多面的・総合的評価, 客観性, 調査書, 主体性・主体性等評価, 合否判定, 志望理由書, 人手・人員, 時間・期間, データ, 評価, 評価基準, 評価方法, 採点方法(採点), 実技試験, 実施, 実施運営・実施体制, 採点者, 日程, 効率的, 効果, 不足, コンセンサス, 記述式(記述), 面接評価(面接), 点数化, 換算, 検証, 小論文, 評定平均, 高校間格差, 経済的負担, アドミッションポリシー
QC-9	人員・マンパワー, 時間, 評価基準, 実施体制, アドミッションポリシー, 日程調整, 認識, 距離, 合否判定・判定, 温度差, 面接委員, 会場, コミュニケーション, 全学・全学的, 公平・公正, 多面的・総合的評価, 人選・選定・選出, スケジュール, 負担, 委員会, 業務, 合意形成
QC-10	アドミッション, 人員・マンパワー・人手, 合否判定, 事前準備, 効果, 理解, 確保, 客観性, 公平性・公正性, 対策, 調整, 不足, 評価, 評価方法, 募集, 採点, 整備, 負担, 設営, 予算・経費, ノウハウ, 時間, ばらつき・バラツキ, 基準, 育成

表 3.98 は以上

3.4.4 学力検査以外の評価方法に関する課題

QC-7. 一般選抜における学力検査以外の評価方法に関して、課題と考えていることがあれば記入してください。（自由記述）

QC-7では、一般選抜における学力検査以外の評価方法に関して、課題と考えていることについて、自由記述で回答いただいた。その結果、設置形態によって感じている課題が異なることが明らかになった。以下、設置形態別の課題として、自由記述の回答の中で頻出したキーワードの上位3つを取り上げる。また、以下の自由記述回答は、学部規模（学部数）の多い順に示す。その際、5学部以上の大学、3学部および4学部の大学、2学部の大学、1学部の大学の4つのカテゴリーに分けて、それぞれ5+, 3・4, 2, 1と表記する。

国立大学 国立大学では、回答のあった 22 大学中 17 大学が「評価」を含む自由回答をしている（表 3.99 参照）。

表 3.99: 「評価」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	評価指標と評価基準の策定については、継続して検証する必要があると考える。
5 +	評価に一律の基準の使用が期待されることに如何に対応するかが課題である。
5 +	調査書の評価方法に苦慮している。
5 +	新様式の調査書に観点別評価が載らないため、今後活用が困難になる。
5 +	志願者やその指導者に、評価方法が曖昧に捉えられてしまうこと。
5 +	調査書を用いて多面的評価をするためには、調査書の電子化が必要。
5 +	評価方法の蓄積について課題がある
5 +	信頼性・妥当性のある評価が難しい。
5 +	一般選抜における主体性等評価・多面的評価の一環として、調査書の評価への期待や要請もあるかと思うが、実際の導入にあたっては評価基準の設定や評価結果の取扱い、人員や評価の時間の不足など事務的な部分も含め相当な困難が予想される。
5 +	公平な評価（をするための基準の設定）が難しいことが多い。教員の基準への理解の相違、評価の相違を少なくする必要がある。
5 +	一度に数百人単位で受験する入試において、多面的評価を行うことは人員的、時間的にも困難であり、評価の公平性・公正性を担保することが困難であると考え。
5 +	調査書等の志願者が提出する書類を主体性評価等にどのように活用していくか
3・4	多面的・総合的評価について入学後の検証が必要
2	教員志望度の評価
2	面接において面接員による受験者の評価にバラツキが生じること
1	「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」に係る評価
1	限られた時間で学力検査以外の評価を行うことは難しい。

(17 件／22 件中)

表 3.99 は以上

次に多く見られたキーワードが「調査書」（22 件中 5 件）であった（表 3.100 参照）。

表 3.100: 「調査書」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	新様式の調査書に観点別評価が載らないため、今後活用が困難になる。
5 +	調査書を用いて多面的評価をするためには、調査書の電子化が必要。

表 3.100 は次ページに続く

表 3.100 前ページからの続き

学部規模	回答
5 +	一般選抜における主体性等評価・多面的評価の一環として、調査書の評価への期待や要請もあるかと思うが、実際の導入にあたっては評価基準の設定や評価結果の取扱い、人員や評価の時間の不足など事務的な部分も含め相当な困難が予想される。
5 +	調査書等の志願者が提出する書類を主体性評価等にどのように活用していくか
3・4	学力の3要素を多面的・総合的に評価する手段として、直接的な方法である「面接」や生徒本人が記載する「志望理由書等」が有効であると考えるが、本学の一般選抜受験者数は多く限られた日程での実施は困難を極める。そこで本学は「調査書を用いた主体性等評価」を行うこととして準備を進めてきたところだが、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、令和4年度一般選抜での実施は見送っている状況となっている。令和7年度の新学習指導要領に対応する選抜方法を検討する時期に来ているが、高等学校で次年度から始まる観点別評価について、指導要録では設定されるものの、調査書への反映は見通しが立っていない。かつ、大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議の報告（2021 文科省）によれば、「主体性の評価対象について、校外活動（それ以外）は本?記載の資料とするのが適当である」との見解を示している。上述より「調査書」の活用においては、定義づけ、基準設定の困難さ、公平性の確保など解決すべき課題が山積している状態であり、その他の手段も含めた再検討の必要性があると考え。

(5 件／22 件中)

表 3.100 は以上

そして、次に多く見られたキーワードが「**多面的・総合的評価**」（22 件中 5 件）であった（表 3.101 参照）。

表 3.101: 「多面的・総合的評価」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	調査書を用いて多面的評価をするためには、調査書の電子化が必要。
5 +	一般選抜における主体性等評価・多面的評価の一環として、調査書の評価への期待や要請もあるかと思うが、実際の導入にあたっては評価基準の設定や評価結果の取扱い、人員や評価の時間の不足など事務的な部分も含め相当な困難が予想される。
5 +	一度に数百人単位で受験する入試において、多面的評価を行うことは人員的、時間的にも困難であり、評価の公平性・公正性を担保することが困難であると考え。
3・4	多面的・総合的評価について入学後の検証が必要

表 3.101 は次ページに続く

表 3.101 前ページからの続き

学部規模	回答
3・4	学力の3要素を多面的・総合的に評価する手段として、直接的な方法である「面接」や生徒本人が記載する「志望理由書等」が有効であると考えているが、本学の一般選抜受験者数は多く限られた日程での実施は困難を極める。そこで本学は「調査書を用いた主体性等評価」を行うこととして準備を進めてきたところだが、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、令和4年度一般選抜での実施は見送っている状況となっている。令和7年度の新学習指導要領に対応する選抜方法を検討する時期に来ているが、高等学校で次年度から始まる観点別評価について、指導要録では設定されるものの、調査書への反映は見通しが立っていない。かつ、大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議の報告（2021 文科省）によれば、「主体性の評価対象について、校外活動（それ以外）は本?記載の資料とするのが適当である」との見解を示している。上述より「調査書」の活用においては、定義づけ、基準設定の困難さ、公平性の確保など解決すべき課題が山積している状態であり、その他の手段も含めた再検討の必要性があると考えている。

(5 件／22 件中)

表 3.101 は以上

国立大学による QC-7 の自由回答で上位 3 つのキーワードは以下のとおりである。

- 1 位： 「評価」(17 件/22 件中)
- 2 位： 「調査書」(5 件/22 件中)
- 3 位： 「多面的・総合的評価」(5 件/22 件中)

以上の点から、国立大学では、評価、特に調査書やそこに記載されている内容を通して、どのように個々の受験生の資質・能力を多面的・総合的に評価すれば良いのかについて課題と感じていることが明らかになった。また、自由記述の内容として、「評価基準の設定」、「主体性評価」、「多面的評価」等、多面的・総合的評価を行うための明確な評価基準や全国統一の評価基準等、目安となるような評価基準やベンチマークがないことが、調査書等の評価を行う上で課題と感じている国立大学が多いことが分かった。

公立大学 公立大学では、回答のあった 17 大学中 10 大学が「公平性・公平・公正」、「評価」を含む自由回答をしている（表 3.102、表 3.103 参照）。

表 3.102: 「公平性・公平・公正」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	公平性の確保
5 +	志願者（受験者）が多い一般選抜における主体性の評価手法の検討、またその評価の公平公正な評価基準の設定を課題と考えている。
5 +	公平性の担保
3・4	色々な評価方法間での公平性の担保

表 3.102 は次ページに続く

表 3.102 前ページからの続き

学部規模	回答
2	客観性、公平性の確保
2	・ 評定平均等を利用する場合の高校間学力格差・面接や志望理由書の評価において、評価者の主観に頼る部分が大きく、客観性や公平性との兼ね合いが難しい・調査書の電子化の進捗状況について情報があまり出ていない
1	公平か公正か、判断するのが難しい。
1	学力検査以外の公平性を保った利用方法
1	公平性が担保されており、かつ時間的、人力的に負担がかからない方法で評価できることが重要である一方で、文部科学省からは多面的、総合的な評価方法の整備を求められているところであり、この2点を同時に満たす選抜方法の検討が課題である。
1	本学のアドミッションポリシーからすると導入すべきものもあると考えるが、評価基準の設定や公平性の観点、そして評価に必要な時間の不足等から導入が難しい。

(10 件／17 件中)

表 3.102 は以上

表 3.103: 「評価」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	志願者（受験者）が多い一般選抜における主体性の評価手法の検討、またその評価の公平公正な評価基準の設定を課題と考えている。
3・4	志望理由書等による主体性の評価方法が難しいと考えている。
3・4	色々な評価方法間での公平性の担保
2	調査書の評価方法
2	・ 評定平均等を利用する場合の高校間学力格差・面接や志望理由書の評価において、評価者の主観に頼る部分が大きく、客観性や公平性との兼ね合いが難しい・調査書の電子化の進捗状況について情報があまり出ていない
1	一般選抜において、多面的・総合的評価は社会的な説明が難しいためなじまないと考えている教職員もあり、学内でコンセンサスを得ることが難しい。
1	評価をする時間が短いのが課題。
1	本学は芸術系大学として実技検査を主に実施しているが、「学力の3要素」を評価・判定することに違和感がある。大学はアドミッションポリシーに基づき入試を実施しており、大学の性質上、そのアドミッションポリシーが学力の3要素と適合しないこともある。例えば、芸術系大学が受験者に「主体性を持ち、多様な人々と共同しつつ学習する態度」を求める必要性はあるのでしょうか。他大学では何も対応していない大学もあるが、本学では面接の実施や志望動機書の提出を課しており、大変負担を感じている。

表 3.103 は次ページに続く

表 3.103 前ページからの続き

学部規模	回答
1	公平性が担保されており、かつ時間的、人間的に負担がかからない方法で評価できることが重要である一方で、文部科学省からは多面的、総合的な評価方法の整備を求められているところであり、この2点を同時に満たす選抜方法の検討が課題である。
1	本学のアドミッションポリシーからすると導入すべきものもあると考えるが、評価基準の設定や公平性の観点、そして評価に必要となる時間の不足等から導入が難しい。

(10 件／ 17 件中)

表 3.103 は以上

次に多く見られたキーワードが「時間・期間」,「評価方法」(17 件中 4 件)であった(表 3.104, 表 3.105 参照)。

表 3.104: 「時間・期間」を含む自由記述回答

学部規模	回答
1	時間
1	評価をする時間が短いのが課題。
1	公平性が担保されており、かつ時間的、人間的に負担がかからない方法で評価できることが重要である一方で、文部科学省からは多面的、総合的な評価方法の整備を求められているところであり、この2点を同時に満たす選抜方法の検討が課題である。
1	本学のアドミッションポリシーからすると導入すべきものもあると考えるが、評価基準の設定や公平性の観点、そして評価に必要となる時間の不足等から導入が難しい。

(4 件／ 17 件中)

表 3.104 は以上

表 3.105: 「評価方法」を含む自由記述回答

学部規模	回答
3・4	志望理由書等による主体性の評価方法が難しいと考えている。
3・4	色々な評価方法間での公平性の担保
2	調査書の評価方法
1	公平性が担保されており、かつ時間的、人間的に負担がかからない方法で評価できることが重要である一方で、文部科学省からは多面的、総合的な評価方法の整備を求められているところであり、この2点を同時に満たす選抜方法の検討が課題である。

(4 件／ 17 件中)

表 3.105 は以上

そして、次に多く見られたキーワードが「主体性・主体性等評価」,「志望理由書」(17件中3件)であった。(表 3.106, 表 3.107 参照)。

表 3.106: 「主体性・主体性等評価」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	志願者(受験者)が多い一般選抜における主体性の評価手法の検討, またその評価の公平公正な評価基準の設定を課題と考えている。
3・4	志望理由書等による主体性の評価方法が難しいと考えている。
1	本学は芸術系大学として実技検査を主に実施しているが,「学力の3要素」を評価・判定することに違和感がある。大学はアドミッションポリシーに基づき入試を実施しており,大学の性質上,そのアドミッションポリシーが学力の3要素と適合しないこともある。例えば,芸術系大学が受験者に「主体性を持ち,多様な人々と共同しつつ学習する態度」を求める必要性はあるのでしょうか。他大学では何も対応していない大学もあるが,本学では面接の実施や志望動機書の提出を課しており,大変負担を感じている。

(3件/17件中)

表 3.106 は以上

表 3.107: 「志望理由書」を含む自由記述回答

学部規模	回答
3・4	志望理由書等による主体性の評価方法が難しいと考えている。
2	・評定平均等を利用する場合の高校間学力格差・面接や志望理由書の評価において,評価者の主観に頼る部分が大きく,客観性や公平性との兼ね合いが難しい・調査書の電子化の進捗状況について情報があまり出ていない
1	本学は芸術系大学として実技検査を主に実施しているが,「学力の3要素」を評価・判定することに違和感がある。大学はアドミッションポリシーに基づき入試を実施しており,大学の性質上,そのアドミッションポリシーが学力の3要素と適合しないこともある。例えば,芸術系大学が受験者に「主体性を持ち,多様な人々と共同しつつ学習する態度」を求める必要性はあるのでしょうか。他大学では何も対応していない大学もあるが,本学では面接の実施や志望動機書の提出を課しており,大変負担を感じている。

(3件/17件中)

表 3.107 は以上

公立大学による QC-7 の自由回答で上位3つのキーワードは以下のとおりである。

同率1位: 「公平性・公平・公正」,「評価」(10件/17件中)

同率2位: 「時間・期間」,「評価方法」(4件/17件中)

同率3位: 「主体性・主体性等評価」,「志望理由書」(3件/17件中)

以上の点から,公立大学では,国立大学同様,評価,特に志望理由書やその内容を通して,どのように個々の受験生の主体性を評価すれば良いのかについて課題と感じていることが明らかに

なった。また、公立大学では、「公平性」が頻出している点も特徴としてあげられる。自由記述の内容から、「公平性の担保」や「公平性の確保」といった、公平性をどのように保障すれば良いのかといった課題を抱えている公立大学が多いことが分かった。また、2位には「時間・期間」が入っており、限られた時間の中で迅速に評価しなければならず、結果的にこの方法で公平性が担保できているのかといった不安を感じている公立大学が多いことが分かった。学部規模による自由記述回答の違いは見られなかった。

私立大学 私立大学では、回答のあった108大学中65大学が「評価」を含む自由回答をしている(表3.108参照)。

表 3.108: 「評価」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	複数の評価者が同一の基準で公平・公正な判定すること。評価方法の効率化と評価者の負担軽減。
5 +	英語のCEFRについて、6つの等級に分類されているが、1レンジ毎の得点幅が大きく、同評価であっても上と下では学力差が大きい。もう少し細分化した等級ができないか。
5 +	一般選抜は全国の試験会場や併願制度もあり、人員や時間が不足している。事前の書類提出等の限られた評価方法になる。
5 +	・受験生や高等学校の教員が受験対策を行う際の普段が増える。・公平性の確保が難しい。・評価するための人員や時間が不足している。
5 +	調査書は高校および記載者によって記載内容の書き方および量が異なり、公平に評価することが難しい。
5 +	人員・場所(試験室)・時間の確保、また新たな評価基準の設定等
5 +	記述式解答の採点には時間がかかること。主体性等評価については、スコアリングのノウハウがないこと。
5 +	公平な評価を行うための、人員と時間が不足している。
5 +	評価の公平性確保、人員と時間的な制約があること。
5 +	記述式問題や面接等を導入できれば良いと考えるが、人員不足の課題や限られた時間内での採点評価の公平性の担保の点で導入は困難であるとする。
5 +	入試における公平性、利用における情報不足、評価者の人員及び時間の不足等
5 +	非常に多い人数の受験者に対して、学力検査以外で採点評価の公平性や迅速性を担保することが難しい
5 +	出願から合格発表までの期間内に、1万件超の書類を厳正かつ適正に評価するのは、人的にも時間的にも不可能である。
5 +	公平な評価の徹底
5 +	QC-2~6で示したように、評価人員や時間を確保することが非常に困難である。文部科学省や大学入試センターにおいてどの大学でも実現可能な方法があるようであれば例示していただきたい。
5 +	私立大学の場合、受験者人数が多数となるため、適正な評価期間が取りづらい。

表 3.108 は次ページに続く

表 3.108 前ページからの続き

学部規模	回答
5 +	調査書の評価に関しては、学校間のレベルの差もあり、全て同じ基準で見るのは難しい。特に通信制高校に関しては、全日制高校と比べて差が大きい。
5 +	現在の入試スケジュールの中で、評価する人員・時間の確保が難しいこと
5 +	評価基準、受験生への負担（時間的）、評価する側の人的・時間的な課題
5 +	評価するための人員と時間が特に不足している。
5 +	評価するための時間、場所、人員が不足していることに加えて、受験生の負担が大きいと考える。
5 +	学力の3要素のうち「主体的に学習に取り組む態度」について公正に評価するために何を用い、配点の割合をどうするかが課題
5 +	評価に時間を要する。担当者による評価のばらつきがある。
3・4	評価基準の設定が難しい。多人数が受験する一般選抜には不向きであると思われる。
3・4	受験者が多い一般選抜においては、全体の学習成績の状況など、客観的に数値化されているものを評価に取り入れることなどが現実的な範囲で、より多様な評価を取り入れていくには、時間と労力を要することになり、なかなか難しいと感じる。
3・4	公正・公平な評価方法
3・4	時間的にも人間的にも不足している。また、人員を増やしたとしても公正に評価するのが難しい。
3・4	評価のための人員・時間の不足、公平性の確保
3・4	絶対評価が難しい
3・4	本学は、一般選抜において筆記試験による学力検査に加え、調査書、大学入学志望理由・自己推薦書も評価対象にしているため、多面的、総合的に評価が可能である。
3・4	アドミッションポリシーとの適合性を客観的に測る評価方法を、創出することが課題。
3・4	評価するための人員や時間が不足している。
3・4	一般選抜で実施する選考科目以外に評価する項目を設けること、それをどのように合否判定に活用するのかについては十分検討しないといけないかと考えております。
3・4	調査書の評価について高校間格差をどう判定するか
3・4	一般選抜は受験者が多いため、評価の方法によっては人員と時間が必要となる。人員や時間をあまり必要としない、効率的で効果のある評価の設定が課題。
3・4	合格発表までの期間が短いため、学力検査以外の評価方法を本格導入することが難しい
3・4	各高校、様々な視点で書かれており、評価基準も違う中、調査書を得点化することが難しい
3・4	評価するための人員、時間の確保と公平性の担保。
3・4	学部・学科・分野（コース）・専門（楽器）に応じた評価体制の整備が困難。

表 3.108 は次ページに続く

表 3.108 前ページからの続き

学部規模	回答
3・4	合否判定までの時間内に公平に評価すること。また、複数の学科・コースを併願でき、かつ各学科・コースのAPを反映させた評価方法の設計が課題だと考える。
3・4	圧倒的な時間の不足。入学定員管理と厳正化を実現することと、1点刻みでの学力検査以外を評価に用いることの両立の困難さ。
3・4	学力検査以外の評価については、試験日程の時間的な問題と受験生及び大学の負担が大きい。
2	実施する時間がない。また適正な評価と公平性の確保が課題である。
2	面接評価をどのように総合評価に反映すべきかについては、検討を続けている。(医学部)
2	評価基準、公平な評価
2	・評価基準の設定・大学院や特別選抜を含め入試が多い上、出願ー試験ー判定発表の期間が短く、十分慎重かつ公正な評価が難しい
2	受験者数が多く、公平性を保ちながら評価するのに人員、時間が不足している。
2	受験人数が多いので、面接を実施した場合、評価基準が担当者によって大きく異なる可能性がある。
2	限られた期間で、大量の受験生を公平に評価することの難しさ
2	調査書委が手を評価に加えることに無理があるように感じている
2	受験生の負担をできるだけ増やさずに評価していくこと。
1	評価方法と採点方法（人手や時間を含む）
1	調査書を判定資料として利用しているが、評価をするための人員と時間がなく、実際のところ、全員の調査書を確認して評価する時間がないため、ボーダー付近の受験生のみを評価して活用している
1	評定平均・活動評価など、高校や教員によりマチマチであり、一律平等に評価することは難しい。また生徒の置かれているレベルや状況が異なるものを一律に評価することはできない。
1	丁寧に個別評価する人員や時間があまりないのが課題。
1	調査書の評価の導入及び評価方法の検討
1	一般選抜において、学力検査以外の評価方法の比重は少なくて良い
1	主体性評価をどのように実施するか
1	受験者数の多さとその評価する人員及び評価するための時間不足。
1	受験者が多く調査書の利用以外での評価方法（面接、小論文など）の実施について人出や時間がかかり実施が難しい。
1	評価実施に時間がかかることや評価に時間がかかること。
1	資格検定試験の評価においては、受験生の経済的負担が大きく、受験機会の公平性に欠ける。
1	人員と時間の確保、評価方法の確立と平等性
1	多面的・総合的評価基準

表 3.108 は次ページに続く

表 3.108 前ページからの続き

学部規模	回答
1	①主体性等評価の評価方法 ②思考力, 判断力, 表現力の評価方法

(65 件 / 108 件中)

表 3.108 は以上

次に多く見られたキーワードが「**時間・期間**」(108 件中 48 件)であった(表 3.109 参照)。

表 3.109: 「時間・期間」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	小論文等の記述に関する採点等に時間がかかるため, 現在のスケジュール等で, 拡大していくには課題と考えている。
5 +	一般選抜は全国の試験会場や併願制度もあり, 人員や時間が不足している。事前の書類提出等の限られた評価方法になる。
5 +	・受験生や高等学校の教員が受験対策を行う際の普段が増える。・公平性の確保が難しい。・評価するための人員や時間が不足している。
5 +	人員及び時間の確保が難しい。
5 +	人員・場所(試験室)・時間の確保, また新たな評価基準の設定等
5 +	志願者が増加した場合時間を要する
5 +	記述式解答の採点には時間がかかること。主体性等評価については, スコアリングのノウハウがないこと。
5 +	公平な評価を行うための, 人員と時間が不足している。
5 +	評価の公平性確保, 人員と時間的な制約があること。
5 +	記述式問題や面接等を導入できれば良いと考えるが, 人員不足の課題や限られた時間内での採点評価の公平性の担保の点で導入は困難であるとする。
5 +	入試における公平性, 利用における情報不足, 評価者の人員及び時間の不足等
5 +	出願から合格発表までの期間内に, 1 万件超の書類を厳正かつ適正に評価するのは, 人的にも時間的にも不可能である。
5 +	QC-2~6 で示したように, 評価人員や時間を確保することが非常に困難である。文部科学省や大学入試センターにおいてどの大学でも実現可能な方法があるようであれば例示していただきたい。
5 +	実施運営, 採点に時間を要する方法は取り入れることは難しい。他大との併願がしやすい選抜方法にする必要もある。
5 +	私立大学の場合, 受験者人数が多数となるため, 適正な評価期間が取りづらい。
5 +	人員や時間が配当できず, 実施が難しいこと。
5 +	現在の入試スケジュールの中で, 評価する人員・時間の確保が難しいこと
5 +	評価基準, 受験生への負担(時間的), 評価する側の人的・時間的な課題
5 +	評価するための人員と時間が特に不足している。
5 +	評価するための時間, 場所, 人員が不足していることに加えて, 受験生の負担が大きいと考える。

表 3.109 は次ページに続く

表 3.109 前ページからの続き

学部規模	回答
5 +	評価に時間を要する。担当者による評価のばらつきがある。
5 +	受験者数に対して十分な審査時間が取れないこと
3・4	受験者が多い一般選抜においては、全体の学習成績の状況など、客観的に数値化されているものを評価に取り入れることなどが現実的な範囲で、より多様な評価を取り入れていくには、時間と労力を要することになり、なかなか難しいと感じる。
3・4	時間的にも人間的にも不足している。また、人員を増やしたとしても公正に評価するのが難しい。
3・4	評価のための人員・時間の不足、公平性の確保
3・4	評価するための人員や時間が不足している。
3・4	一般選抜は受験者が多いため、評価の方法によっては人員と時間が必要となる。人員や時間をあまり必要としない、効率的で効果のある評価の設定が課題。
3・4	高校から提出される資料に高校間の格差があり、公平性が担保されない。入試日程が過密で、時間的な余裕がない。
3・4	合格発表までの期間が短いため、学力検査以外の評価方法を本格導入することが難しい
3・4	評価するための人員、時間の確保と公平性の担保。
3・4	合否判定までの時間内に公平に評価すること。また、複数の学科・コースを併願でき、かつ各学科・コースのAPを反映させた評価方法の設計が課題だと考える。
3・4	圧倒的な時間の不足。入学定員管理と厳正化を実現することと、1点刻みでの学力検査以外を評価に用いることの両立の困難さ。
3・4	学力検査以外の評価については、試験日程の時間的な問題と受験生及び大学の負担が大きい。
2	実施する時間がない。また適正な評価と公平性の確保が課題である。
2	・評価基準の設定・大学院や特別選抜を含め入試が多い上、出願一試験一判定発表の期間が短く、十分慎重かつ公正な評価が難しい
2	仮に小論文だと採点に費やす時間。面接を課す場合だと場所や時間及び面接官の配置が大きな課題と考える。
2	受験者数が多く、公平性を保ちながら評価するのに人員、時間が不足している。
2	限られた期間で、大量の受験生を公平に評価することの難しさ
2	時間と人員の不足が大きな課題
2	英語の民間試験の利用を考えているが、受験生の殆どが大学の立地の地元出身者であり、受検検定試験の偏りがあり、多様性に欠けている。また、検定試験を限定することも公平性に欠ける。何より、成績提供を受けるシステムも郵送によるペーパー処理となるため、人間的にも時間的にも負担が多く、利用に至っていない。各大学に英語の民間試験を利用した4技能を求めるならば、大学入学英語成績提供システムのようなすべての大学で利用できる仕組みが必要である。

表 3.109 は次ページに続く

表 3.109 前ページからの続き

学部規模	回答
1	評価方法と採点方法（人手や時間を含む）
1	調査書を判定資料として利用しているが、評価をするための人員と時間がなく、実際のところ、全員の調査書を確認して評価する時間がないため、ボーダー付近の受験生のみを評価して活用している
1	丁寧に個別評価する人員や時間があまりないのが課題。
1	学力検査以外の考査に対する時間配分と受験生のニーズとの相関
1	受験者数の多さとその評価する人員及び評価するための時間不足。
1	受験者が多く調査書の利用以外での評価方法（面接、小論文など）の実施について人出や時間がかかり実施が難しい。
1	評価実施に時間がかかることや評価に時間がかかること。
1	人員と時間の確保、評価方法の確立と平等性

(48 件／108 件中)

表 3.109 は以上

そして、次に多く見られたキーワードが「**人手・人員**」（108 件中 27 件）であった（表 3.110 参照）。

表 3.110: 「人手・人員」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	一般選抜は全国の試験会場や併願制度もあり、人員や時間が不足している。事前の書類提出等の限られた評価方法になる。
5 +	・受験生や高等学校の教員が受験対策を行う際の普段が増える。・公平性の確保が難しい。・評価するための人員や時間が不足している。
5 +	人員及び時間の確保が難しい。
5 +	人員・場所（試験室）・時間の確保、また新たな評価基準の設定等
5 +	公平な評価を行うための、人員と時間が不足している。
5 +	評価の公平性確保、人員と時間的な制約があること。
5 +	記述式問題や面接等を導入できれば良いと考えるが、人員不足の課題や限られた時間内での採点評価の公平性の担保の点で導入は困難であるとする。
5 +	入試における公平性、利用における情報不足、評価者の人員及び時間の不足等
5 +	QC-2～6 で示したように、評価人員や時間を確保することが非常に困難である。文部科学省や大学入試センターにおいてどの大学でも実現可能な方法があるようであれば例示していただきたい。
5 +	人員や時間が配当できず、実施が難しいこと。
5 +	現在の入試スケジュールの中で、評価する人員・時間の確保が難しいこと
5 +	評価するための人員と時間が特に不足している。
5 +	評価するための時間、場所、人員が不足していることに加えて、受験生の負担が大きいのと考える。

表 3.110 は次ページに続く

表 3.110 前ページからの続き

学部規模	回答
3・4	時間的にも人力的にも不足している。また、人員を増やしたとしても公正に評価するのが難しい。
3・4	評価のための人員・時間の不足、公平性の確保
3・4	評価するための人員や時間が不足している。
3・4	一般選抜は受験者が多いため、評価の方法によっては人員と時間が必要となる。人員や時間をあまり必要としない、効率的で効果のある評価の設定が課題。
3・4	評価するための人員、時間の確保と公平性の担保。
3・4	面接日等の新設に伴う、日程、人員の確保。
2	受験者数が多く、公平性を保ちながら評価するのに人員、時間が不足している。
2	時間と人員の不足が大きな課題
2	英語の民間試験の利用を考えているが、受験生の殆どが大学の立地の地元出身者であり、受検検定試験の偏りがあり、多様性に欠けている。また、検定試験を限定することも公平性に欠ける。何より、成績提供を受けるシステムも郵送によるペーパー処理となるため、人力的にも時間的にも負担が多く、利用に至っていない。各大学に英語の民間試験を利用した4技能を求めるならば、大学入学英語成績提供システムのようなすべての大学で利用できる仕組みが必要である。
1	評価方法と採点方法（人手や時間を含む）
1	調査書を判定資料として利用しているが、評価をするための人員と時間がなく、実際のところ、全員の調査書を確認して評価する時間がないため、ボーダー付近の受験生のみを評価して活用している
1	丁寧に個別評価する人員や時間があまりないのが課題。
1	受験者数の多さとその評価する人員及び評価するための時間不足。
1	人員と時間の確保、評価方法の確立と平等性

(27 件／108 件中)

表 3.110 は以上

私立大学による QC-7 の自由回答で上位 3 つのキーワードは以下のとおりである。

- 1 位： 「評価」 (65 件/108 件中)
- 2 位： 「時間・期間」 (48 件/108 件中)
- 3 位： 「人手・人員」 (27 件/108 件中)

以上のように、私立大学でも、国立大学と公立大学において頻出した「評価」が最も多いキーワードとして見られた。自由記述回答の内容からは、同様に「調査書の評価」、「多面的評価」や「主体性評価」等の評価方法や評価基準に関する課題が多く挙げられている。また、「評価の時間不足」や「人員不足」を課題として感じている大学も多いことが分かった。さらに、時間や人員と同じ文脈で、自由記述回答の内容から、試験室や試験場所の確保も課題として挙げている私立大学が多いことが分かった。

3.4.5 部局間の調整について

QC-8 では、まず以下の設問を設定した。

QC-8. 一般選抜における学力検査以外の入試の実施体制に関して、部局間の調整は難しいですか。

1. 難しくない 2. あまり難しくない 3. やや難しい 4. 難しい

この設問に対して、「3. やや難しい」か「4. 難しい」と回答した大学が次の QC-9 の回答に進む設計となっている。以下の表 3.111 及び表 3.112 が設置形態別、全体及び学部規模別の度数と割合を示した図表である。

表 3.111: 部局間の調整の難しさ (QC-8, 設置形態別)

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
国立	18	36	9	13	76	24	47	12	17	100	2.22	0.99
公立	15	44	13	8	80	19	55	16	10	100	2.17	0.85
私立	58	201	121	79	459	13	44	26	17	100	2.48	0.92
全体	91	281	143	100	615	15	46	23	16	100	2.41	0.93

上記の表 3.111 からは、設置形態によらず「2. あまり難しくない」への回答割合が高いということが分かる。

表 3.112: 部局間の調整の難しさ (QC-8, 学部規模別)

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計		
1 学部	42	88	37	12	179	23	49	21	7	100	2.11	0.84
2 学部	9	72	29	18	128	7	56	23	14	100	2.44	0.82
3・4 学部	23	70	39	26	158	15	44	25	16	100	2.43	0.93
5 学部以上	17	51	38	44	150	11	34	25	29	100	2.73	1.01

表 3.112 からは、4 学部以下の大学では、「2. あまり難しくない」への回答割合が高いことが分かった。また、「4. 難しい」の回答割合は、学部規模が大きくなるほど高いことが分かった。また、平均を見ると、1 学部は低く、ついで 2~4 学部、5 学部の順に高くなっている。そして、学部数が多いほど、部局間の調整が難しくなる傾向があることが分かった。

QC-9. 部局間の調整に関して、具体的にどのような調整が難しいですか。(自由記述)

QC-9 では、QC-8 において、「3. やや難しい」か「4. 難しい」と回答した大学に対して、部局間の調整に関して、具体的にどのような調整が難しいのかについて、自由記述で回答いただいた。その結果、QC-7 同様、設置形態によって感じている課題が異なることが明らかになった。以下、設置形態別の課題として、自由記述の回答の中で頻出したキーワードの上位 2~3 つを取り上げ

る。また、以下の自由記述回答は、学部規模（学部数）の多い順に示す。その際、5学部以上の大学、3-4学部の大学、2学部の大学、1学部の大学の4つのカテゴリーに分けて、それぞれ5＋、3・4、2、1と表記する。

国立大学 国立大学では、回答のあった18大学中3大学が「アドミッションポリシー」、「全学・全学的」を含む自由回答をしている（表3.113、表3.114参照）。

表 3.113: 「アドミッションポリシー」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5＋	大学全体で統一した対応を取ることを考えた場合、それぞれの部局のアドミッション・ポリシーを優先せざるを得ず、また、試験実施体制も部局間で異なるため、大学としての方向性を出すための調整が難しい。
5＋	具体的な事例はまだないが、各部局のアドミッションポリシーの下選抜方法については各部局に委ねているのが実情であり、一定の共通の尺度・指針をもって全学的に学力検査委以外の選抜方法を導入することには相当な困難が予想される。
5＋	学学部のアドミッションポリシーが異なるので、求める学生像、求める能力も異なる。そのため、採点基準の設定、その評価に対する総合点への反映など、学部間の調整が難しい。

(3件／18件中)

表 3.113 は以上

表 3.114: 「全学・全学的」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5＋	大学全体で統一した対応を取ることを考えた場合、それぞれの部局のアドミッション・ポリシーを優先せざるを得ず、また、試験実施体制も部局間で異なるため、大学としての方向性を出すための調整が難しい。
5＋	具体的な事例はまだないが、各部局のアドミッションポリシーの下選抜方法については各部局に委ねているのが実情であり、一定の共通の尺度・指針をもって全学的に学力検査委以外の選抜方法を導入することには相当な困難が予想される。
3・4	・全学で実施を前提とした際に、各学類の志願者数と評価のマンパワーに不均衡が生じる・学類によって求める人材像や能力は異なるため、手法も多様化する可能性がある・入学者選抜は各学類の専権事項であり、全学共通で実施する際のマネジメントに課題が存在する

(3件／18件中)

表 3.114 は以上

次に多く見られたキーワードが「人員・マンパワー」、「時間」（18件中2件）であった（表3.115、表3.116参照）。

表 3.115: 「人員・マンパワー」を含む自由記述回答

学部規模	回答
3・4	・全学で実施を前提とした際に、各学類の志願者数と評価のマンパワーに不均衡が生じる・学類によって求める人材像や能力は異なるため、手法も多様化する可能性がある・入学者選抜は各学類の専権事項であり、全学共通で実施する際のマネジメントに課題が存在する
1	人員の調整

(2件／18件中)

表 3.115 は以上

表 3.116: 「時間」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	調整する時間の確保が難しい。
1	委員会内で評価する時間、合格者選考の時間が足りない。

(2件／18件中)

表 3.116 は以上

国立大学による QC-9 の自由記述回答で上位 2 つのキーワードは以下のとおりである。

1 位: 「アドミッションポリシー」, 「全学・全学的」 (3 件/18 件中)

2 位: 「人員・マンパワー」, 「時間」 (2 件/18 件中)

以上のように、国立大学では、部局間の調整について、各学部のアドミッションポリシーと全学的な方針との調整を課題として挙げている大学が確認された。また、人員や時間の調整も課題として挙げる大学が確認された。学部規模による顕著な違いは見られなかった。

公立大学 公立大学では、回答のあった 15 大学中 2 大学が「人員・マンパワー」, 「評価基準」, 「アドミッションポリシー」, 「合格判定・判定」を含む自由回答をしている (表 3.117, 表 3.118, 表 3.119, 表 3.120 参照)。

表 3.117: 「人員・マンパワー」を含む自由記述回答

学部規模	回答
3・4	人員が不足していること。
3・4	会場（面接会場）の確保、人員配置（面接員の不足）

(2件／15件中)

表 3.117 は以上

表 3.118: 「評価基準」を含む自由記述回答

学部規模	回答
2	評価基準等について、学科間の意思統一を図ることが困難
1	面接試験の評価基準（各学科のアドミッションポリシーの違い）

(2 件／ 15 件中)

表 3.118 は以上

表 3.119: 「アドミッションポリシー」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	部局ごとに異なるアドミッションポリシーを持っているため。
1	面接試験の評価基準（各学科のアドミッションポリシーの違い）

(2 件／ 15 件中)

表 3.119 は以上

表 3.120: 「合格判定・判定」を含む自由記述回答

学部規模	回答
3・4	大学入学共通テストと個別学力検査で純分判定できており、他の評価方法を導入する予定はない。
1	面接試験を実施し、人柄も踏まえて合否を判断する場合、面接員の確保や試験運営自体が難しい。また、事前に受験生に自己アピールを録画させた場合に、それを公平に評価するのが難しい。

(2 件／ 15 件中)

表 3.120 は以上

以上のように、公立大学では QC-9 の回答が少なく、部局間の調整に課題を感じる大学が少ないことが分かる。課題として挙げられているのは、人員の調整や評価基準、合否判定の一貫性を確保するための全学的な調整に困難を抱えている大学が確認された。

私立大学 私立大学では、回答のあった 134 大学中 52 大学が「**人員・マンパワー**」を含む自由回答をしている（表 3.121 参照）。

表 3.121: 「人員・マンパワー」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	人員確保。
5 +	出願者数が多いため、評価をおこなう人員・時間が不足しており、調整が難しい。

表 3.121 は次ページに続く

表 3.121 前ページからの続き

学部規模	回答
5 +	人員不足の課題や限られた時間内での採点，評価の公平性の担保。
5 +	情報の不足，人員および時間の不足
5 +	通常の入試業務に加えて，導入するのは，人員確保や時間的に難しい。
5 +	合意，人員不足，時間
5 +	実施に必要な人員の確保，研修 等
5 +	実施体制の構築及び人員確保
5 +	面接に関しては地方会場へ出向く監督者の人員に限りがあるため
5 +	通常業務をしながら，人員・時間を確保すること。共通認識，知識をえるための研修等の実施。
5 +	総合型選抜，学校推薦型選抜，一般選抜前期・中期・後期日程，大学入学共通テストと年間の入試実施回数が多く，人員の確保が難しい。
5 +	学内全体で人員も時間も不足しているため，実施を持ちかけることも困難である。
5 +	評価する人員と時間の確保
5 +	時間 人員の確保
5 +	人員と時間が特に不足している。
5 +	実施するための人員と時間が不足している
5 +	評価するための時間，場所，人員の調整が難しい。
5 +	人員，時間，会場の確保
3・4	人員の確保
3・4	人員の確保
3・4	人員の不足
3・4	公平に調整する事および人員確保
3・4	人員確保
3・4	学部によって欲しい学生像が異なるため，入試内容が多種類となる。実施運営の側面では人員に限りがあるため，選抜方法がある程度画一的なものとしたいが，調整することが難しい。
3・4	実際の試験実施時の人員が足りない点が大い
3・4	必要な人員の確保。
3・4	志願者数に対しての審査する時間と人員不足。
3・4	実施や評価，判定に要する人員や時間が不足するため
3・4	他部局も繁忙期であり，日程，会場，人員の確保が難しい。
3・4	評価者となる教員の負担軽減。入試課の人員不測の解消。
3・4	評価するための人員や時間の調整
3・4	前述回答のとおりで人員不足等以外は特にな
3・4	入試日程と学事日程との調整，試験実施人員と施設の確保
2	人員の配置など
2	評価基準の設定と評価人員の確保

表 3.121 は次ページに続く

表 3.121 前ページからの続き

学部規模	回答
2	人員確保
2	人員調整
2	人員の確保が困難である
2	学力検査と同日に面接を行う場合は、場所、人員の確保が難しい。
2	最大 6 会場での試験実施のため、人員調整が困難
2	必要性の共有および人員の確保
1	入試の当日の人員の配置や、判定会議の日程調整等
1	面接委員など人員の確保
1	人員確保
1	全ての時間に対する人員配置等の物理的問題
1	人員と時間の確保が難しい
1	人員、時間の不足
1	試験準備から当日運営、評価に至るまでの人員確保
1	各部のスケジュール調整が難しい。各部がもっている業務量を入試の期日に合わせられる体制ではない。(人員不足)
1	人員不足
1	人員不足のため
1	人員の確保

(52 件／ 134 件中)

表 3.121 は以上

次に多く見られたキーワードが「**時間**」(134 件中 27 件)であった(表 3.122 参照)。

表 3.122: 「時間」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	出願者数が多いため、評価をおこなう人員・時間が不足しており、調整が難しい。
5 +	人員不足の課題や限られた時間内での採点、評価の公平性の担保。
5 +	情報の不足、人員および時間の不足
5 +	通常の入試業務に加えて、導入するのは、人員確保や時間的に難しい。
5 +	合意、人員不足、時間
5 +	通常業務をしながら、人員・時間を確保すること。共通認識、知識をえるための研修等の実施。
5 +	入試日から合格発表までの期間が短いので、人手と時間が不足する。学部によって求める人材が大きく異なるため、統一入試の実施も困難である。(学力や分野)面接の導入については会場の確保が困難となる。
5 +	学内全体で人員も時間も不足しているため、実施を持ちかけることも困難である。

表 3.122 は次ページに続く

表 3.122 前ページからの続き

学部規模	回答
5 +	評価する人員と時間の確保
5 +	時間 人員の確保
5 +	人員と時間が特に不足している。
5 +	実施するための人員と時間が不足している
5 +	評価するための時間、場所、人員の調整が難しい。
5 +	人員、時間、会場の確保
3・4	各学部での評価基準の設定および人材。また、試験時間の延長によるスケジュール問題等
3・4	実施日と実施時間の調整、採点の調整
3・4	試験から合否反映までの限られた時間の中で必要データの集約・周知・分析に要するスケジュールの確保が困難
3・4	実施する内容にもよるが、業務による対応時間が長期化され、他部局の業務への影響がある。
3・4	志願者数に対しての審査する時間と人員不足。
3・4	実施や評価、判定に要する人員や時間が不足するため
3・4	評価するための人員や時間の調整
2	人事、時間の不足、評価方法など
2	調整のための時間確保
1	全ての時間に対する人員配置等の物理的問題
1	人員と時間の確保が難しい
1	人員、時間の不足
1	時間調整が難しい

(27 件／ 134 件中)

表 3.122 は以上

そして、次に多く見られたキーワードが「**業務**」（134 件中 11 件）であった（表 3.123 参照）。

表 3.123: 「業務」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	部局間よりも要員の意志統一（知識の平準化）を行うことが難しく、個人の業務に対する高度な理解を求めることが難しい。
5 +	通常の入試業務に加えて、導入するのは、人員確保や時間的に難しい。
5 +	通常業務をしながら、人員・時間を確保すること。共通認識、知識をえるための研修等の実施。
3・4	委員会および事務部局それぞれの業務・役割で課題を抱えているため
3・4	実施する内容にもよるが、業務による対応時間が長期化され、他部局の業務への影響がある。
3・4	入試日程が過密で業務を追加する余裕がない

表 3.123 は次ページに続く

表 3.123 前ページからの続き

学部規模	回答
2	入試業務経験が豊富な教職員に負担がかたよる一方で誰にでも任せられるわけではない難しさがある。
2	学部・学科により評価方法・判定方法が異なるため、大学全体で統一した入試を実施することが難しい。例えば、面接試験を取り入れた場合、一部の学科だけの運営とするか全体にするかで教職員の業務も変わってくるため。
2	業務への適性を備えた人材を選出すること。勤務体制を編成すること。
1	担当させる業務への精通度合いにばらつきが多いので、要員配置が難しい。
1	各部のスケジュール調整が難しい。各部がもっている業務量を入試の期日に合わせられる体制ではない。(人員不足)

(11 件／134 件中)

表 3.123 は以上

私立大学による QC-9 の自由記述回答で上位 3 つのキーワードは以下のとおりである。

1 位： 「人員・マンパワー」(52 件/134 件中)

2 位： 「時間」(27 件/134 件中)

3 位： 「業務」(11 件/134 件中)

以上のように、私立大学では、部局間の調整について、「人員の調整」が最も多く、記述内容からは、同様の文脈で「時間の調整」にも課題を抱えている大学が多いことが分かった。また、国立大学や公立大学では挙げられなかった課題として、「業務」が挙げられているが、記述の内容からは、「入試業務を任せられる人員が不足している」や「業務への適性を備えた人材の選出」、1 位の「人員・マンパワー」に関連する課題であることが分かった。

3.4.6 部局間の調整以外の課題について

QC-10. 学力検査以外の評価方法を利用する一般選抜入試の実施体制に関して、部局間の調整の他に課題があれば記入してください。(自由記述)

QC-10 では、学力検査以外の評価方法を利用する一般選抜入試の実施体制に関して、部局間の調整の他の課題について、自由記述で回答いただいた。その結果、QC-7 及び QC-9 同様、設置形態によって感じている課題が異なることが明らかになった。以下、設置形態別の課題として、自由記述の回答の中で頻出したキーワードの上位 3 つを取り上げる。また、以下の自由記述回答は、学部規模（学部数）の多い順に示す。その際、5 学部以上の大学、3-4 学部の大学、2 学部の大学、1 学部の大学の 4 つのカテゴリーに分けて、それぞれ 5 +, 3・4, 2, 1 と表記する。

国立大学 国立大学では、回答のあった 13 大学中 8 大学が「評価」を含む自由回答をしている(表 3.124 参照)。

表 3.124: 「評価」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	一般選抜では、試験実施から合格発表までの時間的余裕がないため、学力検査以外の評価を充実させることは難しい。
5 +	一般選抜において学力検査以外の評価を導入する場合、特にあまり一般的でない評価方法を導入する場合には高校の進路指導現場との丁寧かつ十分なコミュニケーションが必要であると考えております。
5 +	令和3年度から一般選抜の全受験生に主体性評価を導入したが、アドミッションセンターが全学で統一した評価方法を主導したので特に大きな課題はなかった。ただし、主体性評価の方法や実施体制については、全学的理解に多少の時間を要した。
5 +	学力検査と比して、全体的に大学の負担が大きい。アドミッションポリシーとの整合性が重要であるため、学科等のより小さい単位毎での評価となる。
5 +	QC-7で回答したとおり、人間的、時間的にも困難であり、評価の公平性・公正性を担保できるのか心配である。
3・4	・アドミッションセンターの役割などの定義の明確化・アドミッションセンターのマンパワー（評価方法にもよるが）
2	・新たな出題や評価等に対応できる人員の確保・受験者数の多い選抜における公平な評価方法の設定
1	受験者数が多い募集単位の場合、面接については所要時間が、小論文については採点にかかる時間が長くなる。時間短縮のためには評価者を増加させることになるが、その場合評価者の確保が課題となる。

(8件／13件中)

表 3.124 は以上

次に多く見られたキーワードが「**時間**」(13件中6件)であった(表 3.125 参照)。

表 3.125: 「時間」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	現在の分離・分割方式の日程では、合格者発表までの期間が短い。面接、あるいは他の方法においても時間的な制約から生じる課題は多いのではないかと。
5 +	一般選抜では、試験実施から合格発表までの時間的余裕がないため、学力検査以外の評価を充実させることは難しい。
5 +	令和3年度から一般選抜の全受験生に主体性評価を導入したが、アドミッションセンターが全学で統一した評価方法を主導したので特に大きな課題はなかった。ただし、主体性評価の方法や実施体制については、全学的理解に多少の時間を要した。
5 +	QC-7で回答したとおり、人間的、時間的にも困難であり、評価の公平性・公正性を担保できるのか心配である。

表 3.125 は次ページに続く

表 3.125 前ページからの続き

学部規模	回答
1	受験者数が多い募集単位の場合、面接については所要時間が、小論文については採点にかかる時間が長くなる。時間短縮のためには評価者を増加させることになるが、その場合評価者の確保が課題となる。
1	調査書等採点に係る人手や時間の確保

(6 件／13 件中)

表 3.125 は以上

そして、次に多く見られたキーワードが「**人員・マンパワー・人手**」（13 件中 4 件）であった（表 3.126 参照）。

表 3.126: 「人員・マンパワー・人手」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	QC-7 で回答したとおり、人間的、時間的にも困難であり、評価の公平性・公正性を担保できるのか心配である。
3・4	・アドミッションセンターの役割などの定義の明確化・アドミッションセンターのマンパワー（評価方法にもよるが）
2	・新たな出題や評価等に対応できる人員の確保・受験者数の多い選抜における公平な評価方法の設定
1	調査書等採点に係る人手や時間の確保

(4 件／13 件中)

表 3.126 は以上

国立大学による QC-10 の自由記述回答で上位 3 つのキーワードは以下のとおりである。

- 1 位： 「評価」（8 件/13 件中）
- 2 位： 「時間」（6 件/13 件中）
- 3 位： 「人員・マンパワー・人手」（4 件/13 件中）

以上のように、国立大学では、一般選抜入試の実施体制について、「評価」が最も多く、記述内容からは、評価方法の開発に関する課題や評価を行う人員の不足に関する課題をあげている大学が確認された。これは、2 位と 3 位のキーワードにも関わっており、評価を行うための時間や人員不足を課題として感じている大学が多いことが分かった。

公立大学 公立大学では、回答のあった 8 大学中 4 大学が「**確保**」を含む自由回答をしている（表 3.127 参照）。

表 3.127: 「確保」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	・試験室や使用設備の確保・使用物品購入のための予算確保

表 3.127 は次ページに続く

表 3.127 前ページからの続き

学部規模	回答
3・4	試験室の確保，従事者の確保
2	客観性，公平性の確保
1	1 日で試験を終わらせるため，評価時間の確保が課題。

(4 件／8 件中)

表 3.127 は以上

次に多く見られたキーワードが「**時間**」(8 件中 3 件)であった。(表 3.128 参照)。

表 3.128: 「時間」を含む自由記述回答

学部規模	回答
2	合否判定が複雑化するため，作業人員，時間が不足
1	採点時間にかなりの制限がある。
1	1 日で試験を終わらせるため，評価時間の確保が課題。

(3 件／8 件中)

表 3.128 は以上

そして，次に多く見られたキーワードが「**評価**」(8 件中 2 件)であった。(表 3.129 参照)。

表 3.129: 「評価」を含む自由記述回答

学部規模	回答
1	学力検査以外の評価方法はどうしても評価者の主観が反映される。公平・公正に実施しようとするとかかなり細かく規準を設定することになり，結局 1 点きざみから脱却できない。結果，本来の多面的・総合的評価の趣旨からは逸脱することになってしまうため，志願者の多い一般選抜では特に導入しづらい実態がある。
1	1 日で試験を終わらせるため，評価時間の確保が課題。

(2 件／8 件中)

表 3.129 は以上

公立大学による QC-10 の自由記述回答で上位 3 つのキーワードは以下のとおりである。

1 位： 「確保」(4 件/8 件中)

2 位： 「時間」(3 件/8 件中)

3 位： 「評価」(2 件/8 件中)

以上のように，公立大学では，一般選抜入試の実施体制について，特に「試験室の確保」が 4 件中 2 件となっており，会場の確保が課題と感じていることが分かった。また，評価時間が不足している点も課題と感じていることも分かった。さらに，学部規模が大きい公立大学では，試験室に加え，使用物品購入のための予算の確保も課題として挙げられていた。

私立大学 私立大学では、回答のあった 46 大学中 18 大学が「評価」を含む自由回答をしている（表 3.130 参照）。

表 3.130: 「評価」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	実施に必要な人員の確保，評価・採点の時間の確保
5 +	評価するための人員・時間・研修機会の確保が困難である。受験生が出願する大学は 1 校ではないため，合格発表まであまり時間をかけることは受験生にとっても得策ではない。
5 +	評価にばらつきが出るおそれがあること。
3・4	評価の基礎となる文書や書面のデータ化など，インフラ面の整備も必要。
3・4	学力検査以外の評価方法を可否の判定に導入する場合に，どのように活用をするのか活用方法に関する調整と可否判定方法をどのようにするのか，部局間でどのように十分検討，調整をしていく必要があるかと考えております。
3・4	小論文や面接は，採点・評価をシステム化できず，時間が足りない。
3・4	学力検査以外の評価方法について，具体的な評価基準を点数化（見える化）し，公表することは，一般選抜の特性から僅差で可否が分かれてしまうため難しい。
2	導入する意図と効果の理解促進と評価者の育成
2	評価基準 公平性 経済的地域的格差 高校の意識差や指導力の差 等
2	調査書にて主体性などを評価することについては，時間的に不足している部分と，現在の日本では入試については厳密な公平性が求められているため，可否判定に用いることは難しい。
2	しっかりとした評価基準を設定し，得点換算とするのか参考とするのか，またそれを入学後も活用しているのかも検討しなければならない。
2	JAPAN e ポートフォリオのシステムがご破算になったことで，利用を検討していたが頓挫した。英語の民間試験の評価同様にペーパーで郵送となると，人員的にも時間的にも処理及び評価の算出に無理がある。また，評価方法も大学教員にはノウハウがなく，入試課やアドミッションオフィスで算出せざるを得ないが，これも前述同様の困難がある。
1	評価する側の習熟や考え方にバラツキがある。
1	さまざまな評価への基準設定が難しい。
1	評価する人員を捻出することが難しい
1	評価者の受験者に対する公平な評価の実施が難し
1	コロナ感染対策をとった上での実施スペース確保。学校や学年毎に評価基準や記載項目・内容，記載方法の異なる調査書を「公平・公正」に評価する方法の事例等をうかがいたい。
1	学力検査以外の評価方法を利用する一般選抜入試の実施に関する準備や体制づくり

(18 件／46 件中)

表 3.130 は以上

次に多く見られたキーワードが「時間」（46 件中 11 件）であった（表 3.131 参照）。

表 3.131: 「時間」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	実施に必要な人員の確保, 評価・採点の時間の確保
5 +	評価するための人員・時間・研修機会の確保が困難である。受験生が出願する大学は1校ではないため, 合格発表まであまり時間をかけることは受験生にとっても得策ではない。
3・4	採点・審査期間を余裕を持って設定しなくてはならないが, 実際には時間がなく厳しい。
3・4	試験時間の設定, 受験者の帰宅時間が遅くならないように時間を調整して運営することに労力を有する。
3・4	小論文や面接は, 採点・評価をシステム化できず, 時間が足りない。
2	調査書にて主体性などを評価することについては, 時間的に不足している部分と, 現在の日本では入試については厳密な公平性が求められているため, 可否判定に用いることは難しい。
2	受験者数の観点から受験当日に掛けられる時間に限りがあり, 実施困難な事項が多い。
2	例えば面接など, 試験時間割編成の難しさ。検査などの作問ノウハウの不足。
2	JAPAN eポートフォリオのシステムがご破算になったことで, 利用を検討していたが頓挫した。英語の民間試験の評価同様にペーパーで郵送となると, 人員的にも時間的にも処理及び評価の算出に無理がある。また, 評価方法も大学教員にはノウハウがなく, 入試課やアドミッションオフィスで算出せざるを得ないが, これも前述同様の困難がある。
1	全ての時間に対する人員配置等の物理的問題
1	入試成績処理をするための, 試験日から合格発表日まで時間の確保が難しい。

(11 件 / 46 件中)

表 3.131 は以上

そして, 次に多く見られたキーワードが「**人員・マンパワー・人手**」(46 件中 10 件)であった(表 3.132 参照)。

表 3.132: 「人員・マンパワー・人手」を含む自由記述回答

学部規模	回答
5 +	実施に必要な人員の確保, 評価・採点の時間の確保
5 +	評価するための人員・時間・研修機会の確保が困難である。受験生が出願する大学は1校ではないため, 合格発表まであまり時間をかけることは受験生にとっても得策ではない。
3・4	地方会場の面接等の人員確保
3・4	事務作業が増大するため, 人員の手当等が必要になる可能性あり。
2	人員の調整, 施設(教室)の調整

表 3.132 は次ページに続く

表 3.132 前ページからの続き

学部規模	回答
2	入試問題作成、会場設営、人員が増えることによる経費負担の増加
2	JAPAN e ポートフォリオのシステムがご破算になったことで、利用を検討していたが頓挫した。英語の民間試験の評価同様にペーパーで郵送となると、人員的にも時間的にも処理及び評価の算出に無理がある。また、評価方法も大学教員にはノウハウがなく、入試課やアドミッションオフィスで算出せざるを得ないが、これも前述同様の困難がある。
1	人員不足
1	全ての時間に対する人員配置等の物理的問題
1	評価する人員を捻出することが難しい

(10 件／46 件中)

表 3.132 は以上

私立大学による QC-10 の自由記述回答で上位 3 つのキーワードは以下のとおりである。

1 位： 「評価」 (18 件/46 件中)

2 位： 「時間」 (11 件/46 件中)

3 位： 「人員・マンパワー・人手」 (10 件/46 件中)

以上のように、私立大学では、一般選抜入試の実施体制については、国立大学と全く同様のキーワードが上位を占めていることが分かった。一方で、記述内容からは、国立大学のような評価方法の開発の課題ではなく、評価時間や人員の不足や公平な評価の担保等に課題を感じていることが分かった。

3.4.7 おわりに

本節では、一般選抜における多面的・総合的評価の実態と課題について検討してきた。実態調査の分析から、以下の点が明らかになった。一般選抜における学力検査以外の評価方法として、最も多くの大学に利用されている資料が、「調査書」であることが明らかになった。これは、特に国公立大学で多く見られる傾向であった。ただし、評価基準の設定や合否判定への反映、公平な評価が課題と考えられていることが明らかになった。また、国立大学に関しては、「調査書」以外のすべての評価方法を利用している傾向が見られた。その理由として、「大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い」と回答している割合が高く、評価に関する課題を抱えながらも AP と照らして多面的・総合的評価が実施されていることが分かった。一方で、私立大学では、「調査書」を含めて、一般選抜では学力検査以外の評価方法はあまり利用されていないことが明らかになった。その理由として、自由記述の分析から、評価のための時間が十分にとれない点や評価期間の短さ、人員不足を課題として認識していることが明らかになった。今後は、本実態調査の結果を踏まえ、調査書を活用した入試方法の開発や事例研究、評価方法に関する入試担当者を対象とした研修等の設計に生かしていきたい。

3.5 一般選抜における多面的・総合的評価等に関する項目の相関分析

大塚雄作

本節では、実態調査のセクション C 「一般選抜における多面的・総合的評価等についてお尋ねします」のうち、QC-1～QC-6 の回答データを用いて因子分析を行う。本節の分析には SPSS Ver.28 を用いる。

3.5.1 学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分の有無に関する因子分析

QC-1. 一般選抜において、学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分はありますか。次の (a)～(e) それぞれについて、当てはまるものを選択してください。（「1. ない」「2. ある」のいずれかを選択）

(a) 調査書 (b) 調査書以外の書面 (c) 検査 (d) 小論文等 (e) 面接・討論等

QC-1 では、(a)～(e) の評価方法に関して、一般選抜において利用している選抜区分がなければ 1、あれば 2 と回答する。(a)～(e) の評価方法の例については、3.4 節の表 3.79 または付録 A.2 の質問項目一覧を参照されたい。これら (a)～(e) の回答に関して因子分析を行う。

表 3.133 に、(a)～(e) の回答の相関行列を示す。QC-1(a)～(e) の 5 項目の回答に関して、主成分分解を初期解として 3 因子を抽出し、プロマックス回転（初期解因子負荷量の 3 乗をターゲット）を行った。表 3.134 に回転後の因子負荷量を、表 3.135 に因子間相関を示す。

第 1 因子に負荷量の高い「小論文等」と「面接・討論等」の両方については、利用している選抜区分があると回答した大学は 206 大学、利用している区分がないと回答した大学は 251 大学であった。第 2 因子に負荷量の高い「調査書」と「調査書以外の書面」の両方については、利用している選抜区分があると回答した大学は 199 大学、利用している区分がないと回答した大学は 248 大学であった。第 3 因子は「検査」のみの独自因子となっている。

表 3.133: 評価方法 (a)～(e) を利用する選抜区分の有無に関する項目 (QC-1) の相関行列

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
(a) 調査書	1.000	0.270	0.175	0.173	0.193
(b) 調査書以外の書面	0.270	1.000	0.206	0.165	0.203
(c) 検査	0.175	0.206	1.000	0.283	0.239
(d) 小論文等	0.173	0.165	0.283	1.000	0.490
(e) 面接・討論等	0.193	0.203	0.239	0.490	1.000

表 3.134: 評価方法 (a)～(e) を利用する選抜区分の有無に関する項目 (QC-1) のプロマックス回転解

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子
(a) 調査書	0.072	0.837	−0.141
(b) 調査書以外の書面	−0.075	0.741	0.205
(c) 検査	0.031	0.011	0.964
(d) 小論文等	0.847	−0.050	0.088
(e) 面接・討論等	0.864	0.053	−0.048

表 3.135: 評価方法 (a)～(e) を利用する選抜区分の有無に関する項目 (QC-1) の因子間相関

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子
第 1 因子	1.000	0.252	0.271
第 2 因子	0.252	1.000	0.203
第 3 因子	0.271	0.203	1.000

3.5.2 学力検査以外の評価方法それぞれに関する捉え方の因子分析

QC-2～6 では、調査書、調査書以外の書面、検査、小論文等、面接・討論等のそれぞれの評価方法について、(a)～(h) の 8 項目に関する 4 段階の評定を回答する。各項目への回答を間隔尺度とみなして、因子分析を行う。以降の文中や表では、(a)～(h) の項目内容を一部省略して表内に示す場合がある。

QC-2. 一般選抜での「調査書」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「調査書」を利用していない大学もご回答ください。

QC-3. 一般選抜での「調査書以外の書面」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「調査書以外の書面」を利用していない大学もご回答ください。

QC-4. 一般選抜での「検査」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「検査」を利用していない大学もご回答ください。

QC-5. 一般選抜での「小論文等」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「小論文等」を利用していない大学もご回答ください。

QC-6. 一般選抜での「面接・討論等」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「面接・討論等」を利用していない大学もご回答ください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

(a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い

- (b) 評価基準の設定が難しい
- (c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい
- (d) 公平に評価するのが難しい
- (e) 評価するための人員が不足している
- (f) 評価するための時間が不足している
- (g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい
- (h) 利用の仕方に関する情報が不足している

表 3.136 に、「調査書」の利用に関する項目 (a)～(h) (QC-2) の回答の相関行列を示す。QC-2(a)～(h) の 8 項目の回答に関して、主成分分解を初期解として 4 因子を抽出し、プロマックス回転（初期解因子負荷量の 3 乗をターゲット）を行った。表 3.137 に回転後の因子負荷量を、表 3.138 に因子間相関を示す。

表 3.136: 「調査書」の利用に関する項目 (QC-2) の相関行列

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)
(a)	1.000	−0.110	−0.213	−0.181	−0.086	−0.094	−0.063	−0.114
(b)	−0.110	1.000	0.816	0.744	0.562	0.580	0.604	0.609
(c)	−0.213	0.816	1.000	0.775	0.555	0.576	0.598	0.659
(d)	−0.181	0.744	0.775	1.000	0.595	0.596	0.580	0.607
(e)	−0.086	0.562	0.555	0.595	1.000	0.938	0.680	0.590
(f)	−0.094	0.580	0.576	0.596	0.938	1.000	0.695	0.619
(g)	−0.063	0.604	0.598	0.580	0.680	0.695	1.000	0.706
(h)	−0.114	0.609	0.659	0.607	0.590	0.619	0.706	1.000

表 3.137: 「調査書」の利用に関する項目 (QC-2) のプロマックス回転解

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
(a) AP に照らして必要性が高い	0.003	−0.006	0.000	0.999
(b) 評価基準の設定が難しい	0.905	0.022	0.037	0.078
(c) どのように合否判定へ反映させるか難しい	0.866	−0.039	0.128	−0.055
(d) 公平に評価するのが難しい	0.851	0.136	−0.044	−0.026
(e) 評価するための人員が不足している	0.044	0.951	0.012	−0.002
(f) 評価するための時間が不足している	0.047	0.914	0.061	−0.009
(g) 教職員研修の機会の確保が難しい	0.007	0.265	0.732	0.035
(h) 利用の仕方に関する情報が不足している	0.124	−0.040	0.884	−0.025

表 3.138: 「調査書」の利用に関する項目 (QC-2) の因子間相関

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
第 1 因子	1.000	0.558	0.617	-0.183
第 2 因子	0.558	1.000	0.596	-0.075
第 3 因子	0.617	0.596	1.000	-0.086
第 4 因子	-0.183	-0.075	-0.086	1.000

表 3.139 に、「調査書以外の書面」の利用に関する項目 (a)～(h) (QC-3) の回答の相関行列を示す。QC-3(a)～(h) の 8 項目の回答に関して、主成分解を初期解として 4 因子を抽出し、プロマックス回転（初期解因子負荷量の 3 乗をターゲット）を行った。表 3.140 に回転後の因子負荷量を、表 3.141 に因子間相関を示す。

表 3.139: 「調査書以外の書面」の利用に関する項目 (QC-3) の相関行列

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)
(a)	1.000	0.011	-0.020	-0.020	0.064	0.073	0.069	-0.006
(b)	0.011	1.000	0.884	0.857	0.652	0.656	0.692	0.714
(c)	-0.020	0.884	1.000	0.855	0.651	0.668	0.703	0.754
(d)	-0.020	0.857	0.855	1.000	0.683	0.682	0.691	0.734
(e)	0.064	0.652	0.651	0.683	1.000	0.962	0.801	0.725
(f)	0.073	0.656	0.668	0.682	0.962	1.000	0.789	0.730
(g)	0.069	0.692	0.703	0.691	0.801	0.789	1.000	0.800
(h)	-0.006	0.714	0.754	0.734	0.725	0.730	0.800	1.000

表 3.140: 「調査書以外の書面」の利用に関する項目 (QC-3) のプロマックス回転解

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
(a) AP に照らして必要性が高い	0.002	-0.003	-0.002	1.000
(b) 評価基準の設定が難しい	0.930	0.040	0.009	0.028
(c) どのように合否判定へ反映させるか難しい	0.871	-0.001	0.127	-0.008
(d) 公平に評価するのが難しい	0.865	0.125	0.001	-0.018
(e) 評価するための人員が不足している	0.056	0.926	0.044	-0.010
(f) 評価するための時間が不足している	0.078	0.916	0.031	0.000
(g) 教職員研修の機会の確保が難しい	0.055	0.331	0.651	0.037
(h) 利用の仕方に関する情報が不足している	0.188	0.041	0.802	-0.028

表 3.141: 「調査書以外の書面」の利用に関する項目 (QC-3) の因子間相関

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
第 1 因子	1.000	0.610	0.656	-0.017
第 2 因子	0.610	1.000	0.660	0.082
第 3 因子	0.656	0.660	1.000	0.023
第 4 因子	-0.017	0.082	0.023	1.000

表 3.142 に、「検査」の利用に関する項目 (a)～(h) (QC-4) の回答の相関行列を示す。QC-4(a)～(h) の 8 項目の回答に関して、主成分解を初期解として 4 因子を抽出し、プロマックス回転（初期解因子負荷量の 3 乗をターゲット）を行った。表 3.143 に回転後の因子負荷量を、表 3.144 に因子間相関を示す。

表 3.142: 「検査」の利用に関する項目 (QC-4) の相関行列

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)
(a)	1.000	-0.072	-0.123	-0.081	-0.031	-0.049	-0.048	-0.110
(b)	-0.072	1.000	0.925	0.901	0.699	0.711	0.748	0.731
(c)	-0.123	0.925	1.000	0.888	0.695	0.714	0.741	0.751
(d)	-0.081	0.901	0.888	1.000	0.721	0.727	0.746	0.728
(e)	-0.031	0.699	0.695	0.721	1.000	0.970	0.843	0.745
(f)	-0.049	0.711	0.714	0.727	0.970	1.000	0.843	0.761
(g)	-0.048	0.748	0.741	0.746	0.843	0.843	1.000	0.834
(h)	-0.110	0.731	0.751	0.728	0.745	0.761	0.834	1.000

表 3.143: 「検査」の利用に関する項目 (QC-4) のプロマックス回転解

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
(a) AP に照らして必要性が高い	0.000	-0.003	-0.003	1.000
(b) 評価基準の設定が難しい	0.924	0.046	0.034	0.023
(c) どのように合否判定へ反映させるか難しい	0.892	0.028	0.083	-0.031
(d) 公平に評価するのが難しい	0.879	0.133	-0.013	0.006
(e) 評価するための人員が不足している	0.070	0.944	0.001	0.001
(f) 評価するための時間が不足している	0.089	0.914	0.021	-0.015
(g) 教職員研修の機会の確保が難しい	0.119	0.455	0.490	0.029
(h) 利用の仕方に関する情報が不足している	0.129	0.089	0.829	-0.015

表 3.144: 「検査」の利用に関する項目 (QC-4) の因子間相関

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
第 1 因子	1.000	0.649	0.650	-0.093
第 2 因子	0.649	1.000	0.664	-0.023
第 3 因子	0.650	0.664	1.000	-0.095
第 4 因子	-0.093	-0.023	-0.095	1.000

表 3.145 に、「小論文等」の利用に関する項目 (a)～(h) (QC-5) の回答の相関行列を示す。QC-5(a)～(h) の 8 項目の回答に関して、主成分解を初期解として 4 因子を抽出し、プロマックス回転（初期解因子負荷量の 3 乗をターゲット）を行った。表 3.146 に回転後の因子負荷量を、表 3.147 に因子間相関を示す。

表 3.145: 「小論文等」の利用に関する項目 (QC-5) の相関行列

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)
(a)	1.000	0.002	-0.086	-0.017	-0.047	-0.056	0.063	-0.037
(b)	0.002	1.000	0.807	0.833	0.585	0.580	0.652	0.684
(c)	-0.086	0.807	1.000	0.814	0.579	0.587	0.596	0.712
(d)	-0.017	0.833	0.814	1.000	0.631	0.634	0.662	0.711
(e)	-0.047	0.585	0.579	0.631	1.000	0.957	0.716	0.671
(f)	-0.056	0.580	0.587	0.634	0.957	1.000	0.712	0.668
(g)	0.063	0.652	0.596	0.662	0.716	0.712	1.000	0.771
(h)	-0.037	0.684	0.712	0.711	0.671	0.668	0.771	1.000

表 3.146: 「小論文等」の利用に関する項目 (QC-5) のプロマックス回転解

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
(a) AP に照らして必要性が高い	0.007	-0.008	0.001	0.998
(b) 評価基準の設定が難しい	0.901	0.006	0.053	0.051
(c) どのように合否判定へ反映させるか難しい	0.911	0.012	0.024	-0.062
(d) 公平に評価するのが難しい	0.853	0.104	0.036	0.029
(e) 評価するための人員が不足している	0.042	0.931	0.050	-0.003
(f) 評価するための時間が不足している	0.050	0.934	0.037	-0.013
(g) 教職員研修の機会の確保が難しい	0.008	0.181	0.817	0.063
(h) 利用の仕方に関する情報が不足している	0.228	-0.003	0.784	-0.067

表 3.147: 「小論文等」の利用に関する項目 (QC-5) の因子間相関

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
第 1 因子	1.000	0.567	0.645	-0.045
第 2 因子	0.567	1.000	0.636	-0.044
第 3 因子	0.645	0.636	1.000	0.030
第 4 因子	-0.045	-0.044	0.030	1.000

表 3.148 に、「面接・討論等」の利用に関する項目 (a)～(h) (QC-6) の回答の相関行列を示す。QC-6(a)～(h) の 8 項目の回答に関して、主成分解を初期解として 4 因子を抽出し、プロマックス回転（初期解因子負荷量の 3 乗をターゲット）を行った。表 3.149 に回転後の因子負荷量を、表 3.150 に因子間相関を示す。

表 3.148: 「面接・討論等」の利用に関する項目 (QC-6) の相関行列

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)
(a)	1.000	-0.033	-0.129	-0.033	-0.044	-0.063	0.022	-0.090
(b)	-0.033	1.000	0.838	0.837	0.551	0.558	0.676	0.661
(c)	-0.129	0.838	1.000	0.809	0.588	0.603	0.629	0.681
(d)	-0.033	0.837	0.809	1.000	0.642	0.652	0.715	0.710
(e)	-0.044	0.551	0.588	0.642	1.000	0.950	0.715	0.651
(f)	-0.063	0.558	0.603	0.652	0.950	1.000	0.720	0.659
(g)	0.022	0.676	0.629	0.715	0.715	0.720	1.000	0.798
(h)	-0.090	0.661	0.681	0.710	0.651	0.659	0.798	1.000

表 3.149: 「面接・討論等」の利用に関する項目 (QC-6) のプロマックス回転解

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
(a) AP に照らして必要性が高い	0.001	-0.004	-0.010	0.998
(b) 評価基準の設定が難しい	0.942	-0.053	0.066	0.043
(c) どのように合否判定へ反映させるか難しい	0.916	0.067	-0.026	-0.076
(d) 公平に評価するのが難しい	0.784	0.114	0.116	0.041
(e) 評価するための人員が不足している	0.029	0.947	0.036	0.004
(f) 評価するための時間が不足している	0.045	0.934	0.040	-0.016
(g) 教職員研修の機会の確保が難しい	0.073	0.185	0.767	0.072
(h) 利用の仕方に関する情報が不足している	0.119	-0.001	0.872	-0.074

表 3.150: 「面接・討論等」の利用に関する項目 (QC-6) の因子間相関

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子
第 1 因子	1.000	0.566	0.653	-0.065
第 2 因子	0.566	1.000	0.633	-0.038
第 3 因子	0.653	0.633	1.000	-0.015
第 4 因子	-0.065	-0.038	-0.015	1.000

QC-2～QC-6 の項目群は、おおむね同様の因子構造になっている。第 1 因子に負荷量の高い項目は、「(b) 評価基準の設定の難しさ」「(c) 評価結果の合否判定への反映の難しさ」「(d) 公平な評価の難しさ」であり、評価の難しさに関わる因子となっている。

第 2 因子に負荷量の高い項目は、「(e) 評価するための人員不足」「(f) 評価するための時間不足」であり、評価実施のためのリソースの不十分性に関する因子となっている。

第 3 因子に負荷量の高い項目は、「(g) 教職員研修の難しさ」「(h) 利用の仕方に関する情報不足」であり、事前の研修の不十分性に関する因子となっている。

第 4 因子に因子負荷量の高い項目は、「(a) アドミッションポリシー (AP) に照らして必要」のみであり、この項目は、ほかとは性格の異なる項目であることが窺える。

3.5.3 学力検査以外の評価方法の捉え方の因子分析

QC-2～QC-6 のすべての項目 (40 項目) の回答に関して、主成分分解を初期解として 6 因子を抽出し、プロマックス回転 (初期解因子負荷量の 3 乗をターゲット) を行った。表 3.151 に回転後の因子負荷量を、表 3.152 に因子間相関を示す。表 3.151 内では、QC-2～QC-6 で対象とする評価方法「調査書」「調査書以外の書面」「検査」「小論文等」「面接・討論等」で下線を付した文字を (a)～(h) の冒頭に付加して示す。

第 1 因子は、「QC-5. 小論文等」「QC-6. 面接・討論等」に関して、「(a) AP のため必要」を除くほぼすべての項目の負荷量が大きくなっている。第 1 因子を「小論文・面接利用困難感因子」と命名する。

第 2 因子は、「QC-4. 検査」に関して、「(a) AP のため必要」を除くほぼすべての項目の負荷量が大きくなっている。第 2 因子を「検査利用困難感因子」と命名する。

第 3 因子は、「QC-3. 調査書以外の書面」に関して、「(a) AP のため必要」を除くほぼすべての項目の負荷量が大きくなっている。第 3 因子を「書面利用困難感因子」と命名する。

第 4 因子は、「QC-2. 調査書」に関して、「(a) AP のため必要」を除くほぼすべての項目の負荷量が大きくなっている。第 4 因子を「調査書利用困難感因子」と命名する。

第 5 因子は、QC-2～QC-6 を通して、「(e) 評価のための人員不足」「(f) 評価のための時間不足」の負荷量が大きくなっている。第 5 因子を「評価人員・時間不足因子」と命名する。

第 6 因子は、QC-2～QC-6 を通して、「(a) AP のため必要」の負荷量が大きくなっている。第 6 因子を「AP 必要性因子」と命名する。

表 3.151: QC-2～QC-6 の項目のプロマックス回転解

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子	第 5 因子	第 6 因子
調-(a)AP 必要性が高い	0.012	0.038	-0.057	-0.223	0.002	0.602
調-(b) 評価基準設定難	0.096	-0.005	0.019	0.859	-0.056	0.034
調-(c) 合否判定反映難	0.119	0.032	0.004	0.889	-0.097	-0.047
調-(d) 公平評価難	0.073	0.016	0.025	0.798	0.044	-0.058
調-(e) 評価人員不足	-0.110	-0.041	-0.029	0.554	0.620	-0.020
調-(f) 評価時間不足	-0.120	-0.025	-0.011	0.554	0.628	-0.018
調-(g) 研修機会確保難	-0.027	0.007	0.058	0.626	0.318	0.055
調-(h) 利用仕方情報不足	0.001	0.014	0.161	0.664	0.123	0.003
書-(a)AP 必要性が高い	0.092	-0.008	-0.181	0.069	0.054	0.688
書-(b) 評価基準設定難	0.096	0.034	0.857	0.051	-0.074	0.028
書-(c) 合否判定反映難	0.101	0.072	0.869	0.058	-0.114	-0.028
書-(d) 公平評価難	0.077	0.023	0.863	0.033	-0.021	-0.039
書-(e) 評価人員不足	-0.098	-0.004	0.610	-0.028	0.595	0.003
書-(f) 評価時間不足	-0.097	-0.014	0.615	0.002	0.569	-0.012
書-(g) 研修機会確保難	-0.011	0.002	0.693	0.026	0.330	0.051
書-(h) 利用仕方情報不足	0.033	0.036	0.756	0.047	0.158	-0.014
検-(a)AP 必要性が高い	0.149	-0.189	0.044	-0.058	0.006	0.609
検-(b) 評価基準設定難	0.097	0.912	0.067	0.008	-0.166	-0.025
検-(c) 合否判定反映難	0.093	0.912	0.069	0.003	-0.155	-0.050
検-(d) 公平評価難	0.054	0.909	0.082	-0.019	-0.111	-0.054
検-(e) 評価人員不足	-0.073	0.766	-0.062	-0.017	0.420	0.046
検-(f) 評価時間不足	-0.062	0.767	-0.053	-0.026	0.424	0.030
検-(g) 研修機会確保難	-0.011	0.800	0.003	0.016	0.234	0.062
検-(h) 利用仕方情報不足	0.029	0.775	0.007	0.063	0.144	0.013
小-(a)AP 必要性が高い	-0.057	0.024	0.063	0.142	-0.111	0.751
小-(b) 評価基準設定難	0.839	0.076	-0.008	0.049	-0.074	0.026
小-(c) 合否判定反映難	0.852	0.102	-0.017	-0.005	-0.097	-0.064
小-(d) 公平評価難	0.846	0.040	-0.024	0.025	-0.001	0.013
小-(e) 評価人員不足	0.434	0.093	-0.114	-0.012	0.619	-0.064
小-(f) 評価時間不足	0.441	0.101	-0.118	-0.018	0.611	-0.072
小-(g) 研修機会確保難	0.579	0.100	-0.058	0.079	0.324	0.100
小-(h) 利用仕方情報不足	0.693	0.069	-0.010	0.036	0.197	-0.008
面-(a)AP 必要性が高い	-0.112	0.104	0.111	-0.021	-0.143	0.680
面-(b) 評価基準設定難	0.799	-0.083	0.110	0.073	0.012	0.030
面-(c) 合否判定反映難	0.812	-0.061	0.066	0.002	0.068	-0.024
面-(d) 公平評価難	0.744	-0.045	0.075	0.015	0.179	0.047
面-(e) 評価人員不足	0.359	-0.012	0.057	-0.072	0.689	-0.037
面-(f) 評価時間不足	0.386	-0.026	0.067	-0.080	0.675	-0.060
面-(g) 研修機会確保難	0.552	-0.007	0.094	0.009	0.378	0.104
面-(h) 利用仕方情報不足	0.648	-0.008	0.089	-0.024	0.272	0.009

表 3.152: QC-2～QC-6 の項目の因子間相関

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子	第 5 因子	第 6 因子
第 1 因子	1.000	0.460	0.404	0.349	0.380	−0.021
第 2 因子	0.460	1.000	0.404	0.300	0.372	−0.013
第 3 因子	0.404	0.404	1.000	0.497	0.375	0.081
第 4 因子	0.349	0.300	0.497	1.000	0.367	0.060
第 5 因子	0.380	0.372	0.375	0.367	1.000	0.111
第 6 因子	−0.021	−0.013	0.081	0.060	0.111	1.000

抽出した 6 つの因子の因子得点は、それぞれ、全体の平均が 0、標準偏差が 1 になるよう標準化されている。表 3.153 に、大学の設置形態（国立、公立、私立）別に算出した各因子の因子得点の平均値と標準偏差を示す。表 3.154 に、大学の学部規模（1 学部、2 学部、3・4 学部、5 学部以上）別に算出した各因子の因子得点の平均値と標準偏差を示す。

設置形態に関しては、「国立大学」では、「AP 必要性」因子得点の平均値が高くなっているのが特徴的である。「公立大学」では、「調査書利用困難感」因子得点の平均値が高く、「書面利用困難感」因子得点の平均値がやや高くなっている。「私立大学」では、データ数が多いことから、どの因子得点も全体平均に近い平均値となっている。

学部規模に関しては、因子得点の平均値に大きな偏りは見られないが、「5 学部以上」で、「調査書利用困難感」因子と「評価人員・時間不足」因子得点の平均値がやや高くなっている。

群ごとのデータ数が一定程度確保できていないと平均値が不安定になることから、私立大学のみで、学部規模別（1 学部、2 学部、3・4 学部、5 学部以上）に各因子の因子得点の平均値と標準偏差を算出して表 3.155 に示す。学部規模の大きな私立大学ほど、一般選抜における学力検査以外の評価方法に関して、「書面利用困難感」因子以外で平均値が比較的大きな値となっている。

表 3.153: 因子得点の設置形態別平均値

設置形態		第 1 因子 小論文・ 面接利用 困難感	第 2 因子 検査 利用 困難感	第 3 因子 書面 利用 困難感	第 4 因子 調査書 利用 困難感	第 5 因子 評価人員 ・時間不足	第 6 因子 AP 必要性
国立 N=76	平均値	−0.149	−0.265	0.092	0.159	0.026	0.443
	標準偏差	0.977	0.950	1.118	1.033	0.881	1.024
公立 N=80	平均値	−0.073	−0.025	0.103	0.403	−0.043	0.104
	標準偏差	0.999	1.171	1.180	1.038	0.861	0.940
私立 N=459	平均値	0.037	0.048	−0.033	−0.097	0.003	−0.092
	標準偏差	1.003	0.971	0.944	0.969	1.042	0.987
全体 N=615	平均値	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	標準偏差	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000

表 3.154: 因子得点の学部規模別平均値

学部規模		第1因子 小論文・ 面接利用 困難感	第2因子 検査 利用 困難感	第3因子 書面 利用 困難感	第4因子 調査書 利用 困難感	第5因子 評価人員 ・時間不足	第6因子 AP 必要性
1 学部 N=179	平均値	-0.112	-0.084	-0.073	-0.100	-0.136	-0.017
	標準偏差	0.941	1.031	1.023	1.016	0.989	1.029
2 学部 N=128	平均値	0.049	0.027	0.011	-0.142	-0.122	-0.016
	標準偏差	1.072	1.047	1.056	1.013	1.065	0.949
3・4 学部 N=158	平均値	-0.031	0.026	0.034	-0.036	0.015	-0.011
	標準偏差	0.953	0.955	0.947	0.978	1.049	1.053
5 学部以上 N=150	平均値	0.124	0.050	0.043	0.278	0.250	0.045
	標準偏差	1.046	0.972	0.983	0.947	0.853	0.958
全体 N=615	平均値	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	標準偏差	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000

表 3.155: 私立大学における学部規模別の因子得点の平均値

学部規模		第1因子 小論文・ 面接利用 困難感	第2因子 検査 利用 困難感	第3因子 書面 利用 困難感	第4因子 調査書 利用 困難感	第5因子 評価人員 ・時間不足	第6因子 AP 必要性
1 学部 N=124	平均値	-0.187	-0.107	-0.200	-0.262	-0.231	-0.092
	標準偏差	0.865	0.973	0.911	0.948	0.981	1.040
2 学部 N=102	平均値	0.094	0.132	0.103	-0.220	-0.099	0.006
	標準偏差	1.088	0.991	0.971	0.992	1.094	0.977
3・4 学部 N=127	平均値	0.010	0.052	0.007	-0.113	0.022	-0.080
	標準偏差	0.931	0.936	0.918	0.947	1.101	1.043
5 学部以上 N=106	平均値	0.278	0.145	-0.017	0.236	0.354	-0.198
	標準偏差	1.100	0.979	0.972	0.926	0.896	0.856
全体 N=459	平均値	0.037	0.048	-0.033	-0.097	0.003	-0.092
	標準偏差	1.003	0.971	0.944	0.969	1.042	0.987

3.5.1 節において、QC-1 の学力検査以外の評価方法を利用する選抜区分の有無に関する因子分析で3因子となることを示したことから、それぞれの因子の特徴に対応して、「調査書」と「調査書以外の書面評価」を利用する選抜区分の有無の組合せ、「検査等」を利用する選抜区分の有無、「小論文等」と「面接・討論等」を利用する選抜区分の有無の組合せごとに、因子得点の平均値を算出した。表 3.156、表 3.157、表 3.158 にそれぞれの結果を示す。

全体的に、学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分が有る群で、「困難感」因子得点の平均値が比較的低くなり、利用している選抜区分が無い群で、「困難感」因子得点の平均値が比較的高くなっている。利用している選抜区分が有るから困難感が高まると言うよりも、困難感があるから学力検査以外の評価方法を採用しにくいということではないかと思われる。今後、学力検

査以外の評価方法の利用に関する困難感を低減させる工夫を共有していくことが求められると思われる。

表 3.156: 「調査書」×「調査書以外の書面」を利用する区分の有無の組合せ別の因子得点の平均値

「調査書」・ 「書面」 有無の組合せ		第 1 因子 小論文・ 面接利用 困難感	第 2 因子 検査 利用 困難感	第 3 因子 書面 利用 困難感	第 4 因子 調査書 利用 困難感	第 5 因子 評価人員 ・時間不足	第 6 因子 AP 必要性
無・無 N=171	平均値	0.218	0.229	0.331	0.214	0.242	-0.407
	標準偏差	1.037	1.008	0.892	0.950	1.025	1.012
無・有 N=51	平均値	-0.077	-0.001	-0.407	0.432	0.060	0.111
	標準偏差	1.010	0.993	0.894	0.992	0.967	0.844
有・無 N=194	平均値	-0.078	0.087	0.096	-0.163	-0.098	-0.197
	標準偏差	0.968	1.020	1.112	0.991	1.031	0.966
有・有 N=199	平均値	-0.091	-0.282	-0.274	-0.136	-0.128	0.513
	標準偏差	0.974	0.912	0.888	0.994	0.921	0.827
全体 N=615	平均値	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	標準偏差	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000

表 3.157: 「検査」を利用する区分の有無別の因子得点の平均値

「検査」を利用 する区分の有無		第 1 因子 小論文・ 面接利用 困難感	第 2 因子 検査 利用 困難感	第 3 因子 書面 利用 困難感	第 4 因子 調査書 利用 困難感	第 5 因子 評価人員 ・時間不足	第 6 因子 AP 必要性
無 N=498	平均値	0.056	0.147	0.038	0.008	0.042	-0.172
	標準偏差	1.014	0.997	0.975	0.973	1.025	0.977
有 N=117	平均値	-0.238	-0.625	-0.162	-0.034	-0.180	0.733
	標準偏差	0.902	0.740	1.088	1.112	0.864	0.731
全体 N=615	平均値	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	標準偏差	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000

表 3.158: 「小論文等」×「面接・討論等」を利用する区分の有無の組合せ別の因子得点の平均値

「小論文等」・ 「面接・討論等」 有無の組合せ		第 1 因子 小論文・ 面接利用 困難感	第 2 因子 検査 利用 困難感	第 3 因子 書面 利用 困難感	第 4 因子 調査書 利用 困難感	第 5 因子 評価人員 ・時間不足	第 6 因子 AP 必要性
無・無 N=251	平均値	0.383	0.210	0.114	0.038	0.333	-0.477
	標準偏差	1.068	0.961	0.916	0.873	1.005	0.988
無・有 N=100	平均値	-0.187	-0.100	-0.247	-0.309	-0.330	0.012
	標準偏差	0.820	0.977	0.925	1.065	0.894	0.875
有・無 N=58	平均値	-0.150	-0.127	-0.014	0.292	0.067	0.100
	標準偏差	0.848	0.986	1.094	0.931	1.063	0.784
有・有 N=206	平均値	-0.334	-0.171	-0.015	0.022	-0.265	0.547
	標準偏差	0.874	1.022	1.087	1.098	0.896	0.826
全体 N=615	平均値	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
	標準偏差	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000

3.6 総合型選抜・学校推薦型選抜における知識・技能，思考力・表現力等

荒井清佳

本節では，実態調査のセクション D「総合型選抜において，大学教育を受けるために必要な知識・技能，思考力・表現力等を評価する方法について」及びセクション E「学校推薦型選抜において，大学教育を受けるために必要な知識・技能，思考力・表現力等を評価する方法について」の質問項目の分析を行う。セクション D では総合型選抜について，セクション E では学校推薦型選抜について尋ねているという違いがあるほかは，セクション D とセクション E の質問項目の内容は同じである。そこで，本節では質問ごとにセクション D とセクション E の結果を示す。

3.6.1 大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分の程度

QD-1. 貴大学の総合型選抜において，大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分はどの程度ありますか。

1. ない 2. 一部 3. 半数程度 4. かなり 5. すべて
6. 総合型選抜を実施していない

QE-1. 貴大学の学校推薦型選抜において，大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分はどの程度ありますか。

1. ない 2. 一部 3. 半数程度 4. かなり 5. すべて
6. 学校推薦型選抜を実施していない

質問項目 QD-1 / QE-1 では総合型選抜／学校推薦型選抜において，大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分がどの程度あるかを尋ねた。総合型選抜を実施している大学は QD-1 に対して「1. ない」～「5. すべて」のいずれかを回答し，実施していない大学は「6. 総合型選抜を実施していない」と回答する。同様に，学校推薦型選抜を実施している大学は QE-1 に対して「1. ない」～「5. すべて」のいずれかを回答し，実施していない大学は「6. 学校推薦型選抜を実施していない」と回答する。「1. ない」～「5. すべて」のいずれかを回答した大学を合わせると，総合型選抜を実施している大学は 521 大学，学校推薦型選抜を実施している大学は 609 大学であった。本節では，総合型選抜では 521 大学，学校推薦型選抜では 609 大学を全体として割合等を示す。また，「大学入学共通テスト」を「共通テスト」，「大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテスト」を「教科・科目テスト」と呼ぶ。

表 3.159 に QD-1 の設置形態別の集計結果を，表 3.160 に QE-1 の設置形態別の集計結果を示す。

全体で見ると，総合型選抜，学校推薦型選抜ともに，「教科・科目テスト」を課している選抜区分が「1. ない」と回答した大学が 60 % 以上を占めた。その一方で，すべての選抜区分で課している（「5. すべて」）と回答した大学が 10 % 強あった。

設置形態別に見ると，総合型選抜，学校推薦型選抜ともに，「教科・科目テスト」を課している選抜区分が「1. ない」と回答した大学の割合は私立大学では 60 % 程度であったのに対し，国立

大学及び公立大学では70 %以上を占めた。一方、「5. すべて」と回答した大学の割合は、国立大学及び公立大学よりも私立大学の方が高く、総合型選抜では14.1 %，学校推薦型選抜では15.7 %であった。ただし、表 3.159，表 3.160 は「教科・科目テスト」を課している選抜区分の程度を尋ねた結果である。共通テストの利用については、それぞれ国立、公立、私立の順に総合型選抜では67 %，21 %，3 %，学校推薦型選抜では78 %，39 %，2 %の大学が共通テストを利用する区分があると回答している。総合型選抜，学校推薦型選抜における共通テストの利用区分の有無については、3.3.1 に詳しく述べてある。

QD-1，QE-1 の学部規模別の集計結果を表 3.161，表 3.162 に示す。「1. ない」と回答した大学は学部の規模によらず60 %弱～70 %弱であった。「2. 一部」と回答した大学の割合は学部規模が大きくなるほど高い傾向があり、「1 学部」では総合型選抜，学校推薦型選抜の順に7.0 %，10.1 %であるのに対し、「5 学部以上」ではそれぞれ24.5 %，17.7 %であった。一方、「5. すべて」と回答した大学の割合は学部規模が大きくなるほど低い傾向があり、「1 学部」ではそれぞれ18.0 %，19.1 %であるのに対し、「5 学部以上」ではそれぞれ9.1 %，10.2 %であった。

表 3.159: 総合型選抜において教科・科目テストを課している選抜区分の程度 (QD-1, 設置形態別)

		1. ない	2. 一部	3. 半数程度	4. かなり	5. すべて	計
大学数	国立	41	10	3	2	2	58
	公立	33	2	1	0	2	38
	私立	263	69	15	18	60	425
	全体	337	81	19	20	64	521
割合 (%)	国立	70.7	17.2	5.2	3.4	3.4	100.0
	公立	86.8	5.3	2.6	0.0	5.3	100.0
	私立	61.9	16.2	3.5	4.2	14.1	100.0
	全体	64.7	15.5	3.6	3.8	12.3	100.0

表 3.160: 学校推薦型選抜において教科・科目テストを課している選抜区分の程度 (QE-1, 設置形態別)

		1. ない	2. 一部	3. 半数程度	4. かなり	5. すべて	計
大学数	国立	60	6	3	0	3	72
	公立	57	7	4	1	10	79
	私立	258	71	26	31	72	458
	全体	375	84	33	32	85	609
割合 (%)	国立	83.3	8.3	4.2	0.0	4.2	100.0
	公立	72.2	8.9	5.1	1.3	12.7	100.0
	私立	56.3	15.5	5.7	6.8	15.7	100.0
	全体	61.6	13.8	5.4	5.3	14.0	100.0

表 3.161: 総合型選抜において教科・科目テストを課している選抜区分の程度 (QD-1, 学部規模別)

		1. ない	2. 一部	3. 半数程度	4. かなり	5. すべて	計
大学数	1 学部	88	9	4	4	23	128
	2 学部	68	18	5	5	10	106
	3・4 学部	98	19	5	4	18	144
	5 学部以上	83	35	5	7	13	143
	全体	337	81	19	20	64	521
割合 (%)	1 学部	68.8	7.0	3.1	3.1	18.0	100.0
	2 学部	64.2	17.0	4.7	4.7	9.4	100.0
	3・4 学部	68.1	13.2	3.5	2.8	12.5	100.0
	5 学部以上	58.0	24.5	3.5	4.9	9.1	100.0
	全体	64.7	15.5	3.6	3.8	12.3	100.0

表 3.162: 学校推薦型選抜において教科・科目テストを課している選抜区分の程度 (QE-1, 学部規模別)

		1. ない	2. 一部	3. 半数程度	4. かなり	5. すべて	計
大学数	1 学部	115	18	8	3	34	178
	2 学部	74	18	10	7	17	126
	3・4 学部	99	22	5	13	19	158
	5 学部以上	87	26	10	9	15	147
	全体	375	84	33	32	85	609
割合 (%)	1 学部	64.6	10.1	4.5	1.7	19.1	100.0
	2 学部	58.7	14.3	7.9	5.6	13.5	100.0
	3・4 学部	62.7	13.9	3.2	8.2	12.0	100.0
	5 学部以上	59.2	17.7	6.8	6.1	10.2	100.0
	全体	61.6	13.8	5.4	5.3	14.0	100.0

3.6.2 「教科・科目テスト」のメリットとデメリット

QD-2. 貴大学の総合型選抜で課している「各教科・科目に係るテスト」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

QE-2. 貴大学の学校推薦型選抜で課している「各教科・科目に係るテスト」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

- (a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる
(b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容ができる

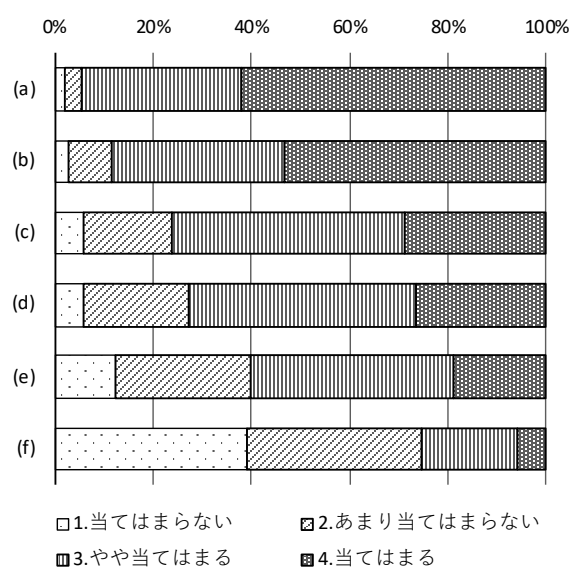
- (c) 問題の作成が負担である
- (d) 問題の点検が負担である
- (e) 採点が負担である
- (f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる

質問項目 QD-2 / QE-2 では、QD-1 / QE-1 で「教科・科目テスト」を課している選抜区分があると回答した大学（「2. 一部」～「5. すべて」と回答した大学）に対して、(a)～(f) の事項について当てはまる程度を「1. 当てはまらない」「2. あまり当てはまらない」「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」の4件法で尋ねた。

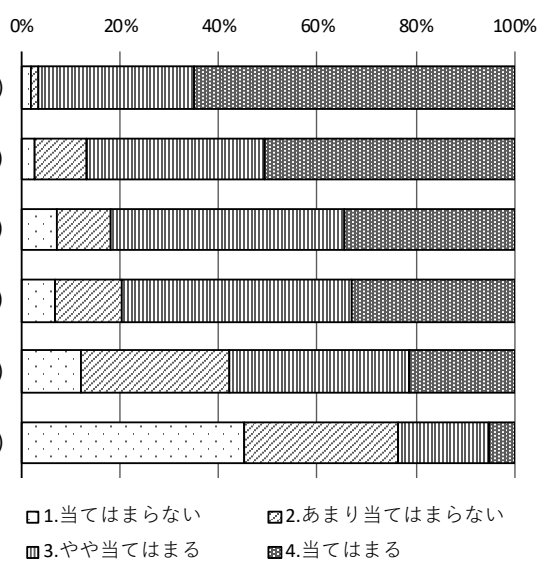
全体の回答割合を図 3.54 及び表 3.163、表 3.164 に示す。総合型選抜では、「3. やや当てはまる」あるいは「4. 当てはまる」と回答した大学の割合は、(a), (b) ではそれぞれ 94.6 %, 88.6 %, (c), (d) ではそれぞれ 76.1 %, 72.8 %, (e) では 60.3 %であったのに対し、(f) では 25.5 %であった。志願者やアドミッションポリシーなど、自大学に合わせた出題ができる一方で、問題の作成や点検に負担を感じていることが分かる。学校推薦型選抜でも、総合型選抜と同様の傾向がみられた。「3. やや当てはまる」あるいは「4. 当てはまる」と回答した大学の割合は、(a), (b) ではそれぞれ 96.6 %, 86.8 %, (c), (d) ではそれぞれ 82.1 %, 79.9 %, (e) では 57.7 %であったのに対し、(f) では 23.5 %であった。(c), (d) に対して「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」と回答した割合が総合型選抜よりも高いことから、学校推薦型選抜では総合型選抜よりも問題の作成・点検への負担感が強いことが分かる。

設置形態別の回答割合を表 3.163 と表 3.164 に示す。総合型選抜では、「教科・科目テスト」を課している選抜区分があると回答した大学は、国立が 17 大学、公立が 5 大学、私立が 162 大学であった。公立は数が少ないため、国立と私立を比較する。「1. 当てはまらない」「2. あまり当てはまらない」「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」の回答をそれぞれ 1, 2, 3, 4 として計算した場合の平均を見ると、(a)～(e) では国立の方が私立よりも平均が高かった。国立の方が私立よりも、自大学の受験生やアドミッションポリシーに合わせた出題ができると捉えている一方で、問題の作成・点検への負担感が強いことが分かる。学校推薦型選抜では、「教科・科目テスト」を課している選抜区分があると回答した大学は、国立が 12 大学、公立が 22 大学、私立が 200 大学であった。回答の平均を見ると、(a) では国立と私立は近い値であるのに対して、(b)～(e) では国立の方が私立よりも高かった。また、(c)～(e) について国立大学で「4. 当てはまる」と回答した割合を見るとそれぞれ 83.3 %, 83.3 %, 75.0 %であり、国立大学では学校推薦型選抜において問題の作成・点検、採点に強い負担感があることが分かる。

学部規模別の回答割合を表 3.165 と表 3.166 に示す。(a)～(e) の回答の平均を見ると、総合型選抜においても学校推薦型選抜においても、「5 学部以上」の大学の平均が他と比べてやや高い傾向がみられた。



(a) 総合型選抜



(b) 学校推薦型選抜

図 3.54: 「教科・科目テスト」のメリットとデメリット (QD-2 及び QE-2, 全体)

表 3.163: 総合型選抜における「教科・科目テスト」のメリットとデメリット (QD-2, 設置形態別)

(a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	0	0	6	11	17	0.0	0.0	35.3	64.7	100.0	3.65	0.48
公立	0	0	1	4	5	0.0	0.0	20.0	80.0	100.0	3.80	0.40
私立	4	6	53	99	162	2.5	3.7	32.7	61.1	100.0	3.52	0.69
全体	4	6	60	114	184	2.2	3.3	32.6	62.0	100.0	3.54	0.67

(b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容にできる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	0	0	6	11	17	0.0	0.0	35.3	64.7	100.0	3.65	0.48
公立	0	0	1	4	5	0.0	0.0	20.0	80.0	100.0	3.80	0.40
私立	5	16	58	83	162	3.1	9.9	35.8	51.2	100.0	3.35	0.78
全体	5	16	65	98	184	2.7	8.7	35.3	53.3	100.0	3.39	0.76

(c) 問題の作成が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	2	1	7	7	17	11.8	5.9	41.2	41.2	100.0	3.12	0.96
公立	0	0	2	3	5	0.0	0.0	40.0	60.0	100.0	3.60	0.49
私立	9	32	78	43	162	5.6	19.8	48.1	26.5	100.0	2.96	0.83
全体	11	33	87	53	184	6.0	17.9	47.3	28.8	100.0	2.99	0.84

(d) 問題の点検が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	2	1	7	7	17	11.8	5.9	41.2	41.2	100.0	3.12	0.96
公立	0	0	2	3	5	0.0	0.0	40.0	60.0	100.0	3.60	0.49
私立	9	38	76	39	162	5.6	23.5	46.9	24.1	100.0	2.90	0.83
全体	11	39	85	49	184	6.0	21.2	46.2	26.6	100.0	2.93	0.84

(e) 採点が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	2	1	7	7	17	11.8	5.9	41.2	41.2	100.0	3.12	0.96
公立	0	0	3	2	5	0.0	0.0	60.0	40.0	100.0	3.40	0.49
私立	21	49	66	26	162	13.0	30.2	40.7	16.0	100.0	2.60	0.91
全体	23	50	76	35	184	12.5	27.2	41.3	19.0	100.0	2.67	0.92

(f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	9	4	3	1	17	52.9	23.5	17.6	5.9	100.0	1.76	0.94
公立	4	1	0	0	5	80.0	20.0	0.0	0.0	100.0	1.20	0.40
私立	59	60	33	10	162	36.4	37.0	20.4	6.2	100.0	1.96	0.90
全体	72	65	36	11	184	39.1	35.3	19.6	6.0	100.0	1.92	0.91

表 3.164: 学校推薦型選抜における「教科・科目テスト」のメリットとデメリット (QE-2, 設置形態別)

(a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	0	0	5	7	12	0.0	0.0	41.7	58.3	100.0	3.58	0.49
公立	0	1	5	16	22	0.0	4.5	22.7	72.7	100.0	3.68	0.55
私立	4	3	64	129	200	2.0	1.5	32.0	64.5	100.0	3.59	0.63
全体	4	4	74	152	234	1.7	1.7	31.6	65.0	100.0	3.60	0.61

(b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容にできる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	0	0	4	8	12	0.0	0.0	33.3	66.7	100.0	3.67	0.47
公立	0	0	5	17	22	0.0	0.0	22.7	77.3	100.0	3.77	0.42
私立	6	25	75	94	200	3.0	12.5	37.5	47.0	100.0	3.29	0.80
全体	6	25	84	119	234	2.6	10.7	35.9	50.9	100.0	3.35	0.77

(c) 問題の作成が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	0	1	1	10	12	0.0	8.3	8.3	83.3	100.0	3.75	0.60
公立	1	1	9	11	22	4.5	4.5	40.9	50.0	100.0	3.36	0.77
私立	16	23	101	60	200	8.0	11.5	50.5	30.0	100.0	3.03	0.86
全体	17	25	111	81	234	7.3	10.7	47.4	34.6	100.0	3.09	0.86

(d) 問題の点検が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	0	1	1	10	12	0.0	8.3	8.3	83.3	100.0	3.75	0.60
公立	1	1	9	11	22	4.5	4.5	40.9	50.0	100.0	3.36	0.77
私立	15	29	100	56	200	7.5	14.5	50.0	28.0	100.0	2.99	0.85
全体	16	31	110	77	234	6.8	13.2	47.0	32.9	100.0	3.06	0.86

(e) 採点が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	0	2	1	9	12	0.0	16.7	8.3	75.0	100.0	3.58	0.76
公立	1	3	8	10	22	4.5	13.6	36.4	45.5	100.0	3.23	0.85
私立	27	66	76	31	200	13.5	33.0	38.0	15.5	100.0	2.56	0.91
全体	28	71	85	50	234	12.0	30.3	36.3	21.4	100.0	2.67	0.94

(f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	9	1	1	1	12	75.0	8.3	8.3	8.3	100.0	1.50	0.96
公立	12	6	3	1	22	54.5	27.3	13.6	4.5	100.0	1.68	0.87
私立	85	66	39	10	200	42.5	33.0	19.5	5.0	100.0	1.87	0.90
全体	106	73	43	12	234	45.3	31.2	18.4	5.1	100.0	1.83	0.90

表 3.165: 総合型選抜における「教科・科目テスト」のメリットとデメリット (QD-2, 学部規模別)

(a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	2	0	19	19	40	5.0	0.0	47.5	47.5	100.0	3.38	0.73
2 学部	2	3	9	24	38	5.3	7.9	23.7	63.2	100.0	3.45	0.85
3・4 学部	0	1	15	30	46	0.0	2.2	32.6	65.2	100.0	3.63	0.53
5 学部以上	0	2	17	41	60	0.0	3.3	28.3	68.3	100.0	3.65	0.54

(b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容にできる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	2	0	23	15	40	5.0	0.0	57.5	37.5	100.0	3.28	0.71
2 学部	1	8	9	20	38	2.6	21.1	23.7	52.6	100.0	3.26	0.88
3・4 学部	1	5	17	23	46	2.2	10.9	37.0	50.0	100.0	3.35	0.76
5 学部以上	1	3	16	40	60	1.7	5.0	26.7	66.7	100.0	3.58	0.67

(c) 問題の作成が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	4	10	13	13	40	10.0	25.0	32.5	32.5	100.0	2.88	0.98
2 学部	2	8	19	9	38	5.3	21.1	50.0	23.7	100.0	2.92	0.81
3・4 学部	2	9	26	9	46	4.3	19.6	56.5	19.6	100.0	2.91	0.75
5 学部以上	3	6	29	22	60	5.0	10.0	48.3	36.7	100.0	3.17	0.80

(d) 問題の点検が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	3	10	16	11	40	7.5	25.0	40.0	27.5	100.0	2.88	0.90
2 学部	3	9	17	9	38	7.9	23.7	44.7	23.7	100.0	2.84	0.87
3・4 学部	2	11	24	9	46	4.3	23.9	52.2	19.6	100.0	2.87	0.77
5 学部以上	3	9	28	20	60	5.0	15.0	46.7	33.3	100.0	3.08	0.82

(e) 採点が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	7	11	18	4	40	17.5	27.5	45.0	10.0	100.0	2.48	0.89
2 学部	4	15	13	6	38	10.5	39.5	34.2	15.8	100.0	2.55	0.88
3・4 学部	7	11	21	7	46	15.2	23.9	45.7	15.2	100.0	2.61	0.92
5 学部以上	5	13	24	18	60	8.3	21.7	40.0	30.0	100.0	2.92	0.92

(f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	13	18	8	1	40	32.5	45.0	20.0	2.5	100.0	1.93	0.79
2 学部	18	13	5	2	38	47.4	34.2	13.2	5.3	100.0	1.76	0.87
3・4 学部	14	15	13	4	46	30.4	32.6	28.3	8.7	100.0	2.15	0.95
5 学部以上	27	19	10	4	60	45.0	31.7	16.7	6.7	100.0	1.85	0.93

表 3.166: 学校推薦型選抜における「教科・科目テスト」のメリットとデメリット (QE-2, 学部規模別)

(a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	2	0	23	38	63	3.2	0.0	36.5	60.3	100.0	3.54	0.66
2 学部	2	1	14	35	52	3.8	1.9	26.9	67.3	100.0	3.58	0.72
3・4 学部	0	2	19	38	59	0.0	3.4	32.2	64.4	100.0	3.61	0.55
5 学部以上	0	1	18	41	60	0.0	1.7	30.0	68.3	100.0	3.67	0.51

(b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容にできる

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	2	1	33	27	63	3.2	1.6	52.4	42.9	100.0	3.35	0.67
2 学部	2	8	10	32	52	3.8	15.4	19.2	61.5	100.0	3.38	0.88
3・4 学部	1	10	23	25	59	1.7	16.9	39.0	42.4	100.0	3.22	0.78
5 学部以上	1	6	18	35	60	1.7	10.0	30.0	58.3	100.0	3.45	0.74

(c) 問題の作成が負担である

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	6	10	25	22	63	9.5	15.9	39.7	34.9	100.0	3.00	0.94
2 学部	5	5	25	17	52	9.6	9.6	48.1	32.7	100.0	3.04	0.90
3・4 学部	4	4	36	15	59	6.8	6.8	61.0	25.4	100.0	3.05	0.77
5 学部以上	2	6	25	27	60	3.3	10.0	41.7	45.0	100.0	3.28	0.78

(d) 問題の点検が負担である

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	5	12	25	21	63	7.9	19.0	39.7	33.3	100.0	2.98	0.92
2 学部	5	6	25	16	52	9.6	11.5	48.1	30.8	100.0	3.00	0.90
3・4 学部	4	6	35	14	59	6.8	10.2	59.3	23.7	100.0	3.00	0.78
5 学部以上	2	7	25	26	60	3.3	11.7	41.7	43.3	100.0	3.25	0.79

(e) 採点が負担である

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	8	16	26	13	63	12.7	25.4	41.3	20.6	100.0	2.70	0.94
2 学部	7	16	17	12	52	13.5	30.8	32.7	23.1	100.0	2.65	0.98
3・4 学部	9	20	24	6	59	15.3	33.9	40.7	10.2	100.0	2.46	0.87
5 学部以上	4	19	18	19	60	6.7	31.7	30.0	31.7	100.0	2.87	0.94

(f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる

	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	30	20	10	3	63	47.6	31.7	15.9	4.8	100.0	1.78	0.88
2 学部	24	17	7	4	52	46.2	32.7	13.5	7.7	100.0	1.83	0.93
3・4 学部	26	17	13	3	59	44.1	28.8	22.0	5.1	100.0	1.88	0.92
5 学部以上	26	19	13	2	60	43.3	31.7	21.7	3.3	100.0	1.85	0.87

3.6.3 共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているもの

QD-3. 大学入学共通テストや「各教科・科目に係るテスト」以外で、次のうち、貴大学の総合型選抜で課しているものをすべて選択してください。(複数選択可)

課しているものがない場合は、9 を選択してください。

QE-3. 大学入学共通テストや「各教科・科目に係るテスト」以外で、次のうち、貴大学の学校推薦型選抜で課しているものをすべて選択してください。(複数選択可)

課しているものがない場合は、9 を選択してください。

1. 小論文等
2. プレゼンテーション
3. 口頭試問
4. 実技
5. 資格・検定試験の成績等
6. 基礎学力把握のための筆記による簡易な検査
7. 基礎学力把握のための CBT による簡易な検査
8. その他(自由記述)
9. 課しているものはない

質問項目 QD-3 / QE-3 では、総合型選抜または学校推薦型選抜を実施している大学に対して、それぞれの選抜において共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているものを尋ねた。全体の結果を図 3.55、表 3.167、表 3.168 に示す。総合型選抜では、小論文、口頭試問、プレゼンテーションの順に課している割合が高く、それぞれ 67.2 %、57.6 %、57.0 %であった。一方、学校推薦型選抜では、小論文、口頭試問の順に課している割合が高く、それぞれ 71.4 %、49.6 %であったが、プレゼンテーションを課している割合は 11.3 %と高くなかった。また、「基礎学力把握のための筆記による簡易な検査」(以降、「簡易検査(筆記)」と略す)、「基礎学力把握のための CBT による簡易な検査」(以降、「簡易検査(CBT)」と略す)を課している大学は総合型選抜ではそれぞれ 22.3 %、2.1 %、学校推薦型選抜ではそれぞれ 17.2 %、1.0 %であった。なお、「簡易検査(筆記)」と「簡易検査(CBT)」を合わせて「簡易検査」と呼ぶこともある。

設置形態別の回答を表 3.167 と表 3.168 に示した。総合型選抜では、「その他」を除くすべての項目において、国立大学で課している割合が公立・私立大学に比べて高い。なかでも口頭試問を課している割合は、国立大学では 86.2 %と高かった。学校推薦型選抜においても、多くの項目において国立大学で課している割合が高い。学校推薦型選抜においては、小論文を課す大学の割合が国立大学で 81.9 %、公立大学で 81.0 %と高い。

学部規模別の回答を表 3.169 と表 3.170 にまとめた。総合型選抜においても、学校推薦型選抜においても、学部規模が大きくなるほど、各項目を課している割合が高くなる傾向が見られた。これは学部数が多いほど入試区分が増え、様々な評価方法が用いられるようになるためと考えられる。

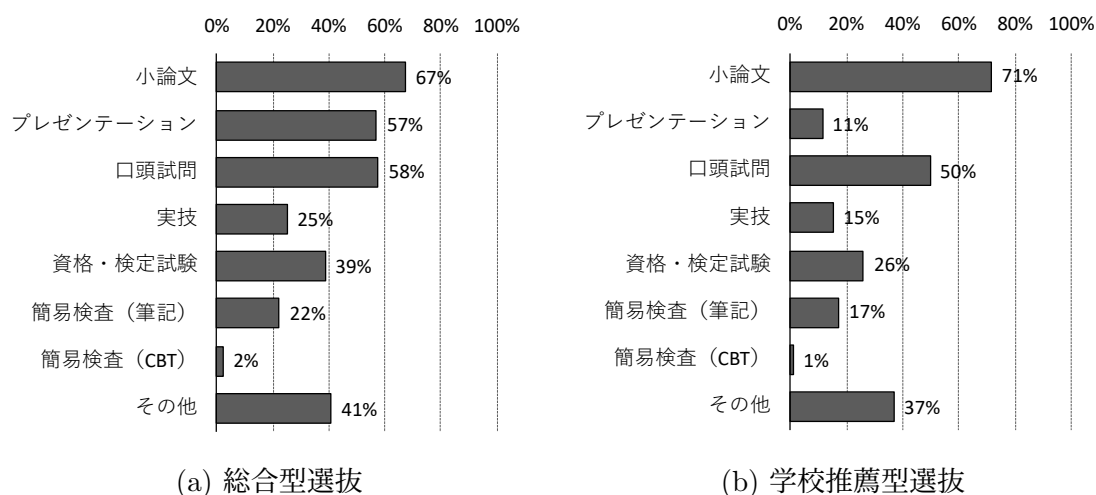


図 3.55: 共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているもの（QD-3 及び QE-3, 全体）

表 3.167: 総合型選抜において共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているもの（QD-3, 設置形態別）

	全体 (521)		国立 (58)		公立 (38)		私立 (425)	
	大学数	(%)	大学数	(%)	大学数	(%)	大学数	(%)
小論文	350	67.2	42	72.4	15	39.5	293	68.9
プレゼンテーション	297	57.0	37	63.8	18	47.4	242	56.9
口頭試問	300	57.6	50	86.2	20	52.6	230	54.1
実技	130	25.0	21	36.2	7	18.4	102	24.0
資格・検定試験	201	38.6	30	51.7	12	31.6	159	37.4
簡易検査（筆記）	116	22.3	15	25.9	2	5.3	99	23.3
簡易検査（CBT）	11	2.1	4	6.9	0	0.0	7	1.6
その他	212	40.7	32	55.2	22	57.9	158	37.2
なし	10	1.9	0	0.0	4	10.5	6	1.4

表 3.168: 学校推薦型選抜において共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているもの（QE-3, 設置形態別）

	全体 (609)		国立 (72)		公立 (79)		私立 (458)	
	大学数	(%)	大学数	(%)	大学数	(%)	大学数	(%)
小論文	435	71.4	59	81.9	64	81.0	312	68.1
プレゼンテーション	69	11.3	9	12.5	10	12.7	50	10.9
口頭試問	302	49.6	47	65.3	37	46.8	218	47.6
実技	93	15.3	29	40.3	9	11.4	55	12.0
資格・検定試験	159	26.1	31	43.1	20	25.3	108	23.6
簡易検査（筆記）	105	17.2	12	16.7	6	7.6	87	19.0
簡易検査（CBT）	6	1.0	2	2.8	0	0.0	4	0.9
その他	224	36.8	35	48.6	39	49.4	150	32.8
なし	19	3.1	2	2.8	3	3.8	14	3.1

表 3.169: 総合型選抜において共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているもの (QD-3, 学部規模別)

	1 学部 (128)		2 学部 (106)		3・4 学部 (144)		5 学部以上 (143)	
	大学数	(%)	大学数	(%)	大学数	(%)	大学数	(%)
小論文	69	53.9	66	62.3	97	67.4	118	82.5
プレゼンテーション	67	52.3	50	47.2	83	57.6	97	67.8
口頭試問	57	44.5	56	52.8	83	57.6	104	72.7
実技	24	18.8	17	16.0	38	26.4	51	35.7
資格・検定試験	34	26.6	23	21.7	55	38.2	89	62.2
簡易検査 (筆記)	24	18.8	22	20.8	30	20.8	40	28.0
簡易検査 (CBT)	2	1.6	1	0.9	1	0.7	7	4.9
その他	50	39.1	41	38.7	58	40.3	63	44.1
なし	6	4.7	2	1.9	1	0.7	1	0.7

表 3.170: 学校推薦型選抜において共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているもの (QE-3, 学部規模別)

	1 学部 (178)		2 学部 (126)		3・4 学部 (158)		5 学部以上 (147)	
	大学数	(%)	大学数	(%)	大学数	(%)	大学数	(%)
小論文	114	64.0	88	69.8	113	71.5	120	81.6
プレゼンテーション	25	14.0	10	7.9	12	7.6	22	15.0
口頭試問	68	38.2	57	45.2	86	54.4	91	61.9
実技	23	12.9	8	6.3	26	16.5	36	24.5
資格・検定試験	30	16.9	23	18.3	38	24.1	68	46.3
簡易検査 (筆記)	29	16.3	19	15.1	24	15.2	33	22.4
簡易検査 (CBT)	1	0.6	1	0.8	1	0.6	3	2.0
その他	71	39.9	37	29.4	61	38.6	55	37.4
なし	7	3.9	6	4.8	2	1.3	4	2.7

「8. その他」の回答

「8. その他」の自由記述欄には、総合型選抜、学校推薦型選抜それぞれ 117, 218 大学が回答した。各大学の回答には、例えば「面接と調査書」のように複数の内容が含まれている。そのため、各大学の回答を分類して集計するのではなく、特定の語を含んでいる回答の数を数えることで集計を行なった。集計に用いた語とその回答数は表 3.171 の通りである。

表 3.171: 共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているもののうち、「8. その他」の回答数

集計に用いた語	総合型選抜	学校推薦型選抜
(1) 「面接」「面談」	115	168
(2) 「書」「エントリーシート」	55	49
(3) 「ディスカッション」「討論」「討議」「グループワーク」	45	12
(4) 「課題」「レポート」	45	10
(5) 「授業」「講義」	31	3

回答が最も多かったものは「面接」であった。「面接」「面談」を含む回答は、総合型選抜では 115 大学、学校推薦型選抜では 168 大学からあった。「個人面接」「集団面接」などの語も、「面接」「面談」を含む回答の中に含まれる。「書」「エントリーシート」を含む回答は「面接」「面談」を

含む回答に次いで多く、総合型選抜では 55 大学、学校推薦型選抜では 49 大学からの回答があった。書類審査に用いる書類は、「調査書」「志望理由書」など様々なものがあるが、「書」が多い。そのため、「書」を含む回答の数を集計した。

「討論」「討議」「ディスカッション」「グループワーク」を含む回答、「課題」「レポート」を含む回答、「授業」「講義」を含む回答は総合型選抜で多くあった回答である。総合型選抜ではそれぞれ 45 大学、45 大学、31 大学から回答があったが、学校推薦型選抜ではそれぞれ 12 大学、10 大学、3 大学のみであった。

「面接、志望理由書」のように並べて書いてある回答であっても組み合わせて課しているとは限らないが、中には、「講義を受講後、筆記試験を行う」等のように組み合わせて課していることが分かる回答もあった。

表 3.171 の (1)～(5) に該当する回答の一覧を総合型選抜での回答、学校推薦型選抜での回答の順に次に示す。複数の語に該当する回答は、それぞれの場所に回答を掲載するため、同じ回答が複数回掲載されている場合がある。また、(6) として、表中の (1)～(5) のいずれにも該当しない回答も示す。回答に続く括弧内には、回答した大学の設置形態と学部規模を示した。回答は、設置形態順、学部規模順に並べ替えている。なお、設置形態と学部規模が同じ大学から同じ内容の回答があった場合には「ほか○大学」のようにまとめて示す。また、備考のような内容で「8. その他」への回答とは異なるものや、回答した大学が特定できそうな内容については省いている。

(1) 「面接」「面談」を含む回答（総合型選抜）

- | | |
|--|--|
| 1. 面接 (国立, 1 学部) | 18. 面接。(国立, 5 学部以上) |
| 2. 面接 (国立, 2 学部) | 19. 面接 (英語による) 及びペーパーインタビュー (国立, 5 学部以上) |
| 3. 個人面接、集団討論 (国立, 3・4 学部) | 20. ・志望理由書・Web 学習教材を活用した学習の取り組み状況・実験またはグループワーク・面接試験 (公立, 1 学部) |
| 4. 集団討論及び個人レポート、個人面接 (国立, 3・4 学部) | 21. 活動報告書、学修計画書、出願課題及びプレゼンテーションを兼ねた面接、面接 (口頭試験を含む) (公立, 1 学部) |
| 5. 面接 (国立, 3・4 学部) | 22. 出願書類、面接 (公立, 1 学部) |
| 6. ・提出書類 (クローズアップシート, 調査書, 志望理由書, 調査書別紙)・面接 (国立, 5 学部以上) | 23. 面接 (公立, 1 学部) |
| 7. グループディスカッション, 面接, 書類審査 (志望理由書等) (国立, 5 学部以上) | 24. 面接・書類審査 (公立, 1 学部) |
| 8. ゼミナール活動適性試験, 面接, 態度・習慣領域評価 (国立, 5 学部以上) | 25. 面接試験 (公立, 1 学部) |
| 9. まとめレポート, 集団討論, 面接 (国立, 5 学部以上) | 26. レクチャー①・② (講義形態)、レクチャーレポート、グループワーク、ふりかえりレポート、面接 (公立, 3・4 学部) |
| 10. 講義型試験、面接 (国立, 5 学部以上) | 27. 総合問題, 面接 (公立, 3・4 学部) |
| 11. 出願書類、面接等 (国立, 5 学部以上) | 28. 面接 (公立, 3・4 学部) ほか 1 大学 |
| 12. 書類審査及び面接 (国立, 5 学部以上) | 29. 面接、志望理由書 (公立, 3・4 学部) |
| 13. 面接 (国立, 5 学部以上) ほか 3 大学 | 30. 面接 (公立, 5 学部以上) ほか 1 大学 |
| 14. 面接, グループ討論, 聴講・論述, レポート面接 (国立, 5 学部以上) | 31. ・学習能力試験 (講義を受講後、筆記試験を行う)・レポート課題 (学習能力試験で行った講義内容に関するレポート課題)・個別面接 (私立, 1 学部) |
| 15. 面接, 面接の基本的な資料とするための実地試験 (国立, 5 学部以上) | |
| 16. 面接、課題論述 (国立, 5 学部以上) | |
| 17. 面接、活動報告書 (国立, 5 学部以上) | |

32. ・講義受講とその内容に関する試験・面接・基礎学力把握のための筆記による簡易な試験 (私立, 1 学部)
33. 40 分程度の面談 (私立, 1 学部)
34. エントリーシート、出願前面談、面接、課題提出 (私立, 1 学部)
35. グループディスカッション、面接 (私立, 1 学部)
36. ディスカッション、面接 (私立, 1 学部)
37. 課題、個人面接、調査書。(私立, 1 学部)
38. 個人面接 (私立, 1 学部)
39. 体験授業方式、面接方式 (私立, 1 学部)
40. 第一次審査 (面談)、提出書類 (エントリーシート) (私立, 1 学部)
41. 面接 (私立, 1 学部) ほか 7 大学
42. 面接、書類審査 (私立, 1 学部)
43. 面接 (持参作品)、自己 PR 書、調査書 (私立, 1 学部)
44. 面接試験 (私立, 1 学部) ほか 1 大学
45. 「外国語、数学、理科の模擬試験結果」「面接時に簡単な基礎学力を問う」 (私立, 2 学部)
46. グループディスカッション、面接 (私立, 2 学部)
47. 課題、レポート、活動報告書、面談、自己紹介文、調査書 (私立, 2 学部)
48. 課題レポート、面談、調査書、自己推薦書 (私立, 2 学部)
49. 個人面接 (私立, 2 学部)
50. 個人面接、ワークショップ、書類審査 (私立, 2 学部)
51. 授業のまとめ、学部適正試験、面接、志望理由の評価、(私立, 2 学部)
52. 面接 (私立, 2 学部) ほか 8 大学
53. 面接・書類選考 (調査書)・自己エントリー (入力) (私立, 2 学部)
54. 面接、グループディスカッション (私立, 2 学部)
55. 面接、調査書、調査書以外の書面 (私立, 2 学部)
56. 面談、課題 (私立, 2 学部)
57. グループワーク、面接 (私立, 3・4 学部)
58. ディスカッション、面接 (私立, 3・4 学部)
59. 課題 (模擬授業を受講し、最後にテストを行う) 面接試験 (個別、集団、MMI) グループディスカッション、活動報告書、志望理由書 (私立, 3・4 学部)
60. 学外者を含めた多様な面接 (私立, 3・4 学部)
61. 基礎学力検査のための通常の筆記試験、面接 (私立, 3・4 学部)
62. 個別面接 (私立, 3・4 学部)
63. 個別面接、集団討論、大学入学希望理由書、活動報告書 (私立, 3・4 学部)
64. 調査書の記述内容を面接試験にて説明させる。(私立, 3・4 学部)
65. 面接 (私立, 3・4 学部) ほか 8 大学
66. 面接、講座付小論文 (私立, 3・4 学部)
67. 面接、授業体験とレポート作成、事前課題レポート (私立, 3・4 学部)
68. 面接、書類審査 (志望理由書、自己 PR 書、実績・資格等の報告書) (私立, 3・4 学部)
69. 面接、調査書 (私立, 3・4 学部)
70. 面接、入学志望理由書、調査書 (私立, 3・4 学部)
71. グループディスカッション、個人面接 (私立, 5 学部以上)
72. 課題に対するレポート、面接 (私立, 5 学部以上)
73. 個人面接 (私立, 5 学部以上) ほか 1 大学
74. 講義理解力試験、個人面接 (私立, 5 学部以上)
75. 面接 (私立, 5 学部以上) ほか 3 大学
76. 面接・書類審査 (私立, 5 学部以上)
77. 面接、グループディスカッション (私立, 5 学部以上)
78. 面接、ディスカッション (私立, 5 学部以上)
79. 面接、ディスカッション、商業系科目、講義内容に基づくテスト (私立, 5 学部以上)
80. 面接、自己調査書 (私立, 5 学部以上)
81. 面接、書類審査 (私立, 5 学部以上)
82. 面接、調査書、出願理由・自己推薦書 (私立, 5 学部以上)

(2) 「書」「エントリーシート」を含む回答 (総合型選抜)

1. グループディスカッション書面 (学修計画書、志望理由書) (国立, 1 学部)
2. グループワーク、高校入学後の活動に関する記述 (受験者本人が記載する書類) (国立, 2 学部)
3. ・課題図書とグループディスカッション及び共通テスト・研究ポスター制作、口頭説明・総合問題 (国立, 3・4 学部)
4. ・提出書類 (クロズアップシート、調査書、志望理由書、調査書別紙)・面接 (国立, 5 学部以上)
5. グループディスカッション、面接、書類審査 (志望理由書等) (国立, 5 学部以上)
6. 出願書類、面接等 (国立, 5 学部以上)
7. 書類審査及び面接 (国立, 5 学部以上)

8. 面接、活動報告書 (国立, 5 学部以上)
9. ・志望理由書・Web 学習教材を活用した学習の取り組み状況・実験またはグループワーク・面接試験 (公立, 1 学部)
10. 活動報告書、学修計画書、出願課題及びプレゼンテーションを兼ねた面接、面接 (口頭試問を含む) (公立, 1 学部)
11. 出願書類、面接 (公立, 1 学部)
12. 面接・書類審査 (公立, 1 学部)
13. ・講義形式の体験授業をもとにしたレポート作成を課している。・調査書、志望理由書、活動実績報告書等の出願書類の内容を判断している。 (公立, 2 学部)
14. 志望理由書、活動実績報告書、地域への志向性 (任意) (公立, 3・4 学部)
15. 提出書類の審査 (公立, 3・4 学部)
16. 面接、志望理由書 (公立, 3・4 学部)
17. エントリーシート、出願前面談、面接、課題提出 (私立, 1 学部)
18. 運動競技歴書 (出場した大会の成績) (私立, 1 学部)
19. 課題、個人面接、調査書。 (私立, 1 学部)
20. 活動報告書、学習計画書 (大学で学びたいこと) (私立, 1 学部)
21. 志願理由書、事前課題 (私立, 1 学部)
22. 志望理由書 (私立, 1 学部) ほかに 1 大学
23. 事前課題、志望理由・活動報告書、キャリアイメージシート (私立, 1 学部)
24. 自己推薦書・調査書の提出 (私立, 1 学部)
25. 第一次審査 (面談)、提出書類 (エントリーシート) (私立, 1 学部)
26. 調査書の点数化 (私立, 1 学部)
27. 面接、書類審査 (私立, 1 学部)
28. 面接 (持参作品)、自己 PR 書、調査書 (私立, 1 学部)
29. エントリーシート (志望動機、本人の長所、高校で特に力を入れていた活動及びその中での学びや成長、大学入学後の取り組みや大学卒業後の希望、取得資格) (私立, 2 学部)
30. 課題、レポート、活動報告書、面談、自己紹介文、調査書 (私立, 2 学部)
31. 課題レポート、面談、調査書、自己推薦書 (私立, 2 学部)
32. 個人面接、ワークショップ、書類審査 (私立, 2 学部)
33. 高校時代をどのようにすごしたかを表す「活動報告書」の提出 (私立, 2 学部)
34. 面接・書類選考 (調査書)・自己エントリー (入力) (私立, 2 学部)
35. 面接、調査書、調査書以外の書面 (私立, 2 学部)
36. 課題 (模擬授業を受講し、最後にテストを行う) 面接試験 (個別、集団、MMI) グループディスカッション、活動報告書、志望理由書 (私立, 3・4 学部)
37. 活動経歴書 (私立, 3・4 学部)
38. 個別面接、集団討論、大学入学希望理由書、活動報告書 (私立, 3・4 学部)
39. 出願書類、評定平均 (一部) (私立, 3・4 学部)
40. 調査書 (私立, 3・4 学部)
41. 調査書の「学習成績の状況」 (私立, 3・4 学部)
42. 調査書の記述内容を面接試験にて説明させる。 (私立, 3・4 学部)
43. 面接、書類審査 (志望理由書、自己 PR 書、実績・資格等の報告書) (私立, 3・4 学部)
44. 面接、調査書 (私立, 3・4 学部)
45. 面接、入学志望理由書、調査書 (私立, 3・4 学部)
46. 志望理由書、高等学校での活動実績など。 (私立, 5 学部以上)
47. 授業理解試験、自己推薦書 (私立, 5 学部以上)
48. 出願時に「志願理由書」の提出を必須にしている (私立, 5 学部以上)
49. 調査書、志望理由書、自己アピール資料、志願者評価書による書類審査 (一部学部においては、既卒者の場合のみ共通テストの成績通知書の提出を求める) (私立, 5 学部以上)
50. 面接・書類審査 (私立, 5 学部以上) ほかに 1 大学
51. 面接、自己調査書 (私立, 5 学部以上)
52. 面接、調査書、出願理由・自己推薦書 (私立, 5 学部以上)
53. 模擬講義および理解力テスト、活動記録書、活動レポート (私立, 5 学部以上)

(3) 「ディスカッション」「討論」「討議」「グループワーク」を含む回答 (総合型選抜)

1. グループディスカッション書面 (学修計画書、志望理由書) (国立, 1 学部)
2. グループ討論 (国立, 1 学部)
3. グループワーク、高校入学後の活動に関する記述 (受験者本人が記載する書類) (国立, 2 学部)
4. ・課題図書とグループディスカッション及び共通テスト・研究ポスター制作、口頭説明・総合問題 (国立, 3・4 学部)

5. 個人面接、集団討論 (国立, 3・4 学部)
6. 集団討論及び個人レポート、個人面接 (国立, 3・4 学部)
7. グループディスカッション、面接、書類審査 (志望理由書等) (国立, 5 学部以上)
8. まとめレポート、集団討論、面接 (国立, 5 学部以上)
9. 集団討論 (国立, 5 学部以上)
10. 面接、グループ討論、聴講・論述、レポート面接 (国立, 5 学部以上)
11. ・志望理由書・Web 学習教材を活用した学習の取り組み状況・実験またはグループワーク・面接試験 (公立, 1 学部)
12. グループディスカッション、講義についてのレポート (公立, 1 学部)
13. グループワーク、グループワークに関するレポートの作成及び個別発表 (公立, 2 学部)
14. レクチャー①・② (講義形態)、レクチャーレポート、グループワーク、ふりかえりレポート、面接 (公立, 3・4 学部)
15. 集団討論 (公立, 5 学部以上)
16. グループディスカッション (私立, 1 学部) ほかに 1 大学
17. グループディスカッション、面接 (私立, 1 学部)
18. ディスカッション、面接 (私立, 1 学部)
19. グループディスカッション、グループワーク、課題工作 (私立, 2 学部)
20. グループディスカッション、面接 (私立, 2 学部) ほかに 1 大学
21. フィールドワーク、体験講義受講、グループディスカッション (私立, 2 学部)
22. グループワーク、面接 (私立, 3・4 学部)
23. グループ討議、記述試験、模擬講義 (私立, 3・4 学部)
24. ディスカッション、レポート作成 (私立, 3・4 学部)
25. ディスカッション、面接 (私立, 3・4 学部)
26. 課題 (模擬授業を受講し、最後にテストを行う) 面接試験 (個別、集団、MMI) グループディスカッション、活動報告書、志望理由書 (私立, 3・4 学部)
27. 課題レポート、模擬授業、グループディスカッション (私立, 3・4 学部)
28. 個別面接、集団討論、大学入学希望理由書、活動報告書 (私立, 3・4 学部)
29. 集団討論 (私立, 3・4 学部)
30. 討議 (私立, 3・4 学部)
31. 「LTD (Learning Through Discussion = 話し合い学習法)」方式のグループワーク (私立, 5 学部以上)
32. グループディスカッション (私立, 5 学部以上) ほかに 1 大学
33. グループディスカッション、個人面接 (私立, 5 学部以上)
34. グループディスカッションやレポート等。 (私立, 5 学部以上)
35. グループワーク (私立, 5 学部以上)
36. グループ討論 (私立, 5 学部以上)
37. ディベート、グループディスカッション、ディスカッション、プログラミング (私立, 5 学部以上)
38. 講義理解力試験、音読テスト、ゼミナール、集団活動・集団討論 (私立, 5 学部以上)
39. 面接、グループディスカッション (私立, 5 学部以上)
40. 面接、ディスカッション (私立, 5 学部以上)
41. 面接、ディスカッション、商業系科目、講義内容に基づくテスト (私立, 5 学部以上)

(4) 「課題」「レポート」を含む回答 (総合型選抜)

1. ・課題図書とグループディスカッション及び共通テスト・研究ポスター制作、口頭説明・総合問題 (国立, 3・4 学部)
2. 集団討論及び個人レポート、個人面接 (国立, 3・4 学部)
3. まとめレポート、集団討論、面接 (国立, 5 学部以上)
4. 面接、グループ討論、聴講・論述、レポート面接 (国立, 5 学部以上)
5. 面接、課題論述 (国立, 5 学部以上)
6. グループディスカッション、講義についてのレポート (公立, 1 学部)
7. 活動報告書、学修計画書、出願課題及びプレゼンテーションを兼ねた面接、面接 (口頭試問を含む) (公立, 1 学部)
8. ・講義形式の体験授業をもとにしたレポート作成を課している。・調査書、志望理由書、活動実績報告書等の出願書類の内容を判断している。 (公立, 2 学部)
9. グループワーク、グループワークに関するレポートの作成及び個別発表 (公立, 2 学部)
10. 模擬授業を聞き、その内容をもとにレポートを作成する (公立, 2 学部)

11. レクチャー①・②（講義形態）、レクチャーレポート、グループワーク、ふりかえりレポート、面接（公立，3・4学部）
12. ・学習能力試験（講義を受講後、筆記試験を行う）・レポート課題（学習能力試験で行った講義内容に関するレポート課題）・個別面接（私立，1学部）
13. エントリーシート、出願前面談、面接、課題提出（私立，1学部）
14. フィードワークとその前後の教員との課題のやりとり（私立，1学部）
15. 課題、個人面接、調査書。（私立，1学部）
16. 課題解決型レポート（私立，1学部）
17. 講義に関する課題（私立，1学部）
18. 志望理由書、事前課題（私立，1学部）
19. 事前課題、志望理由・活動報告書、キャリアイメージシート（私立，1学部）
20. グループディスカッション、グループワーク、課題工作（私立，2学部）
21. 課題、レポート、活動報告書、面談、自己紹介文、調査書（私立，2学部）
22. 課題レポート（私立，2学部）
23. 課題レポート，面談，調査書，自己推薦書（私立，2学部）
24. 課題作成（私立，2学部）
25. 面談、課題（私立，2学部）
26. ディスカッション、レポート作成（私立，3・4学部）
27. 課題（模擬授業を受講し、最後にテストを行う）面接試験（個別、集団、MMI）グループディスカッション、活動報告書、志望理由書（私立，3・4学部）
28. 課題に関するレポート（私立，3・4学部）
29. 課題レポート（私立，3・4学部）ほか2大学
30. 課題レポート、模擬授業、グループディスカッション（私立，3・4学部）
31. 各教科ごとの課題（私立，3・4学部）
32. 事前レポート（私立，3・4学部）
33. 自宅で作成する課題（私立，3・4学部）
34. 授業体験型審査（授業を聞いた後に、当日与えられる課題を作成する）（私立，3・4学部）
35. 面接、授業体験とレポート作成、事前課題レポート（私立，3・4学部）
36. グループディスカッションやレポート等。（私立，5学部以上）
37. プレゼンテーション、英語による質問、体験講義およびレポート（私立，5学部以上）
38. 課題に対するレポート、面接（私立，5学部以上）
39. 課題制作、適正テスト（私立，5学部以上）
40. 各学科ごとの課題（私立，5学部以上）
41. 講義の受講と課題審査（私立，5学部以上）
42. 事前課題（私立，5学部以上）
43. 模擬講義および理解力テスト、活動記録書、活動レポート（私立，5学部以上）

(5)「授業」「講義」を含む回答（総合型選抜）

1. 講義型試験、面接（国立，5学部以上）
2. 講義等理解力試験（国立，5学部以上）
3. グループディスカッション、講義についてのレポート（公立，1学部）
4. ・講義形式の体験授業をもとにしたレポート作成を課している。・調査書、志望理由書、活動実績報告書等の出願書類の内容を判断している。（公立，2学部）
5. 模擬授業を聞き、その内容をもとにレポートを作成する（公立，2学部）
6. レクチャー①・②（講義形態）、レクチャーレポート、グループワーク、ふりかえりレポート、面接（公立，3・4学部）
7. ・学習能力試験（講義を受講後、筆記試験を行う）・レポート課題（学習能力試験で行った講義内容に関するレポート課題）・個別面接（私立，1学部）
8. ・講義受講とその内容に関する試験・面接・基礎学力把握のための筆記による簡易な試験（私立，1学部）
9. 講義に関する課題（私立，1学部）
10. 指定講義の受講と確認テスト（私立，1学部）
11. 体験授業方式、面接方式（私立，1学部）
12. フィールドワーク、体験講義受講、グループディスカッション（私立，2学部）
13. 講義視聴と質疑応答（私立，2学部）
14. 講義聴講（私立，2学部）
15. 授業のまとめ、学部適正試験、面接、志望理由の評価、（私立，2学部）
16. 体験授業への参加（私立，2学部）
17. グループ討議、記述試験、模擬講義（私立，3・4学部）
18. 課題（模擬授業を受講し、最後にテストを行う）面接試験（個別、集団、MMI）グループディスカッション、活動報告書、志望理由書（私立，3・4学部）

19. 課題レポート、模擬授業、グループディスカッション (私立, 3・4 学部)
20. 講義受講し、理解力をはかる (私立, 3・4 学部)
21. 授業体験型審査 (授業を聞いた後に、当日与えられる課題を作成する) (私立, 3・4 学部)
22. 面接、授業体験とレポート作成、事前課題レポート (私立, 3・4 学部)
23. 模擬授業、プランニングシート作成 (私立, 3・4 学部)
24. プレゼンテーション、英語による質問、体験講義およびレポート (私立, 5 学部以上)
25. 講義の受講と課題審査 (私立, 5 学部以上)
26. 講義理解力試験、音読テスト、ゼミナール、集団活動・集団討論 (私立, 5 学部以上)
27. 講義理解力試験、個人面接 (私立, 5 学部以上)
28. 授業理解試験、自己推薦書 (私立, 5 学部以上)
29. 体験授業 (私立, 5 学部以上)
30. 面接、ディスカッション、商業系科目、講義内容に基づくテスト (私立, 5 学部以上)
31. 模擬講義および理解力テスト、活動記録書、活動レポート (私立, 5 学部以上)

(6) その他の回答 (総合型選抜)

1. A P 試験 (国立, 1 学部)
2. 学力把握のための総合問題 (国立, 5 学部以上)
3. 専門分野における能力を把握するための筆記による検査 (国立, 5 学部以上)
4. 総合問題 (国立, 5 学部以上)
5. 聴講記述試験 (公立, 3・4 学部)
6. 適性検査 (公立, 3・4 学部)
7. ポートフォリオ (作品・活動の資料ファイル) の提出 (私立, 1 学部)
8. 学力試験 (私立, 2 学部)
9. 作文 (私立, 2 学部)
10. 自作品 (私立, 2 学部)
11. 受験生の高校時代の成果物等の持参も認めている。 (私立, 2 学部)
12. 出願時に提出させる「自己アピール作文」 (私立, 2 学部)
13. 読解力総合問題 (私立, 2 学部)
14. 本学実施のプログラムへの参加とその成果物の提出。(私立, 2 学部)
15. 英語によるスピーチ (私立, 3・4 学部)
16. 学習意欲、志望動機等の確認 (私立, 3・4 学部)
17. 基礎学力検査 (国語、英語、数学) (私立, 3・4 学部)
18. 作品 (私立, 3・4 学部)
19. 視覚表現及び文章表現 (私立, 5 学部以上)
20. 操縦適性検査 (私立, 5 学部以上)

(1) 「面接」「面談」を含む回答 (学校推薦型選抜)

1. 集団面接、個人面接 (国立, 1 学部)
2. 面接 (国立, 1 学部) ほか 4 大学
3. 面接 (国立, 2 学部)
4. 個人面接 (国立, 3・4 学部)
5. 面接 (国立, 3・4 学部) ほか 3 大学
6. 集団討論、講義理解力試験、面接、グループ活動及び振り返り演習適性試験 (国立, 5 学部以上)
7. 出願書類、面接等 (国立, 5 学部以上)
8. 書類審査、集団討論、面接 (国立, 5 学部以上)
9. 読解・評価能力を問う試験、面接 (国立, 5 学部以上)
10. 面接 (国立, 5 学部以上) ほか 9 大学
11. 面接、集団討論、論述レポート (国立, 5 学部以上)
12. 面接、活動報告書 (国立, 5 学部以上)
13. ・自己推薦書・面接試験 (公立, 1 学部)
14. 英語、個人面接 (公立, 1 学部)
15. 口頭試問ではなく面接試験を実施 (知識を問うための口頭試問ではなく、本人の意欲や思考力を面接で採点する) (公立, 1 学部)
16. 作文、面接、志望理由書、推薦書 (公立, 1 学部)
17. 出願書類、面接 (公立, 1 学部)
18. 総合問題および面接 (公立, 1 学部)
19. 面接 (公立, 1 学部) ほか 6 大学
20. 面接・書類審査 (公立, 1 学部)
21. 面接 (口頭試問を含む) (公立, 1 学部)
22. 面接試験 (公立, 1 学部)
23. 面接 (公立, 2 学部)
24. 面接、デザイン総合問題 (公立, 2 学部)
25. 面接試験 (公立, 2 学部)
26. 調査書以外の書面、面接 (公立, 3・4 学部)

27. 面接 (公立, 3・4 学部) ほか 6 大学
28. 面接、推薦書、志望理由書 (公立, 3・4 学部)
29. 面接 (公立, 5 学部以上) ほか 2 大学
30. ・個別面接 (私立, 1 学部)
31. ・面接・基礎学力把握のための筆記による簡易な試験 (私立, 1 学部)
32. 10 分程度の面接 (私立, 1 学部)
33. グループ面接、面接 (私立, 1 学部)
34. 学力試験、面接 (私立, 1 学部)
35. 個人面接 (私立, 1 学部)
36. 個人面接、調査書。(私立, 1 学部)
37. 全体の学習成績の状況を点数化面接試験 (私立, 1 学部)
38. 面接 (私立, 1 学部) ほか 16 大学
39. 面接、書類審査 (私立, 1 学部) ほか 1 大学
40. 面接 (持参作品)、調査書 (私立, 1 学部)
41. 面接試験 (私立, 1 学部) ほか 3 大学
42. 個人面接、書類審査 (私立, 2 学部)
43. 面接 (私立, 2 学部) ほか 17 大学
44. 面接・書類選考 (調査書)・自己エントリー (入力) (私立, 2 学部)
45. 面接、調査書、推薦書 (私立, 2 学部)
46. 面接、自作品 (私立, 2 学部)
47. 面接、調査書 (私立, 2 学部) ほか 1 大学
48. グループ・ディスカッション、面接 (私立, 3・4 学部)
49. 基礎学力検査のための通常の筆記試験、面接 (私立, 3・4 学部)
50. 個別面接 (私立, 3・4 学部)
51. 個別面接、大学入学希望理由書 (私立, 3・4 学部)
52. 自己推薦文、面接 (私立, 3・4 学部)
53. 調査書の「学習成績の状況」、面接 (私立, 3・4 学部)
54. 調査書の記述内容を面接試験にて説明させる。(私立, 3・4 学部)
55. 面接 (私立, 3・4 学部) ほか 21 大学
56. 面接・調査書・推薦書 (私立, 3・4 学部)
57. 面接、志望理由書 (私立, 3・4 学部)
58. 面接、調査書 (私立, 3・4 学部)
59. 面接、入学志望理由書、調査書 (私立, 3・4 学部)
60. 面接試験 (私立, 3・4 学部)
61. グループディスカッション、個人面接 (私立, 5 学部以上)
62. 個人面接 (私立, 5 学部以上) ほか 1 大学
63. 講義理解力試験、面接、グループディスカッション (私立, 5 学部以上)
64. 面接 (私立, 5 学部以上) ほか 10 大学
65. 面接・書類審査 (私立, 5 学部以上) ほか 1 大学
66. 面接、調査書の点数化 (私立, 5 学部以上)
67. 面接試験 (私立, 5 学部以上)

(2) 「書」「エントリーシート」を含む回答 (学校推薦型選抜)

1. 書面 (調査書、自己推薦書) (国立, 1 学部)
2. 出身学校長の推薦書 (国立, 1 学部)
3. 出願書類、面接等 (国立, 5 学部以上)
4. 書類審査、集団討論、面接 (国立, 5 学部以上)
5. 面接、活動報告書 (国立, 5 学部以上)
6. ・自己推薦書・面接試験 (公立, 1 学部)
7. 作文、面接、志望理由書、推薦書 (公立, 1 学部)
8. 出願書類、面接 (公立, 1 学部)
9. 面接・書類審査 (公立, 1 学部)
10. 推薦書、調査書、志望理由書等の出願書類の内容を判断している。(公立, 2 学部)
11. 調査書以外の書面、面接 (公立, 3・4 学部)
12. 提出書類の審査 (公立, 3・4 学部)
13. 面接、推薦書、志望理由書 (公立, 3・4 学部)
14. 提出書類 (自己 PR 作文) (私立, 1 学部)
15. 活動報告書、学習計画書 (大学で学びたいこと) (私立, 1 学部)
16. 個人面接、調査書。(私立, 1 学部)
17. 高等学校作成の推薦書・調査書の提出 (私立, 1 学部)
18. 志望理由書 (私立, 1 学部) ほか 1 大学
19. 志望理由書、推薦書 (私立, 1 学部)
20. 読書レポート (私立, 1 学部)
21. 面接、書類審査 (私立, 1 学部) ほか 2 大学
22. 面接 (持参作品)、調査書 (私立, 1 学部)
23. 個人面接、書類審査 (私立, 2 学部)
24. 調査書の特別活動等の記述内容 (私立, 2 学部)
25. 面接・書類選考 (調査書)・自己エントリー (入力) (私立, 2 学部)
26. 面接、調査書、推薦書 (私立, 2 学部)
27. 面接、調査書 (私立, 2 学部)
28. 一部の入試は小論文が選択、一部の入試で口頭試問と活動報告書 (私立, 3・4 学部)
29. 個別面接、大学入学希望理由書 (私立, 3・4 学部)
30. 国語基礎テスト、調査書 (私立, 3・4 学部)

- | | |
|---|---|
| 31. 出願書類、評定平均 (私立, 3・4 学部) | 38. 面接、調査書 (私立, 3・4 学部) |
| 32. 書類審査 (私立, 3・4 学部) | 39. 面接、入学志望理由書、調査書 (私立, 3・4 学部) |
| 33. 調査書 (私立, 3・4 学部) | 40. 志望理由書など (私立, 5 学部以上) |
| 34. 調査書の「学習成績の状況」、面接 (私立, 3・4 学部) | 41. 書類選考 (私立, 5 学部以上) |
| 35. 調査書の記述内容を面接試験にて説明させる。
(私立, 3・4 学部) | 42. 調査書、学校長による推薦書、志望理由書による書類審査 (私立, 5 学部以上) |
| 36. 面接・調査書・推薦書 (私立, 3・4 学部) | 43. 面接・書類審査 (私立, 5 学部以上) ほか 1 大学 |
| 37. 面接、志望理由書 (私立, 3・4 学部) | 44. 面接、調査書の点数化 (私立, 5 学部以上) |

(3) 「ディスカッション」「討論」「討議」「グループワーク」を含む回答 (学校推薦型選抜)

- | | |
|--|--|
| 1. グループディスカッション (国立, 1 学部) | 7. 集団討論 (公立, 5 学部以上) |
| 2. 集団討論 (国立, 1 学部) | 8. グループ・ディスカッション、面接 (私立, 3・4 学部) |
| 3. 集団討論、講義理解力試験、面接、グループ活動及び振り返り演習適性試験 (国立, 5 学部以上) | 9. グループディスカッション (私立, 5 学部以上) |
| 4. 書類審査、集団討論、面接 (国立, 5 学部以上) | 10. グループディスカッション、個人面接 (私立, 5 学部以上) |
| 5. 面接、集団討論、論述レポート (国立, 5 学部以上) | 11. ディスカッション (私立, 5 学部以上) |
| 6. レポート、集団討論 (公立, 3・4 学部) | 12. 講義理解力試験、面接、グループディスカッション (私立, 5 学部以上) |

(4) 「課題」「レポート」を含む回答 (学校推薦型選抜)

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. 課題研究、課外活動、国際科学オリンピック出場歴等の内容について提出させ、評価。(国立, 5 学部以上) | 5. 読書レポート (私立, 1 学部) |
| 2. 面接、集団討論、論述レポート (国立, 5 学部以上) | 6. 課題レポート (私立, 2 学部) |
| 3. レポート、集団討論 (公立, 3・4 学部) | 7. 課題 (私立, 3・4 学部) |
| 4. 独自の課題 (私立, 1 学部) | 8. 事前レポート (私立, 3・4 学部) |
| | 9. 事前課題 (私立, 5 学部以上) |
| | 10. 実績やレポート等。(私立, 5 学部以上) |

(5) 「授業」「講義」を含む回答 (学校推薦型選抜)

- | | |
|--|---|
| 1. 集団討論、講義理解力試験、面接、グループ活動及び振り返り演習適性試験 (国立, 5 学部以上) | 2. 模擬授業の聴講とその要約。(私立, 2 学部) |
| | 3. 講義理解力試験、面接、グループディスカッション (私立, 5 学部以上) |

(6) その他の回答 (学校推薦型選抜)

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1. A P 試験 (プレゼン・実技等含む) (国立, 1 学部) | 資格・検定試験の成績等を活用 (公立, 5 学部以上) |
| 2. 科学系コンテスト等の受賞歴 (国立, 1 学部) | 6. 総合問題 (公立, 5 学部以上) |
| 3. 総合問題 (公立, 2 学部) | 7. ポートフォリオ (作品・活動の資料ファイル) の提出 (私立, 1 学部) |
| 4. 総合問題を用いた基礎学力検査 (公立, 2 学部) | 8. 運動競技歴等換算点 (保健体育の評定または |
| 5. 試験科目ではなく出願基準として一部選抜で | |

- | | |
|---|--------------------------------|
| 出場した大会の成績) (私立, 1 学部) | 15. 筆記試験 (文章理解) (私立, 3・4 学部) |
| 9. 小論文、実技は一部の受験者のみに課している (受験方式による) (私立, 1 学部) | 16. ノートテイキング (私立, 5 学部以上) |
| 10. 学力試験 (私立, 2 学部) ほかに 1 大学 | 17. 高校の学習成績の状況 (私立, 5 学部以上) |
| 11. 高校での活動評価、学習成績の状況全体の平均値 (私立, 2 学部) | 18. 総合問題 (私立, 5 学部以上) |
| 12. レポート (私立, 3・4 学部) | 19. 適正テスト (私立, 5 学部以上) |
| 13. 英語によるスピーチ (私立, 3・4 学部) | 20. 読解力テスト (私立, 5 学部以上) |
| 14. 学業外評価表 (私立, 3・4 学部) | 21. 予備校の実施する模試の結果 (私立, 5 学部以上) |

3.6.4 「基礎学力把握のための簡易な検査」のメリットとデメリット

QD-4. 貴大学の総合型選抜で課している「基礎学力把握のための簡易な検査」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

QE-4. 貴大学の学校推薦型選抜で課している「基礎学力把握のための簡易な検査」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

- (a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる
 (b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容ができる
 (c) 問題の作成が負担である
 (d) 問題の点検が負担である
 (e) 採点が負担である
 (f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる

質問項目 QD-4 / QE-4 では、QD-3 / QE-3 で「簡易検査 (筆記)」または「簡易検査 (CBT)」を課していると回答した大学に対して、(a)～(f) の事項について当てはまる程度を「1. 当てはまらない」「2. あまり当てはまらない」「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」の 4 件法で尋ねた。

全体の回答割合を図 3.56 及び表 3.172, 表 3.173 に示す。総合型選抜では、(a)(b) には 80 % 以上の大学が、(c)(d) には 70 % 程度の大学が、(e) には 50 % 程度の大学が「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」と回答した。一方、(f) に「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」と回答した大学は 30 % 弱であった。志願者やアドミッションポリシーなど、自大学に合わせた出題ができる一方で、問題の作成や点検、採点に負担を感じていることが分かる。学校推薦型選抜でも、総合型選抜と同様の傾向が見られた。(c)(d) に対しては総合型選抜よりも「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」と回答した大学が多く、問題の作成・点検への負担を強く感じていることが分かった。

設置形態別の回答割合を表 3.172 と表 3.173 に示す。総合型選抜では、「簡易検査」を課している選抜区分があると回答した大学は、国立が 17 大学、公立が 2 大学、私立が 103 大学であった。公立は数が少ないため、国立と私立を比較する。平均を見ると、(a)(f) では私立の方が平均が高いが、それ以外の項目では国立の方が平均が高かった。学校推薦型選抜では、「簡易検査」を課している選抜区分があると回答した大学は、国立が 13 大学、公立が 6 大学、私立が 90 大学であっ

た。公立は数が少ないため、国立と私立を比較する。平均を見ると、(a)(c)(f) では私立の方が平均が高いが、それ以外の項目では国立の方が平均が高かった。

学部規模別の回答割合を表 3.174 と表 3.175 に示す。(a)～(f) の回答の平均を見ると、総合型選抜においても学校推薦型選抜においても「5 学部以上」の大学の平均が他と比べてやや高い傾向がみられた。

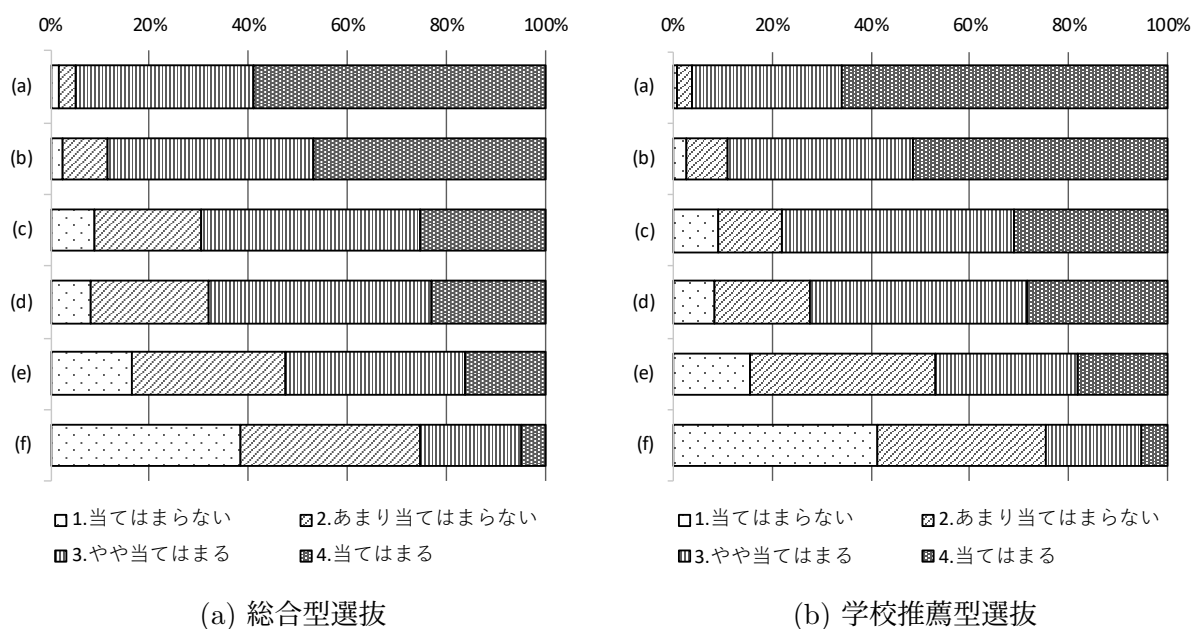


図 3.56: 「簡易検査」のメリットとデメリット (QD-4 及び QE-4, 全体)

表 3.172: 総合型選抜における「簡易検査」のメリットとデメリット (QD-4, 設置形態別)

(a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	1	1	5	10	17	5.9	5.9	29.4	58.8	100.0	3.41	0.84
公立	0	0	1	1	2	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0	3.50	0.50
私立	1	3	38	61	103	1.0	2.9	36.9	59.2	100.0	3.54	0.60
全体	2	4	44	72	122	1.6	3.3	36.1	59.0	100.0	3.52	0.64

(b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容ができる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	0	1	5	11	17	0.0	5.9	29.4	64.7	100.0	3.59	0.60
公立	0	0	0	2	2	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	4.00	0.00
私立	3	10	46	44	103	2.9	9.7	44.7	42.7	100.0	3.27	0.75
全体	3	11	51	57	122	2.5	9.0	41.8	46.7	100.0	3.33	0.74

(c) 問題の作成が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	2	0	8	7	17	11.8	0.0	47.1	41.2	100.0	3.18	0.92
公立	0	1	0	1	2	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0	3.00	1.00
私立	9	25	46	23	103	8.7	24.3	44.7	22.3	100.0	2.81	0.88
全体	11	26	54	31	122	9.0	21.3	44.3	25.4	100.0	2.86	0.90

(d) 問題の点検が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	2	2	7	6	17	11.8	11.8	41.2	35.3	100.0	3.00	0.97
公立	0	0	1	1	2	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0	3.50	0.50
私立	8	27	47	21	103	7.8	26.2	45.6	20.4	100.0	2.79	0.86
全体	10	29	55	28	122	8.2	23.8	45.1	23.0	100.0	2.83	0.87

(e) 採点が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	2	2	6	7	17	11.8	11.8	35.3	41.2	100.0	3.06	1.00
公立	0	0	1	1	2	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0	3.50	0.50
私立	18	36	37	12	103	17.5	35.0	35.9	11.7	100.0	2.42	0.91
全体	20	38	44	20	122	16.4	31.1	36.1	16.4	100.0	2.52	0.95

(f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	12	5	0	0	17	70.6	29.4	0.0	0.0	100.0	1.29	0.46
公立	2	0	0	0	2	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1.00	0.00
私立	33	39	25	6	103	32.0	37.9	24.3	5.8	100.0	2.04	0.89
全体	47	44	25	6	122	38.5	36.1	20.5	4.9	100.0	1.92	0.88

表 3.173: 学校推薦型選抜における「簡易検査」のメリットとデメリット (QE-4, 設置形態別)

(a) 自大学の志願者に合わせた難易度にてできる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	0	1	6	6	13	0.0	7.7	46.2	46.2	100.0	3.38	0.62
公立	0	0	0	6	6	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	4.00	0.00
私立	1	2	27	60	90	1.1	2.2	30.0	66.7	100.0	3.62	0.59
全体	1	3	33	72	109	0.9	2.8	30.3	66.1	100.0	3.61	0.59

(b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容にてできる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	0	1	4	8	13	0.0	7.7	30.8	61.5	100.0	3.54	0.63
公立	0	0	0	6	6	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	4.00	0.00
私立	3	8	37	42	90	3.3	8.9	41.1	46.7	100.0	3.31	0.77
全体	3	9	41	56	109	2.8	8.3	37.6	51.4	100.0	3.38	0.75

(c) 問題の作成が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	2	1	6	4	13	15.4	7.7	46.2	30.8	100.0	2.92	1.00
公立	0	0	2	4	6	0.0	0.0	33.3	66.7	100.0	3.67	0.47
私立	8	13	43	26	90	8.9	14.4	47.8	28.9	100.0	2.97	0.89
全体	10	14	51	34	109	9.2	12.8	46.8	31.2	100.0	3.00	0.90

(d) 問題の点検が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	2	1	6	4	13	15.4	7.7	46.2	30.8	100.0	2.92	1.00
公立	0	0	2	4	6	0.0	0.0	33.3	66.7	100.0	3.67	0.47
私立	7	20	40	23	90	7.8	22.2	44.4	25.6	100.0	2.88	0.88
全体	9	21	48	31	109	8.3	19.3	44.0	28.4	100.0	2.93	0.90

(e) 採点が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	2	4	4	3	13	15.4	30.8	30.8	23.1	100.0	2.62	1.00
公立	0	1	1	4	6	0.0	16.7	16.7	66.7	100.0	3.50	0.76
私立	15	36	26	13	90	16.7	40.0	28.9	14.4	100.0	2.41	0.93
全体	17	41	31	20	109	15.6	37.6	28.4	18.3	100.0	2.50	0.96

(f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
国立	6	6	1	0	13	46.2	46.2	7.7	0.0	100.0	1.62	0.62
公立	6	0	0	0	6	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	1.00	0.00
私立	33	31	20	6	90	36.7	34.4	22.2	6.7	100.0	1.99	0.92
全体	45	37	21	6	109	41.3	33.9	19.3	5.5	100.0	1.89	0.90

表 3.174: 総合型選抜における「簡易検査」のメリットとデメリット (QD-4, 学部規模別)

(a) 自大学の志願者に合わせた難易度にてできる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	1	1	10	13	25	4.0	4.0	40.0	52.0	100.0	3.40	0.75
2 学部	0	2	10	11	23	0.0	8.7	43.5	47.8	100.0	3.39	0.64
3・4 学部	1	1	11	18	31	3.2	3.2	35.5	58.1	100.0	3.48	0.71
5 学部以上	0	0	13	30	43	0.0	0.0	30.2	69.8	100.0	3.70	0.46

(b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容にてできる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	0	2	15	8	25	0.0	8.0	60.0	32.0	100.0	3.24	0.59
2 学部	0	4	11	8	23	0.0	17.4	47.8	34.8	100.0	3.17	0.70
3・4 学部	2	1	12	16	31	6.5	3.2	38.7	51.6	100.0	3.35	0.82
5 学部以上	1	4	13	25	43	2.3	9.3	30.2	58.1	100.0	3.44	0.76

(c) 問題の作成が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	1	5	11	8	25	4.0	20.0	44.0	32.0	100.0	3.04	0.82
2 学部	0	6	11	6	23	0.0	26.1	47.8	26.1	100.0	3.00	0.72
3・4 学部	7	10	11	3	31	22.6	32.3	35.5	9.7	100.0	2.32	0.93
5 学部以上	3	5	21	14	43	7.0	11.6	48.8	32.6	100.0	3.07	0.85

(d) 問題の点検が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	0	7	12	6	25	0.0	28.0	48.0	24.0	100.0	2.96	0.72
2 学部	0	8	10	5	23	0.0	34.8	43.5	21.7	100.0	2.87	0.74
3・4 学部	6	10	12	3	31	19.4	32.3	38.7	9.7	100.0	2.39	0.90
5 学部以上	4	4	21	14	43	9.3	9.3	48.8	32.6	100.0	3.05	0.89

(e) 採点が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	5	6	11	3	25	20.0	24.0	44.0	12.0	100.0	2.48	0.94
2 学部	2	12	4	5	23	8.7	52.2	17.4	21.7	100.0	2.52	0.93
3・4 学部	8	12	9	2	31	25.8	38.7	29.0	6.5	100.0	2.16	0.88
5 学部以上	5	8	20	10	43	11.6	18.6	46.5	23.3	100.0	2.81	0.92

(f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	7	12	4	2	25	28.0	48.0	16.0	8.0	100.0	2.04	0.87
2 学部	8	8	5	2	23	34.8	34.8	21.7	8.7	100.0	2.04	0.95
3・4 学部	12	9	10	0	31	38.7	29.0	32.3	0.0	100.0	1.94	0.84
5 学部以上	20	15	6	2	43	46.5	34.9	14.0	4.7	100.0	1.77	0.86

表 3.175: 学校推薦型選抜における「簡易検査」のメリットとデメリット (QE-4, 学部規模別)

(a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	0	1	11	18	30	0.0	3.3	36.7	60.0	100.0	3.57	0.56
2 学部	0	1	7	12	20	0.0	5.0	35.0	60.0	100.0	3.55	0.59
3・4 学部	1	1	6	17	25	4.0	4.0	24.0	68.0	100.0	3.56	0.75
5 学部以上	0	0	9	25	34	0.0	0.0	26.5	73.5	100.0	3.74	0.44

(b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容にできる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	0	2	17	11	30	0.0	6.7	56.7	36.7	100.0	3.30	0.59
2 学部	0	4	8	8	20	0.0	20.0	40.0	40.0	100.0	3.20	0.75
3・4 学部	2	1	8	14	25	8.0	4.0	32.0	56.0	100.0	3.36	0.89
5 学部以上	1	2	8	23	34	2.9	5.9	23.5	67.6	100.0	3.56	0.74

(c) 問題の作成が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	2	6	11	11	30	6.7	20.0	36.7	36.7	100.0	3.03	0.91
2 学部	1	2	8	9	20	5.0	10.0	40.0	45.0	100.0	3.25	0.83
3・4 学部	3	3	13	6	25	12.0	12.0	52.0	24.0	100.0	2.88	0.91
5 学部以上	4	3	19	8	34	11.8	8.8	55.9	23.5	100.0	2.91	0.89

(d) 問題の点検が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	1	7	13	9	30	3.3	23.3	43.3	30.0	100.0	3.00	0.82
2 学部	1	3	7	9	20	5.0	15.0	35.0	45.0	100.0	3.20	0.87
3・4 学部	3	4	12	6	25	12.0	16.0	48.0	24.0	100.0	2.84	0.92
5 学部以上	4	7	16	7	34	11.8	20.6	47.1	20.6	100.0	2.76	0.91

(e) 採点が負担である												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	5	11	9	5	30	16.7	36.7	30.0	16.7	100.0	2.47	0.96
2 学部	3	9	4	4	20	15.0	45.0	20.0	20.0	100.0	2.45	0.97
3・4 学部	4	12	4	5	25	16.0	48.0	16.0	20.0	100.0	2.40	0.98
5 学部以上	5	9	14	6	34	14.7	26.5	41.2	17.6	100.0	2.62	0.94

(f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる												
	度数					割合 (%)					平均	標準偏差
	1	2	3	4	計	1	2	3	4	計 (%)		
1 学部	16	8	3	3	30	53.3	26.7	10.0	10.0	100.0	1.77	0.99
2 学部	7	8	4	1	20	35.0	40.0	20.0	5.0	100.0	1.95	0.86
3・4 学部	11	7	7	0	25	44.0	28.0	28.0	0.0	100.0	1.84	0.83
5 学部以上	11	14	7	2	34	32.4	41.2	20.6	5.9	100.0	2.00	0.87

3.6.5 大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題

QD-5. 総合型選抜において、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関して課題があれば記入してください。(自由記述)

QE-5. 学校推薦型選抜において、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関して課題があれば記入してください。(自由記述)

質問項目 QD-5 / QE-5 では、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題を自由記述で尋ねた。各大学の回答を表 3.176 に示した。総合型選抜と学校推薦型選抜とで同様の内容を回答した大学が多かったため、表 3.176 では、大学ごとに回答を並べて示した。各大学が課題として回答した内容は多岐にわたっていたため、表 3.176 では、各大学の回答を、(a) 公平な評価、(b) 評価基準の設定、(c) 評価の難しさ、(d) 負担の重さ、(e) 評価方法に関してその他、(f) 評価方法に関する検証、(g) 評価資料の不足、(h) 高校や入学後の教育との連携、(i) その他の 9 つに分けて掲載している。各大学の回答には複数の内容が含まれ、また、総合型選抜と学校推薦型選抜とで異なる内容を書いている大学もある。それらを大まかに 9 つに分けたものであるため、分類の項目と異なる回答が含まれる場合もある。なお、回答から大学が特定できそうな回答や、QD-5 と QE-5 への回答が共に「検討中」や「特になし」等の回答は省いている。

「(a) 公平な評価」に含まれる回答には、「公平に評価するのが難しい」など、公平に評価しようとするものの評価基準の設定が難しいとする回答があった。「(b) 評価基準の設定」に含まれる回答のように評価基準の設定そのものも課題となっており、また「教員の評価スキル」のように選考する側のトレーニングも課題とされている。「(c) 評価の難しさ」に含まれる回答では「面接における評価方法」「思考力・判断力の適切な評価法が難しい」「知識に関する評価が難しい」とあり、評価することに自体が難しく、課題とされている。評価方法や評価自体を適切に行おうとしているものの、課題となっている様子が伺える。「(d) 負担の重さ」に含まれる回答には、「実施にはかなりの労力を要するため、人員や予算が不足している」「問題の作成が負担である」のように、総合型選抜・学校推薦型選抜ともに大学の人員や時間の不足を課題とする回答がみられた。また、大学側だけでなく「より丁寧に評価を実施しようとする」と大学側のコストが大きい上に、受験者の負担も大きくなる懸念がある」と受験者の負担も課題とする回答もあった。

「(f) 評価方法に関する検証」に含まれる回答には、「高大接続という観点から「3 学力」を担保する評価方法を継続し検討していく必要がある」のように評価方法そのものを継続して検討していくという回答があった。具体的な課題としては「(g) 評価資料の不足」に含まれる回答のように、「教科・科目に係るテストを行っていないことから、特に、知識・技能といった基礎学力について課題がある」のように基礎学力の評価を上げるものもみられた。評価そのものだけでなく、「(h) 高校や入学後の教育との連携」に含まれる回答には「評価した内容をどのように検証し、入学後の大学教育に連動していくか」「高校により対応がまちまちであり、制度化に苦慮している」のように、高校や入学後の教育との連携を課題とする回答もあった。

3.6.6 おわりに

総合型選抜、学校推薦型選抜を実施している大学のうち、「教科・科目テスト」を課している選抜区分がある（「2. 一部」～「5. すべて」）大学は、総合型選抜では、521 大学のうち 184 大学（35 %）、学校推薦型選抜では、609 大学のうち 234 大学（38 %）であった。

共通テストや「教科・科目テスト」のほかに課しているものは、多い順に総合型選抜では小論文（67 %）、口頭試問（58 %）、プレゼンテーション（57 %）、学校推薦型選抜では小論文（71 %）、口頭試問（50 %）であった。「その他」としては、面接や調査書等の書面が多く、総合型選抜では討論やレポート、体験授業等の回答も見られた。また、簡易検査（筆記）を課している選抜区分がある大学は、総合型選抜では 22 %、学校推薦型選抜では 17 %、簡易検査（CBT）を課している選抜区分がある大学は、総合型選抜では 2 %、学校推薦型選抜では 1 %であった。

以上をまとめると、総合型選抜や学校推薦型選抜において知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法としては、小論文や口頭試問、プレゼンテーション（総合型選抜のみ）を実施する大学が多く、「教科・科目テスト」や「簡易検査」を課す選抜区分がある大学はそれぞれ 40 % 弱、20 % 程度であることが分かった。

「教科・科目テスト」や「簡易検査」に関しては、どちらも、メリットとしては志願者やアドミッションポリシーなど、自大学に合わせた出題ができることが、デメリットとしては問題の作成や点検、採点が負担となっていることが示された。

知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法についての課題としては、評価基準の設定や評価の難しさなど、評価方法に関するもののほか、評価方法そのものの検討の必要性など、様々な回答が寄せられた。また、志願者を丁寧に評価しようとするものの、評価の実施に際しては人員や予算の不足や、受験生の負担を懸念する回答もあった。「教科・科目テスト」や「簡易検査」に関しては、問題の作成や採点等が負担となっていることが示されたが、それだけでなく評価の実施全般が負担となっていると考えられる。

表 3.176: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題 (1)

(a) 公平な評価

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
公立	1		公平に評価することができ、かつ時間的、人力的に負担の少ない方法で評価できる選抜方法の検討が課題である。
公立	1		面接や書類審査における評価について、個々の主観を完全に取り除くことができないため、公平性を確保することが難しい。
公立	5	公平性の確保	公平性の確保
私立	2	公平に評価するのが難しい	公平に評価するのが難しい
私立	3・4	公平な評価・採点が完璧に実施できる体制を作ることが難しい。	完全に公平な採点ができる体制を作ることが難しい。
私立	3・4	公平性の担保。	評価するための人員、時間の確保と公平性の担保。
私立	3・4	公平で適切な評価を行うための問題策定	公平で適切な評価を行うための問題策定
私立	5	学力の公平な調査	特になし
私立	5	多人数では実施が難しく受験生の数に限度がある。	技能、表現力など、いわゆる非認知力を評価するためには、多人数の受験生の入試では、QC - 6 の解答群の (d) (e) (f) が課題。また、多人数を差別化するための評価基準の設定も課題である。
私立	5	公正・公平に評価するための評価基準の設定	公正・公平に評価するための評価基準の設定
私立	5		評価基準の設定や公平性を担保することが困難である。調査書と小論文だけでは入学後に必要な基礎学力を測るのが難しい。

(b) 評価基準の設定

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
私立	1		面接、小論文の評価の透明性、客観性
私立	2		評価基準にばらつきが出ることの防止について。
私立	5	評価方法の基準設定	評価基準の設定
私立	5		小論文と面接主体で、学科毎の出題となっており、統一した基準となっていない部分もある。
私立	5		調査書を点数化しているがその調査書の学校間格差
私立	2	学内で評価方法を構築すること	そのような評価方法を挿入すると、受験生に負荷がかかり、志願者数減につながる。
私立	3・4	発表等を点数化して評価する上で点数化の基準は設けているが、受け止め方は教員それぞれなので正確な評価につながっていないことが考えられる。	口頭試問や小論文を点数化して評価する上で採点基準を定めているが、評価する教員によって同じ受験生でも評価が乖離していることもあるため、一律に評価することが難しい。
私立	3・4	教員の評価スキル	特になし
私立	3・4	評価するためのスキルの均一化	
私立	5	選考を行う側のトレーニング (評価基準のすり合わせ等)	選考する側の評価基準のすり合わせ

表 3.176: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題 (2)

(c) 評価の難しさ

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
私立	1	丁寧な面談を行っていても、すべての評価項目を正確に評価することは難しい	出願書類について、高校間での格差があるため、個人個人の評価が難しい
私立	2	面接、プレゼンテーション、口頭試問、成果物などによって図っているが、限られた資料と時間では、全ての資質、能力は評価しがたいのが実情である。	学校推薦型選抜の出願資格には、全体の学習成績の状況の基準及び出身校長による人物等の保証があるので、それらを評価基準としている。また、調査書の特別活動の記録等も参照しているが、資質、能力の項目をすべて測れているかは疑問が残る。
私立	3・4	口頭試問の場合であれば、思考力、表現力等は測ることも可能ではあるが、実質的に口頭試問の実施時間が短く、不十分となる可能性も少なからずある。	評価する委員(教員)の採点で不均衡が起る可能性がある。
私立	3・4		限られた面接時間内における評価
私立	2	調査書の「高校での学習成果」を段階評価として「面接、小論文、エントリーシート」と併せて総合評価を行うが絶対評価ではないのでそこでの差異がつけ難い。	
公立	1		評価をする時間が短いのが課題。
公立	1		一回の試験のみや短時間の面接において、すべてを評価することは難しい
公立	2		面接における評価方法
私立	1		思考力・判断力の適切な評価法が難しい
私立	1		知識に関する評価が難しい
私立	2	出願時課題や面接は高校教員等の指導が入っており、限られた試験時間内に受験生の素の能力をいかに把握するかは毎年の課題と言える。	
私立	3・4	調査書の評価での学校間格差	調査書の評価に於ける学校間格差
私立	5		科目によっては、思考力が表現力を問う試問の作成が難しい
私立	5		調査書の評定について絶対評価であるため、高等学校によっては AB 評価が多く見受けられ、評価の適正性に疑問がある。区別毎の割合の設定などができないだろうか。

(d) 負担の重さ

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
公立	3・4		試験問題の作成の負担が大きい。
国立	2	・ 作題と採点の負担	・ 作題と点検
国立	5	実施にはかなりの労力を要するため、人員や予算が不足している。	実施にはかなりの労力を要するため、人員や予算が不足している。
私立	1		知識・技能の評価をするため、もう一つ課したいが、問題作成や、採点の人的リソースを考えたときに難しい。

表 3.176: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題 (3)

(d) 負担の重さ (続き)

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
私立	1	検査に対する時間人員配置と受験生の個人情報に関する問題	
私立	2	評価時間の確保	
私立	5	問題の作成が負担である。	問題の作成が負担である。
私立	5	評価項目の数が多くなり、評価者の負担と評価にかかる時間が増大している。	評価項目の数が多くなり、評価者の負担と評価にかかる時間が増大している。
国立	1	募集人員と大学としてかけるヒト・モノ・カネと時間のバランス	募集人員と大学としてかけるヒト・モノ・カネと時間のバランス
国立	5	より丁寧に評価を実施しようとする大学側のコストが大きい上に、受験者の負担も大きくなる懸念がある。一般選抜との差別化のため、知識の割合が低い、大学教育に必要なレベルの評価ができていない課題がある。	
私立	2	見直しを行う中で、大学、受験者の双方において、過剰な負担とならない方法で、これらを十分に評価できているのか課題は残っていると感じている。	受験者数が多く、場所、時間、人員に限りがあるため、これらを実行するのに時間が不足している。

(e) 評価方法に関してその他

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
私立	1	評価方法	
私立	5	統一した評価方法がない	統一した評価基準がない
私立	1	コロナ禍の下での小論文試験は、事前提出型で実施するしかない。その場合、高校教員の指導が入ってしまいがちである。	コロナ禍の下での小論文試験は事前提出型で実施するしかない。その場合、高校教員の指導が入ってしまいがちである。

(f) 評価方法に関する検証

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
私立	2	現在は調査書及び自己推薦書、小論文、面接を使って総合的に評価しているが、これだけですべての項目を網羅できているか疑問である。	
私立	2	評価方法をあまり難解にすると、志願者減につながるのではないかと不安がある。大学が受験生に求める力と高校現場で行われている教育内容を、しっかりと調整して評価方法を構築することが課題である。	高校から発行される調査書の記載内容と学力試験結果が合致しない受験生が散見される。学校推薦型選抜において、知識・技能の的確な評価が難しい。
私立	3・4	受験対象となる受験生層の実態を踏まえながら、必要な選抜方式を検討していく。そのための実態の把握（必要なデータの取得と蓄積）は課題となる。	受験対象となる受験生層の実態を踏まえながら、必要な選抜方法を検討していく。そのための実態の把握（必要なデータの取得と蓄積）は課題となる。
私立	3・4	いずれの審査方法を用いても、高大接続という観点から「3学力」を担保する評価方法を継続し検討していく必要がある。	いずれの審査方法を用いても、高大接続という観点から「3学力」を担保する評価方法を継続し検討していく必要がある。

表 3.176: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題 (4)

(f) 評価方法に関する検証 (続き)

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
私立	5	総合型 (AO) の一次選抜では、多くの学部で「基礎学力確認テスト」を実施し、面接を行っているが、それが大学教育に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価するテストとして適切か否の内容及び解答方法の検証。また客観性を確保するための面接評価のあり方 (段階評価か点数評価か)。	学校推薦型選抜では、現在は、調査書を学科への適性、主体的に学ぶ姿勢という観点から、面接及び出願申請書の評価の「参考」としているが、今後それをどのように評価の中に取り入れるか。

(g) 評価資料の不足

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
公立	3・4	英語の4技能評価について、外部試験を導入するかどうか。	英語の4技能評価について、外部試験を導入するかどうか。
国立	5	幅広い基礎学力 (大学入学共通テストを課さない入試の場合)	幅広い基礎学力 (大学入学共通テストを課さない入試の場合)
国立	5	共通テストほどの難易度ではなく、必要最低限の基礎学力を幅広く確認できる客観的な選考資料が必要。調査書の評定平均では不十分であるため。	
私立	1		理系では、数・理の基礎学力を測らないと人物評価だけでは乗り越えられないものがある。
私立	1	学習意欲の評価比率が高く、学力のチェックが不十分と感じる	なし
私立	2		基礎学力
私立	2		医学部の学校推薦型選抜の学科試験科目は「数学」と「外国語」のみであるため、未実施科目に関して大学教育を受けるにあたって必要な学力等が十分に備わっているか評価することが難しい。(医学部) 客観的かつ明確で実現可能な評価方法の策定 (看護学部)
私立	2	筆記試験を課していないため、書く力を見ることができない。	
私立	2	基礎学力の不足をすべては把握できない。	なし
私立	3・4	本学では小論文を課すことで知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価しているが、教科・科目に係るテストを行っていないことから、特に、知識・技能といった基礎学力について課題がある	プレゼンテーションで必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価しているが、導入が昨年度からなので、どの程度有効に機能しているか、推移を見守っていく必要がある。

表 3.176: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題 (5)

(g) 評価資料の不足 (続き)

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
私立	3・4	基礎学力の把握	
私立	3・4	各学科・コースのAPを反映した試験科目の設定。	各学科・コースのAPを反映した試験科目の設定。
私立	3・4	学力の3要素の「知識・技能」のうち、基礎的な英語運用能力を測定するのが難しい。	学力の3要素の「知識・技能」のうち、基礎的な英語運用能力を測定するのが難しい。
私立	3・4		思考力、判断力の評価が適切に行える試行的問題が必要
私立	5	時期等を考えると、「高校生のための学びの基礎診断」の結果が選抜で利用できることが望ましい。	時期等を考えると「高校生のための学びの基礎診断」の結果が選択で利用できることが望ましい。

(h) 高校や入学後の教育との連携

設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
公立	1		入試時に成績が良くても入学後、ついていけなくなる学生が多い
私立	3・4	学力の3要素等、評価した内容をどのように検証し、入学後の大学教育に連動していくか。	総合型選抜同様に、学力の3要素等、評価した内容をどのように検証し、入学後の大学教育に連動していくか。
私立	3・4	現在、複数の選抜方法を設け実施しているところであり今後これらの結果や入学後の教学データとの関連で検証していく予定である。	
私立	3・4		評価については、検討、見直しを行っているが、特に年内入試での合格者については、入学前準備教育の充実が重要であり、見直し、検討を行っている。
私立	5	受験生個人の意欲や適性の把握。大学教育を受けるために必要な能力の評価結果の入学前教育への活用。	高校からの推薦内容の確認。大学教育を受けるために必要な能力の評価結果の入学前教育への活用。
国立	5	アドミッション・ポリシーを正しく理解せず受験するケースがあり、総合型の趣旨に合わない受験者の評価に苦慮することがある。	
私立	1	学力の3要素に係る試験内容(課題・面接)を準備し、実施しているが、抽象的になりがちで科目別学力試験を重視する高校には理解されにくい。	
私立	2	進路多様校の生徒は学力の3要素についての認識は皆無であるが、大学の入学者選抜ではそれを評価するという状況にある。コロナ禍で高校生の情報不足が顕著な中、受験生は混乱しているのではないかと推察する。	
私立	5	学力の3要素を審査する方法として、「総合的な探求の時間」を考慮した試験方式の構築を考えているが、高校により対応がまちまちであり、制度化に苦慮している。	

表 3.176: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題 (6)

(i) その他			
設置形態	学部規模	総合型選抜について (QD-5)	学校推薦型選抜について (QE-5)
国立	5	大学入学共通テストは, 知識・技能, 思考?・判断?を見ることができるものといえる。そのため, 入学後の学修に耐え得る基礎学力の担保のためには, 総合型選抜においても大学入学共通テストに頼らざるを得ない。しかし, 大学入学共通テストを課した場合, 本来の総合型選抜の趣旨から乖離し, 多面的・総合的な評価ではなく, 学力重視の選抜に近いものになってしまうことが想定される。また, 共通テストを課した場合, 受験者から敬遠されることも懸念される。	大学入学共通テスト以外の評価方法では, 十分な基礎学力の評価ができず, 入学後の学修に不安が残る。また, 高校間の学力差や高校での評価基準に差があるため, 高校の学習状況に一定の基準を設ける (学習成績の状況が○以上など) ことも難しい。そのため, 適切な評価方法を求めようとした場合, 大学入学共通テストに頼らざるを得ず, 学校推薦型選抜にもかかわらず, 学力重視の選抜になってしまう懸念がある。
国立	5	そもそも大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力が何かを正確に決めるのが困難である。	そもそも大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力が何かを正確に決めるのが困難である。
国立	5	知識・技能や思考力・判断力・表現力をどのように担保していくことが望ましいのか。具体的には, 共通テストを課すかどうか等。また, 入学前教育の在り方も検討している。	知識・技能や思考力・判断力・表現力をどのように担保していくことが望ましいのか。具体的には, 共通テストを課すかどうか等。また, 入学前教育の在り方も検討している。
私立	1	大学入学後に必要とされる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の評価が、入試で全て見ることが出来ないことが課題である。	高等学校での修学状況を調査書で判断し、面接とともに評価するので、限られた面接時間の中で判定することが難しい面がある。
私立	2	全ての能力を網羅できる客観的な評価方法・判定方法があればと考える。	全ての能力を網羅できる客観的な評価方法・判別方法・選抜方法があればと考える。
私立	2	特になし。	そもそも、これらの能力をどのように入試段階で評価するのか、方法が難しい。
私立	5	様々な選抜方法を試してきたが、学力検査が受験生の資質を測るのに最も信頼性が高い。本学も適正テストを課しているが、内容は学力検査に年々近づいている。	様々な選抜方法を試してきたが、学力検査が受験生の資質を測るのに最も信頼性が高い。本学も適性テストを課しているが、内容は学力検査に年々近づいている。
国立	5	評価方法ではないが、受験生に対して、大学が募集単位ごとに求めている能力等をあらかじめ理解させることについては、さらに取り組みが必要と考える。	評価方法ではないが、受験生に対して、大学が募集単位ごとに求めている能力等をあらかじめ理解させることについては、さらに取り組みが必要と考える。
私立	2	課題探求ゼミへの参加を出願の必須条件とし、10 個前後のキーワードを配布する。受験生は自宅でキーワードについて調べ、レポート作成日に来学し、定められたテーマで、自筆ノートを参考にしながら、レポートを作成する。	
私立	3・4	試験日当日のみでこれら进行评估することは困難。エントリー前のプロセスが重要。	これらを公平性をもって評価することは困難と感じる。

表 3.176: 知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題（その他）(7)

(i) その他（続き）

設置形態	学部規模	総合型選抜について（QD-5）	学校推薦型選抜について（QE-5）
私立	3・4	総合型選抜において、『知識・技能、思考力・判断力・表現力』の評価は、一般受験生の場合、高校側の調査書が評価対象になるが、留学生の場合調査書が準備できないという問題点がある。	学校推薦型選抜においても、総合型選抜同様『知識・技能、思考力・判断力・表現力』の評価は、一般受験生の場合は高校側の調査書が評価対象になっているが、留学生の場合調査書が準備できないという問題点がある。
私立	5	書類審査による一次審査のあと、二次審査として面接や小論文を実施しているが、一次審査の合格発表から二次審査の試験日まで二週間程度しか日程が空いていない。本学では受験生と実際に対面したうえで評価を行うことに重きを置いているため、リモート面接等の代替手段は実施しておらず、海外からの受験生に対してコロナ禍による入国後の隔離期間を考慮できていない試験日程となっている。	特になし

3.7 入試改善に向けた取り組みの実施状況および必要性

伊藤圭

本節では、セクション F の質問項目に対する回答の集計結果を示す。セクション F は調査対象大学における入試改善に向けた取り組みの実施状況および必要性についての質問項目から構成されている。

3.7.1 入試改善に向けた取り組みの実施状況

QF-1. 次の (a)～(h) の項目の実施状況について、当てはまるものを選択してください。また、その他に実施している取り組みがあれば (i) に記入してください。

1. おこなっていない 2. おこなっている

- (a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析
- (b) 学力検査の難易度，識別性等の評価
- (c) 学力検査の問題の内容の検証
- (d) 学力検査以外の課題（小論文，面接，討論，実技等）の内容の検証
- (e) 選抜資料（学力検査，小論文，面接，討論，実技，調査書・推薦書等）と入学後成績の関連性に関する追跡調査
- (f) 新しい評価方法の開発（学力検査，小論文，面接，討論，実技等の新規開発）
- (g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築
- (h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討
- (i) 入試改善に向けたその他の取り組み（自由記述）

質問項目 QF-1 では、入試改善に向けた取り組みの典型的な事例を項目 (a)～(h) として示し、それぞれの実施状況について、「1. おこなっていない」と「2. おこなっている」の 2 択で回答を求めるとともに、項目 (i) でその他の取り組みについて自由記述での回答を求めた。

回答の集計は大学の設置形態別と学部規模別の 2 つの観点から行った。以下、表 3.177、表 3.178、図 3.57 は設置形態別の集計結果、表 3.179、表 3.180、図 3.58 は学部規模別の集計結果である。

表 3.177 は (a)～(h) の各取り組みに対して「1. おこなっていない」と「2. おこなっている」の回答別に大学の実数をまとめたものである。表中の「国立」「公立」「私立」「全体」の見出しに添えられている数値は今回の調査対象大学数であり、国立 76 校、公立 80 校、私立 459 校、合計 615 校であることを示している。したがって、例えば (a) の取り組みを実施している大学は、国立で 76 校中 69 校、公立で 80 校中 71 校、私立で 459 校中 408 校、全体で 615 校中 548 校であることを示している。

表 3.178 は、取り組みの実施状況を設置形態間で比較するために、各取り組みに対して「1. おこなっていない」または「2. おこなっている」の回答を行った大学の設置形態別の割合を示したものである。したがって、例えば (a) の取り組みを実施している大学の割合は、国立で 90.8 %（76 校中 69 校）、公立で 88.8 %（80 校中 71 校）、私立で 88.9 %（459 校中 408 校）であることを示している。

図 3.57 は表 3.178 の「2. おこなっている」の列の値、すなわち、各取り組みに対して「2. おこなっている」の回答を行った大学の設置形態別の割合を折れ線グラフで示したものである。この図を見ると、「(a) 志願者（合格者、入学者等）の属性分析」の実施割合はいずれの設置形態においても約 90 % に達しており、属性分析が比較的に着手しやすく、入試改善に向けた取り組みの基本となっていることが窺える。「(h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討」もすべての設置形態で 80 % を超える高い実施割合を示しており、概ねどの大学でも入試改善については分析・評価に基づいた検討を行っていることが推察される。逆に、「(f) 新しい評価方法の開発（学力検査、小論文、面接、討論、実技等の新規開発）」と「(g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築」はその他の取り組みに比べて実施割合が低く、入試改善のために新規に何かを開発することまでは手が回っていないものと思われる。また、公立大学では他の設置形態に比べて取り組みを実施している大学の割合が低い傾向が見られる。特に上記の新規開発に関する項目では他の設置形態との差が目立っている。例外的に項目「(d) 学力検査以外の課題（小論文、面接、討論、実技等）の内容の検証」においては公立大学が最も割合が高い。

表 3.179 は (a)～(h) の各取り組みに対して「1. おこなっていない」または「2. おこなっている」の回答を行った大学の実数を大学の学部数（学部規模）別にまとめたものである。表中の「1 学部」「2 学部」「3・4 学部」「5 学部以上」の見出しに添えられている数値は、調査対象大学における各学部規模の大学数であり、1 学部だけの大学が 179 校、2 学部の大学が 128 校、3 学部または 4 学部の大学が 158 校、5 学部以上を有する大学が 150 校であることを示している。したがって、例えば (a) の取り組みを実施している大学は、1 学部の大学が 179 校中 150 校、2 学部の大学が 128 校中 118 校、3・4 学部の大学が 158 校中 139 校、5 学部以上の大学が 150 校中 141 校であることを示している。

表 3.180 は、取り組みの実施状況を学部規模間で比較するために、各取り組みに対して「1. おこなっていない」または「2. おこなっている」の回答を行った大学の学部規模別の割合を示したものである。したがって、例えば (a) の取り組みを実施している大学の割合は、1 学部の大学が 83.8 %（179 校中 150 校）、2 学部の大学が 92.2 %（128 校中 118 校）、3・4 学部の大学が 88.0 %（158 校中 139 校）、5 学部以上の大学が 94.0 %（150 校中 141 校）であることを示している。

図 3.58 は表 3.180 の「2. おこなっている」の列の値、すなわち、各取り組みに対して「2. おこなっている」の回答を行った大学の学部規模別の割合を折れ線グラフで示したものである。この図を見ると、全体的な傾向として、5 学部以上の学部規模の大きい大学で取り組みを実施している大学の割合が相対的に高く、1 学部しかない学部規模の小さい大学で取り組みを実施している大学の割合が相対的に低くなっている。例外的に項目「(d) 学力検査以外の課題（小論文、面接、討論、実技等）の内容の検証」においては 1 学部の大学が最も割合が高い。

表 3.177: 入試改善に向けた取り組みの実施状況（設置形態別の大学数）

	1. おこなっていない				2. おこなっている			
	国立	公立	私立	全体	国立	公立	私立	全体
	76	80	459	615	76	80	459	615
(a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析	7	9	51	67	69	71	408	548
(b) 学力検査の難易度，識別性等の評価	21	27	140	188	55	53	319	427
(c) 学力検査の問題の内容の検証	18	28	100	146	58	52	359	469
(d) 学力検査以外の課題 ⁽¹⁾ の内容の検証	24	16	122	162	52	64	337	453
(e) 選抜資料 ⁽²⁾ と入学後成績の関連性に関する追跡調査	22	31	141	194	54	49	318	421
(f) 新しい評価方法の開発 ⁽³⁾	37	55	240	332	39	25	219	283
(g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築	35	45	183	263	41	35	276	352
(h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討	5	14	56	75	71	66	403	540

(1) 小論文，面接，討論，実技等 / (2) 学力検査，小論文，面接，討論，実技，調査書・推薦書等 / (3) 学力検査，小論文，面接，討論，実技等の新規開発

表 3.178: 入試改善に向けた取り組みの実施状況（設置形態別の大学の割合（％））

	1. おこなっていない				2. おこなっている			
	国立	公立	私立	全体	国立	公立	私立	全体
(a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析	9.2	11.3	11.1	10.9	90.8	88.8	88.9	89.1
(b) 学力検査の難易度，識別性等の評価	27.6	33.8	30.5	30.6	72.4	66.3	69.5	69.4
(c) 学力検査の問題の内容の検証	23.7	35.0	21.8	23.7	76.3	65.0	78.2	76.3
(d) 学力検査以外の課題 ⁽¹⁾ の内容の検証	31.6	20.0	26.6	26.3	68.4	80.0	73.4	73.7
(e) 選抜資料 ⁽²⁾ と入学後成績の関連性に関する追跡調査	28.9	38.8	30.7	31.5	71.1	61.3	69.3	68.5
(f) 新しい評価方法の開発 ⁽³⁾	48.7	68.8	52.3	54.0	51.3	31.3	47.7	46.0
(g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築	46.1	56.3	39.9	42.8	53.9	43.8	60.1	57.2
(h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討	6.6	17.5	12.2	12.2	93.4	82.5	87.8	87.8

(1) 小論文，面接，討論，実技等 / (2) 学力検査，小論文，面接，討論，実技，調査書・推薦書等 / (3) 学力検査，小論文，面接，討論，実技等の新規開発

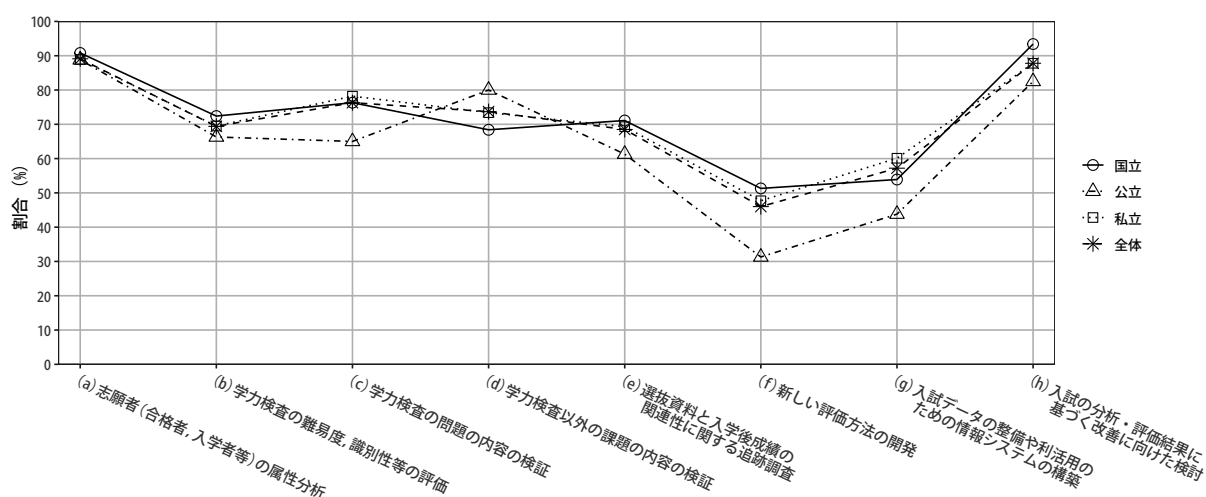


図 3.57: 入試改善に向けた取り組みの実施状況（「2. おこなっている」大学の割合）〔設置形態別〕

表 3.179: 入試改善に向けた取り組みの実施状況（学部規模別の大学数）

	1. おこなっていない				2. おこなっている			
	1 学部	2 学部	3・4 学部	5 学部以上	1 学部	2 学部	3・4 学部	5 学部以上
	179	128	158	150	179	128	158	150
(a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析	29	10	19	9	150	118	139	141
(b) 学力検査の難易度，識別性等の評価	65	45	48	30	114	83	110	120
(c) 学力検査の問題の内容の検証	57	35	34	20	122	93	124	130
(d) 学力検査以外の課題 ⁽¹⁾ の内容の検証	38	38	42	44	141	90	116	106
(e) 選抜資料 ⁽²⁾ と入学後成績の関連性に関する追跡調査	71	40	49	34	108	88	109	116
(f) 新しい評価方法の開発 ⁽³⁾	92	74	91	75	87	54	67	75
(g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築	83	62	68	50	96	66	90	100
(h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討	28	22	16	9	151	106	142	141

(1) 小論文，面接，討論，実技等 / (2) 学力検査，小論文，面接，討論，実技，調査書・推薦書等 / (3) 学力検査，小論文，面接，討論，実技等の新規開発

表 3.180: 入試改善に向けた取り組みの実施状況（学部規模別の大学の割合（%））

	1. おこなっていない				2. おこなっている			
	1 学部	2 学部	3・4 学部	5 学部以上	1 学部	2 学部	3・4 学部	5 学部以上
(a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析	16.2	7.8	12.0	6.0	83.8	92.2	88.0	94.0
(b) 学力検査の難易度，識別性等の評価	36.3	35.2	30.4	20.0	63.7	64.8	69.6	80.0
(c) 学力検査の問題の内容の検証	31.8	27.3	21.5	13.3	68.2	72.7	78.5	86.7
(d) 学力検査以外の課題 ⁽¹⁾ の内容の検証	21.2	29.7	26.6	29.3	78.8	70.3	73.4	70.7
(e) 選抜資料 ⁽²⁾ と入学後成績の関連性に関する追跡調査	39.7	31.3	31.0	22.7	60.3	68.8	69.0	77.3
(f) 新しい評価方法の開発 ⁽³⁾	51.4	57.8	57.6	50.0	48.6	42.2	42.4	50.0
(g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築	46.4	48.4	43.0	33.3	53.6	51.6	57.0	66.7
(h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討	15.6	17.2	10.1	6.0	84.4	82.8	89.9	94.0

(1) 小論文，面接，討論，実技等 / (2) 学力検査，小論文，面接，討論，実技，調査書・推薦書等 / (3) 学力検査，小論文，面接，討論，実技等の新規開発

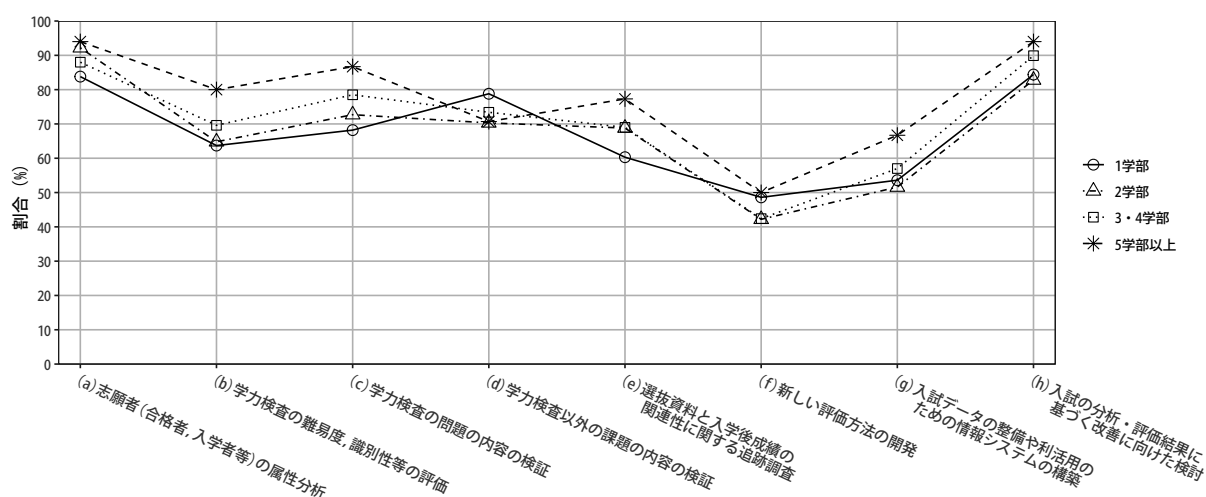


図 3.58: 入試改善に向けた取り組みの実施状況（「2. おこなっている」大学の割合）[学部規模別]

次に、入試改善に向けた取り組みの典型的な事例として挙げた (a)～(h) とは別に、その他に実施している取り組みについて自由記述回答を求めた項目 (i) の結果を示す。表 3.181、表 3.182、表 3.183 は、それぞれ国立大学、公立大学、私立大学の回答をまとめたもので、学部規模の大きい順に記載されている。回答文には誤字と思われる記述が複数あったが、いずれも修正せず、原文のまま掲載している。また、学部系統名が記載されている箇所について、名称から大学が特定される恐れがある場合には、記載されている名称を削除し、削除した箇所に【学部系統名】という表示を挿入した。

表 3.181: 「(i) 入試改善に向けたその他の取り組み」(国立大学)

学部規模	回答
5 +	オンラインで完結するシステム構築
5 +	高等学校との懇談会を設け改善に入試の改善に繋げている。
5 +	追跡調査は実施していますが、「個別の選抜資料と入学後成績の関連性に関する追跡調査」を有意義に行うのは技術的に困難です。
5 +	高等学校との意見交換
5 +	AP の実質化、分散評価システムの開発、追跡調査システムの開発、アドミッション部門報告書の執筆
3・4	高等学校との情報交換会や、高校生及び高校教員への聞き取り調査を実施している。
3・4	・学類を越えた入試問題作成（作問）の共通化（英語、数学） ・総合型選抜、学校推薦型選抜の新規実施及び募集人員の拡大 ・【学部系統名】における専門学科の生徒に対応した総合型選抜募集枠の設定 ・【学部系統名】の夜間主募集人員枠を総合型選抜のみに設定
1	総合型選抜導入についての検討等。

表 3.182: 「(i) 入試改善に向けたその他の取り組み」(公立大学)

学部規模	回答
3・4	IR を積極的に活用し、入学試験の成績、試験区分と入学後の成績の推移の分析などをおして、入学者選抜の在り方を検討している
2	(e) で入学後成績のみならず、PROG テストの非認知的能力得点、国家試験得点、就職状況など課程外活動の状況も含めて、分析している。

表 3.183: 「(i) 入試改善に向けたその他の取り組み」(私立大学)

学部規模	回答
5 +	行っている
3・4	新入試制度の検討
3・4	本学のアドミッションポリシーに沿った入学者選抜の実現に向け、総合型選抜入試の実施、入試科目への国語の導入、面接試験の見直し等順次実施している。また、実施後の検証も行っており、常に入試改善に向けた取組は行っている。
3・4	現在検討中です。
3・4	一般選抜については、外部の第三者にも評価をしてもらっている。

表 3.7 は次ページに続く

表 3.7 前ページからの続き

学部規模	回答
3・4	2025 年度入試に向けた議論
3・4	高校との情報交換
3・4	入試種別と入学後の成績の関連性に関する追跡調査
2	IR より検証が開始されている
2	今年度から入試問題作成時の内容点検体制を見直し、出題ミスへの対策を強化している。また、追試験については昨年度の実施を踏まえ在り方を見直し、引き続き受験生の受験機会の確保に努めている。
2	委員会組織による入試制度の検討と実施、改善。
2	2022 年度からの学習指導用要領及び高校現場での教育活動の変化に応じた入試デザインの検討
1	入試に関わった教職員、新入生を対象としたアンケート調査、執行部が参加する入試反省会
1	選抜資料と入学後成績の関連性に関する追跡調査をもとにした、評価方法の見直し
1	入試委員会での総括
1	各入試区分ごとの卒業、退学率、国家試験合格率等、各データをクロス分析している。
1	今までは一般選抜は大学入学共通テスト利用のみで合ったが、個別試験の一般選抜を行うようにした。
1	総合型選抜の実施回数を増やした

3.7.2 入試改善に向けた取り組みの必要性

QF-2. 次の項目の必要性について、貴大学の考えとして当てはまるものを選択してください。

1. 必要性はない 2. あまり必要性はない 3. ある程度必要性がある 4. 高い必要性がある

- (a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析
- (b) 学力検査の難易度，識別性等の評価
- (c) 学力検査の問題の内容の検証
- (d) 学力検査以外の課題（小論文，面接，討論，実技等）の内容の検証
- (e) 選抜資料（学力検査，小論文，面接，討論，実技，調査書・推薦書等）と入学後成績の関連性に関する追跡調査
- (f) 新しい評価方法の開発（学力検査，小論文，面接，討論，実技等の新規開発）
- (g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築
- (h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討

質問項目 QF-2 では、入試改善に向けた取り組みの典型的な事例として挙げた項目 (a)～(h) のそれぞれに対して、その必要性の程度について「1. 必要性はない」「2. あまり必要性はない」「3. ある程度必要性がある」「4. 高い必要性がある」の4段階評定で回答を求めた。

表 3.184～表 3.191 は、それぞれ項目 (a)～(h) について、各評定段階を選択した大学数とその割合および評定の平均値と標準偏差を設置形態別に示したものである。表の最も左の列にある「国立」「公立」「私立」「全体」の見出しに添えられている数値は調査対象大学数であり、国立 76 校、公立 80 校、私立 459 校、合計 615 校であることを示している。したがって、例えば (a) の取り組みの必要性について、評定段階の「3. ある程度必要性がある」を選択した割合は国立大学で 30.3 % (76 校中 23 校)、公立大学で 27.5 % (80 校中 22 校)、私立大学で 30.7 % (459 校中 141 校)、全体で 30.2 % (615 校中 186 校) であることを示している。

表 3.192～表 3.199 は、それぞれ項目 (a)～(h) について、各評定段階を選択した大学数とその割合および評定の平均値と標準偏差を学部規模別別に示したものである。表の最も左の列にある「1 学部」「2 学部」「3・4 学部」「5 学部以上」の見出しに添えられている数値は調査対象大学数であり、1 学部の大学が 179 校、2 学部の大学が 128 校、3・4 学部の大学が 158 校、5 学部以上の大学が 150 校であることを示している。したがって、例えば (a) の取り組みの必要性について、評定段階の「3. ある程度必要性がある」を選択した割合は 1 学部の大学で 35.2 % (179 校中 63 校)、2 学部の大学で 34.4 % (128 校中 44 校)、3・4 学部の大学で 30.4 % (158 校中 48 校)、5 学部以上の大学で 20.7 % (150 校中 31 校) であることを示している。

図 3.59 は表 3.184～表 3.191 に示した必要性の評定平均値を設置形態別の折れ線グラフで示したものである。各設置形態の評定平均値はどの項目においても概ね同程度であり、設置形態間で必要性の意識の差はほとんどないものと思われる。図 3.60 は表 3.192～表 3.199 に示した必要性の評定平均値を学部規模別の折れ線グラフで示したものである。学部規模の大きい大学において相対的に評定平均値が高く、学部規模の小さい大学になるにしたがって評定平均値が相対的に低くなる傾向が見られる。

表 3.184: 入試改善に向けた取り組みの必要性（設置形態別）
 (a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	76	0	0	23	53	0	0	30.3	69.7	3.70	0.46
公立	80	2	0	22	56	2.5	0	27.5	70.0	3.65	0.61
私立	459	1	7	141	310	0.2	1.5	30.7	67.5	3.66	0.52
全体	615	3	7	186	419	0.5	1.1	30.2	68.1	3.66	0.53

表 3.185: 入試改善に向けた取り組みの必要性（設置形態別）
 (b) 学力検査の難易度，識別性等の評価

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	76	2	3	31	40	2.6	3.9	40.8	52.6	3.43	0.69
公立	80	4	6	32	38	5.0	7.5	40.0	47.5	3.30	0.81
私立	459	2	24	245	188	0.4	5.2	53.4	41.0	3.35	0.60
全体	615	8	33	308	266	1.3	5.4	50.1	43.3	3.35	0.64

表 3.186: 入試改善に向けた取り組みの必要性（設置形態別）
 (c) 学力検査の問題の内容の検証

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	76	3	2	30	41	3.9	2.6	39.5	53.9	3.43	0.73
公立	80	5	8	28	39	6.3	10.0	35.0	48.8	3.26	0.88
私立	459	3	20	243	193	0.7	4.4	52.9	42.0	3.36	0.60
全体	615	11	30	301	273	1.8	4.9	48.9	44.4	3.36	0.66

表 3.187: 入試改善に向けた取り組みの必要性（設置形態別）
 (d) 学力検査以外の課題（小論文，面接，討論，実技等）の内容の検証

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	76	1	2	35	38	1.3	2.6	46.1	50.0	3.45	0.62
公立	80	2	5	32	41	2.5	6.3	40.0	51.3	3.40	0.72
私立	459	1	25	249	184	0.2	5.4	54.2	40.1	3.34	0.59
全体	615	4	32	316	263	0.7	5.2	51.4	42.8	3.36	0.61

表 3.188: 入試改善に向けた取り組みの必要性（設置形態別）
 (e) 選抜資料（学力検査，小論文，面接，討論，実技，調査書・推薦書等）
 と入学後成績の関連性に関する追跡調査

		度数				割合 (%)				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	76	1	3	29	43	1.3	3.9	38.2	56.6	3.50	0.64
公立	80	1	8	31	40	1.3	10.0	38.8	50.0	3.38	0.71
私立	459	0	14	198	247	0	3.1	43.1	53.8	3.51	0.56
全体	615	2	25	258	330	0.3	4.1	42.0	53.7	3.49	0.59

表 3.189: 入試改善に向けた取り組みの必要性（設置形態別）
 (f) 新しい評価方法の開発（学力検査，小論文，面接，討論，実技等の新規開発）

		度数				割合 (%)				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	76	0	17	36	23	0	22.4	47.4	30.3	3.08	0.72
公立	80	3	13	45	19	3.8	16.3	56.3	23.8	3.00	0.74
私立	459	4	65	252	138	0.9	14.2	54.9	30.1	3.14	0.68
全体	615	7	95	333	180	1.1	15.4	54.1	29.3	3.12	0.69

表 3.190: 入試改善に向けた取り組みの必要性（設置形態別）
 (g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築

		度数				割合 (%)				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	76	1	7	35	33	1.3	9.2	46.1	43.4	3.32	0.69
公立	80	0	5	44	31	0	6.3	55.0	38.8	3.33	0.59
私立	459	2	26	207	224	0.4	5.7	45.1	48.8	3.42	0.62
全体	615	3	38	286	288	0.5	6.2	46.5	46.8	3.40	0.63

表 3.191: 入試改善に向けた取り組みの必要性（設置形態別）
 (h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討

		度数				割合 (%)				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
国立	76	0	1	23	52	0	1.3	30.3	68.4	3.67	0.50
公立	80	1	2	32	45	1.3	2.5	40.0	56.3	3.51	0.61
私立	459	0	5	152	302	0	1.1	33.1	65.8	3.65	0.50
全体	615	1	8	207	399	0.2	1.3	33.7	64.9	3.63	0.52

表 3.192: 入試改善に向けた取り組みの必要性（学部規模別）

(a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	179	1	3	63	112	0.6	1.7	35.2	62.6	3.60	0.55
2 学部	128	1	3	44	80	0.8	2.3	34.4	62.5	3.59	0.58
3・4 学部	158	1	1	48	108	0.6	0.6	30.4	68.4	3.66	0.52
5 学部以上	150	0	0	31	119	0	0	20.7	79.3	3.79	0.40

表 3.193: 入試改善に向けた取り組みの必要性（学部規模別）

(b) 学力検査の難易度，識別性等の評価

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	179	7	11	101	60	3.9	6.1	56.4	33.5	3.20	0.72
2 学部	128	1	9	68	50	0.8	7.0	53.1	39.1	3.30	0.63
3・4 学部	158	0	11	75	72	0	7.0	47.5	45.6	3.39	0.61
5 学部以上	150	0	2	64	84	0	1.3	42.7	56.0	3.55	0.52

表 3.194: 入試改善に向けた取り組みの必要性（学部規模別）

(c) 学力検査の問題の内容の検証

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	179	8	15	95	61	4.5	8.4	53.1	34.1	3.17	0.76
2 学部	128	2	7	70	49	1.6	5.5	54.7	38.3	3.30	0.64
3・4 学部	158	1	7	79	71	0.6	4.4	50.0	44.9	3.39	0.60
5 学部以上	150	0	1	57	92	0	0.7	38.0	61.3	3.61	0.50

表 3.195: 入試改善に向けた取り組みの必要性（学部規模別）

(d) 学力検査以外の課題（小論文，面接，討論，実技等）の内容の検証

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	179	2	13	95	69	1.1	7.3	53.1	38.5	3.29	0.65
2 学部	128	1	6	71	50	0.8	4.7	55.5	39.1	3.33	0.60
3・4 学部	158	1	8	81	68	0.6	5.1	51.3	43.0	3.37	0.61
5 学部以上	150	0	5	69	76	0	3.3	46.0	50.7	3.47	0.56

表 3.196: 入試改善に向けた取り組みの必要性（学部規模別）
 (e) 選抜資料（学力検査，小論文，面接，討論，実技，調査書・推薦書等）
 と入学後成績の関連性に関する追跡調査

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	179	0	5	82	92	0	2.8	45.8	51.4	3.49	0.55
2 学部	128	1	10	54	63	0.8	7.8	42.2	49.2	3.40	0.67
3・4 学部	158	0	7	67	84	0	4.4	42.4	53.2	3.49	0.58
5 学部以上	150	1	3	55	91	0.7	2.0	36.7	60.7	3.57	0.57

表 3.197: 入試改善に向けた取り組みの必要性（学部規模別）
 (f) 新しい評価方法の開発（学力検査，小論文，面接，討論，実技等の新規開発）

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	179	4	28	103	44	2.2	15.6	57.5	24.6	3.04	0.70
2 学部	128	3	20	69	36	2.3	15.6	53.9	28.1	3.08	0.72
3・4 学部	158	0	31	78	49	0	19.6	49.4	31.0	3.11	0.70
5 学部以上	150	0	16	83	51	0	10.7	55.3	34.0	3.23	0.63

表 3.198: 入試改善に向けた取り組みの必要性（学部規模別）
 (g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	179	2	14	85	78	1.1	7.8	47.5	43.6	3.34	0.67
2 学部	128	0	12	70	46	0	9.4	54.7	35.9	3.27	0.62
3・4 学部	158	1	8	75	74	0.6	5.1	47.5	46.8	3.41	0.62
5 学部以上	150	0	4	56	90	0	2.7	37.3	60.0	3.57	0.55

表 3.199: 入試改善に向けた取り組みの必要性（学部規模別）
 (h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討

		度数				割合（％）				平均	標準偏差
		1	2	3	4	1	2	3	4		
1 学部	179	0	1	69	109	0	0.6	38.5	60.9	3.60	0.50
2 学部	128	1	3	47	77	0.8	2.3	36.7	60.2	3.56	0.58
3・4 学部	158	0	3	52	103	0	1.9	32.9	65.2	3.63	0.52
5 学部以上	150	0	1	39	110	0	0.7	26.0	73.3	3.73	0.46

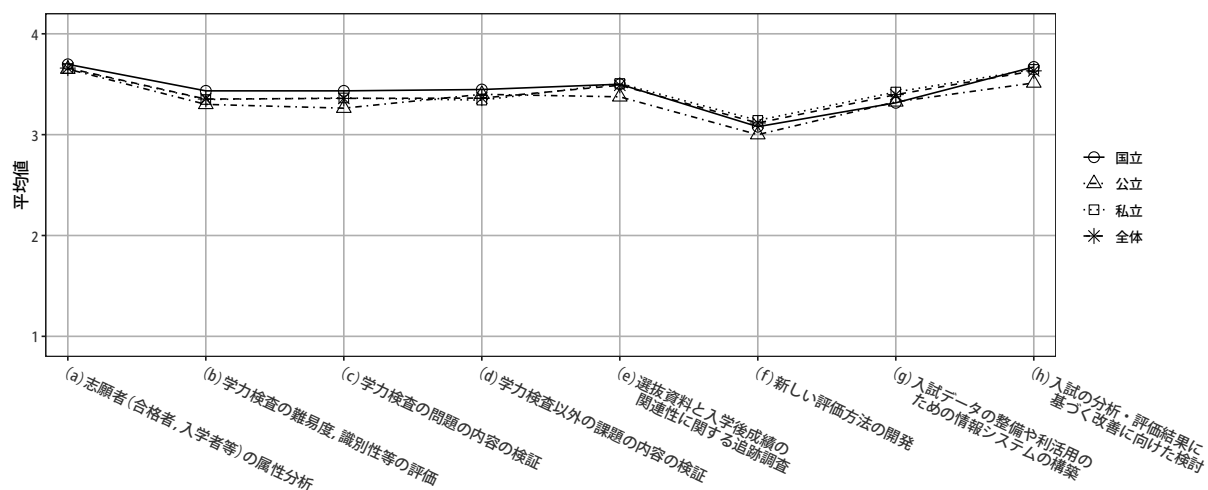


図 3.59: 入試改善に向けた取り組みの必要性 (平均値) [設置形態別]

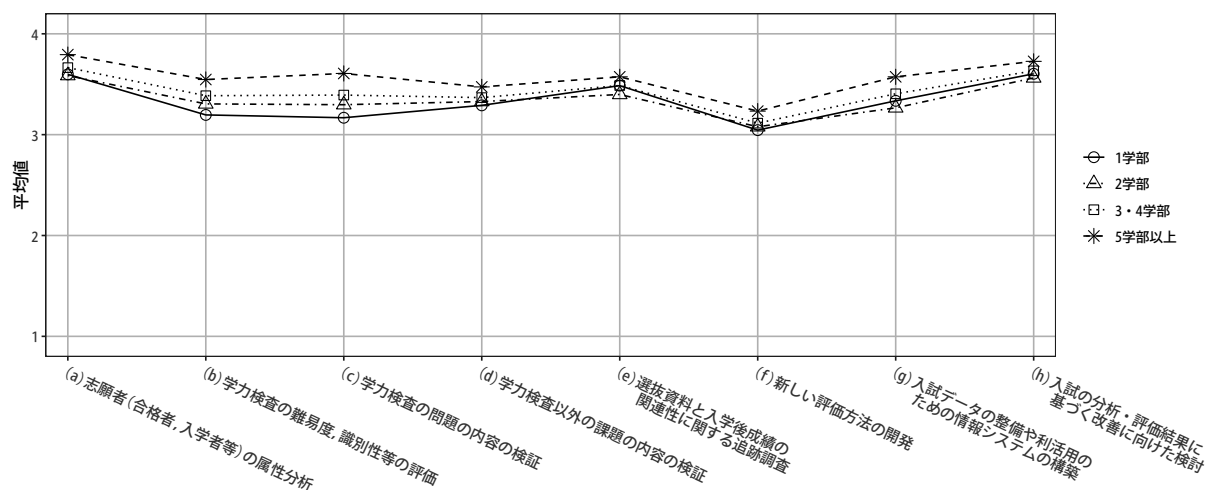


図 3.60: 入試改善に向けた取り組みの必要性 (平均値) [学部規模別]

3.7.3 入試改善に向けた取り組みの実施状況別にみた必要性の意識

本節では入試改善に向けた取り組みについて、実施状況と必要性の意識の関係を概観する。ここでは調査対象大学を設置形態別や学部規模別に分けず、入試改善に向けた取り組みを実施している大学と実施していない大学にグループ分けする。実施状況（「1. おこなっていない」と「2. おこなっている」の大学数）は各取り組みの項目(a)～(h)ごとに異なるため、(a)～(h)でグループ分けされる大学数は異なる。表3.200～表3.207は、それぞれ項目(a)～(h)について、取り組みの実施状況別に必要性の評定平均値と標準偏差を示したものである。これらの表を見ると、どの項目においても、取り組みを実施していない大学より実施している大学の方が必要性の評定平均値が高いことが分かる。

表 3.200: 入試改善に向けた取り組みの実施状況別の必要性
(a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析

		QF-1（実施状況）	
		1. おこなっていない 67	2. おこなっている 548
QF-2（必要性）	平均	3.10	3.73
	標準偏差	0.72	0.45

表 3.201: 入試改善に向けた取り組みの実施状況別の必要性
(b) 学力検査の難易度，識別性等の評価

		QF-1（実施状況）	
		1. おこなっていない 188	2. おこなっている 427
QF-2（必要性）	平均	2.95	3.53
	標準偏差	0.71	0.52

表 3.202: 入試改善に向けた取り組みの実施状況別の必要性
(c) 学力検査の問題の内容の検証

		QF-1（実施状況）	
		1. おこなっていない 146	2. おこなっている 469
QF-2（必要性）	平均	2.89	3.51
	標準偏差	0.82	0.52

表 3.203: 入試改善に向けた取り組みの実施状況別の必要性
(d) 学力検査以外の課題の内容の検証

		QF-1（実施状況）	
		1. おこなっていない	2. おこなっている
		162	453
QF-2（必要性）	平均	3.02	3.48
	標準偏差	0.67	0.54

表 3.204: 入試改善に向けた取り組みの実施状況別の必要性
(e) 選抜資料と入学後成績の関連性に関する追跡調査

		QF-1（実施状況）	
		1. おこなっていない	2. おこなっている
		194	421
QF-2（必要性）	平均	3.20	3.62
	標準偏差	0.65	0.51

表 3.205: 入試改善に向けた取り組みの実施状況別の必要性
(f) 新しい評価方法の開発

		QF-1（実施状況）	
		1. おこなっていない	2. おこなっている
		332	283
QF-2（必要性）	平均	2.88	3.39
	標準偏差	0.69	0.59

表 3.206: 入試改善に向けた取り組みの実施状況別の必要性
(g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築

		QF-1（実施状況）	
		1. おこなっていない	2. おこなっている
		263	352
QF-2（必要性）	平均	3.11	3.61
	標準偏差	0.66	0.50

表 3.207: 入試改善に向けた取り組みの実施状況別の必要性
(h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討

		QF-1（実施状況）	
		1. おこなっていない	2. おこなっている
		75	540
QF-2（必要性）	平均	3.28	3.68
	標準偏差	0.62	0.48

3.8 大学入試に関する意見・課題

桜井裕仁

本節では、セクション G の質問項目の集計結果をまとめる。セクション G は、以下の 1 つの質問項目のみで構成され、回答は自由記述欄に記入するようになっている。ただし、この質問項目に回答するかどうかは任意である。

有効回答の得られた 615 大学中、80 大学から共通テストについての意見、大学入試センターへの要望として共通テストの実施面や各種の日程に関する意見など、具体的な意見が寄せられた。以下では、自由記述欄の記載された内容を、(1) 共通テストに関する文部科学省・大学入試センターからの情報提供について、(2) 共通テストの実施の負担について、(3) 共通テストの実施スケジュールについて、(4) 共通テストの成績提供スケジュールについて、(5) 共通テストの成績提供手数料について、(6) 共通テストの成績提供システムについて、(7) その他、の 7 項目に分類して紹介する。各項目に関する回答は、国立、公立、私立の設置形態順に並べ、また各設置形態の回答は、3.2.1 節で定義した学部数の規模による 4 グループ（1 学部、2 学部、3・4 学部、5 学部以上）の順に並べる。なお、本節で紹介する意見は、誤字脱字等に対する修正は行わず、入力された内容そのままをまとめる。

G. 貴大学の入学者選抜の課題（QC-7, QC-9, QC-10, QD-5, QE-5 以外の課題）、大学入学共通テストについてのご意見、大学入試センターへのご要望、大学入試全般に関わるご意見など、何かありましたら記入してください。（自由記述）

3.8.1 共通テストに関する文部科学省・大学入試センターからの情報提供について

- 入学者選抜において評価すべき学力の 3 要素のうち、原則的には、大学入学共通テストでは知識、技能を評価し、個別に課す学力検査及び面接にて思考力、判断力、表現力、主体性を評価すると位置付けています。記述式と英語民間検定の導入見送りについては、大学、高校にとって大きな混乱を招いたと考えています。大学としては、共通テストをどのように位置付けて、個別に課す試験とどのような関連性で評価を行うのかという点について、早期に高校に周知するために、変更や新規科目の導入の予告については余裕をもって周知いただくとともに、直前の変更をするような事態は避けていただきたいと考えています。[公立, 1 学部]
- 新型コロナウイルスへの対応があるとはいえ、重要事項についての大学入試センターからの説明や連絡が遅く、共通テスト準備に支障が出ています。[公立, 3・4 学部]
- 大学入学共通テストの成績提供日程の通知について、もっと早い時期にお知らせ頂けたらと思います。よろしくお願いいたします。[私立, 1 学部]
- 各種資料など情報提供を早くしていただければと思っています。[私立, 2 学部]
- 成績提供日の公開を早くしていただかないと、全入試の実施日と合格発表日が決められないので、何卒よろしくお願いいたします。[私立, 2 学部]

- 入試日程を4月から新高3となる受験生に向けて、できるだけ早く(3月)に告知するため、6月ではなくできれば成績提供・受領日を年度初めに通知してほしい。[私立, 5学部以上]
- 共通テスト関連資料の早期提供 [私立, 5学部以上]

3.8.2 共通テストの実施の負担について

- 大学入学共通テストについて、問題訂正や補足説明が年々増えているように感じる。試験実施大学の負担となっているので、改善をお願いしたい。[国立, 1学部]
- 令和7年度からはさらに「情報I」が新設されることにより、実施業務がさらに増大することが予想される。[国立, 5学部以上]
- 受験上の配慮を必要とする受験者が年々増えており、特に別室受験の対応になる場合は、実施業務を大きく逼迫させている。[国立, 5学部以上]
- 共通テストの実施要領や監督者要領等の内容が年々増加傾向にある。特に監督者要領は情報量が多すぎて、監督者が目を通すだけでも相当な時間を要し、その内容を十分に理解して監督に臨むことは大きな負担となっている。年々、注意事項を追加する必要は理解しているが、全体を通して内容を整理し、簡潔な要項の作成を試みて欲しい。[国立, 5学部以上]
- 大学共通テストの運営における教職員の負担が増していると考ええる。新型コロナウイルスへの対応もそうだが、年々重度の障がいを持った受験者対応が増えてきていることや、リスニングや科目選択制により、手順が複雑になったと考ええる。[国立, 5学部以上]
- 大学入試センターへの要望(大学入学共通テスト) コロナ禍での大学入学共通テストの実施に伴い、別室での受験者への対応として予備監督者を確保する必要がある。具体的な予備人数を配置基準で定め、実施経費に計上してほしい。[私立, 1学部]
- 重度の配慮者を受入れる際に、ノウハウがなく手話通訳士の手配に時間がかかり、経費についても大学入試センターから支給された金額では足りませんでした。大学入試センターから、重度配慮者を割り当てる際に、手話通訳士の派遣も併せて行ってほしいです。[私立, 2学部]
- 大学入学共通テストの実施のための労力が年々増していく一方のため、利用するメリットが薄くなってきている。[私立, 3・4学部]
- 大学入学共通テストの実施についてです。実施当日、検温を行わずに入構させるリスクを教職員から問われました。実施する側のリスクも高いことから、検温したうえで37.5度以上は追試験にするなどの処置がとれればありがたいです。今年度はワクチンによる発熱もあることから検討いただけると幸いです。[私立, 5学部以上]
- 大学入学共通テストの試験監督者は教員でなければならないという制約をすぐにでもなくして欲しい [私立, 5学部以上]

3.8.3 共通テストの実施スケジュールについて

- 大学入学共通テストの実施時期を、降雪時期をずらした12月中旬～下旬に設定して欲しいです。降雪地域における「雪の影響・負担」は多大なもので、実施を3～4週間ほど早めるだけで係る負担や労力等は大きく軽減されます。[国立, 1学部]
- 2日間のタイムスケジュールがとてもタイトである。[国立, 5学部以上]
- インフルエンザが流行する1月に1回のみではなく、例えば夏休み期間から複数回受験ができる（オンライン等）体制構築が必要だと思います。一斉に集合しての1回勝負では、実施者側も受験側も相当のリスクがあると思います。[公立, 1学部]
- 大学入学共通テスト試験日の時期 [私立, 1学部]
- 私立大学においても、大学入学共通テストの得点を基に、個別試験を課す選抜が実施できることが、「学力の3要素」を適切に測ることが可能になると考える。そのためにも、大学入学共通テストの実施時期や、入試日程の再検討を期待する。[私立, 5学部以上]
- 長期的な課題として、共通テスト実施時期の見直し（年内の一次試験化）を検討いただきたい。[私立, 5学部以上]

3.8.4 共通テストの成績提供スケジュールについて

- 新型コロナウイルス感染症の影響があったことは理解しているが、成績提供のスケジュールが厳しかった。[国立, 1学部]
- 共通テストの受験者数が減少傾向にあることから、大学入試センターからの成績提供日を少しでも早く設定して欲しい。[国立, 5学部以上]
- 大学入試センターが受験者に共通テストの成績を通知してから出願できるような日程設定を行うことが望ましい。[国立, 5学部以上]
- 共通テストの成績提供日をコロナ前の日程に戻してほしい。今後も追試験日が本試験日の2週間後に設定されるとしても、ほとんどの受験者は本試験を受験するのであり追試験対象者数は少ないことから不可能ではないと考える。[公立, 5学部以上]
- 大学入学共通テストの成績提供がもう少し早いと、業務の圧迫を少し軽減できる。[私立, 3・4学部]
- 令和4年度共通テストの成績提供日について、当初2月1日以降との通知（令和2年6月30日付）を受け、本学における共通テスト利用入試の日程を決めましたが、その後何の予告もなく2月7日以降に変更されました（令和3年6月11日付）。これに伴い、既に受験生に公表していた入試日程（共通テスト利用入試の合格発表日）を変更せざるを得ない状況となり、入試ガイドやホームページの訂正などマンパワーや費用面において多大な損失を被ることとなりました。本件について貴センターに異議を唱えましたが、納得のいく回答は得られませんでした。先日令和5年共通テストの成績提供日について、令和4年6月頃に公表との通知がありましたが、次年度の共通テスト利用入試の合格発表日の決定にあたってはこの

タイミングでは遅すぎるため、例年通りの時期を希望します（ただ既に6月を過ぎていたのでできれば今年中にはお知らせいただけましたらありがたいです）。成績提供日がわからなければ、合格発表日をいつにするか決めることができず、来年6月となると受験生への入試日程公表に関し影響が出るものと考えています。[私立, 3・4 学部]

- 大学入学共通テストを利用した入学試験の合否判定スケジュールにおいて、得点データの提供時期を2月5日頃までをお願いしたい。[私立, 5 学部以上]
- <成績提供日について> 本学の共通テスト利用入試の合格発表は、学部別入試の前に行いたいという希望があります。共通テスト実施日は曜日固定ですが、成績提供日は毎年異なるので、スケジュール調整が必要です。1月末から2月1日・2日など、ある程度固定して提供いただけると助かります。また、現行では当該年度の6月に正式な通知がありますが、広報の観点からも、もう少し早めていただきたいです。[私立, 5 学部以上]
- 成績提供時期を以前のように2月初めにしていただきたい。[私立, 5 学部以上]

3.8.5 共通テストの成績提供手数料について

- 大学の財政が苦しい中、成績提供手数料の値上げは大変痛手に感じております。貴センターのご事情もお有りかと存じますが、上げ幅をできるだけ抑えていただければ幸いです。[国立, 5 学部以上]
- 入試セ第70号（令和3年3月29日付け）により通知されました、成績請求手数料の段階的な引き上げについて意見です。国公立大学を取り巻く財政状況は厳しいものとなっており、上記の手数料の引き上げは、本学にとっても厳しいものです。一律の手数料引き上げではなく、例えば私立大学が行うような共通テストの成績のみで合否判定を行う入試方式の成績手数料を上げるといった対応等、入試方式別の収益状況を加味したご検討をしていただきたいです。よろしくお願いします。[公立, 1 学部]
- 莫大な予算を注ぎ、共通テストに移行したにも関わらず変化を感じていない。それにも関わらず、（関係がないのかもしれないが、）各大学に求める成績請求手数料が高くなるというのは納得ができない。大学入試センター内でしっかりプロセスを検証し、結果を各大学や社会に公表する必要があると思います。[公立, 1 学部]
- 共通テスト実施時の業務負担が大きく簡易化を希望する。成績請求の手数料も増額しており、科目等を整理するなどしてセンター自身がコスト削減すべき。[公立, 2 学部]
- 一方的な成績請求手数料値上げについて、未だ説明がないのは納得できません。[公立, 3・4 学部]
- 「大学入学共通テストは大学入試センターと利用大学が共同実施しているもの」が説明会でセンターが毎回最初に言っている説明である。であるならば、結果である成績は利用大学のものでもある筈である。今年度から利用料が1,200円に、来年度からは1,500円に値上げされるが、コストについての説明がない。一方的に値上げすることと、これまでのセンターが説明してきたことの乖離を感じ得ない。[私立, 1 学部]
- 共通テストの成績手数料の値上げ幅が大きく、支出の増加が予想される。[私立, 2 学部]

- 成績提供料手数料が高価。[私立, 5 学部以上]
- 成績提供手数料の値下げ [私立, 5 学部以上]

3.8.6 共通テストの成績提供システムについて

- 提供されるシステムの推奨ブラウザを早く IE から変更してほしい。サービスが切れるブラウザをいつまで使用するのでしょうか。[公立, 1 学部]
- 大学入学共通テストの Web 成績請求システムが使いにくく、処理誤りを誘発しやすいので、改善していただけると助かります。[私立, 2 学部]

3.8.7 その他

- 大学入試センターの経営難の大きな要因となっているリスニングは一科目の中の一領域であるにもかかわらず莫大な経費や労力がかかる割に効果が極めて薄いので見直す時期に来ているのではないか。[国立, 2 学部]
- 一般選抜は、学力の 3 要素のうち「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価することを重視した選抜方法であり、「主体性等」を測る学力検査以外の評価方法が果たしてどこまで必要なのか？に疑問を感じている。大学入学者選抜において、学力の 3 要素を多面的・総合的に評価することに異存はなく、そのため本学では、学校推薦型選抜、総合型選抜の募集人員も拡大し、多様な選抜方法を採用している。つまり、主体性等を多面的・総合的に評価することを重視する選抜方法は、総合型選抜に機能を担わせることで、(選抜方法全体として) 学力の 3 要素を評価することに繋がると考えている。[国立, 3・4 学部]
- 中長期的検討かと存じますが、英語のスピーキングテストの導入については、民間ではなく大学入試センターが主導で検討を進めていただきたいと思います。[国立, 5 学部以上]
- 大学入試センターが持つセンター試験及び共通テストのに関するデータを活用できないか。例えば、過去問題の設問ごとの項目情報などをデータベース管理し、それを効率的に利用できる仕組みなど。[国立, 5 学部以上]
- 一般選抜において多面的総合的評価の導入は、受験者が敬遠する要因となるのではないか [国立, 5 学部以上]
- 匿名化されたデータの提供を求めます。[国立, 5 学部以上]
- 大学入学共通テストのオンライン出願システムの整備を実現いただきたい。併せて、国立大学の出願システムも、各大学別ではなく英国の UCAS のようなシステムが望ましいのではないか。[国立, 5 学部以上]
- 大学入学共通テストを大学入試センター試験の経験を通じて積み上げてきた「良問」のノウハウを最大限に生かしたものにさせていただくことを望みます。例えば、無意味なリード文は極力排除する、「英語(筆記)」で工夫して出題されていた文法や段落整序問題等を復活する、等の工夫を期待します。受験生の立場に立てば、ウェブによる志願受付や電子マネー

等による検定料の支払い等、手続きのDX化を進めていただければ幸いです。また、マークシートを廃止してデジタル端末による回答を導入すれば、自己採点の廃止、マークシート輸送コストの削減等、利点が数多くあります。是非、ご検討ください。なお、この調査に関する意見ですが、答えにくい質問があります。事実に関しては「貴大学…」という問われ方で十分に回答できますが、意見に関しては大学を代表して回答することになってしまうのは荷が重い印象があります。回答者個人の判断で回答してよいように表現を工夫していただくとありがたいので、今後も調査を実施される場合には、是非、ご検討ください。[国立, 5学部以上]

- (大学入試センターへの要望) 膨大な入力に要する照会がしばしばあるが、システム上に一時保存機能がないため、他の業務と並行して対応することが非常に難しい。回答途中でも一時的に中断して再度回答に戻れるようなシステムを利用した照会をぜひご検討いただきたい。[公立, 1学部]
- 共通テストで、現代国語の得点の提供はいつまで続くのか？[公立, 2学部]
- 調査書の電子化は、いつ頃どのような形で実施されるのか？[公立, 2学部]
- 共通テストの追試験会場について、高校からは都道府県単位で実施してほしい旨要望が出ているが、大学側の運営負担も大きいと、受験者数の規模に応じた追試験会場の設定を検討してほしい。[公立, 2学部]
- 近い将来「情報」が共通テストの科目に加わることが想定されるが、実学的（ノーハウ的）な内容の問題が多くなることが懸念される。これは英語の問題の内容においても憂慮される点である。[公立, 3・4学部]
- 主体性評価の明確な基準・指針の公表、良い事例の紹介、講習会の開催等を実施して欲しい。[公立, 3・4学部]
- センター試験の「英語」では、どの科目より、高学力層と低学力層の識別ができていると聞いていたが、共通テストに移行しても、この相関は他の科目より強い関係性がみられるのか、ご教示いただきたい [公立, 3・4学部]
- 入試実施体制の人員不足 [公立, 5学部以上]
- 入試関連の人員不足 [私立, 1学部]
- 大学入試センターには、主体性等を評価する透明性、客観性の高い方法を提案していただきたいです。[私立, 1学部]
- 共通テストは、非常に良問であると考えており、また、採点や成績提供のことを考えると記述式の導入はぜひ見送っていただきたい。[私立, 1学部]
- 大学入学共通テストに関する要望等は毎年大学入試センターに文書にてお送りしているところですが、返答なし。改善も一部では見られるが努力している様子が見えないのが不満。[私立, 1学部]

- 小規模大学において、記述式問題の作成・採点を公平公正に行うには負担が大きい。調査書の評価も含め、文部科学省が望ましいとされる入試のあり方が、各大学の実情と乖離していると感じる。[私立, 1 学部]
- 大学入学共通テストを利用することにしたが、小規模学校のため、実施によるマンパワーが不足している。[私立, 1 学部]
- 英語の外部委託は、公平性を考えると受験生への費用の負担にもつながり、今後も大学入試センターで実施してほしい。[私立, 1 学部]
- 科目試験の他に、分析力や思考力、発想力を問うような試験を試みては。[私立, 1 学部]
- 選抜評価に影響がでるため、理科の選択科目間で平均点の差をできるだけ少なくしてほしい。[私立, 2 学部]
- 大学入学共通テストの入試改革については、最終的に大きな混乱を生む結果となったと感じている。入試改革は受験生をはじめ大学、高校にも多大な影響を与えるので、慎重に進めていただきたい。[私立, 2 学部]
- 大学入学共通テストの実施について、新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度は困難を極めたと存じます。現時点では感染者数及び死亡者数も著しく減少しておりますが、ご調整のほどお願い致します。[私立, 2 学部]
- 本学の課題は、高大連携を踏まえた入試制度の検討と構築。[私立, 2 学部]
- 調査書の電子化及びその提供システムの構築 [私立, 2 学部]
- 英語の民間試験の成績提供システムの構築 [私立, 2 学部]
- 大学入試センター試験の過去問題を、私立大学でも出題、活用できるシステムの構築 [私立, 2 学部]
- 感染対策にも資することとなる大学入学共通テストの CBT 化及び複数回実施の再検討 [私立, 2 学部]
- 総合型選抜、学校推薦型選抜に利用可能な共通テストとしての基礎問題の開発及び実施検討。これには実施時期の早期化及び複数回実施の検討も含む。[私立, 2 学部]
- 現在オールマークシート方式なので、記述式を今後どのように導入してい行くか。[私立, 3・4 学部]
- 短期大学の露出を推進してい欲しい。[私立, 3・4 学部]
- 大学入学共通テストについて
 - 思考力や表現力を評価するには限界があると思います。各大学の個別試験に委ねるしかないのでは。
 - 制度の変更は慎重にお願いいたします。[私立, 3・4 学部]
- 大学入学共通テストにおける CBT 導入を早期に実現いただき、実施大学の負担減につなげていただきたいと思います。[私立, 3・4 学部]

- 回答は短期大学部を含みます。[私立, 3・4 学部]
- 本学における複雑な入試制度からシンプルな入試制度への移行。[私立, 3・4 学部]
- 共通テストの配慮者対応について、全ての配慮事項をセンターで前もって指定していただき、配当後の個別の要望への対応は不可としていただけないものか。親からの要望がどんどんエスカレートする場合は散見されるので。[私立, 3・4 学部]
- Japan e-portfolio の中止決定はずいぶん直前で驚きました。[私立, 3・4 学部]
- 18 歳人口の減少などを背景に、短期大学における入試は全入時代に突入しており、毎年自学の入試の出題形式や難易度、評価方法を検討・分析し、細かく定めても、短期大学の意図する学生が志願・受験し、入学してくれるとは限らないところに課題を感じている。[私立, 5 学部以上]
- 調査結果について、規模別の統計処理を必ず行ってもらいたい。(特に私立大学において、規模により実情があまりにも異なるため、規模別の統計がないと、実態の把握ができないため) [私立, 5 学部以上]
- 共通テストの記述式については、様々な問題により導入が見送りになったが、引き続き記述式導入の可能性について御検討いただきたい。[私立, 5 学部以上]
- 入試担当課では少ない人員で入試を実施・運営しているため、入試担当課の職員の負担が減らない状態が続いていること。[私立, 5 学部以上]
- 英語 4 技能の力が計れる大学入試用の検定試験を国に作って欲しい。その結果は共通テストの英語の代わりやリスニングの代わりとして使えるようにする。[私立, 5 学部以上]
- 総合型選抜・学校推薦型選抜に利用できる統一した試験を作成していただきたい。[私立, 5 学部以上]
- 各大学における個別学力検査の廃止。[私立, 5 学部以上]
- 本調査の一時保存機能をぜひ作っていただきたい。[私立, 5 学部以上]
- 大学入学共通テストの実施スケジュール早期化に関する議論、検討に関する動向は常に気にかけております。[私立, 5 学部以上]
- 入学者選抜の改善は必要だと感じているが、受験生の確保という観点を無視する訳にはいかない部分もあり、本学の入学者選抜について、他大学と大幅に異なる独自性を示すことに不安な部分がある。[私立, 5 学部以上]
- 大学入学共通テストの出題傾向が明らかになったことで、各大学の独自試験との方向性をどのように考えるかが今後の課題となっていくであろう。[私立, 5 学部以上]
- 高校の調査書については、全ての志願者が調査書の発行を受けられるとは限らないため、活用については慎重に検討する必要がある(高卒認定試験合格者や卒後年数が経過し保管年限を過ぎた者など)。[私立, 5 学部以上]

- その他の学力検査以外の評価方法による選抜試験の導入も、公平性を担保した評価方法の確立や、実施体制の構築等が困難であり、慎重な検討が必要である。[私立，5学部以上]
- 学力検査以外の評価方法による選抜試験でも受験者の学力を測りたい面もあり、課題が多い。[私立，5学部以上]
- 英語外部検定試験の導入や記述式の導入など、受験生をはじめとして多くの人に影響があるため、改革などは無理なく実現できることを考えていただきたい。[私立，5学部以上]
- 公正性、公平性が十分議論されないまま英語民間試験、記述式とその段階別評価導入が入試改革の大きな柱として推し進められ、急遽遅すぎる断念というコロナ禍にも相まって受験生の大きな不安、負担を招く結果となった。高校の進路指導への影響も大きく、実施を検討する大学側も振り回される結果となったことを踏まえ、今後は十分検証の上、慎重に検討し、特に入試において重要な「公平、公正」に関わる懸念、環境整備などに配慮した方針を立ててほしい。[私立，5学部以上]

3.9 発表済み論文

本節では、調査の分析結果をまとめた下記の3編の論文を収録する。

- 椎名久美子・荒井清佳・伊藤圭・桜井裕仁・大塚雄作・花井渉 (2023). 令和3年度大学入学者選抜における大学入学共通テストの利用実態および大学からの評価. 大学入試研究ジャーナル, **33**, 67–73.
- 花井渉・荒井清佳・桜井裕仁・椎名久美子・伊藤圭・大塚雄作 (2023). 一般選抜における多面的・総合的評価等の実態と課題—令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査結果の分析—. 大学入試研究ジャーナル, **33**, 299–305.
- 荒井清佳・伊藤圭・椎名久美子・桜井裕仁・大塚雄作・花井渉 (2023). 令和3年度の総合型選抜・学校推薦型選抜における知識・技能, 思考力・判断力・表現力等の評価資料の利用実態. 大学入試研究ジャーナル, **33**, 226–232.

令和 3 年度大学入学選抜における大学入学共通テストの 利用実態および大学からの評価

椎名 久美子, 荒井 清佳, 伊藤 圭, 桜井 裕仁 (大学入試センター), 大塚 雄作 (国際医療福祉大学), 花井 渉 (九州大学)

共通テストの利用実態に関するアンケートの回答データから, 一般選抜における共通テストの利用方法が設置形態 (国公立) でかなり異なることや, 総合型選抜や学校推薦型選抜で共通テストを利用する大学の割合が国立で比較的高いことが示された。また, 試験問題の信頼性や試験結果の情報の提供については共通テストの利点として高く評価されているが, 試験の実施日程や成績の提供日程の適切さは, 難易度や識別力の適切さに比べると低く評価される傾向がみられた。一般選抜での利用における共通テストの問題の難易度に関しては, 設置形態だけでなく, 二段階選抜の有無や, 個別試験の得点と総合して共通テストを用いるかどうかでも捉え方が異なることが示唆された。

キーワード: 大学入学共通テスト, 利用方法, 設置形態, 難易度

1 研究の目的

令和 3 年度大学入学選抜では, 大学入学共通テスト (以降「共通テスト」と略記) が初めて実施されると共に, 入試区分の名称が「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」に変更され, そのそれぞれにおいて, 大学教育を受けるために必要な, 学力の 3 要素 (知識・技能, 思考力・判断力・表現力等, 主体性を持ち, 多様な人々と協働しつつ学習する態度) のバランスのとれた評価が求められるようになった (文部科学省, 2020)。本稿は, 共通テストが各大学の様々な選抜でどのように利用され, 各大学にどう捉えられているかについて, 実態調査で得た回答データの分析から傾向をとらえることを目的とする。

2 調査方法

実態調査は, 令和 3 年度入学選抜に関して, 令和 3 年度共通テストの利用大学を対象に実施した¹⁾。質問項目には, 共通テストの利用に関する質問だけでなく, 一般選抜における多面的・総合的評価等や, 総合型および学校推薦型選抜における知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する質問も含まれているが, 後者は本稿では分析対象としない。

大学入試センターでは各利用大学 (大学, 専門職大学, 短期大学) の入試担当課の連絡先を把握している。研究倫理審査を経て, これらの利用大学の連絡先宛に実態調査への協力依頼状を送付し, 各大学の入学選抜を総合的に把握している方に回答いただくよう手配を依頼した。ただし, 母体が同じ大学と短期大学が共通の連絡先を登録しているケースと, 別個の連絡先を登録しているケースがあるため, 大学と短期大学を厳

密に区別して依頼するのは困難であった。回答を依頼した大学数 (757 大学) が令和 3 年度共通テスト利用大学数 (866 大学) (大学入試センター, 2020) より少ないのは, このためである。

調査の回答は web フォームの入力で収集した。回答は, 複数の選抜区分や選抜日程があるかどうかにかかわらず, 1 大学につき 1 通である。令和 3 年 9 月 22 日に回答を依頼して, 同年 11 月 22 日を回答期限とした。収集したデータを精査して, 明らかな誤りを含むデータや項目間の回答に不整合のあるデータを集計から除外する措置を行った結果, 回答を依頼した 757 大学のうち 615 大学からの回答を有効データとした (有効回答率 81.2%)。表 1 に, 依頼大学と有効回答大学の設置形態 (国立, 公立, 私立) の内訳を示す。依頼大学と有効回答大学で, 設置形態の割合に大きな開きはない。

表 1 依頼大学と有効回答大学の設置形態別内訳

		設置形態			
		国立	公立	私立	計
依頼大学	度数	82	102	573	757
	割合 (%)	10.8	13.5	75.7	100.0
有効回答大学	度数	76	80	459	615
	割合 (%)	12.4	13.0	74.6	100.0

3 分析結果および考察

3.1 共通テストの利用に関する質問項目の構成

表 2 に, 実態調査の質問項目のうち, 共通テスト

表 2 共通テストに関する質問項目の構成

	質問対象となる入試区分			質問内容	回答形式
	一般	総合型	学校推薦型		
項目番号	QB-1			共通テストを課している入試方法	選択（複数選択可）
	QB-2	QB-6	QB-10	共通テストの利用方法	選択（複数選択可）
	QB-3	QB-7	QB-11	共通テストを利用する利点 ・ 6項目について当てはまる程度 ・ その他の利点	4段階評定 自由記述
	QB-4	QB-8	QB-12	共通テストの日程、難易度、識別力等について ・ 5項目について当てはまる程度 ・ 段階表示得点の利用について	4段階評定（1項目のみ5段階） 利用の有無 + 自由記述
	QB-5	QB-9	QB-13	共通テストが選抜に役立ったか	4段階評定

の利用に関するセクションの構成を示す。QB-1 は、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜のそれぞれにおいて、共通テストを課している選抜区分（選抜日程）があるかどうかを問う質問である。QB-2～QB-5 は一般選抜、QB-6～QB-9 は総合型選抜、QB-10～QB-13 は学校推薦型選抜に関する質問である。共通テストの利用方法に関する質問項目は、一般選抜を対象とする質問（QB-2）と総合型および学校推薦型選抜を対象とする質問（QB-6 および QB-10）とで異なる。共通テストを利用する利点についての質問（QB-3, QB-7, QB-11）、共通テストの日程、難易度、識別力等についての質問（QB-4, QB-8, QB-12）、共通テストが選抜に役立ったかについての質問（QB-5, QB-9, QB-13）は、3 つの入試区分に共通する質問項目で構成される。

3.2 共通テストの利用大学数と利用方法

QB-1 は、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜に関して、共通テストを課している選抜区分（選抜日程）の有無を尋ねる質問項目である。複数の学部や複数の選抜日程がある場合は、1 つでも共通テストを課していれば、「課している」と回答する。

調査対象の大学では、少なくとも一般選抜では共通テストを利用している。よって、一般選抜で共通テストを課している大学数は、表 1 の有効回答大学数と一致する。表 3 に、総合型／学校推薦型選抜の実施大学数、共通テストを課している大学数、共通テストの利用率を、設置形態別に示す。

表 3 総合型／学校推薦型選抜において共通テストを課している大学数と利用率（設置形態別）

		設置形態		
		国立	公立	私立
総合型	実施大学数	58	38	425
	共通利用大学数	39	8	11
	利用率(%)	67.2	21.1	2.6
学校推薦型	実施大学数	72	79	458
	共通利用大学数	56	31	8
	利用率(%)	77.8	39.2	1.7

一般選抜に比べて、総合型選抜や学校推薦型選抜で共通テストを利用している大学の数は少ない。また、共通テストの利用率は、設置形態によって大きく異なる。共通テストの利用率が高いのは、総合型選抜でも学校推薦型選抜でも国立である。また、国立と公立に共通する傾向として、総合型選抜よりも学校推薦型選抜で、共通テストの利用率が高い。

QB-2 は、一般選抜における共通テストの利用方法に関する質問項目で、「1. 共通テストの得点のみで合否判定を行う」「2. 共通テストの得点をもとに、個別試験の受験者を決定する（二段階選抜）」「3. 共通テストと個別試験の得点を総合して合否判定を行う」「4. その他」のうち該当するものをすべて選択する。表 4 に、QB-2 の 1～4 の選択枝を選択した大学数と選択率を設置形態別に示す。

表4 一般選抜における共通テストの利用方法

		国立 (76大学)	公立 (80大学)	私立 (459大学)
1. 共テの 得点のみ	度数	3	16	373
	選択率 (%)	3.9	20.0	81.3
2. 二段階 選抜	度数	35	13	15
	選択率 (%)	46.1	16.3	3.3
3. 共テと 個別試験の 得点を総合	度数	71	72	154
	選択率 (%)	93.4	90.0	33.6
4. その他	度数	5	1	67
	選択率 (%)	6.6	1.3	14.6

一般選抜における共通テストの利用方法は、大学の設置形態でかなり異なっている。「共通テストの得点のみで合否判定を行う」の選択率は、私立では81.3%だが、国立では3.9%、公立では20.0%である。「共通テストと個別試験の得点を総合して合否判定を行う」の選択率は、国立と公立では約90%だが、私立では33.6%である。「その他」の利用方法としては、共通テストの得点と調査書を総合して判定する、共通テストの得点と大学独自の試験の得点のどちらかが合格基準を満たせば合格とする、共通テストの外国語の得点を英語の資格・検定試験の換算点を比較して高得点のほうを用いる、などの記述（自由記述）がみられる。

QB-6は総合型選抜、QB-10は学校推薦型選抜における共通テストの利用方法に関する質問項目で、選択枝は共通している。「1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う」「2. 共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする」「3. 共通テストの受験は任意とする」「4. その他」のうち該当するものをすべて選択する。

表5に、QB-6およびQB-10の1~4の選択枝を選択した大学数と選択率を設置形態別に示す。共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う大学の割合は、国立と公立の学校推薦型選抜で非常に高い。共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする大学の割合は、国立の総合型選抜では50%を超えている。総合型選抜や学校推薦型選抜での「4. その他」の利用方法としては、合否判定には利用せず、入学前の学修や入学後の指導の参考にする、などの記述

（自由記述）がみられる。

表5 総合型／学校推薦型選抜における共通テストの利用方法

(a) 総合型選抜

		国立 (39大学)	公立 (8大学)	私立 (11大学)
1. 共テの得点 と他の選抜資 料で総合的	度数	27	3	5
	選択率 (%)	69.2	37.5	45.5
2. 共テで一定 以上得点を合 格の要件	度数	22	2	2
	選択率 (%)	56.4	25.0	18.2
3. 共テの受 験は任意	度数	7	0	3
	選択率 (%)	17.9	0.0	27.3
4. その他	度数	5	4	1
	選択率 (%)	12.8	50.0	9.1

(b) 学校推薦型選抜

		国立 (56大学)	公立 (31大学)	私立 (8大学)
1. 共テの得点 と他の選抜資 料で総合的	度数	53	25	1
	選択率 (%)	94.6	80.6	12.5
2. 共テで一定 以上得点を合 格の要件	度数	18	7	1
	選択率 (%)	32.1	22.6	12.5
3. 共テの受 験は任意	度数	4	1	3
	選択率 (%)	7.1	3.2	37.5
4. その他	度数	4	7	3
	選択率 (%)	7.1	22.6	37.5

3.3 共通テストを利用する利点

QB-3, QB-7, QB-11はそれぞれ、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜で共通テストを利用する利点について、当てはまる程度を4段階（「1. 当てはまらない」「2. あまり当てはまらない」「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」）で回答する。図1に、

(a)～(f)の各項目の4段階の評定を間隔尺度とみなして設置形態別に算出した平均値のプロットを示す。括弧内の数字は、それぞれの選抜で共通テストを利用している選抜があると回答した大学数である。

一般選抜では、国立と公立の回答傾向が類似しており、6項目の中では「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果が提供される」が利点とみなされる傾向だが、「(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい」はそれほど利点とみなされていない。私立では、「(a) 試験問題が信頼できる」「(b) 各受験生が居住地で受験できる」「(e) 選抜に必要な試験結果が提供される」が利点とみなされている。「(c) 試験科目数が多い」や「(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる」は、私立より国公立で利点とみなされる傾向だが、共通テストと個別試験の得点を総合して合否判定を行う大学が国公立で多いこと（表4）を考え合わせると、共通テストと個別試験を柔軟に組み合わせる利用できることが国公立にとってメリットになっていると推察される。「(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい」は、国公立より私立で利点とみなされる傾向である。私立では共通テストのみで合否判定を行う大学が多いこと（表4）から、私立にとっては、他に試験問題を用意せずに選抜を行えるのが国公立よりも利点になっていると思われる。

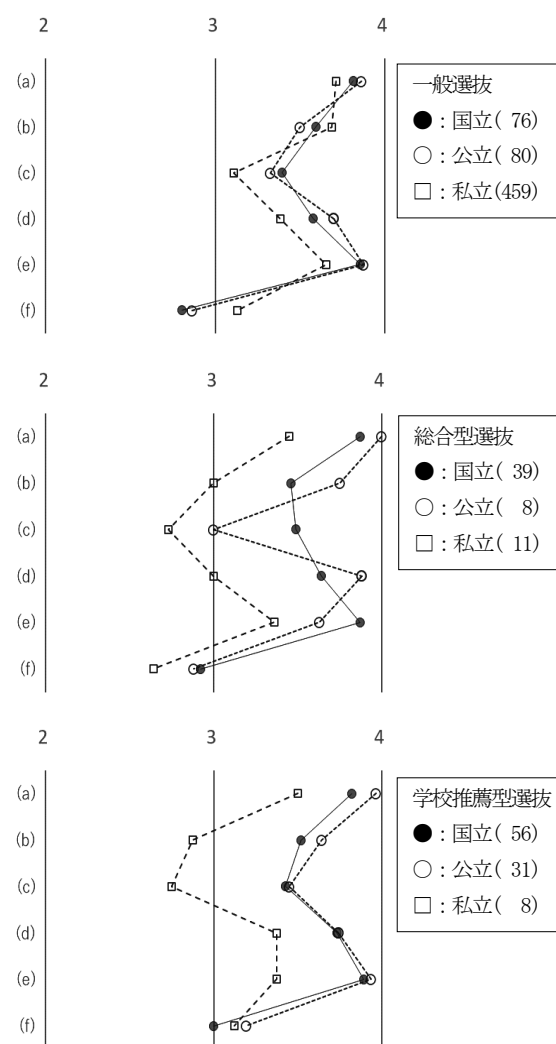
総合型選抜での国立、学校推薦型選抜での国公立に関しては、「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果が提供される」が利点とみなされるが、「(f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい」がそれほど利点とみなされていない点は、一般選抜での国公立の傾向と類似している。

総合型選抜での国立では、6項目の相対的な順位が一般選抜での国公立とはやや異なっており、「(b) 各受験生が居住地で受験できる」「(c) 試験科目数が多い」「(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる」が同じくらい利点とみなされる傾向である。

学校推薦型選抜での国公立では、「(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる」が、「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果が提供される」に次いで利点とみなされる傾向だが、「(c) 試験科目数が多い」は「(d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる」ほどは利点とみなされていない。学校推薦型選抜での国公立では、共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う割合が非常に高いことから（表5(b)）、試験科目数の多さよりも、共通テストの試験科目を他の選抜資料と組み合わせる際の自由度が高いことが利点になっていると推察される。

る。

総合型選抜での公立と私立、学校推薦型選抜での私立では、「(c) 試験科目数が多い」は利点とみなされない傾向が強い。また、総合型選抜と学校推薦型での私立では、「(b) 各受験生が居住地で受験できる」の平均値が、一般選抜の私立を大きく下回っている。ただし、回答数が少ないので、本調査の範囲では参考にとどめる。



- (a) 試験問題が信頼できる（内容、出題範囲、難易度等）
 (b) 各受験生が居住地で受験できる
 (c) 試験科目数が多い
 (d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる
 (e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される
 (f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい

図1 共通テストを利用する利点（設置形態別）

3.4 共通テストの日程、難易度、識別力等

3.4.1 日程、難易度、識別力についての評価

QB-4, QB-8, QB-12 はそれぞれ、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜に関して、共通テストの日程、難易度、識別力等の評価を求める質問項目である。質問項目(a)～(e)のうち(c)以外の4項目は、適切かどうか当てはまる程度を4段階（「1. 当てはまらない」「2. あまり当てはまらない」「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」）で回答する。(c)は「自大学の受験生にとっての試験問題の難易度」についての質問項目で、この項目のみ5段階（「1. 易しい」「2. やや易しい」「3. どちらともいえない」「4. やや難しい」「5. 難しい」）で回答する。図2に、(a)(b)(d)(e)の質問項目と、各項目の4段階の評価を間隔尺度とみなして設置形態別に算出した平均値のプロットを示す。括弧内の数字は、それぞれの選抜で共通テストを利用している選抜があると回答した大学数である。

一般選抜に関しては、それぞれの設置形態で4項目のうち最も平均値が高いものでも、共通テストを利用する利点(QB-3)として評価の高い「(a) 試験問題が信頼できる」や「(e) 選抜に必要な試験結果が提供される」（図1）を下回る。

一般選抜での国立では、「(a) 試験の実施日程が適切である」や「(b) 成績の提供日程が適切である」の評価が、「(d) 自大学にとっての試験問題の難易度が適切である」や「(e) 試験問題の識別力が適切である」より相対的に低い傾向である。この傾向は、総合型選抜と学校推薦型選抜での国立では、さらに顕著であり、「(a) 試験の実施日程が適切である」や「(b) 成績の提供日程が適切である」の評価は、「(d) 自大学にとっての試験問題の難易度が適切である」や「(e) 試験問題の識別力が適切である」の評価をかなり下回る。国立の総合型選抜や学校推薦型選抜で共通テストを利用する際には、一般選抜にも増して日程の問題があることが示唆されている。総合型選抜と学校推薦型選抜での私立の回答数は少ないので参考値ではあるが、「(b) 成績の提供日程が適切である」の評価は低い。一般選抜以外で共通テストを利用する際に、試験の実施日程や成績の提供日程の問題が大きいことがうかがえる。

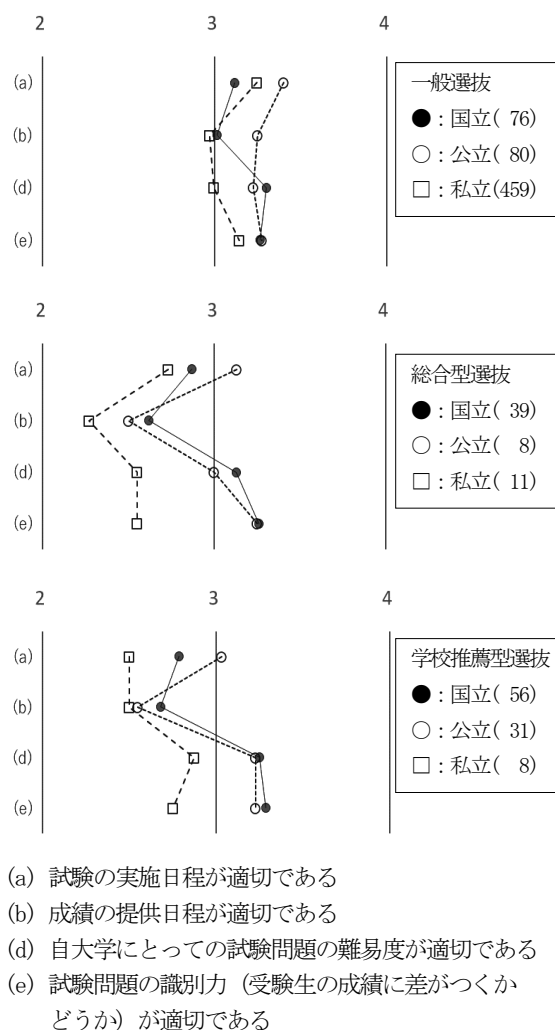


図2 共通テストに関して当てはまる程度
(設置形態別)

3.4.2 一般選抜における試験問題の難易度の捉え方と共通テストの利用方法および設置形態

自大学の受験生にとっての試験問題の難易度の捉え方は、設置形態だけでなく、共通テストの利用方法によっても異なる可能性がある。ここでは、国立、公立、私立共に回答数が多く得られた一般選抜での難易度の捉え方に着目する。図3に、「(c) 自大学の受験生にとっての試験問題の難易度」の評価（5段階）の平均値を、共通テストの3種類の利用方法（QB-2）それぞれが該当するかどうか（該当／非該当）と設置形態の組合せ別に算出してプロットしたグラフを示す。

図3(a)の「共通テストの得点のみで合否判定」という方法については、該当する大学と該当しない大学

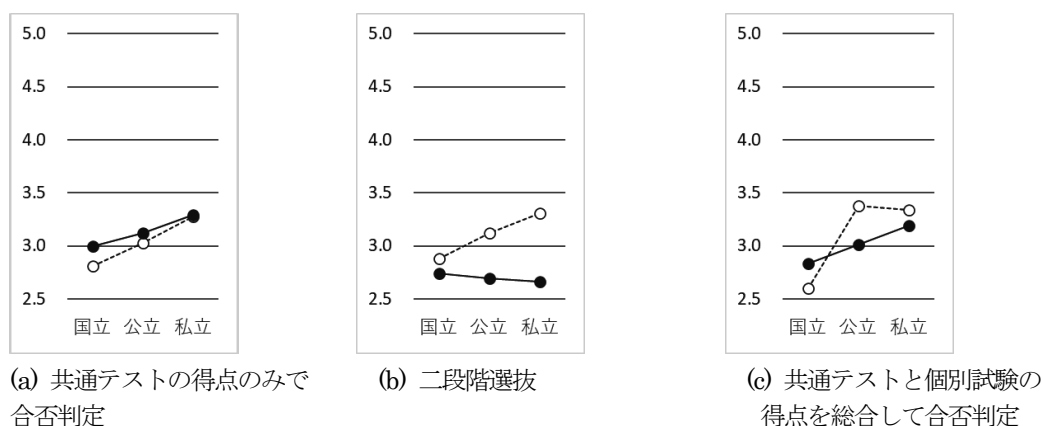


図3 自大学の受験生にとっての試験問題の難易度 (QB-4(c)) の平均値プロット
(共通テストの利用方法 (●: 該当, ○: 非該当) と設置形態 (横軸) の組合せ別)

の平均値の違いはほとんどみられず、設置形態による平均値の違いが顕著である。難しいと評定した順に、私立、公立、国立となっている。

図3(b)の「二段階選抜」については、公立と私立において、該当する大学の平均値が該当しない大学の平均値を下回る傾向が顕著である。二段階選抜で共通テストを用いる大学のほうが試験問題を易しいと評価する傾向は、共通テストで高得点を取るような志願者が集中して高倍率になり二段階選抜が必要になることを反映していると考えられる。

図3(c)の「共通テストと個別試験の得点を総合して合否判定」については、該当する大学と該当しない大学の平均値のプロットが交差しているが有意な交互作用は認められない。設置形態による難易度の評定の違いは図3(a)と一致した傾向であるが、共通テストと個別試験の得点を総合して合否判定に用いる大学が、そうでない大学よりも、易しいと評定する傾向である。

以上から、試験問題の難易度については、設置形態だけでなく、二段階選抜や、個別試験の得点と総合して共通テストを用いるかどうかでも捉え方が異なることが示唆される。

3.5 共通テストが選抜に役立ったか

QB-5 は一般選抜, QB-9 は総合型選抜, QB-13 は学校推薦型選抜に関して、共通テストが選抜に役立ったかを4段階(「1. 役立たなかった」「2. あまり役立たなかった」「3. ある程度役立った」「4. 役立った」)で回答する質問項目である。図4に、4段階の評定を間隔尺度とみなして設置形態別に算出した平均値のプロットを示す。総合型の公立と私立、学校推

薦型の私立は、回答数が少ないが、参考値として示す。

国立では、3.4.1 節で示したように、どの入試区分でも試験の実施日程や成績の提供日程の適切性についての評価は低めであるが、「共通テストが選抜に役立ったか」という点ではどの入試区分でも評価が高い。公立でも、利用大学の多い一般選抜と学校推薦型選抜では高い評価が得られている。

私立では、一般選抜では多くの大学が共通テストを利用しているが、「共通テストが選抜に役立ったか」という点での評価は国公立より低い。3.4 節において、私立のほうが国公立よりも難易度の適切さの評価が低い傾向や、試験問題を難しいと評価する傾向が示されており、難易度の捉え方が、選抜に共通テストが役立ったかどうかの評価に影響している可能性が示唆される。

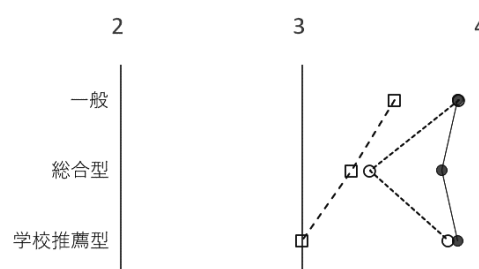


図4 共通テストが選抜に役立ったか
(●: 国立, ○: 公立, □: 私立)

4 今後に向けて

今回の実態調査は令和 3 年度入学者選抜を対象としているが、共通テストに対する大学からの評価は、令和 2 年度以前の大学入試センター試験に対する評価を引き継いだものとみることでもできよう。

試験問題の信頼性や試験結果の情報の提供については、一般選抜では国公立のいずれでも利点として評価される傾向であり、利用大学が比較的多い総合型選抜での国立や学校推薦型での国公立においても同様の傾向である。共通テストにおいて、安定した品質の試験問題や試験結果の確実な提供への大学の期待が極めて大きいことが再確認される結果である。

国立では、一般選抜に関して、試験の実施日程や成績の提供日程の適切さに関する評価が、難易度や識別力の適切さに比べて低い傾向だが、総合型と学校推薦型選抜ではその傾向はさらに顕著である。公立の学校推薦型に関しても、成績の提供日程の適切さの評価は低い。共通テストを様々な選抜に利用しようとする際に、日程が障壁の 1 つであることが示唆される。総合型や学校推薦型選抜に関しては、質の高い試験問題を現行の日程以外で利用できるような選択肢が必要かもしれない。

一般選抜における共通テストの試験問題の難易度については、設置形態や合否判定への用い方によって評価が異なる傾向であり、設置形態でみると、私立、公立、国立の順に、自大学の受験生にとって難しいと評定している。また、一般選抜における難易度の適切さや識別力の評価は、私立では国公立より低い。共通テストが選抜に役立ったかという質問項目に関して、一般選抜の私立での評価が低くなっているが、難易度や識別力に関する評価の低さが関連している可能性がある。一斉実施型の試験の場合、難易度や識別力に関する様々な要望に対応するのは難しい面があるが、テストが選抜に役立つかどうかはテストのユーザーの満足度をみる上で重要な観点の 1 つである。実態調査で得たデータの分析を進めて、今後の共通試験の方向性を検討する材料としたい。

注

- 1) 本実態調査は、大学入試センター理事長裁量経費研究（令和 3～5 年度）「大学で学ぶための基礎的学力の新たな評価測度の開発に関する研究」（代表者：椎名久美子）の一環として実施された。

謝辞

実態調査の回答に御協力くださった大学の皆様に感謝申し上げます。

げます。

参考文献

大学入試センター（2020年12月8日）。「令和3年度大学入学共通テストの志願者数等について」大学入試センター <https://www.dnc.ac.jp/news/albums/abm.php?d=150&f=abm00002988.pdf&n=別添①令和3年度大学入学共通テストの志願者数等について.pdf> (2023年2月13日)。

文部科学省（2020年6月19日）。「令和3年度大学入学者選抜実施要項」文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20200619-mxt_daigakuc02-000010813_4.pdf (2023年2月13日)。

一般選抜における多面的・総合的評価等の実態と課題

——令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査結果の分析——

花井 渉（九州大学），荒井 清佳，桜井 裕仁，椎名 久美子，
伊藤 圭（大学入試センター），大塚 雄作（国際医療福祉大学）

一般選抜における多面的・総合的評価等の実態について、共通テストを利用する大学が評価方法として何を利用しており、そこでどのような課題を抱えているのかを明らかにするために、大学入試センター研究開発部が令和3年度に実施した実態調査で得られたデータを分析した。その結果、国公立大学では「調査書」の利用が顕著に見られる一方で、私立大学では評価基準の設定や公平な評価の困難さから一般選抜において多面的・総合的評価はあまり利用されていないことが明らかになった。

キーワード：多面的・総合的評価，一般選抜，選抜方法，選抜資料，評価

1 本稿の目的

本稿の目的は、一般選抜における多面的・総合的評価について、大学入学共通テスト（以下：共通テスト）を利用している大学がどのような選抜資料を活用しており、どのような課題を抱えているのかについて、大学入試センター研究開発部が行った実態調査（「令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査」）を通じて明らかにすることである。

令和3年度大学入学者選抜では、これまでの入試区分の名称について、一般入試が「一般選抜」、AO入試が「総合型選抜」、そして推薦入試が「学校推薦型選抜」にそれぞれ変更された。この各入試区分では、高等教育段階での学習に必要な学力・スキルとして、「学力の3要素」（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体性等を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度）のバランスのとれた評価が求められる（文部科学省，2020）とともに、各受験生を多面的・総合的に評価することが求められている。

それでは、この多面的・総合的評価は、どのような背景で求められるようになったのか。次節では、多面的・総合的評価をめぐる政策的背景を概観し、本稿において着目する問題の所在について検討する。

2 多面的・総合的評価をめぐる政策的背景及び問題の所在

近年、大学入学者選抜については、それまでの過度な受験競争の緩和や高大接続をより適正に行うといった観点から、学力検査のみによる選抜ではなく、調査書、小論文や面接等を活用し、志願者の能力や適性等を総合的に判定する等、入試方法の多様化や評価尺度

の多元化が推進されてきている（大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議，2021）。

そのような中、2013年（平成25年）10月には、教育再生実行会議「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について（第四次提言）」において、大学入学者選抜を、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定するものに転換するとともに、高等学校教育と大学教育の連携を強力に進めることが提言された。

その後、2014年（平成26年）12月には、中央教育審議会より「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」が提言され、その答申に示された改革の具体案として、高大接続システム改革会議「最終報告」（以下：最終報告）が提言された。この「最終報告」においては、改革の基本的な考え方として、これからの予測不可能な時代において、一人一人の学習者が身に付けるべき力として、前述のとおり、「学力の3要素」を特に重視すべきとされている。また、それを実現するために、個別大学における入学者選抜において、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定される入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するものに改善することが必要であると提言されている（高大接続システム改革会議，2016）。

これまでの提言を踏まえ、各大学の入学者選抜においては、多面的・総合的評価を行うことが求められており、学力検査だけではなく、面接、小論文、調査書、

志願者本人が記載する資料、資格・検定試験の成績や個々の活動歴等を評価する等、多様な選抜方法の開発・導入が進められている。

また、志願者の中には、将来の進路選択や目的意識を明確に持った上で大学に志願する層がいる一方、必ずしもそうでない層もいる中で、多面的・総合的評価を推進することについては、志願者の大学入学後の学びについての理解を深め、志願者と大学との相互選択を促進し、入学後の教育につなげて留年や退学を回避させることが可能となるなど、志願者と大学の双方に積極的な意義があることも指摘されている（大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議，2021）。これは多面的・総合的評価を行うことの1つの意義とされている。すなわち、多面的・総合的評価を通じて、これまで度々指摘されてきた志願者の入学後のミスマッチの課題を解消する1つの方法として期待されているといえる（雨森，2015；竹内，2016）。

この多面的・総合的評価について、大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議（2021）による審議のまとめにおいては、総合型選抜、学校推薦型選抜は、多面的・総合的な評価を、丁寧に時間をかけて行う点において、一層重要な役割を有することが期待されると記されている一方で、一般選抜における多面的・総合的評価については、「大学の規模や設置形態、学部・学科等によって、志願者数や入試業務の制約から、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の評価に比重を置き、学力検査や小論文などが中心の評価方法となることも想定される」と記されている。つまり、この審議のまとめにおいても、一般選抜における多面的・総合的評価について、各大学がどのようにそれを実施し、どのような選抜資料を活用しているのか、どのような課題に直面しているのか等について明らかにされていないといえる。

また、上述した多面的・総合的評価の方法についても、確立された方法はなく、その実施方法は各大学に委ねられているのが現状である。さらに、このような多面的・総合的評価に関する研究の多くは、総合型選抜（旧 AO 入試）における選抜方法や評価に関する研究を中心に行われてきた。しかし、一般選抜における多面的・総合的評価の実態、特に各大学が一般選抜においてどのように対応しているのか、またどのような課題を抱えているのかについては、管見の限り研究の蓄積が少ない状況にあるといえる。

以上の点から、本稿では一般選抜における多面的・総合的評価について、どのような選抜資料を活用して

おり、どのような課題を抱えているのかについて、実態調査を通じて明らかにし、今後の各大学における大学入学者選抜の改善へ向けた示唆を得たいと考えた。

3 調査方法

実態調査は、令和3年度共通テストの利用大学を対象に実施した。質問項目は令和3年度入学者選抜に関して7つのセクション（A～G）から構成し（質問項目の概要は、椎名ほか（2022）を参照）、回答はwebフォームから入力する形式で行った。2021年9月22日に回答を依頼し、同年11月22日を回答期限とした。回答を依頼した757大学のうち、615大学からの回答を有効データとした（有効回答率は81.2%）。

本稿では、特にセクションC「一般選抜における多面的・総合的評価等」に焦点を当て、その実態と課題を明らかにする。セクションCでは、選択肢による質問の他、自由記述の設問も準備し、選択肢の設問では回答しきれない内容を記述してもらうことにした。

3.1 一般選抜における多面的・総合的評価に関する質問項目の設定

一般選抜における多面的・総合的評価に関する質問項目（セクションC）として、下記のQC-1～10の質問項目を設定した。ただし、セクションCの冒頭では、表1の学力検査以外の評価方法を例示している。

表1 学力検査以外の評価方法の例

評価方法	例
調査書	
調査書以外の書面	推薦書、大学入学希望理由書、学修計画書、活動報告書等、生徒の探究的な学習成果等に関する資料等、国際バカロレアの成績、資格・検定試験の成績、活動歴・顕彰・表彰等
検査	基礎学力把握のための筆記（またはCBT）による簡単な検査、適性、実技等
小論文等	レポート、小論文、英語による小論文やエッセイ等
面接・討論等	面接、討論、口頭試問、プレゼンテーション、英語による面接・プレゼンテーション・討論等、大学における学習成果等（模擬講義、事前課題）

QC-1. 一般選抜において、学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分はありますか。次の(a)~(e) それぞれについて、当てはまるものを選択してください。

1. ない
2. ある

- (a) 調査書
- (b) 調査書以外の書面
- (c) 検査
- (d) 小論文等
- (e) 面接・討論等

QC-2~6. 一般選抜での「〇〇」（ここには QC-1 の(a)~(e)の項目が入る）の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「〇〇」（同上）を利用していない大学もご回答ください。

1. 当てはまらない
2. あまり当てはまらない
3. やや当てはまる
4. 当てはまる

- (a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い
- (b) 評価基準の設定が難しい
- (c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい
- (d) 公平に評価するのが難しい
- (e) 評価するための人員が不足している
- (f) 評価するための時間が不足している
- (g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい
- (h) 利用の仕方に関する情報が不足している

QC-7. 一般選抜における学力検査以外の評価方法に関して、課題と考えていることがあれば記入してください。（自由記述）

QC-8. 一般選抜における学力検査以外の入試の実施体制に関して、部局間の調整は難しいですか。

1. 難しくない
2. あまり難しくない
3. やや難しい
4. 難しい

QC-9. 部局間の調整に関して、具体的にどのような調整が難しいですか。（自由記述）

QC-10. 学力検査以外の評価方法を利用する一般選抜入試の実施体制に関して、部局間の調整他に課題があれば記入してください。（自由記述）

4 分析結果

本節では、まず一般選抜における学力検査以外の評価方法の利用状況について、国公立大学及び私立大学における現状、特徴等を明らかにする（4.1 節）。次に、QC-1 における「ある」「ない」の回答別に 4.1 節の分析をさらに深め、現状を明らかにする（4.2 節）。続いて、それらの現状を踏まえ、各大学が抱えている課題が何かを、選択肢の回答結果とともに、自由記述の分析を通じて明らかにする（4.3 節）。そして、評価方法以外の課題として、部局間の調整に関する設問の分析を通じて、選抜の実施体制の実態と具体的な課題を明らかにする（4.4 節）。

4.1 一般選抜における学力検査以外の評価方法の利用状況について

質問項目 QC-1 の回答結果は次のとおりである。一般選抜においては、全体の 63.9%が「調査書」を学力検査以外の評価方法として利用している選抜区分があると回答している。設置形態別に見ると、国立大学では、「調査書」が 89.5%と最も多く、次いで「面接・討論等」が 82.9%、「小論文等」が 80.3%となっている。さらに「調査書以外の書面」が 57.9%、「検査」が 53.9%となっており、いずれの項目においても、50%以上の回答が得られている。この点からも国立大学では、一般選抜においても、多様な選抜方法が採用されていることが分かる（表 2 参照）。

また、公立大学では、「小論文等」が 72.5%、「調査書」と「面接・討論等」が 65.0%となっており、これらの評価方法が中心に採用されていることが分かる。

次に、QC-5 及び 6 では、「小論文等」及び「面接・討論等」について、「(a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い」と回答している割合が、国立大学で 55.3%と 67.1%、公立大学で 57.5%と 61.3%と、その他の(b)~(h)の項目と比較して高い傾向にあることが分かった。この点からも、国公立大学では、アドミッションポリシー

(以下：AP)として、小論文等や面接・討論等を通じて、受験生の学力以外の能力を多面的・総合的に評価している大学が多い傾向にあることが分かった。

また、QC-1で「検査」を利用している選抜区分があると回答した大学の割合は、公立・私立大学では20.0%であったが、国立大学では53.0%であり、設置形態による違いが見られる。これに関連して、QC-4（「検査」の利用に関して当てはまる項目を問う設問）については、国立大学の50.0%が「(a)大学の入学者受入方針に照らして必要性が高い」と回答しており、先述の「小論文等」及び「面接・討論等」と同様の理由を挙げる国立大学が多い傾向にあった。

一方で、私立大学では、利用している選抜区分があると回答した大学のうち、最も回答の多い「調査書」が59.5%に止まっており、19.4%の大学はQC-1の(a)~(e)のすべてで「1. ない」と回答している。これは、私立大学によるQC-1の回答パターンの中で最も多い結果となっている。以下、表2に学力検査以外の評価方法の利用状況について、「ある」と回答した割合を国立大学と私立大学ごとに示す。

表2 学力検査以外の評価方法の利用状況 (QC-1)

	国立大学	私立大学
(a) 調査書	89.5%	59.5%
(b) 調査書以外の書面	57.9%	38.1%
(c) 検査	53.9%	13.7%
(d) 小論文等	80.3%	31.6%
(e) 面接・討論等	82.9%	41.6%

この点からも、多くの私立大学の一般選抜においては、学力検査が中心に実施されており、それ以外の評価方法はあまり利用されていない傾向が見られる。私立大学においては、学力検査以外の評価方法が主に総合型選抜や学校推薦型選抜において用いられており、各選抜区分の役割や機能を分けて入学者選抜を実施していると考えられる。

また、国公立大学では、「調査書」以外にも、「面接・討論等」や「小論文等」を利用している傾向が見られる一方で、私立大学では、「面接・討論等」

(41.6%)や「小論文等」(31.6%)の利用は、国公立大学と比較して少ない傾向にある。これは、QC-6において、「面接・討論等」の課題について、「(f)評価するための時間が不足している」と回答している割合が30.9%となっており、国立大学の18.4%を上回っている。また、「小論文等」についても、「(f)

評価するための時間が不足している」と回答している割合が29.8%となっており、こちらも国立大学の13.2%を上回っている。

この点に関して、QC-7の自由記述においても、私立大学の課題として、「評価するための時間が不足している」等、「時間不足」や「(評価)期間の短さ」を挙げる回答が最も多かった(44.4%)。この点から、私立大学では、人材や場所不足、期間の短さを主な理由として、一般選抜において面接や小論文等をあまり利用していないという傾向が示唆された。

4.2 QC-1における学力検査以外の評価方法の利用の「ある」「ない」の回答別割合の分析

次に、QC-1の(a)~(e)について、利用している選抜区分の有無による回答傾向の分析を行う。まず、「調査書」の利用について、利用している選抜区分が「ない」と回答した大学に着目する。このような大学はQC-2において54.5%が「(d)公平に評価するのが難しい」と回答しており、次いで50.9%が「(b)評価基準の設定が難しい」、50.5%が「(f)評価するための時間が不足している」と回答している。一方で、「調査書」の利用について、「ある」と回答した大学では、上記の(b), (d), (f)はいずれも30%台であり、「ない」と回答した大学ほどには課題として考えられていないことが分かった。

次に、「調査書以外の書面」の利用について、「ない」と回答した大学は、QC-3においては、「(a)大学の入学者受入方針に照らして必要性が高い」以外の(b)~(h)の項目すべてに「当てはまる」傾向が見られた。一方で、「ある」と回答した大学は、(a)以外は「あまり当てはまらない」と回答している。

そして、「検査」、「小論文等」と「面接・討論等」については、それぞれ「ない」と回答した大学では、回答傾向が分かれているが、「ある」と回答した大学では、「当てはまらない」と「あまり当てはまらない」に回答している割合が高く、また(a)の回答割合が73.5%と高い傾向が見られた。

学力検査以外の評価方法について、利用している選抜区分が「ない」と回答している大学の設置形態別の割合が、主に私立大学において顕著に多い点については4.1節において明らかにしたが、本節の分析はそれを補完する結果となったといえる。すなわち、多くの私立大学においては、公平な評価や評価基準の設定、また評価の時間不足が課題と認識され、一般選抜においては学力検査が中心に行われることが分かった。

4.3 一般選抜における学力検査以外の評価方法の利用に係る課題について

一般選抜における学力検査以外の評価方法の利用について、いくつかの課題も明らかになった。

まず、QC-1 において、国公立大学では、「調査書」が最も多く利用されていることが明らかになったが、QC-2~6 の分析では、「調査書」について、「(b) 評価基準の設定が難しい」、「(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい」、「(d) 公平に評価するのが難しい」に「当てはまる」と回答している国公立大学が多いことが分かった。特に、国立大学では、「(d) 公平に評価するのが難しい」と回答している割合が 53.9%（「やや当てはまる」を含めると 80.2%）であり、「(b) 評価基準の設定が難しい」が 51.3%（「やや当てはまる」を含めると 86.8%）となっている。以下、調査書の利用に係る課題（QC-2）として、各項目に「当てはまる」と回答した国立大学の割合を表 3 に示す。

表 3 一般選抜における調査書の利用に係る課題で「当てはまる」に回答した国立大学の割合（QC-2）

	回答割合
(a) AP に照らして必要性高い	27.6%
(b) 評価基準の設定が難しい	51.3%
(c) 合否判定への反映が難しい	40.8%
(d) 公平な評価が難しい	53.9%
(e) 評価するための人員不足	36.8%
(f) 評価するための時間不足	39.5%
(g) 教職員研修機会確保が難しい	31.6%
(h) 利用の仕方に関する情報不足	26.3%

また、公立大学では、「(b) 評価基準の設定が難しい」が 67.5%（「やや当てはまる」を含めると 86.3%）、「(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい」が 57.5%（「やや当てはまる」を含めると 80.0%）、「(d) 公平に評価するのが難しい」が 58.8%（「やや当てはまる」を含めると 85.1%）となっており、いずれも 50%以上の国公立大学が調査書を利用しているものの、評価基準の設定とその合否への反映、公平な評価に関して課題と認識している大学が多かった。以下、調査書の利用に係る課題（QC-2）として、各項目に「当てはまる」と回答した公立大学の割合を表 4 に示す。

表 4 一般選抜における調査書の利用に係る課題で「当てはまる」に回答した公立大学の割合（QC-2）

	回答割合
(a) AP に照らして必要性高い	30.0%
(b) 評価基準の設定が難しい	67.5%
(c) 合否判定への反映が難しい	57.5%
(d) 公平な評価が難しい	58.8%
(e) 評価するための人員不足	42.5%
(f) 評価するための時間不足	43.8%
(g) 教職員研修機会確保が難しい	38.8%
(h) 利用の仕方に関する情報不足	50.0%

調査書の評価に関して、QC-7 の自由記述では、回答した国公立大学 39 大学中 28 大学が、課題として「評価」というキーワードを含む回答を行っており、その半数の 14 大学が、特に評価の際の公平性、客観性や主体性評価を課題と考えていることが分かった。

次に、私立大学では、4.1 節でも明らかになったように、一般選抜での学力検査以外の評価方法の利用は少ないため、QC-2~6 においても「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」を選択した回答は少なかったものの、傾向として、「調査書」や「調査書以外の書面」において、「(b) 評価基準の設定が難しい」の項目に、「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答している割合が 76.7%（「調査書」）と 66.6%（「調査書以外の書面」）であり、「(d) 公平に評価するのが難しい」の項目では 77.8%（「調査書」）と 65.3%（「調査書以外の書面」）である。以上から、私立大学においても、「調査書」の評価基準の設定やどのように公平性や客観性を確保した評価を行うことができるかが課題として考えられていることが分かった。この点について、QC-7 の自由記述においても、回答した 108 大学中の 64 大学が「評価」を課題として挙げており、そのうちの 17 大学が「調査書」の評価が課題と回答している点からも、設置形態によらず、「調査書」の評価基準の設定やその合否への反映、公平性の確保に課題を感じていることが明らかになった。

また、その他の課題として、QC-7 の自由記述の分析を通じて、国公立大学では「公平性」（35.9%）、「多面的・総合的評価」（17.9%）、「主体性等評価」（17.9%）、「評価方法」（17.9%）をキーワードに含む回答を行っていることが分かった。特に、共通点として、「新たな評価方法の開発」が課題として考えられていることが明らかになった。これは、一般選抜において、学力検査以外のどのような方法で志願

者を評価し、選抜することができるのかといった点を課題と考えている国公立大学が多い傾向にあるということがいえる。一方、私立大学では、44.4%の大学が「時間・期間」をキーワードに含む回答を行っている。特に、採点期間や環境整備の時間を課題として挙げている私立大学が多い傾向が明らかになった。その次に多いのは「人手・人員」をキーワードに含む回答である。25%の大学が一般選抜受験者数に対する採点人員の少なさ等、人手や人員を課題として挙げており、これは、国公立大学では見られない、私立大学特有の傾向であった。

4.4 部局間調整に関する分析

次に、QC-8 及び 9 における部局間の調整に関する設問の分析を行う。QC-8 では、「一般選抜における学力検査以外の入試の実施体制に関して、部局間の調整は難しいですか」との質問に対し、回答のあった 615 大学中、281 大学が「あまり難しくない」と回答している（全体の 45.7%）。また、設置形態別の割合では、国立大学が 47.4%、公立大学が 55.0%、私立大学が 43.8%となっており、特に公立大学では、部局間の調整はあまり難しく感じていないことが明らかになった。これは、国立大学や私立大学に比べて、学部数の少ない公立大学において部局間の調整が難しくないと感じているのではないかと推察される。以下の表 5 は、本調査で有効回答が得られた大学数の分布（学部規模×設置形態）である。

表 5 から、本調査で有効な回答を得られた公立大学の多くは、1 学部、または 2 学部であり、その学部数の少なさから部局間の調整はあまり難しくないと感じているのではないかと考えられる。

表 5 有効回答が得られた大学数の分布
(学部規模×設置形態)

	国立	公立	私立	合計
1 学部	22	33	124	179
2 学部	6	20	102	128
3・4 学部	12	19	127	158
5 学部以上	36	8	106	150
合計	76	80	459	615

QC-8 の部局間の調整については、あまり難くないと回答している大学が多い。しかし、QC-8 で「3. やや難しい」「4. 難しい」を選択した大学が回答した QC-9「部局間の調整に関して、具体的にどのよう

な調整が難しいか」という質問（自由記述）では、次のような課題が明らかになった。

国公立大学では、「アドミッションポリシー（AP）」「全学・全学的」をキーワードに含む自由記述が最も多い（24.2%）。具体的には、「学部ごとに異なる AP を一定の共通の尺度で評価することが困難」といった、全学的な方針と各学部の受入方針との調整に難しさを感じていることが明らかになった。また、次に多かったのは、「人員・マンパワー」「時間」を含む自由記述回答である（21.2%）。具体的には、「選考にあたる人員が不足している」といった人員不足や時間の調整等に課題を感じていることが分かった。

一方、私立大学では、「人員・マンパワー」を含む自由記述回答が最も多かった（38.8%）。具体的には、国公立大学と同様に、選考にあたる人員の不足の他、複数会場対応等、人員配置や地方会場へ出向く人員の不足等、試験の実施体制に課題を抱えている大学が多い傾向にあることが明らかになった。次に、「時間」をキーワードに含む自由記述が 20.1%の大学で確認された。具体的には、「人員とともに、時間が足りない」等、人員不足と同程度に「時間」を課題として挙げている大学が多かった。そして、3 番目に多かったキーワードが「業務」（8.2%）であった。具体的には、「入試日程が過密で業務を追加する余裕がない」や「入試業務による対応時間が長期化され、他部局の業務への影響がある」等、通常業務に加えて、入試業務を担うことが困難であったり、それを依頼する人員が不足している等、こちらについても人員・マンパワー不足につながる課題が明らかになった。

5 まとめと今後の課題

本稿では、一般選抜における多面的・総合的評価の実態と課題について検討してきた。実態調査の分析から、以下の点が明らかになった。

一般選抜における学力検査以外の評価方法として、最も多くの大学に利用されている資料が、「調査書」であることが明らかになった。これは、特に国公立大学で多く見られる傾向であった。ただし、評価基準の設定や合否判定への反映、公平な評価が課題と考えられていることが明らかになった。また、国立大学に関しては、「調査書」以外のすべての評価方法を利用している傾向が見られた。その理由として、「大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い」と回答している割合が高く、評価に関する課題を抱えながらも AP と照らして多面的・総合

的評価が実施されていることが分かった。

一方で、私立大学では、「調査書」を含めて、一般選抜では学力検査以外の評価方法はあまり利用されていないことが明らかになった。その理由として、自由記述の分析から、評価のための時間が十分にとれない点や評価期間の短さ、人員不足を課題として認識していることが明らかになった。

以上から、第2節で言及した大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議（2021）による審議のまとめにおいて、「一般選抜における多面的・総合的評価については、「大学の規模や設置形態、学部・学科等によって、志願者数や入試業務の制約から、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の評価に比重を置き、学力検査や小論文などが中心の評価方法となることも想定される」とあったが、実態として、学力検査や小論文以外にも、国公立大学では調査書が最も積極的に利用されている一方で、私立大学では一般選抜において多面的・総合的評価はあまり実施されていないことが分かった。

今後は、本実態調査の結果を踏まえ、調査書を活用した入試方法の開発や事例研究、評価方法に関する入試担当者を対象とした研修等に取り組んでいきたい。

謝辞

本研究は、大学入試センター令和3年度理事長裁量経費研究「大学で学ぶための基礎的学力の新たな評価測度の開発に関する研究」（代表者：椎名久美子）による助成を受けた調査研究の成果の一部である。また、本研究の予備分析に際し、東京学芸大学教育学部生の今井健さんには、自由記述の整理・分類作業を行っていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

参考文献

- 雨森聡（2015）。「不本意入学の学修への影響——これまでの不本意入学は本当に不本意なのか」『大学入試研究ジャーナル』**25**, 111－116.
- 中央教育審議会（2014）。「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」文部科学省
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/01/14/1354191.pdf（2022年11月29日）.
- 大学入学者選抜における多面的な評価の在り方に関する協力者会議（2021）。「審議のまとめ」文部科学省
https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_daigakuc02-000013844_1.pdf（2022年11月29日）.
- 高大接続システム改革会議（2016）。「最終報告」文部科学省

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf（2022年11月29日）.

教育再生実行会議（2013）。「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について（第四次提言）」文部科学省

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/_icsFiles/afieldfile/2013/12/26/1342755_05.pdf（2022年11月29日）.

文部科学省（2020）。「令和3年度大学入学者選抜実施要項」文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20200619-mxt_daigakuc02-000010813_4.pdf（2022年11月29日）.

椎名久美子・荒井清佳・伊藤圭・桜井裕仁・大塚雄作・花井渉（2022）。「令和3年度大学入学者選抜における大学入学共通テストの利用実態」『令和4年度大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第17回）研究発表予稿集』, 159－164.

竹内正興（2016）。「大学不本意入学者の原因帰属に関する一考察」『九州教育学会研究紀要』**43**, 57－64.

令和 3 年度の総合型選抜・学校推薦型選抜における 知識・技能, 思考力・判断力・表現力等の評価資料の利用実態

荒井 清佳, 伊藤 圭, 椎名 久美子, 桜井 裕仁 (大学入試センター),
大塚 雄作 (国際医療福祉大学), 花井 渉 (九州大学)

令和 3 年度の総合型選抜及び学校推薦型選抜で利用された知識・技能, 思考力・判断力・表現力等の評価資料の実態を調べるために, 大学入試センター研究開発部が実施した「令和 3 年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査」で得られたデータを集計した。その結果, 小論文や口頭試問を課している大学が多かった。「教科・科目テスト」を課す大学では, 「教科・科目テスト」について自大学の志願者やアドミッションポリシーなどに合わせた出題ができると捉えている一方で, 問題の作成・点検等が負担となっていた。また, 評価基準や評価方法等に課題を感じていることが示された。

キーワード: 総合型選抜, 学校推薦型選抜, 評価方法, 簡易検査

1 はじめに

1.1 大学入学者選抜の枠組みの変化

大学入学者選抜要項が見直され, 令和 3 年度から, 入試区分がそれまでの一般入試, アドミッション・オフィス (AO) 入試, 推薦入試等から, それぞれ一般選抜, 総合型選抜, 学校推薦型選抜等となった。総合型選抜, 学校推薦型選抜では, 大学教育を受けるために必要な知識・技能, 思考力・判断力・表現力も適切に評価するために入試方法が変更された (文部科学省, 2018)。具体的には, 「令和 2 年度大学入学者選抜実施要項」 (文部科学省, 2019) にあった「知識・技能の修得状況に過度に重点を置いた選抜基準とせず」

(AO 入試), 「原則として学力検査を免除し」 (推薦入試) という記載が削除され, 「令和 3 年度大学入学者選抜実施要項」 (文部科学省, 2020) では, 「調査書 (・推薦書) 等の出願書類だけではなく, 『見直しに係る予告』で示した評価方法等又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれか一つを必ず活用」することとなった。なお, 「見直しに係る予告」とは平成 29 年 7 月通知の「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」のことであり, 「『見直しに係る予告』で示した評価方法」とは, 「例えば, 小論文等, プレゼンテーション, 口頭試問, 実技, 各教科・科目に係るテスト, 資格・検定試験の成績等」 (文部科学省, 2020) を指す。

1.2 AO 入試, 推薦入試における評価資料

令和 2 年度以前の AO 入試, 推薦入試で用いられていた評価資料については, 山村ほか (2009) や文部科学省 (2021a, 2021b) による調査がある。山村ほ

か (2009) による調査では, 約 35,000 人の大学 1 年生 (2006 年 9 月の調査時点) を調査対象者として, 調査対象者が調査時点で在籍している大学に入学した際の選抜方法と課された試験の種類を尋ねている。文部科学省 (2021a, 2021b) による調査では, 各大学に対して, 令和 2 年度の AO 入試及び推薦入試で用いられた評価資料等を選抜区分ごとに尋ねている。この二つの調査は回答者や質問内容が異なるため, 比較して論じることにはできないが, AO 入試及び推薦入試における評価資料として利用されている割合は, どちらも, 面接が 80~90%程度, 小論文が 30~40%程度である一方で, 大学入試センター試験は 10%未満であり, 個別学力検査が 10~20%であった。

1.3 本報告の目的

令和 3 年度から, 総合型選抜, 学校推薦型選抜では, 大学教育を受けるために必要な知識・技能, 思考力・判断力・表現力等の評価が必須となったが, 各大学はどのような評価を行っているのだろうか。本稿では, 大学入試センター研究開発部が実施した「令和 3 年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査」¹⁾ (以降, 「実態調査」と略す) で得られたデータを用いて, 令和 3 年度に実施された総合型選抜及び学校推薦型選抜における知識・技能, 思考力・判断力・表現力等の評価資料の利用実態を報告する。

2 「実態調査」の概要

「実態調査」は, 2021 年秋に大学入試センター研究開発部が実施した調査である。この調査の目的は, 初回の大学入学共通テストや令和 3 年度大学入学者選

抜要項における変更に対する各大学の対応や抱える課題を把握することである。調査対象は、令和3年度大学入学共通テストの利用大学であり、757大学のうち615大学から有効な回答が得られた（有効回答率81.2%）。有効回答大学の設置形態別の内訳は、国立が76大学、公立が80大学、私立が459大学であった。回答は、1大学につき1通である。複数の選抜区分や日程がある場合でも、選抜区分ごとに回答したものではない。

調査の質問項目はセクションA～Gに分かれており、本報告では、このうち、総合型選抜における知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法について尋ねたセクションD及び学校推薦型選抜における知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法について尋ねたセクションEに焦点を当てる。これらの質問項目は付録に掲載した。

その他の質問項目等、調査の詳細については、椎名ほか（2022）を参照されたい。

3 結果

セクションD及びEでは、知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法として、大学入学共通テスト以外の方法について尋ねた。

有効回答を得られた615大学のうち、総合型選抜、学校推薦型選抜を実施している大学はそれぞれ521大学、609大学であった。3.1節以降では、これらの大学に尋ねた結果を質問項目の順に示す。

3.1 大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分の程度（QD-1/QE-1）

3.1.1 全大学

質問項目QD-1/QE-1では、総合型選抜あるいは学校推薦型選抜において、大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分がどの程度あるかを尋ねた。その結果を図1に示す。以降、

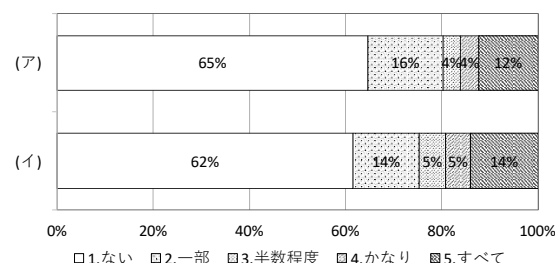


図1 「教科・科目テスト」を課している選抜区分の程度 ((ア)総合型選抜, (イ)学校推薦型選抜)

「大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテスト」を「教科・科目テスト」と呼ぶ。

総合型選抜、学校推薦型選抜ともに、「教科・科目テスト」を課している選抜区分が「1. ない」と回答した大学が60%以上を占めた。その一方で、すべての選抜区分で課している（「5. すべて」）と回答した大学が10%強あった。

3.1.2 設置形態別

「教科・科目テスト」を課している選抜区分の程度を設置形態別に見たものを表1に示す。

総合型選抜、学校推薦型選抜ともに、「教科・科目テスト」を課している選抜区分が「1. ない」と回答した大学は私立大学では60%程度であったのに対し、国立大学及び公立大学では70%以上を占めた。一方、「5. すべて」と回答した大学の割合は、国立大学及び公立大学よりも私立大学の方が高く、総合型選抜では14%、学校推薦型選抜では16%であった。

表1 設置形態別の「教科・科目テスト」を課している選抜区分の程度の割合

(ア)総合型選抜

	回答数	1. ない	2. 一部	3. 半数程度	4. かなり	5. すべて
国立	58	71%	17%	5%	3%	3%
公立	38	87%	5%	3%	0%	5%
私立	425	62%	16%	4%	4%	14%
全体	521	65%	16%	4%	4%	12%

(イ)学校推薦型選抜

	回答数	1. ない	2. 一部	3. 半数程度	4. かなり	5. すべて
国立	72	83%	8%	4%	0%	4%
公立	79	72%	9%	5%	1%	13%
私立	458	56%	16%	6%	7%	16%
全体	609	62%	14%	5%	5%	14%

ただし、表1は「教科・科目テスト」を課している選抜区分の程度を尋ねた結果である。共通テストについては、それぞれ国立、公立、私立の順に総合型選抜では67%、21%、3%、学校推薦型選抜では78%、39%、2%の大学が利用する区分があると回答している（椎名ほか、2022）。

3.2 「教科・科目テスト」のメリットとデメリット (QD-2/QE-2)

質問項目 QD-2/QE-2 では、QD-1/QE-1 で「教科・科目テスト」を課している選抜区分があると回答した大学（「2. 一部」～「5. すべて」と回答した大学）に対して、(a)～(f)の事項（図2を参照）について当てはまる程度を「1. 当てはまらない」「2. あまり当てはまらない」「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」の4件法で尋ねた。それぞれの回答割合を図2に示す。

総合型選抜では、(a)(b)には80%以上の大学が、(c)(d)には70%以上の大学が、(e)には60%程度の大学が「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」と回答した。一方、(f)に「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」と回答した大学は30%弱であった。志願者やアドミッションポリシーなど、自大学に合わせた出題ができる一方で、問題の作成や点検に負担を感じていることが分かる。

学校推薦型選抜では、総合型選抜と同様の傾向が見られた。(c)(d)に対しては約80%の大学が「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」と回答していることから、総合型選抜よりも問題の作成・点検への負担感が強いことが分かった。

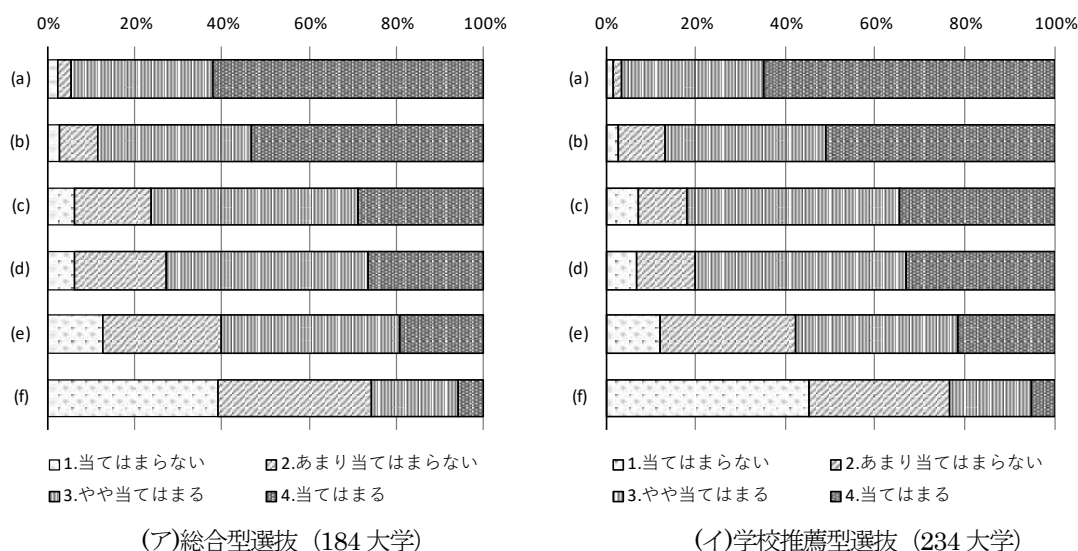
3.3 共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているもの (QD-3/QE-3)

質問項目 QD-3/QE-3 では、総合型選抜または学校推薦型選抜を実施している大学に対して、それぞれの選抜において共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているものを尋ねた。その結果を図3に示す。

総合型選抜では、小論文、口頭試問、プレゼンテーションの順に課している割合が高く、それぞれ67%、58%、57%であった。一方、学校推薦型選抜では、小論文、口頭試問の順に課している割合が高く、それぞれ71%、50%であったが、プレゼンテーションを課している割合は11%と高くなかった。

また、「基礎学力把握のための筆記による簡易な検査」（以降、「簡易検査（筆記）」と略す）、「基礎学力把握のためのCBTによる簡易な検査」（以降、「簡易検査（CBT）」と略す）を課している大学は20%ほどであった。なお、以下では「簡易検査（筆記）」と「簡易検査（CBT）」を合わせて「簡易検査」と呼ぶこともある。

「8. その他」の自由記述欄には、総合型選抜、学校推薦型選抜でそれぞれ117、218大学が回答した。回答が最も多かったものは「面接」であった。「面接」「面談」という語を含む回答は、総合型選抜では115、学校推薦型選抜では168大学からあった。調査書や志望理由書などの書面を挙げる回答も多く、「書」「エントリーシート」を含む回答は総合型選抜、学校推薦

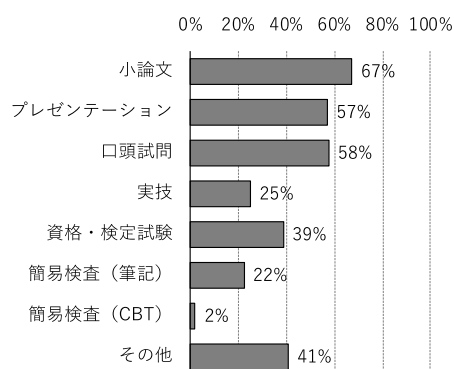


(ア)総合型選抜 (184 大学)

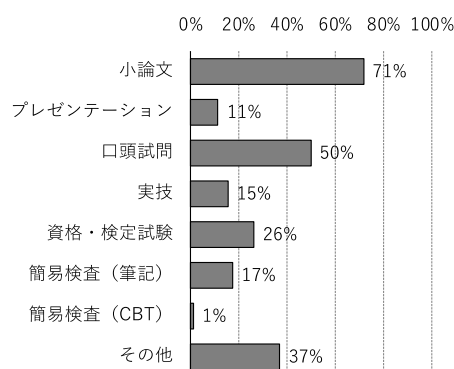
(イ)学校推薦型選抜 (234 大学)

図2 「教科・科目テスト」のメリットとデメリット

- (a) 志願者に合わせた難易度にてできる (b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容にてできる
(c) 問題の作成が負担である (d) 問題の点検が負担である (e) 採点が負担である
(f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる



(ア)総合型選抜 (521 大学)



(イ)学校推薦型選抜 (609 大学)

図3 共通テストや「教科・科目テスト」以外で課しているもの

型選抜でそれぞれ 55, 49 大学からあった。総合型選抜で多く見られた回答として、「討論」「討議」「ディスカッション」「グループワーク」を含む回答が 45 大学、「レポート」「課題」を含む回答が 45 大学、「授業」「講義」を含む回答が 31 大学からあった。これらは、学校推薦型選抜ではそれほど多くの回答は見られず、それぞれ、12, 10, 3 大学のみであった。

3.4 「基礎学力把握のための簡易な検査」のメリットとデメリット(QD-4/QE-4)

質問項目 QD-4/QE-4 では、QD-3/QE-3 で「簡易検査 (筆記)」または「簡易検査 (CBT)」を課していると回答した大学に対して、(a)～(f)の事項 (図4のキャプション直下を参照) について当てはまる程度を「1. 当てはまらない」「2. あまり当てはまらない」「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」の4件法で尋ねた。その回答割合を図4に示す。

総合型選抜では、(a)(b)には 80%以上の大学が、(c)(d)には 70%程度の大学が、(e)には 50%程度の大学が「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」と回答した。一方、(f)に「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」と回答した大学は 30%弱であった。志願者やアドミッションポリシーなど、自大学に合わせた出題ができる一方で、問題の作成や点検、採点に負担を感じていることが分かる。

学校推薦型選抜でも、総合型選抜と同様の傾向が見られた。(c)(d)に対しては総合型選抜よりも「3. やや当てはまる」「4. 当てはまる」と回答している大学が多く、問題の作成・点検への負担を強く感じていることが分かった。

以上の結果は、QD-2/QE-2 と同様の傾向を示して

おり、「教科・科目テスト」だけでなく簡易検査についても同様に問題の作成・点検に負担を感じていることが分かった。

3.5 大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題 (QD-5/QE-5)

質問項目 QD-5/QE-5 では、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関する課題を自由記述で尋ねた。総合型選抜と学校推薦型選抜とで同様の内容を回答した大学が多く、ここでは両選抜を区別せずに紹介する。

評価の実施に関しては、「より丁寧に評価を実施しよう」とすると大学側のコストが大きい上に、受験者の負担も大きくなる懸念のように、大学側の人員や予算の不足や受験生の負担の大きさを課題とする回答があった。また、「評価基準の設定」「公平性の確保」「すべての評価項目を正確に評価することは難しい」など、評価の方法や適切な評価ができていないかどうかに関する回答もあった。

選抜に用いる評価方法については、「教科・科目に係るテストを行っていないことから、特に、知識・技能といった基礎学力について課題がある」など、基礎学力の評価に不安を抱いているという回答が見られたほか、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の評価について、入試で測ることが難しい、継続して検討していく必要があるなど、評価方法そのものを検討していくことを課題とする回答も見られた。

4 おわりに

総合型選抜、学校推薦型選抜を実施している大学の

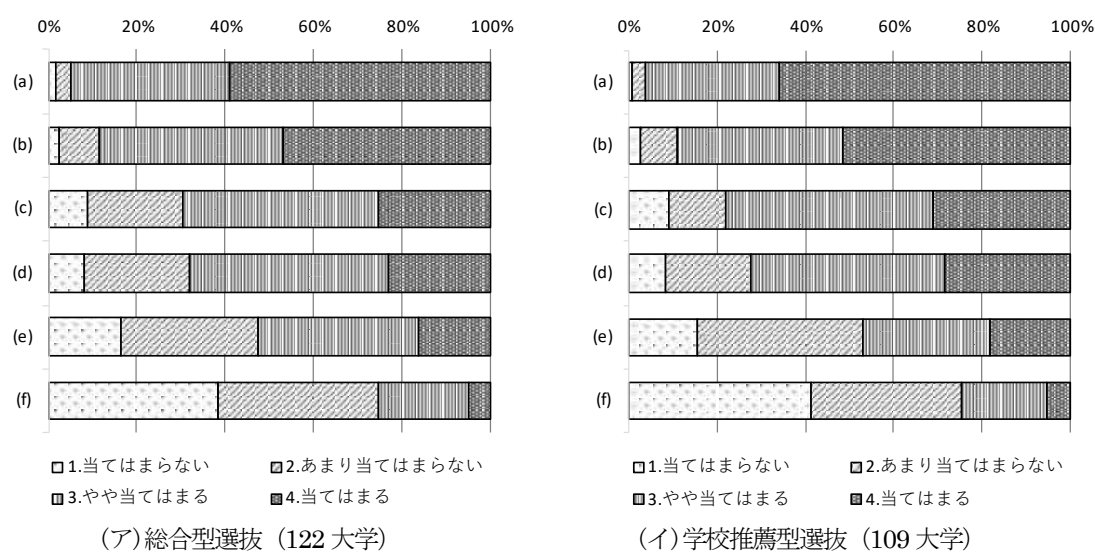


図4 「簡易検査」のメリットとデメリット

- (a) 志願者に合わせた難易度のできる (b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容のできる
 (c) 問題の作成が負担である (d) 問題の点検が負担である (e) 採点が負担である
 (f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる

うち、「教科・科目テスト」を課している選抜区分がある（「2. 一部」～「5. すべて」）大学は、総合型選抜では、521大学のうち184大学（35%）、学校推薦型選抜では、609大学のうち234大学（38%）であった。

共通テストや「教科・科目テスト」のほかに課しているものは、多い順に総合型選抜では小論文（67%）、口頭試問（58%）、プレゼンテーション（57%）、学校推薦型選抜では小論文（71%）、口頭試問（50%）であった。「その他」としては、面接や調査書等の書面が多く、総合型選抜では討論やレポート、体験授業等の回答も見られた。

本調査は大学単位での回答であるため、個々の選抜区分においてそれぞれの評価方法がどのように組み合わせられて用いられているのかは分からない。選抜区分ごとの組合せを把握するためには、選抜区分ごとに調査する必要がある。

小論文を課している割合は、本調査では総合型選抜、学校推薦型選抜ともに70%程度であったのに対し、1.2節で挙げた過去の調査では30～40%程度であった。過去の調査よりも本調査の方が課している割合が高い理由としては、本調査では大学単位で回答していることが考えられる。大学単位の回答では、課している選抜区分が一つでもある場合には「課している」を選択することになるため、過去の調査のように大学生や選

抜区分ごとの回答よりも数値が高くなる。

また、簡易検査（筆記）を課している選抜区分がある大学は、総合型選抜では22%、学校推薦型選抜では17%、簡易検査（CBT）を課している選抜区分がある大学は、総合型選抜では2%、学校推薦型選抜では1%であった。簡易検査であっても、筆記とCBTでは課している大学の割合が大きく違っていた。

以上のことから、総合型選抜や学校推薦型選抜において知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法としては、小論文や口頭試問、プレゼンテーション（総合型選抜のみ）を実施する大学が多く、「教科・科目テスト」や「簡易検査」を課す選抜区分がある大学はそれぞれ40%弱、20%程度であることが分かった。

「教科・科目テスト」や「簡易検査」に関しては、どちらも、メリットとしては志願者やアドミッションポリシーなど、自大学に合わせた出題ができることが、デメリットとしては問題の作成や点検、採点が負担となっていることが示された。

知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法についての課題としては、評価基準の設定や評価の難しさなど、評価方法に関するものだけでなく、評価方法そのものの検討の必要性など、様々な回答が寄せられたことを紹介した。また、志願者を丁寧に評価しようとするものの、評価の実施に際しては人員や予

算の不足や、受験生の負担を懸念する回答もあった。
「教科・科目テスト」や「簡易検査」に関しては、問題の作成や採点等が負担となっていることが示されたが、それだけでなく評価の実施全般が負担となっていると考えられる。

本調査から得られた回答を元に「教科・科目テスト」や「簡易検査」に関してどのような支援が可能か、検討を行っていきたい。それにより、各大学のより適切な評価や負担減への一助となれば幸いである。

注

1) 本実態調査は、大学入試センター理事長裁量経費研究（令和 3～5 年度）「大学で学ぶための基礎的学力の新たな評価測度の開発に関する研究」（代表者：椎名久美子）の一環として実施された。

謝辞

「実態調査」にご協力くださいました大学の教職員の皆様に御礼申し上げます。

参考文献

- 文部科学省 (2018). 「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告の改正について（通知）」 文部科学省 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2018/11/06/1397731_03.pdf (2023年2月13日).
- 文部科学省 (2019). 「令和2年度大学入学者選抜実施要項」 文部科学省 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2019/06/05/1282953_001_1_1.pdf (2023年2月13日).
- 文部科学省 (2020). 「令和3年度大学入学者選抜実施要項」 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20200619-mxt_daigaku02-000010813_4.pdf (2023年2月13日).
- 文部科学省 (2021a). 「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査の結果（その1）」 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt_daigaku02-000016365_12_1_1.pdf (2023年2月13日).
- 文部科学省 (2021b). 「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査の結果（その2）」 文部科学省 https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt_daigaku02-000016365_13_1_1.pdf (2023年2月13日).
- 椎名久美子・荒井清佳・伊藤圭・桜井裕仁・大塚雄作・花井渉 (2022). 「令和3年度大学入学者選抜における大学入学共通テストの利用実態」. 『令和4年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第17回）研究発表予稿集』, 159－164.
- 山村滋・鈴木規夫・濱中淳子・佐藤智美 (2009). 『学生の学習

状況から見る高大接続問題』. 大学入試センター研究開発部.

付録

セクション D, E の質問項目を以下に示す。本稿では紙幅の都合から「総合型選抜/学校推薦型選抜」と表記するが、セクション D では「総合型選抜」を、セクション E では「学校推薦型選抜」をそれぞれ尋ねている。

QD-1/QE-1. 貴大学の総合型選抜/学校推薦型選抜において、大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分はどの程度ありますか。

1. ない 2. 一部 3. 半数程度 4. かなり
5. すべて 6. 総合型選抜を実施していない

QD-2/QE-2. 貴大学の総合型選抜/学校推薦型選抜で課している「各教科・科目に係るテスト」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない
3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる
- (b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容ができる
- (c) 問題の作成が負担である
- (d) 問題の点検が負担である
- (e) 採点が負担である
- (f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる

QD-3/QE-3. 大学入学共通テストや「各教科・科目に係るテスト」以外で、次のうち、貴大学の総合型選抜/学校推薦型選抜で課しているものをすべて選択してください。（複数選択可）
課しているものがない場合は、9 を選択してください。

1. 小論文等 2. プレゼンテーション
3. 口頭試問 4. 実技
5. 資格・検定試験の成績等
6. 基礎学力把握のための筆記による簡易な検査
7. 基礎学力把握のための CBT による簡易な検査
8. その他(自由記述) 9. 課しているものはない

QD-4/QE-4. 貴大学の総合型選抜/学校推薦型選抜で課している「基礎学力把握のための簡易な検査」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない
3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる
- (b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容ができる
- (c) 問題の作成が負担である
- (d) 問題の点検が負担である

- (e) 採点が負担である
- (f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる

QD-5/QE-5. 総合型選抜/学校推薦型選抜において、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関して課題があれば記入してください。(自由記述)

第4章 おわりに

椎名久美子

4.1 実態調査のまとめ

本報告書は、大学入試センターの令和3（2021）～5（2023）年度理事長裁量経費研究「大学で学ぶための基礎的学力の新たな評価測度の開発に関する研究」の成果の一部として、令和3（2021）年9月～11月に実施した令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査の実施方法や分析結果をまとめたものである。

令和3年度以降の大学入学者選抜の枠組みの変化に各大学がどのように対応したかという視点で質問項目を作成して、大学入学共通テストの利用大学および短期大学に回答を依頼し、webフォームに入力された回答データを収集した（2.1～2.4節参照）。回答は1大学につき1件として、回答を依頼した757大学のうち615大学から有効回答を得た（有効回答率81.2%）。大学の設置形態別では、国立が76大学（12.4%）、公立が80大学（13.0%）、私立が459大学（74.6%）となっており、私立大学が約4分の3を占める（3.2節参照）。分析結果をみる際に、全体の傾向には私立大学の回答が強く反映されていることに留意が必要である。3.2～3.8節では、回答データに関して設置形態や学部規模別の分析も行った。

4.1.1 大学入学共通テストの利用状況について

一般選抜での共通テストの利用方法は設置形態によって異なる傾向であり、国立や公立では、共通テストと個別試験の得点を総合して合否判定を行うという利用のしかたが多いのに対して、私立では、共通テストの得点のみで合否判定を行うという利用のしかたが多い。一般選抜において共通テストを利用する利点としては、試験問題の信頼性や試験結果の情報の提供が国公立のいずれでも高く評価される傾向である。共通テストの利点に関する自由記述では、基礎学力の担保や公平な学力評価ができる点や、幅広い受験生の獲得への言及がみられる。日程の適切さについては国立の評価が低めであり、難易度の適切さについては私立の評価が低めである。また、自大学の受験生にとっての試験問題の難易度については、私立のほうがやや難しいと評価する傾向である。私立では、受験生が居住地で受験できる点を利点とする傾向が高いが、共通テストが選抜に役立ったかという点の評価に関しては、私立のほうが国公立より低い。

総合型および学校推薦型選抜で共通テストを利用する選抜区分を有する大学の割合が高いのは、国立の総合型選抜、国立の学校推薦型、公立の学校推薦型選抜であり、一般選抜と同様に、共通テストが選抜に役立ったという評価が得られている。試験問題が信頼できることや、選抜に必要な試験結果の情報が提供されることの評価が高い点も、一般選抜と同様である。ただし、試験の実施日程や提供日程の適切さに関しては、一般選抜よりもさらに評価が低い。

今回の実態調査は令和3年度入学選抜を対象としているが、大学入学共通テストに対する大学からの評価は、令和2年度以前の大学入試センター試験に対する評価を引き継いだものとみることができよう。安定した品質の試験問題や試験結果の確実な提供への大学の期待が極めて大きいことが再確認された一方で、総合型選抜や学校推薦型選抜で共通テストを利用する際に、試験の実施日程や成績の提供日程が障壁の1つになっていることが示唆される。総合型選抜や学校推薦型選抜に関しては、質の高い試験問題を現行の日程以外で利用できるような選択枝が必要かもしれない。また、共通テストが選抜に役立ったかという質問項目に関しては、一般選抜の私立での評価が低くなっており、評価の低さに影響を与える項目に関する分析を進める必要があるだろう。

4.1.2 一般選抜における多面的・総合的評価について

一般選抜における学力検査以外の評価方法として、利用する選抜区分が「ある」と回答した割合が最も高いのは調査書であり、特に国公立で「ある」と回答した大学の割合が高い。ただし、評価基準の設定や合否判定への反映、公平な評価が課題と考えられていることが明らかになった。国公立においては、調査書以外の書面、検査（基礎学力把握のための検査、適性、実技等）、小論文等、面接・討論等についても、利用する選抜区分が「ある」と回答した割合が比較的高い。その理由として、「大学の入学受入方針（アドミSSION・ポリシー）に照らして必要性が高い」と回答している割合が高く、評価に関する課題を抱えながらもアドミSSION・ポリシーに照らして多面的・総合的評価を実施していることが示唆される。私立では、一般選抜における学力検査以外の評価方法として調査書を利用する選抜区分が「ある」と回答した大学の割合は比較的高いものの、調査書以外の評価方法については、利用する選抜区分が「ある」と回答した大学の割合は低い。その理由として、自由記述の分析から、評価のための時間が十分にとれないこと、評価期間の短さや人員不足を課題として認識していることが示された。

一般選抜における学力検査以外の5つの評価方法（調査書、調査書以外の書面、検査、小論文等、面接・討論等）それぞれの利用に関する捉え方に関する8項目（合計40項目）の因子分析を行うと、次の6つの因子、すなわち、「小論文・面接の利用に関する困難感」「検査の利用に関する困難感」「調査書以外の書面の利用に関する困難感」「調査書の利用に関する困難感」「評価人員・時間不足」「アドミSSION・ポリシーに照らした必要性」が抽出される。それぞれの評価方法を利用する選抜区分が「ある」と回答した大学と「ない」と回答した大学に関して、6つの因子得点の平均値を算出すると、困難感に関する因子得点の平均値は、選抜区分が「ある」と回答した大学では比較的低く、「ない」と回答した大学では比較的高くなっている。学力検査以外の評価方法の利用に関する困難感を低減させる工夫を大学間で共有することが、一般選抜における多面的・総合的評価の促進に繋がる可能性がある。

4.1.3 総合型選抜および学校推薦型選抜について

総合型選抜や学校推薦型選抜において知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価する方法として比較的多くの大学で「課す」選抜区分が「ある」と回答があったものとしては、小論文、口頭試問、プレゼンテーションが挙げられる。総合型選抜、学校推薦型選抜を実施している大学のうち、小論文を課す選抜区分が「ある」と回答した大学は、総合型選抜では67%、学校推薦型選抜では71%と比較的高い割合である。また、口頭試問についても、課す選抜区分が「ある」と回答した大学は、総合型選抜では58%、学校推薦型選抜では50%である。総合型選抜では、プレゼンテーションを課す選抜区分が「ある」と回答した大学が57%である。

それに対して、(共通テスト以外の)教科・科目に係るテストを課す選抜区分が「ある」と回答した大学は、総合型選抜では35%、学校推薦型選抜では38%にとどまる。基礎学力把握のための筆記による簡易な検査を課している選抜区分が「ある」と回答した大学は、総合型選抜では22%、学校推薦型選抜では17%である。基礎学力把握のためのCBTによる簡易な検査については、総合型選抜では2%、学校推薦型選抜では1%に過ぎず、非常に低い割合である。教科・科目に係るテストや基礎学力把握のための簡易な検査に関しては、自大学の志願者に合わせた難易度やアドミッションポリシーに合わせた出題内容にできる点がメリットとして評価される一方で、問題の作成や点検、採点が負担となっていることが示された。教科・科目に係るテストや基礎学力把握のための簡易な検査を課す選抜区分がある大学はまだそれほど多くないものの、令和3年度以降の入学者選抜において学力の評価が重視されつつある中で、安定した品質の問題を作成して実施するための指針を示すことができれば、各大学にとって役立つと思われる。

4.1.4 各大学における入試改善の取り組み等について

入試改善に向けた取り組みの実施状況に関しては、8つの調査項目のうち、取り組みをおこなっている大学の割合が非常に高いものがある一方で、割合が相対的に低いものもみられる。志願者、合格者、入学者の属性分析や入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討については、国公立いずれの設置形態でも「おこなっている」と回答した大学の割合が高い。それに対して、新しい評価方法の開発や入試データの整備や利活用のための情報システムの構築については、「おこなっている」と回答した大学の割合が低く、特に公立における割合が低い。各調査項目の必要性については、設置形態によらず必要性が高いと回答する傾向である。

3.2節において、入試関連の組織を有するかどうかを尋ねたところ、「全学の委員会」や「事務局」については、設置形態(国公立)による多少の違いはあるものの、全体の90%近くの大学が有すると回答している。それに対して、「部局の委員会」や「アドミッション・オフィス等」を擁する大学は全体の4割強にとどまり、設置形態による開きもみられる。「アドミッション・オフィス等」のある大学の割合は、国立では76.3%と比較的高いが、私立では41.2%、公立では25.0%にとどまる。「IR/EM 部門等の入試担当部署」については、設置形態によらず、10%程度と非常に低い割合である。入試改善の取り組みの実施状況と入試関連の組織の有無については、今後の検討が待たれる。

また、今回の実態調査には、令和3年度入学者選抜において、入試制度改革の影響や新型コロナウイルス感染症の影響をどの程度受けたかを回答する項目が含まれている。入試制度改革の影響については、いずれの設置形態においても、「やや受けた」と「受けた」を合わせると過半数になる。国公立では、影響を「受けた」と回答した大学が最も多いのは一般選抜で、以下、総合型選抜、学校推薦型選抜の順になっているが、私立では、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜の順となっており、設置形態によって、影響を大きく受けた選抜方法がやや異なる。新型コロナウイルス感染症の影響については、いずれの設置形態においても、「やや受けた」と「受けた」を合わせると7割を超えている。入試制度改革への対応については準備期間がある程度あったのに対して、新型コロナウイルス感染症については突然の対応を迫られており、両者の入試への影響を直接比較するのは難しい。実態調査の他の質問項目との関連性からも検討が必要だろう。

4.2 今後に向けて

実態調査の分析結果のうち、大学入学共通テストの利用状況（3.3 節）、一般選抜における多面的・総合的評価（3.4 節）、総合型選抜および学校推薦型選抜における知識・技能、思考力・判断力・表現力等の評価方法（3.6 節）、については、分析結果の一部を学術論文として公表した（椎名他, 2023b; 花井他, 2023; 荒井他, 2023）。また、大学入学共通テストの利用状況については、令和 4（2022）年 11 月 5 日に開催された大学入試センター・シンポジウム 2022 「大学入学共通テストはどのように利用されているのか」においても報告した（荒井, 2023; 椎名, 2023）。さらに、実態調査の回答データを分析する中で、総合型選抜や学校推薦型選抜で利用される「基礎学力把握のための簡易な検査」に関する情報が不足していることが判明し、各大学の公式 web ページに公表された情報をもとに、「基礎学力把握のための簡易な検査」の特徴を分類する試みも行っている。（椎名他, 2023a）

研究計画では、令和 4（2022）年度において、実態調査の分析結果および基礎学力把握のための簡易な検査の分類結果に基づいて、基礎的学力の評価等を中心とする個別大学への支援案を作成し、それらの支援案の需要調査の計画を立てる予定であったが、それらは令和 5（2023）年度に持ち越しとなる。令和 5（2023）年度は、一般選抜における多面的・総合的評価や、総合型選抜および学校推薦型選抜における知識・技能、思考力・判断力・表現力等の評価方法に関して、各大学が抱える問題点を整理する。大学の設置形態や規模等に応じて、どのような支援が必要とされているのかを整理した上で、実現可能性のある支援案に関して需要調査を行い、需要調査の分析結果に基づいて具体的な支援策を絞り込んでいく。

謝辞

令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査（令和3（2021）年9月22日～11月22日）の回答に御協力くださった各大学の皆様に感謝申し上げます。また、実態調査の実施にあたって、大学入試センターの試験企画課，事業第一課，事務補佐員の方々に御協力をいただいたことに御礼申し上げます。

参考文献

- 荒井清佳 (2023). シンポジウムの趣旨と大学入学共通テストの概要. 令和 4 (2022) 年度大学入試センター研究開発部報告書「大学入試センター・シンポジウム 2022：大学入学共通テストはどのように利用されているのか」, Report2022-07, 印刷中.
- 荒井清佳・伊藤圭・椎名久美子・桜井裕仁・大塚雄作・花井渉 (2023). 令和 3 年度の総合型選抜・学校推薦型選抜における知識・技能, 思考力・判断力・表現力等の評価資料の利用実態. 大学入試研究ジャーナル, **33**, 226–232.
- 荒井清佳・桜井裕仁・伊藤圭・椎名久美子・宮埜寿夫 (2018). 「言語運用力」および「数理分析力」を測定するための試験の作題ガイドラインの開発. 大学入試研究ジャーナル, **28**, 7–12.
- 荒井清佳・椎名久美子・伊藤圭・桜井裕仁・宮埜寿夫 (2020). 「言語運用力」試験の作題ガイドラインについての問題例を通じた考察. 大学入試研究ジャーナル, **30**, 15–21.
- 大学入試センター (2015). 独立行政法人大学入試センター研究倫理規則. <https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?d=22&f=abm00000143.pdf&n=独立行政法人大学入試センター研究倫理規則（平成 27 年規則第 21 号）.pdf>（閲覧日：2023 年 2 月 2 日）
- 大学入試センター (2020). 令和 3 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト受験案内, p. 54. https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?d=73&f=abm00001168.pdf&n=R3_受験案内%.pdf（閲覧日：2023 年 2 月 2 日）
- 大学入試センター (2022). 独立行政法人大学入試センター要覧 p. 21. https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?d=4&f=abm00000018.pdf&n=R4_大学入試センター要覧.pdf（閲覧日：2023 年 2 月 2 日）
- 大学入試のあり方に関する検討会議 (2021). 大学入試のあり方に関する検討会議 提言（令和 3 年 7 月 8 日）. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/103/toushin/mext_00862.html（閲覧日：2023 年 1 月 24 日）
- 花井渉・荒井清佳・桜井裕仁・椎名久美子・伊藤圭・大塚雄作 (2023). 一般選抜における多面的・総合的評価等の実態と課題—令和 3 年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査結果の分析—. 大学入試研究ジャーナル, **33**, 299–305.
- 石井秀宗・椎名久美子・前田忠彦・柳井晴夫 (2007). 大学教員における学生の学力低下意識に影響する諸要因についての検討. 行動計量学, **34**, 67–77.
- 伊藤圭・荒井清佳・椎名久美子・宮埜寿夫・桜井裕仁・小牧研一郎・田栗正章・安野史子 (2015). 「言語運用力」試験の開発と検討—大学新入生に対する 2013 年度調査の結果とその分析—. 大学入試研究ジャーナル, **25**, 13–20.

伊藤圭・宮埜寿夫・椎名久美子・荒井清佳・桜井裕仁・田栗正章・小牧研一郎・安野史子(2014). 大学入学志願者の基礎的学力測定のための英語問題の試作とモニター調査による予備的検討—正答率分析図を用いた問題内容と受験者の応答の事例分析—. 大学入試研究ジャーナル, **24**, 59-67.

高大接続システム改革会議 (2016). 高大接続システム改革会議「最終報告」(平成 28 年 3 月 31 日). https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf (閲覧日: 2023 年 1 月 24 日)

文部科学省 (2011). 平成 23 年度国公立大学入学者選抜実施状況(平成 23 年 10 月 25 日). https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11373293/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/10/_icsFiles/afieldfile/2011/10/25/1310780_1.pdf (閲覧日: 2023 年 3 月 3 日)

文部科学省 (2013). 平成 25 年度国公立大学入学者選抜実施状況(平成 25 年 10 月 18 日). https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11373293/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/10/_icsFiles/afieldfile/2013/10/18/1340441_1_1.pdf (閲覧日: 2023 年 3 月 3 日)

文部科学省 (2014). 平成 26 年度国公立大学入学者選抜実施状況(平成 26 年 10 月 17 日). https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11373293/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/10/_icsFiles/afieldfile/2014/10/17/1352564_01.pdf (閲覧日: 2023 年 3 月 3 日)

文部科学省 (2017a). 平成 28 年度国公立大学入学者選抜実施状況(平成 29 年 6 月 6 日). https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11373293/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/_icsFiles/afieldfile/2017/06/06/1386387_01.pdf (閲覧日: 2023 年 3 月 3 日)

文部科学省 (2017b). 平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告について(通知)(平成 29 年 7 月 13 日). https://www.mext.go.jp/content/20200416-mxt_daigakuc02-000006597_9.pdf (閲覧日: 2023 年 1 月 24 日)

文部科学省 (2019a). 平成 30 年度国公立大学入学者選抜実施状況(平成 31 年 3 月 28 日). https://www.mext.go.jp/content/20200115-mxt_kouhou02-000004077_1.pdf (閲覧日: 2023 年 3 月 3 日)

文部科学省 (2019b). 令和 2 年度大学入学者選抜実施要項(令和元年 6 月 4 日). https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/05/1282953_001_1_1.pdf (閲覧日: 2023 年 2 月 20 日)

文部科学省 (2020). 令和 3 年度大学入学者選抜実施要項(令和 2 年 6 月 19 日). https://www.mext.go.jp/content/20200619-mxt_daigakuc02-000010813_4.pdf (閲覧日: 2023 年 1 月 26 日)

文部科学省 (2021a). 令和 2 年度国公立大学入学者選抜実施状況(令和 3 年 3 月 31 日). https://www.mext.go.jp/content/20210330-mxt_daigakuc02-000013863_1.pdf (閲覧日: 2023 年 3 月 3 日)

- 文部科学省 (2021b). 大学入学者選抜における英語 4 技能評価及び記述式問題の実態調査の結果 (大学入試のあり方に関する検討会議 (第 25 回) 配布資料) (令和 3 年 4 月 20 日) https://www.mext.go.jp/content/20210419-mxt_daigakuc02-000014254_13_1.pdf
- 文部科学省 (2021c). 令和 3 年度大学入学共通テスト (スタナイン) に関する調査結果 (大学入学者選抜協議会 (第 1 回) 配布資料) (令和 3 年 5 月 26 日) https://www.mext.go.jp/content/20210628-mxt_daigakuc02-000016425_19_1.pdf (閲覧日: 2023 年 1 月 26 日)
- 文部科学省 (2021d). 令和 3 年度学校基本調査 (確定値) の公表について (令和 3 年 12 月 22 日) https://www.mext.go.jp/content/20211222-mxt_chousa01-000019664-1.pdf (閲覧日: 2023 年 1 月 26 日)
- 文部科学省 (2022a). 令和 3 年度国公立大学入学者選抜実施状況 (令和 4 年 2 月 8 日) . https://www.mext.go.jp/content/20220301-mxt_daigakuc02-000020471_1.pdf (閲覧日: 2023 年 1 月 24 日)
- 文 部 科 学 省 (2022b). 学 校 基 本 調 査. <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031852304&fileKind=0> (閲覧日: 2023 年 1 月 24 日)
- 桜井裕仁・椎名久美子・荒井清佳・伊藤圭・宮埜寿夫 (2020). 「数理分析力」試験の作題ガイドライン改訂と問題の分類. 大学入試研究ジャーナル, **30**, 22-29.
- 桜井裕仁・田栗正章・安野史子・小牧研一郎・荒井清佳・伊藤圭・椎名久美子・宮埜寿夫 (2014). 大学入学志願者の基礎的学力測定のための「数理分析力」の調査とその予備的検討. 大学入試研究ジャーナル, **24**, 51-58.
- 桜井裕仁・田栗正章・安野史子・小牧研一郎・荒井清佳・伊藤圭・椎名久美子・宮埜寿夫 (2015). 「数理分析力」試験の開発と検討—大学新入生に対する 2013 年度調査の結果とその分析—. 大学入試研究ジャーナル, **25**, 21-28.
- 椎名久美子 (2023). 令和 3 年度入学者選抜における共通テストの利用実態. 令和 4 (2022) 年度大学入試センター研究開発部報告書「大学入試センター・シンポジウム 2022: 大学入学共通テストはどのように利用されているのか」, Report2022-07, 印刷中.
- 椎名久美子・荒井清佳・伊藤圭・桜井裕仁・大塚雄作 (2023a). 大学入学者選抜における基礎学力把握のための検査に関する特徴分類の試み. 大学入試センター第 364 回研究開発部セミナー (2023 年 2 月 21 日) .
- 椎名久美子・荒井清佳・伊藤圭・桜井裕仁・大塚雄作・花井渉 (2023b). 令和 3 年度大学入学者選抜における大学入学共通テストの利用実態および大学からの評価. 大学入試研究ジャーナル, **33**, 226-232.
- 椎名久美子・宮埜寿夫・伊藤圭・荒井清佳・桜井裕仁・小牧研一郎・田栗正章・安野史子 (2014). 大学入学志願者の基礎的学力測定のための枠組みの検討および「言語運用力」についての予備的分析. 大学入試研究ジャーナル, **24**, 41-49.
- 山村滋 (2010). 高校と大学の接続問題と今後の課題—高校教育の現状および大学で必要な技能の分析を通して—, 教育学研究, **77** (2), 157-170.

山村滋・荒牧草平 (2002). 高校教育多様化政策のもとでの受験シフト—普通科からの大学進学者の履修実態・受験実態の分析—. 大学入試研究ジャーナル, **12**, 101-107.

柳井晴夫・石井秀宗・椎名久美子・鈴木規夫・荒井克弘 (2006). 大学生の学習意欲と学力低下に関する調査研究—1992 年調査と 2002-4 年調査の比較を中心として—. 大学入試研究ジャーナル, **16**, 1-19.

付録 A 調査の依頼状

報告書に掲載するにあたり、付録 A.1 および付録 A.3 では調査の委託業者名やメールアドレス等を削除した。削除した箇所には【 】を挿入し、□ 内に削除した内容を示した。

A.1 依頼状

令和3年9月22日

各国公私立大学入試担当課長 殿

独立行政法人大学入試センター
研究開発部長・教授 山地 弘起

令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査へのご協力をお願い

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

令和3年度大学入学者選抜では、第1回大学入学共通テストが実施されると共に、入試区分の名称が「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」となり、そのそれぞれにおいて、大学教育を受けるために必要な、いわゆる「学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度）」のバランスのとれた評価が求められるようになりました。さらに、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）のまん延もあり、例年にも増して様々な業務に腐心なされたのではと拝察いたします。

大学入試センター研究開発部では、このような変化や状況に各大学がどのように対応されたのかという実態を調査し、大学入学共通テストや個別選抜に関して各大学が抱える課題を把握したいと考えております。本調査の結果は、各大学の入学者選抜への支援のあり方や、大学入学者選抜の改善に向けた研究課題を検討するための貴重な資料として活用させていただきます。何卒よろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。

この実態調査は、令和3年度大学入学共通テストの利用大学を対象に実施するものです。貴大学の入学者選抜の実施方法等を研究・検討している部署の方等、貴大学の入学者選抜を総合的に把握しておられる方にご回答いただきたく、該当する教職員等にご連絡いただく等、適宜ご手配賜りますようお願いいたします。

調査内容および回答方法、回答期限は、以下の通りです。具体的な質問項目と選択肢については別添の質問項目一覧をご参照ください。回答は、下記 URL の回答フォームにアクセスしてご入力をお願いいたします。回答フォームにアクセスするための貴大学の ID とパスワードは、【委託業者名】のアドレス（【メールアドレス】）を発信元とする別便のメールでお知らせするものをご使用ください。

1. 調査内容：

- (A) 大学の属性（学部数）や入試関連組織について
- (B) 大学入学共通テストの利用について
- (C) 一般選抜における多面的・総合的評価等について
- (D) 総合型選抜における知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価について
- (E) 学校推薦型選抜における知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価について
- (F) 入試の改善に向けた取り組みについて
- (G) その他のご意見など（自由記述）

別添：

「令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査
質問項目一覧」

2. 回答方法：

（次ページに続きます）

回答は **1大学につき1通**とさせていただきます。別便でお知らせする ID とパスワードを用いて、下記の URL から各質問項目の回答を入力してください。

【URL】

なお、回答を送信した後、回答期間中であれば再ログインして入力内容を確認／修正することが可能です。

3. 回答期限：令和3年11月22日(月)

4. データの取り扱い：

本研究は「独立行政法人大学入試センター研究倫理規則」にしたがって適切に実施いたします。回答フォームの web サーバを運用する【委託業者名と URL】はプライバシーマークを取得しています。業者から回答データが納品された後、ID とパスワードの通知先メールアドレスおよび回答データを業者のサーバから削除するよう依頼して、削除完了を確認いたします。回答は統計的に処理し、分析結果を公表する際は大学名および回答者は特定されません。

本調査についてご質問がある場合は、下記にご連絡ください。ご多忙のところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

【調査に関する問い合わせ先】

〒153-8501 東京都目黒区駒場 2-19-23

大学入試センター研究開発部 教授 椎名 久美子、准教授 荒井 清佳

E-mail：【メールアドレス】／FAX:【FAX 番号】（事務補佐員 【氏名】）

（コロナ禍で在宅勤務となっている場合があるため、お問い合わせは極力メールでお願いいたします）

A.2 質問項目一覧

2021/09/22

別添

令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査 質問項目一覧

回答フォームにアクセスするための ID とパスワードをそれぞれ入力してください。ID とパスワードは別便のメールでお知らせしたものを御使用ください。(半角英数字で入力)

ID :

パスワード :

A. はじめに貴大学の情報を入力してください。

QA-1. 貴大学の学部数(令和3年4月1日現在)を記入してください。名称が学部でない場合は学部に対応するものの数を記入してください。(半角数字で入力)

学部

QA-2. 貴大学にはどのような入試関連の組織がありますか。該当するものをすべて選択してください。(複数選択可)

1. 全学の委員会
2. 部局の委員会(学部・学科等に設置された入試委員会等)
3. アドミッション・オフィス等(アドミッション・オフィス、アドミッション・センター、入学センター等)
4. 事務部局(入試課等)
5. 機関研究や教学マネジメントを行う組織(IR^{※1}部門やEM^{※2}部門等)の入試担当部署

※1: インスティテューショナル・リサーチ

※2: エンロールメント・マネジメント

QA-3 貴大学の令和3年度大学入学者選抜において、入試制度改革の影響をどの程度受けましたか。次の(a)～(c)それぞれについて、当てはまるものを一つずつ選択してください。

1. 受けていない 2. あまり受けていない 3. やや受けた 4. 受けた

- (a) 一般選抜
(b) 総合型選抜
(c) 学校推薦型選抜

QA-4 貴大学の令和3年度大学入学者選抜において、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の影響をどの程度受けましたか。次の(a)～(c)それぞれについて、当てはまるものを一つずつ選択してください。

1. 受けていない 2. あまり受けていない 3. やや受けた 4. 受けた

- (a) 一般選抜
(b) 総合型選抜
(c) 学校推薦型選抜

2021/09/22

B. 大学入学共通テストの利用についてお尋ねします。

QB-1. 次のうち、貴大学の入学者選抜において、大学入学共通テストを課している入試方法をすべて選択してください。該当する選抜区分が一つでもある場合は選択してください。(複数選択可)

1. 一般選抜
2. 総合型選抜
3. 学校推薦型選抜

* QB-1 で「1. 一般選抜」が該当する場合は次の QB-2～QB-5 に回答してください。

* QB-1 で「2. 総合型選抜」が該当する場合は後の QB-6～QB-9 に回答してください。

* QB-1 で「3. 学校推薦型選抜」が該当する場合は後の QB-10～QB-13 に回答してください。

QB-2. 一般選抜において、貴大学では大学入学共通テストをどのように利用していますか。次のうち、該当するものをすべて選択してください。(複数選択可)

1. 共通テストの得点のみで合否判定を行う
2. 共通テストの得点をもとに、貴大学の個別試験の受験者を決定する(二段階選抜)
3. 共通テストと貴大学の個別試験の得点を総合して合否判定を行う
4. その他 ()

QB-3. 一般選抜において、貴大学が大学入学共通テストを利用する利点として次の(a)～(f)の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。また、その他に利点があれば(g)に記入してください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (a) 試験問題が信頼できる(内容、出題範囲、難易度等)
- (b) 各受験生が居住地で受験できる
- (c) 試験科目数が多い
- (d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる
- (e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される
- (f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい
- (g) その他 ()

QB-4. 一般選抜において、大学入学共通テストに関する次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

- (a) 試験の実施日程が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (b) 成績の提供日程が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度
 1. 易しい 2. やや易しい 3. どちらともいえない 4. やや難しい 5. 難しい
- (d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (e) 試験問題の識別力(受験生の成績に差がつくかどうか)が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (f) 共通テストの得点を貴大学独自の段階表示に変換して利用した
 1. 利用しなかった 2. 利用した(利用法:)

QB-5. 一般選抜において、大学入学共通テストは選抜に役立ちましたか。

1. 役立たなかった 2. あまり役立たなかった 3. ある程度役立った 4. 役立った

2021/09/22

* QB-1 で「2. 総合型選抜」が該当する場合は次の QB-6～QB-9 に回答してください。

QB-6. **総合型選抜において**、貴大学では大学入学共通テストをどのように利用していますか。次のうち、該当するものをすべて選択してください。(複数選択可)

1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う
2. 共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする
3. 共通テストの受験は任意とする
4. その他 ()

QB-7. **総合型選抜において**、貴大学が大学入学共通テストを利用する**利点**として次の(a)～(f)の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。また、その他に**利点**があれば(g)に記入してください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (a) 試験問題が信頼できる (内容、出題範囲、難易度等)
- (b) 各受験生が居住地で受験できる
- (c) 試験科目数が多い
- (d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる
- (e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される
- (f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい
- (g) その他 ()

QB-8. **総合型選抜において**、大学入学共通テストに関する次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

- (a) 試験の実施日程が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (b) 成績の提供日程が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度
 1. 易しい 2. やや易しい 3. どちらともいえない 4. やや難しい 5. 難しい
- (d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (e) 試験問題の識別力 (受験生の成績に差がつくかどうか) が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (f) 共通テストの得点を貴大学独自の段階表示に変換して利用した
 1. 利用しなかった 2. 利用した (利用法:)

QB-9. **総合型選抜において**、大学入学共通テストは選抜に役立ちましたか。

1. 役立たなかった 2. あまり役立たなかった 3. ある程度役立った 4. 役立った

2021/09/22

* QB-1 で「3. 学校推薦型選抜」が該当する場合は次の QB-10～QB-13 に回答してください。

QB-10. 学校推薦型選抜において、貴大学では大学入学共通テストをどのように利用していますか。次のうち、該当するものをすべて選択してください。(複数選択可)

1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う
2. 共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする
3. 共通テストの受験は任意とする
4. その他 ()

QB-11. 学校推薦型選抜において、貴大学が大学入学共通テストを利用する利点として次の(a)～(f)の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。また、その他に利点があれば(g)に記入してください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (a) 試験問題が信頼できる (内容、出題範囲、難易度等)
- (b) 各受験生が居住地で受験できる
- (c) 試験科目数が多い
- (d) 受験生に課す試験科目を選ぶことができる
- (e) 選抜に必要な試験結果の情報が提供される
- (f) 自大学で試験問題を作成しなくてよい
- (g) その他 ()

QB-12. 学校推薦型選抜において、大学入学共通テストに関する次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

- (a) 試験の実施日程が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (b) 成績の提供日程が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (c) 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度
 1. 易しい 2. やや易しい 3. どちらともいえない 4. やや難しい 5. 難しい
- (d) 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (e) 試験問題の識別力 (受験生の成績に差がつくかどうか) が適切である
 1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる
- (f) 共通テストの得点を貴大学独自の段階表示に変換して利用した
 1. 利用しなかった 2. 利用した (利用法:)

QB-13. 学校推薦型選抜において、大学入学共通テストは選抜に役立ちましたか。

1. 役立たなかった 2. あまり役立たなかった 3. ある程度役立った 4. 役立った

2021/09/22

C. 一般選抜における多面的・総合的評価等についてお尋ねします。

ここでは、学力検査以外の評価方法として、次の5種類についてお尋ねします。

評価方法	例
調査書	
調査書以外の書面	推薦書、大学入学希望理由書、学修計画書、活動報告書等、生徒の探究的な学習成果等に関する資料等、国際バカロレアの成績、資格・検定試験の成績、活動歴・顕彰・表彰等
検査	基礎学力把握のための筆記（またはCBT）による簡単な検査、適性、実技等
小論文等	レポート、小論文、英語による小論文やエッセイ等
面接・討論等	面接、討論、口頭試問、プレゼンテーション、英語による面接・プレゼンテーション・討論等、大学における学習成果等（模擬講義、事前課題）

QC-1. 一般選抜において、学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分はありますか。次の(a)～(e)それぞれについて、当てはまるものを選択してください。

1. ない 2. ある

- (a) 調査書
(b) 調査書以外の書面
(c) 検査
(d) 小論文等
(e) 面接・討論等

QC-2. 一般選抜での「調査書」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「調査書」を利用していない大学もご回答ください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

- (a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い
(b) 評価基準の設定が難しい
(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい
(d) 公平に評価するのが難しい
(e) 評価するための人員が不足している
(f) 評価するための時間が不足している
(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい
(h) 利用の仕方に関する情報が不足している

QC-3. 一般選抜での「調査書以外の書面」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「調査書以外の書面」を利用していない大学もご回答ください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

- (a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い
(b) 評価基準の設定が難しい
(c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい
(d) 公平に評価するのが難しい
(e) 評価するための人員が不足している
(f) 評価するための時間が不足している
(g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい
(h) 利用の仕方に関する情報が不足している

2021/09/22

QC-4. 一般選抜での「検査」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「検査」を利用していない大学もご回答ください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

- (a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い
- (b) 評価基準の設定が難しい
- (c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい
- (d) 公平に評価するのが難しい
- (e) 評価するための人員が不足している
- (f) 評価するための時間が不足している
- (g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい
- (h) 利用の仕方に関する情報が不足している

QC-5. 一般選抜での「小論文等」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「小論文等」を利用していない大学もご回答ください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

- (a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い
- (b) 評価基準の設定が難しい
- (c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい
- (d) 公平に評価するのが難しい
- (e) 評価するための人員が不足している
- (f) 評価するための時間が不足している
- (g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい
- (h) 利用の仕方に関する情報が不足している

QC-6. 一般選抜での「面接・討論等」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。一般選抜で「面接・討論等」を利用していない大学もご回答ください。

1. 当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる

- (a) 大学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）に照らして必要性が高い
- (b) 評価基準の設定が難しい
- (c) 評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい
- (d) 公平に評価するのが難しい
- (e) 評価するための人員が不足している
- (f) 評価するための時間が不足している
- (g) 評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい
- (h) 利用の仕方に関する情報が不足している

QC-7. 一般選抜における学力検査以外の評価方法に関して、課題と考えていることがあれば記入してください。（自由記述）

QC-8. 一般選抜における学力検査以外の入試の実施体制に関して、部局間の調整は難しいですか。

1. 難しくない 2. あまり難しくない 3. やや難しい 4. 難しい

* QC-8 で「3. やや難しい」「4. 難しい」を選んだ場合は次の QC-9 に回答してください。

QC-9. 部局間の調整に関して、具体的にどのような調整が難しいですか。（自由記述）

QC-10. 学力検査以外の評価方法を利用する一般選抜入試の実施体制に関して、部局間の調整の他に課題があれば記入してください。（自由記述）

2021/09/22

D. 総合型選抜において、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法についてお尋ねします。

QD-1. 貴大学の総合型選抜において、大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分はどの程度ありますか。

1. ない
2. 一部
3. 半数程度
4. かなり
5. すべて
6. 総合型選抜を実施していない

* QD-1 で 1 を選んだ場合は次の QD-3, QD-5 に回答してください。

* QD-1 で 2~5 を選んだ場合は次の QD-2, QD-3, QD-5 に回答してください。

* QD-1 で 6 を選んだ場合は次の QD-2~QD-5 に回答する必要はありません。

QD-2. 貴大学の総合型選抜で課している「各教科・科目に係るテスト」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

1. 当てはまらない
2. あまり当てはまらない
3. やや当てはまる
4. 当てはまる

- (a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる
- (b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容ができる
- (c) 問題の作成が負担である
- (d) 問題の点検が負担である
- (e) 採点が負担である
- (f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる

QD-3. 大学入学共通テストや「各教科・科目に係るテスト」以外で、次のうち、貴大学の総合型選抜で課しているものをすべて選択してください。(複数選択可)

課しているものがない場合は、9 を選択してください。

1. 小論文等
2. プレゼンテーション
3. 口頭試問
4. 実技
5. 資格・検定試験の成績等
6. 基礎学力把握のための筆記による簡易な検査
7. 基礎学力把握のための CBT による簡易な検査
8. その他 ()
9. 課しているものはない

* QD-3 で 6, 7 を選んだ場合は次の QD-4 に回答してください。

QD-4. 貴大学の総合型選抜で課している「基礎学力把握のための簡易な検査」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

1. 当てはまらない
2. あまり当てはまらない
3. やや当てはまる
4. 当てはまる

- (a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる
- (b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容ができる
- (c) 問題の作成が負担である
- (d) 問題の点検が負担である
- (e) 採点が負担である
- (f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる

QD-5. 総合型選抜において、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関して課題があれば記入してください。(自由記述)

2021/09/22

E. 学校推薦型選抜において、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法についてお尋ねします。

QE-1. 貴大学の学校推薦型選抜において、大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分はどの程度ありますか。

1. ない
2. 一部
3. 半数程度
4. かなり
5. すべて
6. 学校推薦型選抜を実施していない

* QE-1 で 1 を選んだ場合は次の QE-3, QE-5 に回答してください。

* QE-1 で 2~5 を選んだ場合は次の QE-2, QE-3, QE-5 に回答してください。

* QE-1 で 6 を選んだ場合は次の QE-2~QE-5 に回答する必要はありません。

QE-2. 貴大学の学校推薦型選抜で課している「各教科・科目に係るテスト」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

1. 当てはまらない
2. あまり当てはまらない
3. やや当てはまる
4. 当てはまる

- (a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる
- (b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容ができる
- (c) 問題の作成が負担である
- (d) 問題の点検が負担である
- (e) 採点が負担である
- (f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる

QE-3. 大学入学共通テストや「各教科・科目に係るテスト」以外で、次のうち、貴大学の学校推薦型選抜で課しているものをすべて選択してください。(複数選択可)

課しているものがない場合は、9 を選択してください。

1. 小論文等
2. プレゼンテーション
3. 口頭試問
4. 実技
5. 資格・検定試験の成績等
6. 基礎学力把握のための筆記による簡易な検査
7. 基礎学力把握のための CBT による簡易な検査
8. その他 ()
9. 課しているものはない

* QE-3 で 6, 7 を選んだ場合は次の QE-4 に回答してください。

QE-4. 貴大学の学校推薦型選抜で課している「基礎学力把握のための簡易な検査」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

1. 当てはまらない
2. あまり当てはまらない
3. やや当てはまる
4. 当てはまる

- (a) 自大学の志願者に合わせた難易度ができる
- (b) アドミッションポリシーに合わせた出題内容ができる
- (c) 問題の作成が負担である
- (d) 問題の点検が負担である
- (e) 採点が負担である
- (f) 入学後のクラス分けの資料としても活用できる

QE-5. 学校推薦型選抜において、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関して課題があれば記入してください。(自由記述)

2021/09/22

F. 貴大学における入試改善に向けた取り組みの実施状況および必要性についてお尋ねします。

QF-1. 次の(a)～(h)の項目の実施状況について、当てはまるものを選択してください。また、その他に実施している取り組みがあれば(i)に記入してください。

1. おこなっていない 2. おこなっている

- (a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析
- (b) 学力検査の難易度，識別性等の評価
- (c) 学力検査の問題の内容の検証
- (d) 学力検査以外の課題（小論文，面接，討論，実技等）の内容の検証
- (e) 選抜資料（学力検査，小論文，面接，討論，実技，調査書・推薦書等）と入学後成績の関連性に関する追跡調査
- (f) 新しい評価方法の開発（学力検査，小論文，面接，討論，実技等の新規開発）
- (g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築
- (h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討
- (i) 入試改善に向けたその他の取り組み（）

QF-2. 次の項目の必要性について，貴大学の考えとして当てはまるものを選択してください。

1. 必要性はない 2. あまり必要性はない 3. ある程度必要性がある 4. 高い必要性がある

- (a) 志願者（合格者，入学者等）の属性分析
- (b) 学力検査の難易度，識別性等の評価
- (c) 学力検査の問題の内容の検証
- (d) 学力検査以外の課題（小論文，面接，討論，実技等）の内容の検証
- (e) 選抜資料（学力検査，小論文，面接，討論，実技，調査書・推薦書等）と入学後成績の関連性に関する追跡調査
- (f) 新しい評価方法の開発（学力検査，小論文，面接，討論，実技等の新規開発）
- (g) 入試データの整備や利活用のための情報システムの構築
- (h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討

G. 貴大学の入学者選抜の課題（QC-7, QC-9, QC-10, QD-5, QE-5以外の課題），大学入学共通テストについてのご意見，大学入試センターへのご要望，大学入試全般に関わるご意見など，何かありましたら記入してください。（自由記述）

御協力ありがとうございました。

A.3 依頼メールの本文

★メールの件名：大学入試センター研究開発部が実施する調査へのご協力をお願い

★メールの本文：

このメールは、令和 3 年度大学入学共通テストの利用大学の入試担当課として大学入試センターに登録されたメールアドレス宛に bcc でお送りしています。

各国公私立大学入試担当課長 殿

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび大学入試センター研究開発部では、大学入学共通テストや個別選抜に関して各大学が抱える課題を把握するための実態調査を行うことになりました。調査の趣旨や調査内容の詳細については、当センターの研究開発部長名の依頼状（添付）をご覧ください。具体的な質問項目と選択肢については添付の「別添：令和 3 年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査質問項目一覧」をご参照ください。

貴大学の＜入学者選抜の実施方法等を研究・検討している部署の方等、貴大学の入学者選抜を総合的に把握しておられる方に＞ご回答いただきたく、該当する教職員等にご連絡いただく等、適宜ご手配賜りますようお願いいたします。

回答は【1 大学につき 1 通】とさせていただきます。

別便でお知らせする ID とパスワードを用いて、回答フォームの URL から回答の入力をお願いいたします。

調査内容および回答方法、回答期限は、以下の通りです。

1. 調査内容：

- (A) 大学の属性（学部数）や入試関連組織について
- (B) 大学入学共通テストの利用について
- (C) 一般選抜における多面的・総合的評価等について
- (D) 総合型選抜における知識・技能、思考力・判断力・表現力等の評価について
- (E) 学校推薦型選抜における知識・技能、思考力・判断力・表現力等の評価について
- (F) 入試の改善に向けた取り組みについて
- (G) その他のご意見など

別添：

「令和 3 年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査 質問項目一覧」

2. 回答方法：

・下記 URL の回答フォームにアクセスしてご入力をお願いいたします。

【URL】

・回答フォームにアクセスするための貴大学の ID とパスワードは、

【委託業者名とメールアドレス】を発信元とする別便のメール（9 月 22 日 15 時頃に送信予定）でお知らせするものをご使用ください。

・回答は【1 大学につき 1 通】とさせていただきます。

3. 回答期限：令和 3 年 11 月 22 日(月)

4. データの取り扱い：

本研究は「独立行政法人大学入試センター研究倫理規則」にしたがって適切に実施いたします。回答は統計的に処理し、分析結果を公表する際は大学名および回答者は特定されません。

本調査の結果は、各大学の入学者選抜への支援のあり方や、大学入学者選抜の改善に向けた研究課題を検討するための貴重な資料として活用させていただきます。何卒よろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。

本調査についてご質問がある場合は、下記にご連絡ください。ご多忙のところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

【調査に関する問い合わせ先】

〒153-8501 東京都目黒区駒場 2-19-23

大学入試センター研究開発部 教授 椎名 久美子、准教授 荒井 清佳

E-mail：【メールアドレス】／FAX：【FAX 番号】（事務補佐員 【氏名】）

（コロナ禍で在宅勤務となっている場合があるため、お問い合わせは極力メールでお願いいたします）

付録B 仕様書および関連書類

本付録では、業者へ委託した調査運営業務の仕様書、および仕様書の別紙として作成した質問項目仕様リスト（別紙2）と回答フォームの画面構成（別紙3）を掲載する。別紙1は、調査対象大学へ依頼状とともに送付した質問項目一覧（付録A.2）と同様のため、本付録での掲載は省略する。仕様書の内容は委託業者へ業務を発注した時点のものであるため、記載されている回答フォームの納期、稼働期間、データの納期等の日程は、その後に確定した実際の日程とは異なる。質問項目仕様リストには、各質問項目について、回答の必須・任意の別、質問形式、選択枝式の選択方法と選択枝範囲などをまとめた。回答フォームの画面構成は、回答フォームを実装しているweb画面のページ区分と各ページに収録する質問項目の割り当てを一覧表にまとめたものである。特定の質問項目への回答内容に応じて、後続のページを表示するか非表示にするかといった画面ロジックについても備考欄に記載されている。なお、本報告書の本文では「選択枝」という表記を用いているが、本付録に掲載した仕様書、質問項目仕様リスト、回答フォームの画面構成では「選択肢」という表記を用いている。

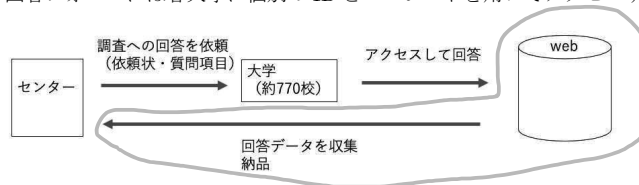
B.1 仕様書

2021 年 8 月 18 日

令和 3 年度大学入学学生選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査 回答フォームの作成及び回答データの回収に関する業務 一式 仕様書

1. 調査の概要

- ・ センターから、各大学に「依頼状」「質問項目一覧」をメールで送付し、回答を依頼する。
- ・ 「依頼状」に回答フォームの URL を掲載し、各大学は回答フォームにアクセスして回答する。回答フォームには各大学に個別の ID とパスワードを用いてアクセスする。



2. 作業の概要

作業として依頼したい内容は、次の①～④である（上図の黄色の線で囲った部分①③④+②）。

- ①Web 上で動くアンケート回答フォームの作成(大学ごとの ID とパスワードの設定を含む)
- ②各大学への ID とパスワードの通知
- ③アンケート回答フォームの稼働
- ④回答データの納品

3. 納期等

- | | | |
|-------------|------------------------------------|------------|
| ①回答フォームの納期： | 2021 年 8 月 31 日（火曜日） | 17：00 ※完成版 |
| ③回答フォームの稼働： | 2021 年 9 月 1 日（水曜日）～10 月 31 日（日曜日） | |
| ④回答データの納期： | 2021 年 11 月 2 日（火曜日） | 16：00 |

4. 各作業について

①Web 上で動くアンケート回答フォームの作成

- ・ Web 上で動く回答フォームを作成する。アンケートの質問項目、回答選択肢、回答方法等はセンターで指定する（別紙 1，別紙 2）。
 - ・ 回答形式：選択式，自由回答式（回答に応じて表示させる質問を変更する）
 - ・ 質問項目 合計 152 問
 - ・ 回答大学数：約 770 校（予定）
- ・ 回答フォームの最終版を納品する前に、最低 2 回センター側で動作確認を行い、必要な修正を行う。
- ・ 回答フォームの専用 URL を設定するとともに回答フォームにアクセスするための各大学の個別の ID とパスワードを設定する。
- ・ 回答フォームの動作について
 - 各大学に個別の ID とパスワードが正しく入力された場合にのみ回答フォームにアクセスできるようにすること
 - 回答者が「メールアドレス」が正しく入力されていることを確認してから質問項目への回答に進むようにすること
 - 回答者が入力した回答の一覧を回答送信前に一覧表示し、その内容を確認してから「送信」ボタンを押せるようにすること
 - 回答送信後、回答者が入力した回答内容の一覧が回答者が指定したメールアドレス宛にメールで送られるようにすること
 - 回答送信後、回答期限内であれば回答者が後から修正できるようにすること

2021年8月18日

- 回答必須の質問項目に未回答の場合にエラーを表示し、かつ、回答送信ができないようにすること
- 自由記述欄への入力は最大 500 文字とする
- ・ 文字コードは UTF-8 とする。

② 各大学への ID とパスワードの通知

- ・ 通知先は、大学入試センターから提供するメールアドレス宛とする。
- ・ 各大学ごとに通知を行う。
- ・ 大学入試センターから依頼状の送信が完了したことを確認してから、通知を行う。
- ・ 通知先のメールアドレスのリストは、④の回答データの納品が完了して、大学入試センターが回答データに不備がないことを確認した後で、削除する。削除が完了したら、大学入試センターに文書で報告する。

③ アンケート回答フォームの稼働

- ・ 回答期間中、回答フォームを稼働させる
 - ・ 途中、問題が生じたら（動かなくなるなど）すぐに対応すること
- ・ セキュリティの確保
 - ・ 回答フォームの URL と各大学に個別の ID とパスワードを知っている人だけがアクセスできるようにする
 - ・ 回答データが消失しないようにする
- ・ 標準的なブラウザ（Chrome, Firefox, Safari, Microsoft Edge）で表示できること
- ・ 標準的な SSL 暗号化通信に対応させること

④ 回答データの納品

- ・ 回答データに回答送信時のタイムスタンプを付加する。
- ・ 回答データは Excel 形式で納品する。一つの大学の回答が 1 行になるようにする。（回答送信時のタイムスタンプもデータに加える）。
- ・ すべてのデータ（ある大学が複数回答した場合は、そのすべての回答）と、各大学につき最新のタイムスタンプのデータのみを抽出したデータの両方を納品する。
- ・ 文字コードは UTF-8 とする。
- ・ 9 月 24 日（金曜日）と 10 月 11 日（月曜日）時点での、未回答の大学名と ID を報告する。

5. 注意事項

- ・ 事前に業者とオンラインでの打ち合わせができること
- ・ ISMS 認証（ISO/IEC 27001（JIS Q 27001））若しくはプライバシーマークを取得していること又はこれと同等以上の情報保護体制を有していること。
- ・ 本業務の過程で収集・作成又は本センターから提供された情報は、本業務の目的の他に利用しないこと。
- ・ 本業務の過程で収集・作成又は本センターから提供された情報が第三者へ漏洩又は改竄されないことを保証する履行体制を有し、機密性、完全性及び可用性の観点よりアクセス制御・暗号化等の適切なセキュリティ対策を講ずること。セキュリティ対策の実施に当たっては、本センターが定める情報セキュリティ関連規程等を参照すること。
- ・ 本業務の過程で収集・作成又は本センターから提供された情報を保管するサーバーを設置しているデータセンター等は日本国内に立地し、準拠法が国内法であること。
- ・ 本業務の遂行において、情報セキュリティが侵害され又はその恐れがある場合は、速やかに本センターに報告し、原因究明及びその対処方法等について協議し実施すること。
- ・ 本業務の一部を別の事業者にも再委託させようとする場合は、上記の措置の実施を契約等により再委託先に担保させること。更に、再委託先の情報セキュリティ対策の実施状況を確認す

2021 年 8 月 18 日

- るために必要な情報を本センターに提供し、その承認を受けること。
- ・ 本業務の過程で収集・作成又は本センターから提供された情報は、本業務の完了後速やかに本センターに返却又は抹消すること。

B.2 質問項目仕様リスト

2021/08/26

別紙2：質問項目仕様リスト

令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査

「任意」と明記した以外の項目は入力必須とする。

回答必須の質問項目に未回答の場合にエラーを表示し、かつ、回答送信ができないようにすること。

ID	大学ごとに設定したもの
パスワード	大学ごとに設定したもの

A. 貴大学の情報

QA-1	1桁または2桁の半角数字	全角で入力された場合は半角に変換。	
QA-2	選択肢範囲	12345 複数選択可	
(a)	選択肢範囲	1234 1つのみ選択	
QA-3	(b)	選択肢範囲	1234 1つのみ選択
(c)	選択肢範囲	1234 1つのみ選択	
(a)	選択肢範囲	1234 1つのみ選択	
QA-4	(b)	選択肢範囲	1234 1つのみ選択
(c)	選択肢範囲	1234 1つのみ選択	

IDの特定の桁で設置形態（国立、公立、私立、公立短期大学、私立短期大学）が区別できるように設定する。

1 / 7 ページ

2021/08/26

B. 大学入学共通テストの利用について

QB-1	選択肢範囲	123	複数選択可
------	-------	-----	-------

QB-1で1を選んだ場合はQB-2～QB-5に回答する			
QB-2	選択肢範囲	1234	複数選択可
	4の自由記述	最大500文字	任意

QB-3	(a)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(g)	自由記述	最大500文字	任意

QB-4	(a)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	12345	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択肢範囲	12	1つのみ選択
QB-4(f)で2を選んだ場合は自由記述				
(f)の自由記述			最大500文字	任意

QB-5	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
------	-------	------	--------

QB-1で2を選んだ場合はQB-6～QB-9に回答する			
QB-6	選択肢範囲	1234	複数選択可
	4の自由記述	最大500文字	任意

QB-7	(a)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(g)	自由記述	最大500文字	任意

QB-8	(a)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	12345	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択肢範囲	12	1つのみ選択
QB-8(f)で2を選んだ場合は自由記述				
(f)の自由記述			最大500文字	任意

QB-9	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
------	-------	------	--------

QB-1で3を選んだ場合はQB-10～QB-13に回答する			
QB-10	選択肢範囲	1234	複数選択可
	4の自由記述	最大500文字	任意

QB-11	(a)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(g)	自由記述	最大500文字	任意

QB-12	(a)	選択可能範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択可能範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択可能範囲	12345	1つのみ選択
	(d)	選択可能範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択可能範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択可能範囲	12	1つのみ選択
QB-12(f)で2を選んだ場合は自由記述				
(f)の自由記述			最大500文字	任意

QB-13	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
-------	-------	------	--------

C. 一般選抜における多面的・総合的評価等について

QC-1	(a)	選択肢範囲	12	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	12	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	12	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	12	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	12	1つのみ選択

QC-2	(a)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(g)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(h)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択

QC-3	(a)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(g)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(h)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択

QC-4	(a)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(g)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(h)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択

QC-5	(a)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(g)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(h)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択

QC-6	(a)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(g)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(h)	選択肢範囲	1234	1つのみ選択

2021/08/26

QC-7	自由記述	最大500文字	任意
QC-8	選択肢範囲	1234	1つのみ選択
QC-9	自由記述	最大500文字	任意
QC-10	自由記述	最大500文字	任意

QC-8で3または4を選んだ場合はQC-9に回答する

2021/08/26

D. 総合型選抜において大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価する方法について

QD-1	選択肢範囲	123456	1つのみ選択
------	-------	--------	--------

QD-1で2～5を選んだ場合はQD-2に回答する			
QD-2	(a) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択

QD-1で1～5を選んだ場合はQD-3に回答する			
QD-3	選択肢範囲	123456789	複数選択可
	8の自由記述	最大500文字	任意

QD-3で6または7を選んだ場合はQD-4に回答する			
QD-4	(a) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択

QD-1で1～5を選んだ場合はQD-5に回答する			
QD-5	自由記述	最大500文字	任意

E. 学校推薦型選抜において大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力を評価する方法について

QE-1	選択肢範囲	123456	1つのみ選択
------	-------	--------	--------

QE-1で2～5を選んだ場合はQE-2に回答する			
QE-2	(a) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択

QE-1で1～5を選んだ場合はQE-3に回答する			
QE-3	選択肢範囲	123456789	複数選択可
	8の自由記述	最大500文字	任意

QE-3で6または7を選んだ場合はQE-4に回答する			
QE-4	(a) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(b) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(c) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(d) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(e) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択
	(f) 選択肢範囲	1234	1つのみ選択

QE-1で1～5を選んだ場合はQE-5に回答する			
QE-5	自由記述	最大500文字	任意

2021/08/26

F. 入試改善に向けた取組の実施状況および必要性について

QF-1	(a)	選択範囲	12	1つのみ選択
	(b)	選択範囲	12	1つのみ選択
	(c)	選択範囲	12	1つのみ選択
	(d)	選択範囲	12	1つのみ選択
	(e)	選択範囲	12	1つのみ選択
	(f)	選択範囲	12	1つのみ選択
	(g)	選択範囲	12	1つのみ選択
	(h)	選択範囲	12	1つのみ選択
	(i)	自由記述	最大500文字	任意

QF-2	(a)	選択範囲	1234	1つのみ選択
	(b)	選択範囲	1234	1つのみ選択
	(c)	選択範囲	1234	1つのみ選択
	(d)	選択範囲	1234	1つのみ選択
	(e)	選択範囲	1234	1つのみ選択
	(f)	選択範囲	1234	1つのみ選択
	(g)	選択範囲	1234	1つのみ選択
	(h)	選択範囲	1234	1つのみ選択

2021/08/26

G. 貴大学の入学者選抜の課題，大学入学共通テストについてのご意見，大学入試センターへのご要望，大学入試全般に関わるご意見

G	自由記述	最大500文字	任意
---	------	---------	----

B.3 回答フォームの画面構成

2021/8/26

別紙3：回答フォームの画面構成

令和3年度大学入学選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査

画面番号	質問項目等	備考
1	ID, パスワード	
2	QA-1, 2, 3, 4	
3	QB-1	
4	QB-2, 3, 4, 5	QB-1で選択肢1が選択された場合に表示
5	QB-6, 7, 8, 9	QB-1で選択肢2が選択された場合に表示
6	QB-10, 11, 12, 13	QB-1で選択肢3が選択された場合に表示
7	QC-1, 2, 3, 4, 5, 6	
8	QC-7, 8	
9	QC-9	QC-8で選択肢3, 4のいずれかが選択された場合に表示
10	QC-10	
11	QD-1	
12	QD-2	QD-1で選択肢2, 3, 4, 5のいずれかが選択された場合に表示
13	QD-3	QD-1で選択肢1, 2, 3, 4, 5のいずれかが選択された場合に表示
14	QD-4	QD-3で選択肢6, 7の一方または両方が選択された場合に表示
15	QD-5	QD-1で選択肢1, 2, 3, 4, 5のいずれかが選択された場合に表示
16	QE-1	
17	QE-2	QE-1で選択肢2, 3, 4, 5のいずれかが選択された場合に表示
18	QE-3	QE-1で選択肢1, 2, 3, 4, 5のいずれかが選択された場合に表示
19	QE-4	QE-3で選択肢6, 7の一方または両方が選択された場合に表示
20	QE-5	QE-1で選択肢1, 2, 3, 4, 5のいずれかが選択された場合に表示
21	QF-1, 2	
22	G	
23	確認画面	回答済みの質問項目・選択肢番号(自由記述欄は入力内容)の一覧を表示
24	回答完了	ダミーのエンドページによる表示

付録C web フォームの画面

web フォームの画面イメージを次頁以降に示す。web フォームはログイン画面（1 ページ）、アンケート画面（22 ページ）、回答完了画面（1 ページ）の 3 つの領域からなる。アンケート画面は複数のページに分かれており、各ページの最上部と最下部に設置された「次へ」または「前のページに戻る」ボタンを押すことによってページの移動ができるようになっている。但し、本付録に掲載したアンケート画面は回答受付期間中の実際の web フォームの画面ではなく、画面確認用の html ファイルを web ブラウザで表示したものであるため、回答内容確認ページを除き、「前のページに戻る」ボタンが省略されている。また、本付録では各 web ページの左上にページ番号を付し、アンケート画面が web ブラウザ上でどのようにページ分けされているかが分かるようにした。ログイン画面と回答完了画面はどちらも 1 ページのみであるため、ページ番号は付していない。なお、回答内容確認ページ（アンケート画面の最終ページ）のイメージは、web フォームのシステムの動作確認のために模擬回答を行った際の画面である。本付録に掲載するにあたり、付録 A.1 および付録 A.3 と同様に調査の委託業者名やメールアドレスを削除し、削除した箇所に【 委託業者名 】等の表示を付した。

令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査

大学入試センター研究開発部が実施する
「令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査」の
回答フォームへのログイン画面です。

！ 調査実施要項

◇ 実施期間

2021年11月22日(月)まで

◇ 調査主体

大学入試センター研究開発部

◇ 調査運営

【 委託業者名 】 アンケート事務局

◇ 調査情報の利用目的

調査でご回答頂きました情報は、統計的な処理を行い、個人を特定できない情報として使用されますので、プライバシーにかかわる情報が公表されることは決してございません。
大学入試センター研究開発部の個人情報の取り扱いにつきましては、独立行政法人大学入試センター研究倫理規則をご覧ください。

！ 推奨環境について

回答フォームに進むためには下記の環境が必要です。

OS / ブラウザ

・Microsoft Windows 8.1 / 10
Microsoft Edge
Firefox
Chrome

・iOS 12 / 13 / 14
Safari

・Android 8 / 9 / 10
Chrome

その他の設定、プラグインについて

- ・JavaScriptを有効にしてください。
- ・Cookieを有効(受け入れる)にしてください。

！ お問い合わせ窓口

◇ 調査の内容に関するお問い合わせ(質問内容やテーマについて等)

調査主体: 大学入試センター研究開発部

お問い合わせ先: 大学入試センター研究開発部 教授 椎名 久美子, 准教授 荒井 清佳

【 メールアドレス 】

FAX: 【 FAX番号 】

◇ 調査のシステムに関するお問い合わせ(回答出来ない/ページが表示されない等)

調査運営: 【 委託業者名 】 アンケート事務局

お問い合わせ先: こちらの入力フォームからお問い合わせください。

！ 注意事項

- (1) 回答の控えが必要な場合は、すべての質問への回答が終了した後に表示される回答の一覧の画面を印刷してください。
- (2) 回答途中でブラウザを閉じた場合、再ログインすると回答途中の画面から再開します。
- (3) 回答を送信した後、回答期間中に再ログインすると、回答の一覧の画面が表示されます。回答を変更したい場合は、当該質問項目の画面まで「戻る」ことで変更が可能です。

【 委託業者名 】 から送付されたIDとパスワードを入力して、回答フォームに進んでください。



ID

パスワード

上記に同意して調査に参加する

「上記に同意して調査に参加」ボタンを押すと次ページより調査が開始します。

アンケート画面開始

Page 1

※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)

0 50 100(%)

次へ

A. はじめに貴大学の情報を入力してください。

QA-1

貴大学の学部数(令和3年4月1日現在)を記入してください。
名称が学部でない場合は学部に対応するものの数を記入してください。
(半角数字で入力)

学部

QA-2

貴大学にはどのような入試関連の組織がありますか。
該当するものをすべて選択してください。(複数選択可)

- 1 ☐ 1. 全学の委員会
- 2 ☐ 2. 部局の委員会(学部・学科等に設置された入試委員会等)
- 3 ☐ 3. アドミッション・オフィス等
(アドミッション・オフィス, アドミッション・センター, 入学センター等)
- 4 ☐ 4. 事務局(入試課等)
- 5 ☐ 5. 機関研究や教学マネジメントを行う組織(IR部門(※1)やEM部門(※2)等)の入試担当部署

※1: インスティテューショナル・リサーチ

※2: エンロールメント・マネジメント

QA-3

貴大学の令和3年度大学入学者選抜において、入試制度改革の影響をどの程度受けましたか。
次の(a)～(c)それぞれについて、当てはまるものを一つずつ選択してください。

 回答方向		1	2	3	4	
		受けていない	あまり受けていない	やや受けた	受けた	
		(a) 一般選抜	1○	2○	3○	4○
		(b) 総合型選抜	1○	2○	3○	4○
(c) 学校推薦型選抜	1○	2○	3○	4○		

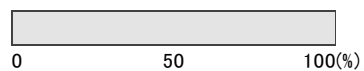
QA-4

貴大学の令和3年度大学入学選抜において、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の影響をどの程度受けましたか。

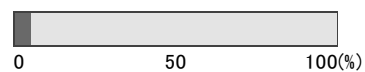
次の(a)～(c)それぞれについて、当てはまるものを一つずつ選択してください。

 回答方向		1	2	3	4	
		受けていない	あまり受けていない	やや受けた	受けた	
		(a) 一般選抜	1○	2○	3○	4○
		(b) 総合型選抜	1○	2○	3○	4○
(c) 学校推薦型選抜	1○	2○	3○	4○		

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

B. 大学入学共通テストの利用についてお尋ねします。

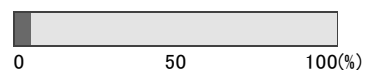
QB-1

次のうち、貴大学の入学者選抜において、大学入学共通テストを課している入試方法をすべて選択してください。

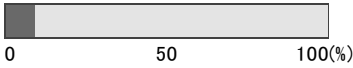
該当する選抜区分が一つでもある場合は選択してください。(複数選択可)

- 1 ☐ 1. 一般選抜
- 2 ☐ 2. 総合型選抜
- 3 ☐ 3. 学校推薦型選抜

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

QB-2
一般選抜において、貴大学では大学入学共通テストをどのように利用していますか。
次のうち、該当するものをすべて選択してください。(複数選択可)

- ☐ 1. 共通テストの得点のみで合否判定を行う
- ☐ 2. 共通テストの得点をもとに、貴大学の個別試験の受験者を決定する(二段階選抜)
- ☐ 3. 共通テストと貴大学の個別試験の得点を総合して合否判定を行う
- ☐ 4. その他
(自由記述:入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)



QB-3
一般選抜において、貴大学が大学入学共通テストを利用する利点として次の(a)～(f)の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。(それぞれひとつずつ)
また、その他に利点があれば(g)に記入してください。

 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(a)	試験問題が信頼できる(内容、出題範囲、難易度等)	1○	2○	3○	4○
(b)	各受験生が居住地で受験できる	1○	2○	3○	4○
(c)	試験科目数が多い	1○	2○	3○	4○
(d)	受験生に課す試験科目を選ぶことができる	1○	2○	3○	4○
(e)	選抜に必要な試験結果の情報が提供される	1○	2○	3○	4○

 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(f)	自大学で試験問題を作成しなくてよい	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○

(g) その他
 (自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)



QB-4

一般選抜において、大学入学共通テストに関する次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

(a)
 試験の実施日程が適切である

- 1 ○ 1. 当てはまらない
 2 ○ 2. あまり当てはまらない
 3 ○ 3. やや当てはまる
 4 ○ 4. 当てはまる

(b)
 成績の提供日程が適切である

- 1 ○ 1. 当てはまらない
 2 ○ 2. あまり当てはまらない
 3 ○ 3. やや当てはまる
 4 ○ 4. 当てはまる

(c)
 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度

- 1 ○ 1. 易しい
 2 ○ 2. やや易しい

- 3 ☐ 3. どちらともいえない
 4 ☐ 4. やや難しい
 5 ☐ 5. 難しい

(d)
 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である

- 1 ☐ 1. 当てはまらない
 2 ☐ 2. あまり当てはまらない
 3 ☐ 3. やや当てはまる
 4 ☐ 4. 当てはまる

(e)
 試験問題の識別力(受験生の成績に差がつくかどうか)が適切である

- 1 ☐ 1. 当てはまらない
 2 ☐ 2. あまり当てはまらない
 3 ☐ 3. やや当てはまる
 4 ☐ 4. 当てはまる

(f)
 共通テストの得点を貴大学独自の段階表示に変換して利用した

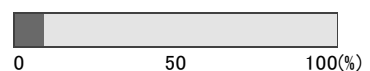
- 1 ☐ 1. 利用しなかった
 2 ☐ 2. 利用した
 (利用法の自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると, 入力欄を広げることができます。)



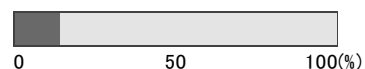
QB-5
 一般選抜において, 大学入学共通テストは選抜に役立ちましたか。

- 1 ☐ 1. 役立たなかった
 2 ☐ 2. あまり役立たなかった
 3 ☐ 3. ある程度役立った
 4 ☐ 4. 役立った

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

QB-6

総合型選抜において、貴大学では大学入学共通テストをどのように利用していますか。
次のうち、該当するものをすべて選択してください。(複数選択可)

- 1 ☐ 1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う
- 2 ☐ 2. 共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする
- 3 ☐ 3. 共通テストの受験は任意とする
- 4 ☐ 4. その他
(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)

QB-7

総合型選抜において、貴大学が大学入学共通テストを利用する利点として次の(a)～(f)の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。(それぞれひとつずつ)
また、その他に利点があれば(g)に記入してください。

 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(a)	試験問題が信頼できる(内容、出題範囲、難易度等)	1○	2○	3○	4○
(b)	各受験生が居住地で受験できる	1○	2○	3○	4○
(c)	試験科目数が多い	1○	2○	3○	4○
(d)	受験生に課す試験科目を選ぶことができる	1○	2○	3○	4○
(e)	選抜に必要な試験結果の情報が提供される	1○	2○	3○	4○

 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(f)	自大学で試験問題を作成しなくてよい	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○

(g) その他
 (自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると, 入力欄を広げることができます。)



QB-8

総合型選抜において, 大学入学共通テストに関する次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

(a)
 試験の実施日程が適切である

- 1 ○ 1. 当てはまらない
 2 ○ 2. あまり当てはまらない
 3 ○ 3. やや当てはまる
 4 ○ 4. 当てはまる

(b)
 成績の提供日程が適切である

- 1 ○ 1. 当てはまらない
 2 ○ 2. あまり当てはまらない
 3 ○ 3. やや当てはまる
 4 ○ 4. 当てはまる

(c)
 貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度

- 1 ○ 1. 易しい
 2 ○ 2. やや易しい

- 3 ☐ 3. どちらともいえない
 4 ☐ 4. やや難しい
 5 ☐ 5. 難しい

(d)
 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である

- 1 ☐ 1. 当てはまらない
 2 ☐ 2. あまり当てはまらない
 3 ☐ 3. やや当てはまる
 4 ☐ 4. 当てはまる

(e)
 試験問題の識別力(受験生の成績に差がつくかどうか)が適切である

- 1 ☐ 1. 当てはまらない
 2 ☐ 2. あまり当てはまらない
 3 ☐ 3. やや当てはまる
 4 ☐ 4. 当てはまる

(f)
 共通テストの得点を貴大学独自の段階表示に変換して利用した

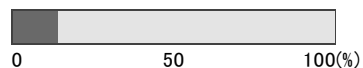
- 1 ☐ 1. 利用しなかった
 2 ☐ 2. 利用した
 (利用法の自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)



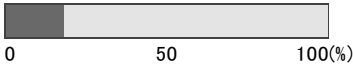
QB-9
総合型選抜において、大学入学共通テストは選抜に役立ちましたか。

- 1 ☐ 1. 役立たなかった
 2 ☐ 2. あまり役立たなかった
 3 ☐ 3. ある程度役立った
 4 ☐ 4. 役立った

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

QB-10
学校推薦型選抜において、貴大学では大学入学共通テストをどのように利用していますか。
次のうち、該当するものをすべて選択してください。(複数選択可)

- ☐ 1. 共通テストの得点と他の選抜資料で総合的に合否判定を行う
- ☐ 2. 共通テストで一定以上の得点を合格の要件とする
- ☐ 3. 共通テストの受験は任意とする
- ☐ 4. その他
(自由記述:入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)



QB-11
学校推薦型選抜において、貴大学が大学入学共通テストを利用する利点として次の(a)～(f)の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。(それぞれひとつずつ)
また、その他に利点があれば(g)に記入してください。

 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(a)	試験問題が信頼できる(内容、出題範囲、難易度等)	1○	2○	3○	4○
(b)	各受験生が居住地で受験できる	1○	2○	3○	4○
(c)	試験科目数が多い	1○	2○	3○	4○
(d)	受験生に課す試験科目を選ぶことができる	1○	2○	3○	4○
(e)	選抜に必要な試験結果の情報が提供される	1○	2○	3○	4○

 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(f)	自大学で試験問題を作成しなくてよい	1 ○	2 ○	3 ○	4 ○

(g) その他
(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると, 入力欄を広げることができます。)



QB-12

学校推薦型選抜において, 大学入学共通テストに関する次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

(a)
試験の実施日程が適切である

- 1 ○ 1. 当てはまらない
2 ○ 2. あまり当てはまらない
3 ○ 3. やや当てはまる
4 ○ 4. 当てはまる

(b)
成績の提供日程が適切である

- 1 ○ 1. 当てはまらない
2 ○ 2. あまり当てはまらない
3 ○ 3. やや当てはまる
4 ○ 4. 当てはまる

(c)
貴大学の受験生にとっての試験問題の難易度

- 1 ○ 1. 易しい
2 ○ 2. やや易しい

- 3 ☐ 3. どちらともいえない
 4 ☐ 4. やや難しい
 5 ☐ 5. 難しい

(d)
 貴大学にとって試験問題の難易度が適切である

- 1 ☐ 1. 当てはまらない
 2 ☐ 2. あまり当てはまらない
 3 ☐ 3. やや当てはまる
 4 ☐ 4. 当てはまる

(e)
 試験問題の識別力(受験生の成績に差がつくかどうか)が適切である

- 1 ☐ 1. 当てはまらない
 2 ☐ 2. あまり当てはまらない
 3 ☐ 3. やや当てはまる
 4 ☐ 4. 当てはまる

(f)
 共通テストの得点を貴大学独自の段階表示に変換して利用した

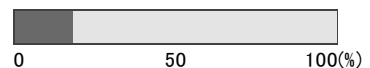
- 1 ☐ 1. 利用しなかった
 2 ☐ 2. 利用した
 (利用法の自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると, 入力欄を広げることができます。)



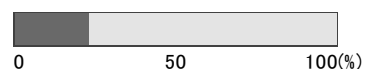
QB-13
 学校推薦型選抜において, 大学入学共通テストは選抜に役立ちましたか。

- 1 ☐ 1. 役立たなかった
 2 ☐ 2. あまり役立たなかった
 3 ☐ 3. ある程度役立った
 4 ☐ 4. 役立った

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

C. 一般選抜における多面的・総合的評価等についてお尋ねします。

ここでは、学力検査以外の評価方法として、次の5種類についてお尋ねします。

評価方法	例
調査書	
調査書以外の書面	推薦書、大学入学希望理由書、学修計画書、活動報告書等、生徒の探究的な学習成果等に関する資料等、国際バカロレアの成績、資格・検定試験の成績、活動歴・顕彰・表彰等
検査	基礎学力把握のための筆記（または CBT）による簡単な検査、適性、実技等
小論文等	レポート、小論文、英語による小論文やエッセイ等
面接・討論等	面接、討論、口頭試問、プレゼンテーション、英語による面接・プレゼンテーション・討論等、大学における学習成果等（模擬講義、事前課題）

QC-1

一般選抜において、学力検査以外の評価方法を利用している選抜区分はありますか。次の(a)～(e)それぞれについて、当てはまるものを選択してください。

 回答方向		1	2
(a)	調査書	1○	2○
(b)	調査書以外の書面	1○	2○
(c)	検査	1○	2○
(d)	小論文等	1○	2○
(e)	面接・討論等	1○	2○

QC-2

一般選抜での「調査書」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

一般選抜で「調査書」を利用していない大学もご回答ください。

 回答方向		1 当てはまらない	2 あまり当てはまらない	3 やや当てはまる	4 当てはまる
(a)	大学の入学者受入方針(アドミッションポリシー)に照らして必要性が高い	1○	2○	3○	4○
(b)	評価基準の設定が難しい	1○	2○	3○	4○
(c)	評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい	1○	2○	3○	4○
(d)	公平に評価するのが難しい	1○	2○	3○	4○
(e)	評価するための人員が不足している	1○	2○	3○	4○
(f)	評価するための時間が不足している	1○	2○	3○	4○
(g)	評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい	1○	2○	3○	4○
(h)	利用の仕方に関する情報が不足している	1○	2○	3○	4○

QC-3

一般選抜での「調査書以外の書面」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

一般選抜で「調査書以外の書面」を利用していない大学もご回答ください。

 回答方向		1 当てはまらない	2 あまり当てはまらない	3 やや当てはまる	4 当てはまる
(a)	大学の入学者受入方針(アドミッションポリシー)に照らして必要性が高い	1○	2○	3○	4○
(b)	評価基準の設定が難しい	1○	2○	3○	4○
(c)	評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい	1○	2○	3○	4○
(d)	公平に評価するのが難しい	1○	2○	3○	4○

 回答方向		1 当てはまらない	2 あまり当てはまらない	3 やや当てはまる	4 当てはまる
(e)	評価するための人員が不足している	1○	2○	3○	4○
(f)	評価するための時間が不足している	1○	2○	3○	4○
(g)	評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい	1○	2○	3○	4○
(h)	利用の仕方に関する情報が不足している	1○	2○	3○	4○

QC-4

一般選抜での「検査」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。
 一般選抜で「検査」を利用していない大学もご回答ください。

 回答方向		1 当てはまらない	2 あまり当てはまらない	3 やや当てはまる	4 当てはまる
(a)	大学の入学者受入方針(アドミッションポリシー)に照らして必要性が高い	1○	2○	3○	4○
(b)	評価基準の設定が難しい	1○	2○	3○	4○
(c)	評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい	1○	2○	3○	4○
(d)	公平に評価するのが難しい	1○	2○	3○	4○
(e)	評価するための人員が不足している	1○	2○	3○	4○
(f)	評価するための時間が不足している	1○	2○	3○	4○
(g)	評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい	1○	2○	3○	4○
(h)	利用の仕方に関する情報が不足している	1○	2○	3○	4○

QC-5

一般選抜での「小論文等」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

一般選抜で「小論文等」を利用していない大学もご回答ください。

 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(a)	大学の入学者受入方針(アドミッションポリシー)に照らして必要性が高い	1○	2○	3○	4○
(b)	評価基準の設定が難しい	1○	2○	3○	4○
(c)	評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい	1○	2○	3○	4○
(d)	公平に評価するのが難しい	1○	2○	3○	4○
(e)	評価するための人員が不足している	1○	2○	3○	4○
(f)	評価するための時間が不足している	1○	2○	3○	4○
(g)	評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい	1○	2○	3○	4○
(h)	利用の仕方に関する情報が不足している	1○	2○	3○	4○

QC-6

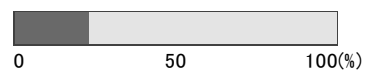
一般選抜での「面接・討論等」の利用に関して、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

一般選抜で「面接・討論等」を利用していない大学もご回答ください。

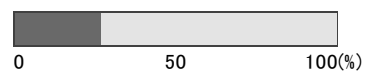
 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(a)	大学の入学者受入方針(アドミッションポリシー)に照らして必要性が高い	1○	2○	3○	4○

 回答方向		1 当てはまらない	2 あまり当てはまらない	3 やや当てはまる	4 当てはまる
(b)	評価基準の設定が難しい	1○	2○	3○	4○
(c)	評価結果をどのように合否判定に反映させるかが難しい	1○	2○	3○	4○
(d)	公平に評価するのが難しい	1○	2○	3○	4○
(e)	評価するための人員が不足している	1○	2○	3○	4○
(f)	評価するための時間が不足している	1○	2○	3○	4○
(g)	評価方法に関する教職員研修の機会の確保が難しい	1○	2○	3○	4○
(h)	利用の仕方に関する情報が不足している	1○	2○	3○	4○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

QC-7

一般選抜における学力検査以外の評価方法に関して、課題と考えていることがあれば記入してください。

(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)

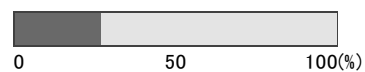


QC-8

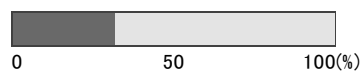
一般選抜における学力検査以外の入試の実施体制に関して、部局間の調整は難しいですか。

- 1 ☐ 1. 難しい
- 2 ☐ 2. あまり難しい
- 3 ☐ 3. やや難しい
- 4 ☐ 4. 難しい

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

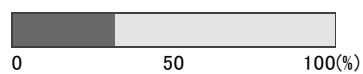
QC-9

部局間の調整に関して、具体的にどのような調整が難しいですか。

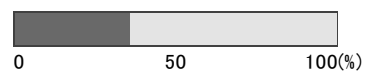
(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)



次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

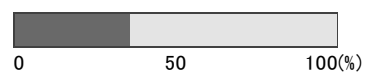
QC-10

学力検査以外の評価方法を利用する一般選抜入試の実施体制に関して、部局間の調整の他に課題があれば記入してください。

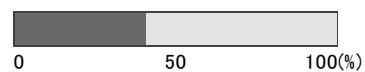
(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)



次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

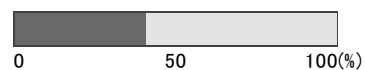
D. 総合型選抜において, 大学教育を受けるために必要な知識・技能, 思考力・判断力・表現力等を評価する方法についてお尋ねします。

QD-1

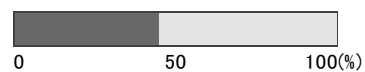
貴大学の総合型選抜において, 大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分はどの程度ありますか。

- 1 ☐ 1. ない
- 2 ☐ 2. 一部
- 3 ☐ 3. 半数程度
- 4 ☐ 4. かなり
- 5 ☐ 5. すべて
- 6 ☐ 6. 総合型選抜を実施していない

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



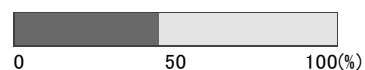
次へ

QD-2

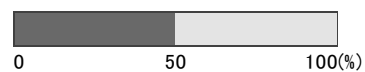
貴大学の総合型選抜で課している「各教科・科目に係るテスト」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(a)	自大学の志願者に合わせた難易度にできる	1○	2○	3○	4○
(b)	アドミッションポリシーに合わせた出題内容にできる	1○	2○	3○	4○
(c)	問題の作成が負担である	1○	2○	3○	4○
(d)	問題の点検が負担である	1○	2○	3○	4○
(e)	採点が負担である	1○	2○	3○	4○
(f)	入学後のクラス分けの資料としても活用できる	1○	2○	3○	4○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

QD-3

大学入学共通テストや「各教科・科目に係るテスト」以外で、次のうち、貴大学の総合型選抜で課しているものをすべて選択してください。(複数選択可)
課しているものがない場合は、「9. 課しているものはない」を選択してください。

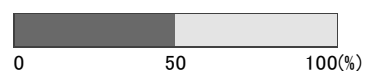
- 1 ☐ 1. 小論文等
- 2 ☐ 2. プレゼンテーション
- 3 ☐ 3. 口頭試問
- 4 ☐ 4. 実技
- 5 ☐ 5. 資格・検定試験の成績等
- 6 ☐ 6. 基礎学力把握のための筆記による簡易な検査
- 7 ☐ 7. 基礎学力把握のためのCBTによる簡易な検査

- 8 ☐ 8. その他
(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)

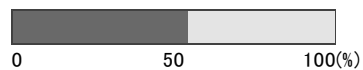
- 9 ☐ 9. 課しているものはない



次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



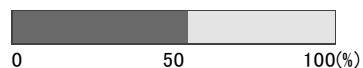
次へ

QD-4

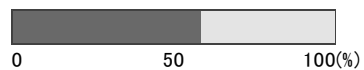
貴大学の総合型選抜で課している「基礎学力把握のための簡易な検査」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(a)	自大学の志願者に合わせた難易度ができる	1○	2○	3○	4○
(b)	アドミッションポリシーに合わせた出題内容にできる	1○	2○	3○	4○
(c)	問題の作成が負担である	1○	2○	3○	4○
(d)	問題の点検が負担である	1○	2○	3○	4○
(e)	採点が負担である	1○	2○	3○	4○
(f)	入学後のクラス分けの資料としても活用できる	1○	2○	3○	4○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

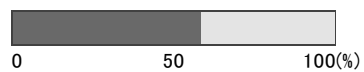
QD-5

総合型選抜において、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関して課題があれば記入してください。

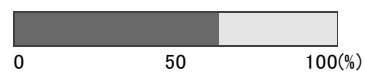
(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)



次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

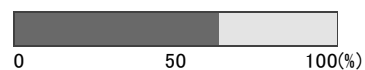
E. 学校推薦型選抜において、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法についてお尋ねします。

QE-1

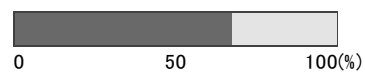
貴大学の学校推薦型選抜において、大学入学共通テスト以外の各教科・科目に係るテストを課している選抜区分はどの程度ありますか。

- 1 ☐ 1. ない
- 2 ☐ 2. 一部
- 3 ☐ 3. 半数程度
- 4 ☐ 4. かなり
- 5 ☐ 5. すべて
- 6 ☐ 6. 学校推薦型選抜を実施していない

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



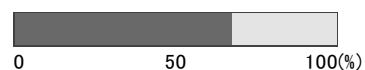
次へ

QE-2

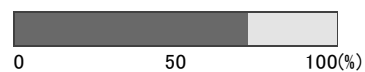
貴大学の学校推薦型選抜で課している「各教科・科目に係るテスト」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

 回答方向		1 当てはまらない	2 あまり当てはまらない	3 やや当てはまる	4 当てはまる
(a)	自大学の志願者に合わせた難易度にできる	1○	2○	3○	4○
(b)	アドミッションポリシーに合わせた出題内容にできる	1○	2○	3○	4○
(c)	問題の作成が負担である	1○	2○	3○	4○
(d)	問題の点検が負担である	1○	2○	3○	4○
(e)	採点が負担である	1○	2○	3○	4○
(f)	入学後のクラス分けの資料としても活用できる	1○	2○	3○	4○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

QE-3

大学入学共通テストや「各教科・科目に係るテスト」以外で、次のうち、貴大学の学校推薦型選抜で課しているものをすべて選択してください。(複数選択可)
課しているものがない場合は、「9. 課しているものはない」を選択してください。

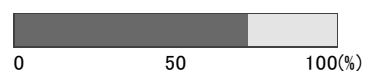
- 1 ☐ 1. 小論文等
- 2 ☐ 2. プレゼンテーション
- 3 ☐ 3. 口頭試問
- 4 ☐ 4. 実技
- 5 ☐ 5. 資格・検定試験の成績等
- 6 ☐ 6. 基礎学力把握のための筆記による簡易な検査
- 7 ☐ 7. 基礎学力把握のためのCBTによる簡易な検査
- 8 ☐ 8. その他

(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)

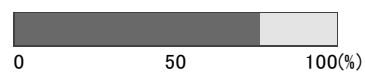
- 9 ☐ 9. 課しているものはない



次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



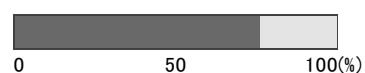
次へ

QE-4

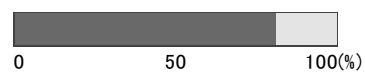
貴大学の学校推薦型選抜で課している「基礎学力把握のための簡易な検査」について、次の項目について当てはまる程度を一つずつ選択してください。

 回答方向		1	2	3	4
		当てはまらない	あまり当てはまらない	やや当てはまる	当てはまる
(a)	自大学の志願者に合わせた難易度にできる	1○	2○	3○	4○
(b)	アドミッションポリシーに合わせた出題内容にできる	1○	2○	3○	4○
(c)	問題の作成が負担である	1○	2○	3○	4○
(d)	問題の点検が負担である	1○	2○	3○	4○
(e)	採点が負担である	1○	2○	3○	4○
(f)	入学後のクラス分けの資料としても活用できる	1○	2○	3○	4○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

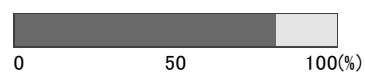
QE-5

学校推薦型選抜において、大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を評価する方法に関して課題があれば記入してください。

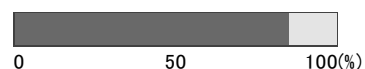
(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると、入力欄を広げることができます。)



次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

F. 貴大学における入試改善に向けた取り組みの実施状況および必要性についてお尋ねします。

QF-1

次の(a)～(h)の項目の実施状況について、当てはまるものを選択してください。
(それぞれひとつずつ)

また、その他に実施している取り組みがあれば(i)に記入してください。

 回答方向	1	2
	おこなっていない	おこなっている
(a)	志願者(合格者, 入学者等)の属性分析	1○ 2○
(b)	学力検査の難易度, 識別性等の評価	1○ 2○
(c)	学力検査の問題の内容の検証	1○ 2○
(d)	学力検査以外の課題(小論文, 面接, 討論, 実技等)の内容の検証	1○ 2○
(e)	選抜資料(学力検査, 小論文, 面接, 討論, 実技, 調査書・推薦書等)と入学後成績の関連性に関する追跡調査	1○ 2○
(f)	新しい評価方法の開発(学力検査, 小論文, 面接, 討論, 実技等の新規開発)	1○ 2○
(g)	入試データの整備や利活用のための情報システムの構築	1○ 2○
(h)	入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討	1○ 2○

(i) 入試改善に向けたその他の取り組み
(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると, 入力欄を広げることができます。)

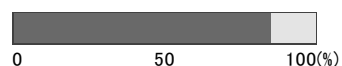


QF-2

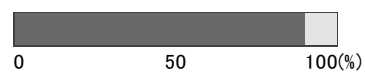
次の項目の必要性について、貴大学の考えとして当てはまるものを選択してください。

 回答方向		1	2	3	4
		必要性はない	あまり必要性はない	ある程度必要性がある	高い必要性がある
(a)	志願者(合格者, 入学者等)の属性分析	1○	2○	3○	4○
(b)	学力検査の難易度, 識別性等の評価	1○	2○	3○	4○
(c)	学力検査の問題の内容の検証	1○	2○	3○	4○
(d)	学力検査以外の課題(小論文, 面接, 討論, 実技等)の内容の検証	1○	2○	3○	4○
(e)	選抜資料(学力検査, 小論文, 面接, 討論, 実技, 調査書・推薦書等)と入学後成績の関連性に関する追跡調査	1○	2○	3○	4○
(f)	新しい評価方法の開発(学力検査, 小論文, 面接, 討論, 実技等の新規開発)	1○	2○	3○	4○
(g)	入試データの整備や利活用のための情報システムの構築	1○	2○	3○	4○
(h)	入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討	1○	2○	3○	4○

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



次へ

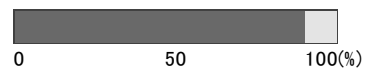
QG

貴大学の入学者選抜の課題(QC-7, QC-9, QC-10, QD-5, QE-5以外の課題), 大学入学共通テストについてのご意見, 大学入試センターへのご要望, 大学入試全般に関わるご意見など, 何かありましたら記入してください。

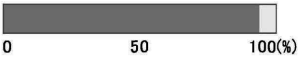
(自由記述: 入力欄の右下をドラッグすると, 入力欄を広げることができます。)

A rectangular text input area with a light gray border. In the bottom right corner, there is a small icon consisting of two parallel diagonal lines, indicating a drag handle to expand the area.

次へ



※回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。(それまでの回答が無効になりますのでご注意ください)



回答内容確認ページ

回答の一覧を表示します。控えが必要な場合はこの画面を印刷してください。
回答を確認できたら、最下部の「送信」ボタンを押してください。

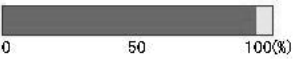
ページを印刷する

QA_1	設問文	貴大学の学部数(令和3年4月1日現在)を記入してください。 名称が学部でない場合は学部に相当するものの数を記入してください。 (半角数字で入力)
	回 答	2 学部
QA_2	設問文	貴大学にはどのような入試関連の組織がありますか。 該当するものをすべて選択してください。
	回 答	・1.全学の委員会 ・3.アドミッション・オフィス等(アドミッション・オフィス,アドミッション・センター,入学センター等)

～途中省略～

QF_2_8	設問文	(h) 入試の分析・評価結果に基づく改善に向けた検討
	回 答	ある程度必要性がある
QG	設問文	貴大学の入学選抜の課題(QC-7、QC-9、QC-10、QD-5、QE-5以外の課題)、大学入学共通テストについてのご意見、大学入試センターへのご要望、大学入試全般に関わるご意見など、何かありましたら記入してください。
	回 答	(未回答)

前のページに戻る 送信



令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査

ご協力ありがとうございました。

回答期間中に再ログインすると、回答の一覧の画面が表示されます。

回答を変更したい場合は、当該質問項目の画面まで「戻る」ことで変更が可能です。

令和 3（2021）～ 5（2023）年度理事長裁量経費研究
「大学で学ぶための基礎的学力の新たな評価測度の開発に関する研究」報告書
令和 3 年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査

発行日	令和 5（2023）年 3 月 31 日
研究代表者	椎名久美子
編集・発行	独立行政法人 大学入試センター 研究開発部 〒 153-8501 目黒区駒場 2-19-23 電話：03-3468-3311（代）
印刷	株式会社キタジマ

